

平成二十三年三月
津山郷土博物館紀要第二十五号

津山松平藩町奉行日記 十九

享和元年（一八〇一）

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 十九

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」享和元年（二月改元）正月～十二月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・留主居・算様・百性については筆者が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひか 暖あつか 歟か 喧嘩けんか 音物いんぶつ 稠敷ちゆうき 又候またごう 風かぜ 嵐あらし 粉こな 鹿か 拵かぎ 糝こむぎ 綺きら

5 変体がないは、原則としてひらがなが改めたが、助詞等に用いられている、而て、江え、者は、茂も、与と及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

々より、メしめ、ノして、凡ともは、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（ㄷ）を付し、右側に訂正の文字を記した。また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不評）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っている文字を記してあるものは、その箇所に日○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをもとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾康二が担当した。

享和元^{辛酉}年

二月廿八日改元

町奉行御用日記

五十四

増尾右門

正月元^{丙寅}旦 晴

正月二日 晴

一年頭御祝式御嘉例之通惣登城御札式諸事別帳之通無滞相濟

一 早朝大年寄罷出町方御静謐之段相届候

一 御用初ニ付登城諸事別帳御嘉例之通無滞相濟尤御儉約ニ付寛政四年今被下物相止居候所当年ハ旧例之通御酒御吸物被下候段大目附今達有之焼火之間西側段橋下り口を上座として三奉行中奥日附御藏奉行御銀奉行郡代添役御作事奉行御代官西側今北側へ折曲り席順ニ着座大目附挨拶有之何^及頂戴之畢^而大目附役所へ罷出頂戴もの、御礼申上之候但蛤御吸物御酒三献

一 公儀大目附廻状左之通被仰出候由大目附今相渡候

諸国酒造人之義天明八申年以來名前替其外讓渡等之有無相糺し書付可被指出候尤去ル申年御勘定所へ差出候酒造米高書付写相添御料^者其所之奉行支配御代官私料^者領主地頭今御勘定所へ来西五月迄ニ差出寺社領之分^者寺社奉行へ取集是又御勘定所へ可差出候

但去ル申年以後追々讓渡候酒造株之者も其訳可被書出候

右之通可被相触候

十二月 大目附

右之通取調差出候様被申聞候

一 御蔵米七拾三匁 町米六拾九匁

一本覺寺へ這入候盜賊伝内と申もの御旗本領備中妹尾村ニ居候所鉄砲町之者参懸り見出勿論兼^而本覺寺今も被頼居候ニ付召捕預ケ置

寛政十二^{辛酉}年

正月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

候由向方も内分ニ而引渡候間急ニ召連ニ參候様申候旨目明孫兵衛倅岩吉申出候段文藏ハ申出左候ハ、内分之義故組ハ差遣間敷候間岩吉と右鉄砲町之ものと兩人ニ非人者人荷物者人都合四人罷越候様ニ申付銀札四拾匁相渡候尤本覺寺盜もの不残致所持候付右之品も預ケ置一札取帰リ候由ニ而右一札も為見候右之通取計候段明朝御用番中へ可相届候

正月三日 晴

一本覺寺盜人伝内召捕ニ目明非人備中妹尾村へ差遣候義御用番中へ罷越相届大目附へも紙面ニ而相届候

正月四日 晴 夜雪

一御蔵米七拾匁五分 町米六拾七匁五分

一御近領江相廻候去申歳中之錢相場書三通大年寄差出

正月五日 少雪

一旧例之通大年寄札元諸吟味年頭初而謁盃遣入諸事別帳之通酌取三船藤四郎

当病不參 武田七郎兵衛 川口藤左衛門 玉置卯左衛門

一旧格之通組中大年寄牢番三軒屋へ年礼ニ相越候但供番川端又六

正月六日 少雪 晴

一本覺寺へ這入候盜賊伝内事治助妹尾村ハ昨夜及深更召連帰リ候ニ

付今朝入牢申付置御用番并大目附へ相届候但昼廻時治幸治差向候

一例年之通御蔵元惣町年寄人馬問屋大保頭目明年礼受之礼式諸事別帳之通但都合七拾六人之処年寄拾六人人馬問屋二人目明者人当病

不參

正月七日 雪

一坪井田中（ツク）健藏ハ例年之通年頭祝書来及相答

一勝山渡部唐兵衛神原九郎兵衛ハ右同断

正月八日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一年頭登城之町人名面付中奥目附へ差出候

一例年之通左義長之触書指出

一祇園三位御札例年之通藏合孫左衛門方迄指出候段申出候付其段大目附へ相達候

一西川平沢助八大谷代藏今年頭之祝書来及相答

正月九日 曇 少時雨

正月十日 雨

一大坂谷町二丁目御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作

ハ去歳中之錢相場書取ニ来例年之通致奥書差遣候

一坪井町河原屋治助所持之古道具屋株去申閏四月細工町灘屋武兵衛

へ貸置候此度取戻候段届書指出候

正月十一日 晴風

正月十二日 風烈 雪

正月十三日 晴

一御用日登城

一新魚町平田屋幸助方へ去ル九日夕盜賊這入小玉銀拾匁計銀札七匁

計盜取候届去ル十日差出今日右届書御用所へ持參口達ニ而申上大

目附へも同断相届ケ届書ハ不指出濟

一新魚町原田屋伊兵衛方へ去ル九日夕盜賊這入針指之内ニ有之候銀
札式勿盜取候届書右同断取計済

一中之町玉野屋藤十郎方へ昨十二日曉盜賊這入候所家内之者目さめ
候ニ付逃去り候届書昨日差出右同断取計済

一久世村佐七箱訴不及御取上旨相認大目附へ差出候

一堺町丸亀屋勘治箱訴不埒之段申聞差戻可然旨認大目附へ差戻候所
伺之通宜取計候様大目附へ被申聞候ニ付最早申達済ハ相届間敷旨
申達置候

一江戸御奉者太田舍人の大年寄共歳末献上物披露相済候段申来候付
右返書大年寄へ相渡候

一安岡町河本林幸義旧臘十一月十六日洪屋茂吉へ手疵負七候所此節
疵所致平愈内済仕候ニ付願下ケ願書差出其段御用番中へ相同大目
附へも相届置大年寄宅へ双方呼出内済承り届候段申達出番 差
向ケ手錠預ケ差免候右取計済御所へ相届候尤林幸義以後刃物帶
候義相止禁酒可仕誤一札差添出候

一三町目草津屋唐五郎持来候古道具屋株宮脇町土佐屋金十郎讓受度
願双方連印ニ願書差出承り届株札認かへ相渡候

一京町大村屋源右衛門義去ル午歳薪仕入代六貫目拝借被仰付候処右
之内 老貫目 八上納仕候処残り五貫目を十年賦ニ一ヶ年ニ五百匁つ
、五月限ニ上納支度願書差出候ニ付勘定奉行へ及対談候処承知之
由ニ付承り届候段大年寄へ申達候

一 目明共計今夕今忍廻り可申旨伺出候付任意承り届御用番 并 大目
附へ相届候 二月三日相止候

正月十四日 雨

一昨夜文蔵栄治又六左五兵衛時治百蔵伝蔵更廻り 并 関貫廻りいたし
候処別条無之段届出候

一古道具屋共仲ケ間相改例年之通帳面差出候

一安岡町坪屋与八郎義備前岡山片山町久志屋茂右衛門方へ十日計之
逗留ニ明後十六日出立願差出承り届 同廿六日 并

正月十五日 雨

一自分具足鏡開ニ付例年之通九時揃下役新左衛門組中牢屋三軒屋呼
出盃遣候諸式昨年之通但昨年今吸物小付飯仕立也

一当病不参 上野団助 老人也

正月十六日 晴

一御具足御祝被下ニ付御徒格以上嫡子迄麻上下着用五ツ半時惣登城
并 町医町人登城

御具足御祝被下例年之通無滞相済

悴其衛義御具足御祝頂戴之御札御奏者番へ右門申上之候

一町人共登城例年五時揃ニ候得共余り隙取候付四時揃ニ申付候

例年之通揃不参書御奏者番小須賀貢へ差出し御札式諸事旧例之通
故略之万端無滞相済

一当病不参 武田七郎兵衛 玉置卯左衛門 能の屋文五郎

北山修斎

一櫻野屋茂一郎初登城也一御奏者番小須賀貢御使番一場茂右

衛門中奥目附野条金平也

一上紺屋町ニ病犬ニ而者無之候得共帯刀人ニ飛懸り候犬有之今日浜

田平右衛門^ニ飛懸り候^ニ付非人申付候得共得不召捕候間明日指出
可申旨大年寄^ル届出候

一久世世代貝塚五郎藏内藤大右衛門^ノ錢相場書取^ニ来例歳之通差遣
候

一藤堂融四郎義今日中奥目附役被付候

正月十七日 雪 風烈

一京町大村屋源右衛門義新代拜借年賦証文^ニ認かへ指出候由宮田喜
左衛門^ノ内々差出及一見候尤当五月^ノ五百匁^ツ、相納候積也

一上紺屋町昨日之犬今朝打殺候段大年寄^ル届出候

正月十八日 曇 風

一御用日登城

一桶屋町善六借屋住哥屋平六娘いと義兼^而不所存もの^ニ付親類組合
異見を加へ候得共相用不申其上旧臘九日出奔仕相尋候得共行衛不
相知右躰不所存もの^ニ付如何様之義仕出候程も難計^ニ付親類組合
打寄義絶勤当仕度願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達
候

同廿一日証文差出候翌戌二月勘当差免婦住願書

一伏見町玉屋源太郎家守林兵衛借屋住作人文吉義去ル十一日町内
大工屋治右衛門前^ニ而 惠照院様御法号掛物一軸拾候由^ニ而 差出候^ニ
付御用番中へ申達候上^ニ而 大目附へ相渡候

一千ヶ寺寛吾と申もの旧年町方^ニ致逗留候^ニ付夫々各^ノ相伺思召も
被仰出候処最早年明け候事故何^茂初伺之通^ニ而 其内尾高屋万吉手
錠相止日数八十日何^茂左之通可取計旨御用番中被仰出候^ニ付其段

大目附へ申達置左之通大年寄宅^ニ而 小頭部屋目附差出申渡候

旧年千ヶ寺寛吾と申もの数日 二町目尾高屋万吉

差置御定法相背其上不審之ヶ条も有之候処
不申出不埒^ニ付追込申付候 但 日数十日

右躰烏散成もの留置候処等閑^ニいたし 右組合四人
置不埒^ニ付追込申付候 但 日数三日

右之段急度叱置 同町 年寄

右同断寛吾留置不埒^ニ付 坪井町河原屋治助

追込申付候 但 日数七日

右同断^ニ付追込申付候 但 日数三日 右組合八人

右同断^ニ付急度叱 同町 年寄

宿屋^ニ而も無之右寛吾義数日 上紺屋町浅屋幸右衛門

留置不埒^ニ付追込申付候 但 日数七日

右同段^ニ付追込申付候 但 日数三日 右組合九人

右同断^ニ付急度叱 同町 年寄

右寛吾馴染^ニ而も無之処口受^ニ 坪井町沼屋清藏

相立宿屋相頼不埒之段急度叱置

右之通不^レり之段急度叱 宿屋頭 兩人

右申渡委細之義ハ別帳^ニ有之故略之

右取計相濟候段御両所へ相届候

一大目附^ノ御城下絵図一枚被相渡当役支配所之分致朱引差出候様被
申聞候依之同廿日大年寄へ申付候

一盜賊治助召捕^ニ備中妹尾村へ去ル三日指遣候節銀札四拾匁相渡置
候処不足^ニ付猶又九匁七文四厘相渡^并褒美も指遣左之通昨日取計

候

諸入用合 四拾九匁七分四厘弍毛

尙貫文 八十八へ褒美ニ指遣候

五百文 岩吉へ右同断

合 六拾三匁七分弍厘

一 惣町出火之節火消人数[#]詰所[#]出人等取調大目附伊達与吉郎へ指出定詰人足等之義火事場へ指出度旨談置候

正月十九日 少雪

一 斎藤孫右衛門義昨日二町目尾高屋万吉組合ニ福永屋藤助有之候処
同人義俄ニ家名前佐七と認出候処其俣指出不束ニ付指扣伺出候ニ
付不及其義以来入念候様ニ藏合孫左衛門へ申達候右ニ付昨日相渡
候申渡書之名面認かへ相渡候

一 播州広峰山魚住藏人^〆例年之通年頭祝書指越及相答

正月廿日 曇

一金谷村文右衛門方ニ而旧年博奕集會之左之もの共九時^〆呼出下役
新左衛門小頭代文藏部屋目附百藏大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛門
出番為治時治立會遂吟味候

同廿七日入牢申付候 河原町原田屋喜次郎

右同断 船頭町あたらし屋伊三郎

右同断 河原町髮結立婦り万吉

右同断 京町原田屋嘉四郎

同廿七日指免不及白状 船頭町備前屋喜次郎

同廿七日入牢申付候 小性町帳外左五郎

同指免 不及白状

元魚町松尾屋源之丞

一 左之もの年賦拝借仕度旨致箱訴候ニ付呼出左之趣申聞候

箱訴いたし候者 御役人之非分を 堺町丸龜屋勘治

可申上為之ものニ候処ケ様ニ年賦

拝借之義を相願候者 甚心得違之事ニ候段

一 町方関貫普請料拝借之年賦銀五拾匁大年寄^〆指出候付昨年申達候

通銀札場へ直ニ致上納候様申達指戻候

正月廿一日 曇

一 二丁目尾高屋万吉組合坪井町河原屋治助組合上紺屋町浅屋幸右衛
門組合追込昨日迄ニ而三日ニ相成候付今朝指免其段御両所へ相届
候

一 京都龍本寺屋敷木屋弥助と申千ヶ寺旧年林田町ニ行倒候ニ付旅籠
屋橋本町武藏屋甚藏方へ為引取療養指加候処追々快相成候ニ付旧
臘七日立去り取計候処翌七日又々新魚町ニ行倒居候段届出全非人
牀之趣ニ而無抛とらはれ候様成趣ニ相聞候付今般ハ柳之土手為引
取療養指加へ遣候様申付置其段御両所へ相届置候処旧臘預ケ候砌
〆弥様子不宜趣度々申出候所今曉致病死候段届出候付先格之通為
見分大保頭指遣候所病死ニ相違無之聊申分無之趣申出候付勝手次
第取捨仕候様申付置其段御両所へ紙面ニ而相届候

正月廿二日 曇

一 今九時^〆下役小頭部ヤ目附出番栄治左五兵衛大年寄諸吟味立合左

之盜賊共呼出遂吟味候

無宿盜賊 熊吉

同 治助

同 平兵衛

美濃職人町 盜賊

幸右衛門

右何茂も兼而致白状居候得共口書取極候程ニ吟味未詰候

一 材木町大和屋熊藏義買用ニ付肥前長崎礪屋町大崎文右衛門方へ百日計の逗留ニ而 明後廿四日出立願承り届五月八日届ル

一 備中津守郡なつかわ村幸屋又右衛門と申もの買物用事ニ来候間元

魚町紙屋助右衛門方ニ七日計逗留為仕度願承り届同廿七日届候

一 但馬生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏ニ錢相場書取

ニ来例歳之通取調指遣候

正月廿三日 雨

御用日登城

一 脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡飯岡村喜治郎妹ちえ義元魚町黒坂

屋幸助倅太兵衛妻ニ引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ

指出置御聞届申達候二月四日住宅証文差出

一 戸川町岩見屋孫兵衛引受候松兵衛と申もの去申五月中旬致出奔九

月相届候ニ付百日尋申付置候処弥行衛不相知最早百日余ニ相成候

ニ付人別除右同段取計濟

一 同心組稽古道具古来ニ拵被下候義者無之候得共近来若手之もの召

抱も有之稽古出精候様ニ申付候得共銘々稽古道具迄ハ行届兼候趣

甚氣之毒ニ存旧年大目附上原彦藏へ遂内談何卒欠所銀之内を以

拵遣度尤例ニ相成義ニ而も無之此度一度切之事ニ候旨毎度相達候

而も筋立不申依之又々今日及催促欠所銀致上納候間何卒相成義ニ

も候ハ、急ニ筋立被呉候様申達候所月番伊達与吉郎ニ左之通達有

之候

同心組稽古道具之昨年已来度々被仰聞相心得候得共上ニ拵

被下候儀無之義故至而六ヶ敷候得共段々事を分ヶ被仰聞候

趣余義も無之義ニ付当役一己之心付ニ而拵差遣入用ハ欠所

銀之内ニ而被相私可然候尤此度切之義ニ候得者例ニ不致様

ニ被申含候様ニと呉々被申聞候

右ニ付神田栄治毛受時治江其旨得度申達此度忝度切ニ拵遣可申聞

兩人昼之通稽古道具一ト通り相調候様ニと申付尤以後之例ニ相心

得不申様呉々申付置候

一 上紺屋町角屋八左衛門印判相改候付印鑑差出書役へ渡置候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住佐助義去ル十五日致出奔候段

届書指出候付百日尋申付候五月八日除候

一種油是迄忝升ニ付四匁之処今日ニ四匁分忝ニ仕度段届差出承

り置

一 鍛冶町山形屋宗兵衛義大坂大川町美作屋辰五郎方へ廿日計之逗留

ニ而 明後廿五日出立願承り届二月八日届ル

一 但州生野布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏ニ昨日錢相場書之義

頼越候得共取調有之候故早速指遣候所今日又々取ニ指越候ニ付昨

日直ニ飛脚ニ相渡候段及返書候

正月廿四日 曇

正月廿五日 晴

一 坪井町河原屋治助上紺屋町浅屋幸右衛門追込昨日迄^二 而 七日^二 相成候^二 付今朝大年寄宅^二 おゐて指免其段御所へ相届候

一 西今町菱屋治助義下之関三百日屋敷油屋重右衛門方へ四十日計之逗留^二 而 明後廿六日出立届大年寄承り届指出候^四 三月廿七日廿日之通願届候^八 四月四日届

一 牢舍人文右衛門呼出郡代所分申来出番栄治時治出入取計之

正月廿六日 曇 晴

正月廿七日 曇

一 九時分立会例之通^二 而 左之もの共呼出し左之通申付候出番栄治伝藏

吟味中

入牢

申付候

河原町原田屋喜治郎

同 町髪結腰^四 万吉

船頭町新屋伊三郎

京町原田屋嘉四郎

小性町帳外 左五郎

船頭町備前屋喜治郎

元魚町松尾屋源之丞

右之段御所へ相届候

一 牢舍扶持式儀之内貸証文指出奥印書取計之但右^二 而 来月六日迄賄

壹斗五合残り有之積也

正月廿八日 快晴

一 御用日御近例之通麻上下着用登城

一二町目尾高屋万吉追込昨日迄^二 而 十日^二 相成候^二 付今朝大年寄宅^二 而 指免其段出仕之上御所へ相届候

一 吹屋町山城屋善左衛門借屋住人治右衛門夫婦娘二人右家内四人脇坂淡路守殿御預り所当国東南条郡瓜生原村半二郎方へ引越度人別除願御用番中御聞濟^二 付大目附へ指出置御聞届申達候

一 新魚町柳也と申盲人之妻先達^而 致出奔其節戸川町播磨屋清藏母方

二 兩三日留置右仕方不宜柳也分申懸争論^二 相成段々扱等懸ケ候得共柳也一向不致承知不得止事願書指出尤右妻出奔之節柳也尋^二 罷

出大坂^二 而 行逢候処右妻ハ^二 密夫^二 指遣候事相濟候由之沙駄^二 相聞

候所盲人之義故理不尽之義申募候趣^二 相聞へ候間右柳也呼出理解

申間由願書指辰相手播磨屋清藏も不計不宜段叱置可申旨御用番中

へ口達^二 而 相伺候所宜取計候様^二 被仰出候^二 付其段大目附へも達

置候近々呼出可申達事

一 御徒目附佐見助四郎依願御役免跡役藤田十兵衛へ被仰付候

一 大坂長沢清左衛門分書状指越去申ノ八月十三日申越候玉子屋九兵衛

衛分^二 之出訴之内左之もの共未相濟候間急^二 相濟候様再訴申越候

西新町 伊木屋惣五郎

西今町 古金屋伊兵衛

坪井町 市瀬屋与市

西新町 三原屋定七

宮脇町 佐渡屋八左衛門

船頭町 今津屋孫十郎

京町 松岡屋太助

右紙面を以御用番中へ相伺急ニ筋立候様猶又可申付旨相伺候処思召無之其段大年寄へ申付候

一備中都郡早島金田屋伝兵衛手代栄八老人例年之通うんさいもんぱ足袋売ニ来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手指出候七月十二日締

一宮尾村分業種六俵川下ヶ切手油方三人の指出奥印書取計之

一去年申年中人別改左之通御用番中へ指出候

覚

一他所へ引越 百八拾八人 内男九十七人 女九十一人

一出生 百六拾八人 内男九十三人 女七十五人

メ三百五十六人

一他所へ引越 百四拾人 内男八十三人 女五十七人

一死失 百九拾式人 内男八十七人 女百五人

メ三百三拾式人

差引メ式拾四人増

一御領分西々条郡院庄村助藏後家倅平吉義孝人■小性町砂屋忠助借屋

住才吉智養子ニ引受度人別人願下方引合相濟候旨申出承り届

正月廿九日 雪

一宮脇町阿賀屋助五郎義福渡町年寄役相勤居候所病身ニ相成候ニ付

不快之節者倅己之助を名代ニ指出度旨願書指出承り届

正月晦日 快晴

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代恵吉一人例年之通茶碗売ニ来候段京

町田戸屋宗十郎宿切手指出候

二月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

二月朔戌申旦 快晴

一昨晦日之晚方林田町ニおゐて堺町藤藏と申もの沼村権太郎と申もの致喧嘩藤藏義打擲ニ逢面部ニ疵付夥敷致破血同町武兵衛と申もの方ニ倒れ居右権太郎ハ逃去り候由今晚届出候ニ付郡代所へ申通立合見分可取計申遣部屋目附中山百藏差向置右之段御用番并大目附中へ相届候然ル所林田町沼村へ人差遣権太郎親類和右衛門新藏と申兩人呼寄置候由申出候所右権太郎被召捕林田町へ被差出依之双方連印ニ而見分一札并容鉢書取り晚方罷帰候ニ付御用番中へ差出候尤疵所ハ眼之上縁煙草管ニ而突疵一ヶ所計也目玉潰候程未相分候由

一茅町広原屋小太郎借屋住狐独定吉病氣差重り候段昨夜及深更届出

候^ニ付今早朝部屋目附文蔵指遣候所病氣相違無之旨一札取帰り無程落命届出候^ニ付勝手次第取捨候様^ニ申付置候右一札ハ御用日之節可差出事

一龍野用達土居村妹尾三郎平春名大治郎年頭為賀義昨日罷越候由大年寄^ニ届出右ハ一昨年^ニ御館入^ニ相成年々式百疋つ、被下候様^ニ相成去春も逢候様^ニ相願候^ニ付其段相伺候所未船入落着不致義故他聞も如何^ニ付何ぞ故障を以及断候様御差^ニ付其段^ニ取計置候間御用番中へ罷越相伺候所最早逢候^ニ可然旨被仰出候付於座敷敷居を隔謁之但熨斗三方煙草盆茶出之但同心組加番取計之

三本入扇子^{初而付}

土居妹尾三郎平

右同断

同

倉敷春名代治郎

二月二日 快晴

一御蔵米七拾匁五分 町米六拾六匁五分

一西今町綿屋金兵衛所持之自国受酒株当酉二月^ニ来寅ノ二月まで丸

五ヶ年之間林田町榎原屋喜助借受度願承り届^{同年九月二十日取戻ス}

一大目附中^ニ左之通紙面^ニ而申来候

尾上八十七方長屋へ昨夜盜賊這入品々盜取候段届有之候^ニ付

早々手配可被申付委細^者 当人の懸合も有之趣^ニ付略候由

右^者 昨夜五ツ前時分紛失いたし候由即刻尾上八十七相見へ書付を

以申聞候間直^ニ目明孫兵衛へ申付置候

一牢舍人文右衛門義郡代所^{呼出}申来出番伝蔵左五兵衛出入取計

之

一牢舍扶持仕切証文左之通奥印書取計之

内貸高 米五拾七俵

仕切表 米五拾四俵壹斗六升五合

残^而 式俵壹斗六升五合返上

一牢舍扶持拾壹俵内貸証文奥印書取計之右^ニ而二月中賄三月へ壹斗五升持越候積也

二月三日 快晴

一御用日登城

一徳守宮社地^ニおゐて当月中旬頃晴天五日花相撲興行支度旨小性町

沖島与市願書指出^候付寺社取次^江引合之上大目附^江も及内談指

出候所御用番中御聞濟^ニ付尚又願書大目附へ指出置御聞届申達候

一目明忍廻り去ル十三日^ニ申付置候所先ハ穩成趣^ニ付今夕^ニ相止候

段御両所へ相届置其段孫兵衛へ申達候

一中之町甲屋幸助義一昨未ノ年盜賊這入旅人之物被盜取候所其節之

取計不宜候付同十二月廿三日宿株取上ケ置候所最早三ヶ年^ニも相

成候間宿屋株指戻遣候^而も可然哉之旨御用番中へ相伺候処御聞濟

付大目附へも達置候右^ニ付即刻指免可然所大年寄共方迄ハ段々

歎書指出居候趣^ニ相聞右歎書取上ケ候様^ニ相聞候^而ハ筋合不宜候

間後日可指免事尤右歎書早々指戻候様申達置候

一船持共無銘箱訴大目附^ニ被相渡候近日存寄可申達事

一孤独扶持三百四拾六匁四分八厘真北類蔵^ニ指越大年寄へ相渡候

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住作人小兵衛夫婦二人四国遍

路百五十日之逗留^ニ而明後五日出立願承り届^{七月七日届}

一元魚町灰屋佐右衛門撰州能勢妙見へ參詣十五日計之逗留^ニ而明四

日 出立願承届ル 同十五日届

一 大目附佐々木主馬の林田上之町渡部五左衛門辺に病犬出来候由に付非人共へ申付候様達有之即刻大年寄へ申付候

二月四日 快晴

一 御代官大久保正三郎の町作庄屋櫻野屋茂一郎義依願役免申付右跡役金川屋助兵衛へ申付候段案内申来候

一 大年寄の申出候者昨日被仰付候病犬昨今非人共相尋候得共見当り不申沙駄 者 内山下へ這入居候由取沙駄有之趣申出候付其段大目附へ申達何卒銘々被追出候様致度もの、由申遣候所兼 而 被仰出

も有之候事故同心組見廻り見付候ハ、及案内可然旨被申越候付昼廻り為治時治申付候所内山下内得と見廻り候得共居不申候段申出候

一 尾上八十七方盜賊之義に付去同十二日迄尾上方に居候幾助と申夫婦もの二階町庄八と申もの方に当分居候由此幾助と申もの疑敷義有之昨今時治為治指向下吟味申付候所不相分候に付尚又今日柳土手へ相渡下吟味申付候得共不及白状候由申出候付又々二階町へ返し置候様申付候

段々詞之間違も有之に付 二階町 庄八

他参留 申付置候

手錠懸ケ

組合預ケ

同人預り

幾助

一 牢舎博奕打并盜賊且又新魚町柳也明日呼出可遂吟味候に付組不足いたし加人二人大目附へ申達置候所博奕打郡代所引合有之候に付

向方吟味未行届候間明日吟味者致延引呉候様郡代所の申来候に付延引之段夫々申達大目附へも加人断申遣候

二月五日 快晴

一 牢舎人文右衛門郡代所の呼出申来出 者 昼廻百藏幸治入ハ柴治取計之

一 一ノ宮村忠八事九兵衛郡代所の牢番預ケ申来柴治取計之

一 明日呼出取計組不足に付加人二人大目附へ申達候処高木武兵衛土井万兵衛来

一 東新町鍋屋平藏義伊勢参宮三十日計之逗留 而 来ル八日出立願大年寄承り届指出候 同廿九日届

二月六日 雨

一 昨夜同心組当番之外不残更廻りいたし候所桶屋町吉兵衛方 而 博奕参会いたし居左之 之 もの共手錠懸ケ組合預ケ申付置候段今朝届出候

手錠懸ケ

組合預ケ

宿

新魚町わらや定吉
小性町あからや為吉
新魚町作人 茂吉
桶屋町作人 吉兵衛

右之段御用番并大目附へ相届候

一 今日吟味もの可取計加人等申達手配申付置候所雨天に付致延引候段夫々 江 申達乍序大目附 江 も申達候

二月七日 雪

一 福渡町作人庄兵衛義去申二月廿四日四国遍路百日之願 而 罷出不

罷帰候ニ付五月十七日日延願指出候処七月ニも罷帰其節又候日延願仕其後も罷帰候ニ付十二月十九日又々日延仕候得共罷帰り不申行衛不相知段届出候間百日尋申付候

一福渡町南側ニ而作人庄兵衛家屋敷表口式間裏行十七間但半役也西隣ハ作人重助東隣ハ植月友輔借屋作人佐助也右家屋敷代銀札八拾匁ニ相極植月友輔へ壳渡度願承り届同十一日寛永様迄出候

一下紺屋町菓子屋伊之助借屋住里屋松五郎夫婦悴徳五郎右家内三人四国遍路百廿日計之逗留ニ而来廿一日出立願承り届五月廿六日届

一下紺屋町河内屋佐吉娘しま義右同断願承り届右同断

二月八日 晴

一御用日登城

一桶屋町吉田屋平助借屋住人甚之丞義去申八月出奔仕御届申候所百日尋被仰付同十二月日延願指出相尋候得共弥行衛不相知最早限日ニ相成候ニ付人別除願御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一下紺屋町稲田屋藤十郎後家借屋住宇助義去申十月出奔仕十一月三日相届百日尋被仰付相尋候得共弥行衛不相知候ニ付人別除願右同断取計済

一院庄入百姓今米買取候もの共郡代何之通不残取上ケ代物損失可申付哉と再伺書御用番中へ指出

一三軒屋破損ニ付御繕書指出大目附へ指出候

一新魚町魚住屋太郎右衛門借屋住備前屋三之丞悱庄吉義先達而坪井町森原屋岩助方へ養子ニ指遣置候所右岩助当時徳守宮門番地子居

ニ相成居候処右庄吉義今般離縁いたし罷帰候付人別入願寺社取次藤本十兵衛へ引合之上承り届候

一町方ニ帳外もの住居候様ニ相聞候付先達而も申達候通一町切ニ急度遂吟味候様ニ大年寄へ申達候

一明日致吟味候処同心組不足ニ付加人両人大目附へ申達候所土井万兵衛高木武兵衛来其外手配申付候

一牢舍人伊三郎病氣ニ付医師願出候付大年寄へ申達候所藤木良金へ申付候段届出候同廿一日休業

二月九日 雪風

一立合例之通出番四人ニ而左之もの共呼出口書印形取之候

博奕打

京町 原田屋嘉四郎
河原町 原田屋喜治郎
同町 髪結万吉
船頭町 新屋伊三郎
小性町 帳外 左五郎

盜賊

美濃職人町 幸右衛門
無宿 治助元日笠八葉子
元武田七郎兵衛下人当時無宿 平兵衛
元太田村当時無宿 熊吉

新魚町 柳也
戸川町 播磨屋清七
同人母

口書印形取之
柳也妻出奔之節清七方ニ
兩三日差置候ニ付相手取願書指出候得共願書難取上筋申聞七願書差戻候
吟味中牢番預ケ申付候

元尾上八十七長屋住當時二階町帳外 幾助

右幾助牢番預ケ申付候義御所へ相届候

二月十日 雪風

一尾上八十七盜賊急ニ難相知ニ付市郷触流取計度旨大目附へ申達候
所宜取計候様申来町触指出郡代所へも及通達候町方無芝段同十五日届出候

一例年之通来ル十二日御給米相渡候旨御藏廻状来小頭代江申達候

一新職人町年寄瀧本屋平四郎病死届出候

一天神宮開帳ニ付大坂廿三人連芝居世話役之義被相頼候ニ付彼地罷

越引受世話仕度願中之町倉敷屋惣兵衛指出寺社取次藤本十兵衛へ
引合之上承り届候同十二日一札差出候

一大目附佐々木主馬左之通申来候

伊藤主水添屋敷長屋後ニ古行燈つり有之候処外ハ投込候様子
ニ鍵大小十九有之候由ニ而 同人ハ指出候間当役へ相渡置候
間宜取計候様申来候

二月十一日 晴

一伊藤主水長屋住茶壳平五郎と申もの風聞不宜殊ニ寺々石塔等盜取
候趣ニ付大目附江申達候上ニ而 出番時治左五兵衛主水方へ指向召
捕左之通申付候

吟味中牢番預ケ申付候退受人節 伊藤主水長屋住 平五郎

右之段御用番并 大目附へ相届候

二月十二日 快晴

一昨夜主水長屋平五郎遂吟味候処今吉人貞藏と申もの伊藤長屋罷在
石工いたし候由申候ニ付其段主水へ懸合之上大目附へも相達候所
右貞藏ハ昨日ハ陽野と申所へ参居候由ニ付右受人下紺屋町勝左衛

門と申もの召連日明孫兵衛を陽野へ差遣候尤用意として銀札八匁
相渡候

一蘭田町石工勤治方ニ手間ニ遣候横野辺之源七と申ものも寺々石塔
盜取候由ニ相聞候付番百藏為治ニ目明甚七指添為相尋候得共相
知不申候ニ付右勤治へ来候ハ、早々申出候様ニ申付置候尤高砂屋

金四郎方ニも道具預ケ置候由ニ付罷掃候ハ、早々申出候様目明ハ
申付候様ニ申付置候

一勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄兵衛伊兵衛二人例年之通紺
屋形壳ニ来候段堺町西川屋善助宿切手差出四月十二日届

一奈良今井町岡崎忠兵衛倅庄右衛門吉人例年之通筆并 大小新鞘壳ニ
来候段京町美濃屋平五郎宿切手指出候三月五日届

一橋本町年寄藤吉義大坂大川町淀屋橋前美作屋辰三郎方へ廿日計之
逗留ニ而 明十三日出立願承り届

一京町北側ニ而 堺屋太助家屋敷表口三間半裏行十四間但老軒役也右
家去ル辰十一月近江屋太助取次ニ而 六百五拾匁之質入ニ仕候処今

般受返し相濟候届書指出候

二月十三日 小雨

一御用日登城

一因州高草郡元高村徳平倅導引玄利夫婦倅藤藏右家内三人桶屋町桶
屋清七引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届
申達候四十六日住吉証文差出候

一天神宮芝居役者名面書東西大橋へ建札仕度并 芝居中太鼓打廻り度
願書御用所へ持参口達ニ而 申上候処御聞濟ニ付大目附へ達置御聞

届申達候

一伊藤主水長屋住貞藏と申もの養野村分孫兵衛召連帰候ニ付左之通
取計之出番栄治左五兵衛

伊藤主水長屋住紀州安上村産

愛染寺石塔寺ツ盗取候段及白状

貞藏

候ニ付入牢申付候

受人分牢屋賄申付候

受人 下紺屋町

勝左衛門

西今町

紋吉

右之段御用番并大目附へ相届伊藤主水へも及通用候

一 大熊鞆負殿分呼ニ来相越候処先達而以来騎馬ニ而二階町夜分被致

通行候処六七度も番人不居合差支ニ相成候得共捨置かれ候処右之

断として保頭共を差越候義も有之甚以不束候処尚又昨夜も差支度

々之義如何ニも候間極内分ニ而直取計候様被申聞候ニ付相応之及

挨拶置右之旨喜左衛門へ申達急度年寄共へ申付候様并南北之番人

同様之義ニ相聞候間番人指かへ候而も可然旨申達置候処番目申付候段届出候

一 安岡町久米屋友七義大坂土佐堀二丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗

留ニ而明十四日出立願差出し承り届三月二日届

二月十四日 晴

一 牢凌申付候所栄治時治分無別条旨届出候

一 長州赤間関長府屋佐平治妻并同人名代甚兵衛と申もの二人当所へ

用事有之来り申候ニ付十五日計逗留為仕度願二階町立花屋伝吾差

出承り届同廿日届

一 御領分西々条郡二ノ宮村源十郎弟要助一人福渡町岡屋忠助役介ニ

引受度願下方引合相済候段申出承り届

一 播州龍野下町本屋佐吉一人例年之通書物売ニ来候段新職人町松の

屋十右衛門宿切手指出候七月十二日届

二月十五日 小雨

一 昨夜八ツ時過出火有之供人等も相揃出馬致懸ケ候所広瀬川向橋杭

置場小屋出火之旨ニ付不及出馬場所ニ候所火勢も強く殊ニ鉄砲町

へハ程近之趣ニ付支度も相揃候事故乍見物鉄砲町迄罷越為見候所

右橋杭材木小屋一字致焼失勿論材木多分有之候事故至而火勢強候

得共風も無之氣遣敷義ハ無之趣ニ候得共郡代ハ右之場所へ入込指

図之趣ニ相見へ候所下火強消兼候様ニも相見へ勿論町火消も余程

罷出居候付龍吐水杯之水之手之火消郡代所へ用立置引取候尤届ニ

も不及義ニ候得共為念出火と申罷出候所在分殊ニ早々可及鎮火趣

ニ付引取候段御用番中へ相届大目附へハ馬脇分使を以申達候

一 徳守宮社地花相撲興行明十六日分相始候段届出候ニ付寺社取次藤

本十兵衛へ及通用御用番并大目附へ相届小頭へも申達候

一 茅町池上流滴義西新町井崎屋十右衛門へ相懸り田地公事去歳以来

内済取扱候得共不済行候由ニ而右願書大年寄分差出候

一 久世手代貝塚五郎藏内藤大右衛門分郡代町奉行連名ニ而飛札指越

雲州無宿盜賊房五郎と申もの召捕遂吟味候処左之もの共懸り合ニ

付相伺候処呼出吟味詰候様御下知ニ付来ル廿日差出候様申来候

盗賊房五郎備前屋ニ致止宿

林田町茶屋之備前屋

同人方ニ而帯羽織右二品盗取候

右同断勇助方ニ致止宿候節 牢屋町伏見屋借屋住

生綿矢立衣類五品盗取候 勇助

盜物二品右勇助裏辺ニ致借宅
居候道心者防守相頼材木屋方ニ七匁五分之質ニ置候由

二階町材木屋

右質物取次いたし候付

牢屋町勇助裏辺住居

道心者但七十計

同人方ニ布子単物羽織等
三品盜取候由

上野部村独住老人

右之通申来是迄ハ指添役人被仰付指出来候先格ニ候所郡代所ニ

ハ右躰申来候も足輕計指添出候例も有之殊ニ今般ハ輕キ引合と

申来候義ニ候得者立会役人ハ指出間敷旨十郎左衛門存寄ニ付其旨

ニ相認何分糺之上差出可申旨返書下案指添御用番中へ指出当役ニ

ハ指添役人之先例も委細ニ申上相伺候所強ニ思召無之事輕相濟

候得者以後之形ニも可然義ニ付伺之通指添役人無之同心組指添出

候様御差圖ニ付其旨ニ返書相認翌十六日飛脚之者へ相渡候尤其段

大目附へも相届候

右ニ付町方之もの共夫々相糺久世江指出され候段申渡候様大年寄

へ申渡候并同心組江も左之通申渡候

二月十六日 曇 風

一左之通申渡候様小頭代文藏へ申渡候

今般久世表へ指出候町人共之指添

申付候間召連罷越可引渡候

中山百藏

百藏留主中部屋目附仮申付候

神田栄治

一德守宮花相撲無別条相濟候段為治時治届出候

二月十七日 快晴

一石工源七義昨夜蘭田町勘治方へ来候ニ付召捕置候段昨夜及深更目

明甚七届出候ニ付手錠相渡石工勘治方ニ預ケ置候様ニ申付今朝当

番藤四郎差向急度預ケ候由年寄組合へ申付候右者明日出仕之上相

届ケ可申事

一林田町年寄角屋久左衛門印形致紛失改印候段印鑑差出候

一塩詰牢境板之内今木綿糸下り怪敷旨申出候付昼廻時治為治差向ケ

相改候処錢言文ニ刃を付有之候尤外ニ別条之義無之候

一德守宮花相撲無別条相濟候段百藏幸治届出候

一中山百藏義明後日久世へ差遣候付留主中加人老人大目附へ申達候

処御使組野尻和助来

一明日石工盗人とも呼出候処組不足ニ付加人式人当日切ニ大目附へ

申達候処飯嶋作右衛門尾崎広助来

二月十八日 快晴

一御用日登城

一安岡町豊島屋長兵衛娘おと義大久保安芸守殿領分当国久米北条郡

中北下村安兵衛妻ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ差

出置御聞届申達候

一石工盜賊源七召捕候義御用番并大目附へ相届候

一玉置卯左衛門義稻実屋義七郎悴林右衛門死去仕甥之続ニ付御定式

之通三日引込候段届出其段御用番并大目附へ相届候

一明十九日久世表へ左之通町人共差出候付御用番へ相届大目附へ名

面指出候

林田町 備前屋武兵衛

右町役 角屋久左衛門

伏見町 勇助

同町 道心者 宗元

右町役 能勢屋源助

二階町 材木屋善六

右為警衛差添

同心組 中山百藏

一右之通久世へ差出候付郡代兩名^ニ而添簡下案伺濟候上百藏へ為持遣候郡代所も一ノ宮村触住之老人^{（一）}老人^{（二）}飯島文治差添參候事

一大坂長沢清左衛門今來書先達^而玉子屋九兵衛今致出訴候内伊木屋惣五郎三原屋定七松岡屋太助三人ハ相濟候由九兵衛今之届書相廻り候^ニ付御用番中へ差出候

一牢屋破損書指出候大目附へ差出候

一三町目浜野屋源五郎今女四人播州赤穂塩屋村紫原幾右衛門方へ指遣候^ニ付船切手奥書藏元今申出先格之通奥印書取計之

一大雄寺義当酉年今來ル丑年迄五ヶ年之間町中夜経執行願御聞届ケ相濟候旨寺社取次藤本十兵衛今通用有之大年寄^并小頭代^江申達候

一安岡町長岡屋久治義線綿二本致拔荷被見答連上方^而吟味有之候由右吟味書御用番中御渡被成先例之通御裁許相伺候様^ニ被仰出候

一大目附廻状左之通到来

近々於八出村天神宮開帳^ニ付見せ物有之候間參問敷旨御停止

之御触来組中へ差出候

一三町目浜野屋源五郎義播州赤穂塩屋村柴原幾右衛門方へ五日計之

逗留^ニ而明十九日出立願承り届^{問廿二日届}

一今九時今立合例之通出番時治為治^ニ而左之もの共遂吟味候

吟味中手錠組合預ケ 西今町蘭田町 右切 勘治

入牢申付候 西今町 忠太

入牢申付候 無宿石工泉州産 源七

牢舎人石工伊藤長屋 貞藏

伊藤長屋平五郎義も呼出置候得共及深更候故不及吟味候右之内

蘭田町石切勘治義ハ去ル十五日手錠預ケ申付候得共未相届候故

勘治忠吉源七取計翌廿日相届候

一戸川町平野屋助左衛門義御城御張付画工手伝^ニ差出候由小勤者小島唯七今通用有之候

一尾上八十七長屋盜賊之一件^ニ付左之ものも呼出相糺候

元八十七長屋助を留いたし
幾助申口合せ候候相糺候

一德守宮花相撲無別条旨^{又六}左五兵衛届出候

一牢舎人美濃職人町盜賊幸右衛門先日口書爪印も相濟罪状相極候も
の^ニ付明十九日今牢賄^ニいたし候様夫々申付候

二月十九日 快晴

一昨夜取計之勘治組合預ケ源七忠太入牢申付候義今朝御所へ相届候

一昨日遂吟味候石工共申口之趣寺々被相糺候様寺社取次藤本十兵衛

へ申遣候

一久世へ差出候町人共今朝中山百藏召連致出立候段御所へ相届候
尤右名面昨日之処^ニ記置候故爰^ニ畧之

一今日も吟味もの有之^ニ付昨日之当日切之加人兩人今日一日留置候

段大目附へ相届候

一 今九時立会例之通^ニ 而 桶屋町博奕打遂吟味候尤出番又六和助

去ル五日之夕桶屋町 宿 桶屋町 吉兵衛

吉兵衛方^ニ博奕 参会 新魚町 藁屋 定吉

参会及白状口書印形 同町 作人 茂吉

取之候尤牢番預ケ申付候 小性町 赤穂屋常吉

右之もの共牢番預ケ申付候段御所へ相届候

一 德守宮花相撲無別条段時治伝蔵届出候

二月廿日 快晴 昼後花曇

一 長州赤間関長府屋左平次妻^并代人甚兵衛先日当所へ来り小性町瓜

生原屋宗兵衛倅平次郎義右長府屋抱之売女を去申六月盗出し連帰

居候由^ニ 甚六ヶ敷申懸取継扱兼既^ニ 大年寄場合迄ハ出候所孫左

衛門取計至^ニ 宜早速致内済今日罷帰候内分之義^ニ 候得共蔵合孫

左衛門取計乍何も至極宜甚手際之事共^ニ 付大意記置候尤右売。差

戻し内分^ニ 而 ハ四百匁計も遣候由^ニ 相聞候

一 德守宮花相撲無別条今日切^ニ 而 相済候段文蔵為治届出其段御所所

へ相届候

一 同心組銀札場借物致上納差引残り

貳貫三百拾九匁六分式厘貳毛之^(銀札出)

証文差出致奥印書文蔵へ相渡候

二月廿一日 快晴 昼後霞

一 西今町小倉屋清右衛門所持之家屋敷表口八間裏行拾五間但巷軒役

也西隣^者 綿屋金兵衛東^者 本源寺前横丁也右家屋敷之内西之方^ニ 而

表口三間半裏行拾五間四歩五厘役相添代銀札式貫目^ニ 相極下紺屋

町原田屋佐助へ売渡度且又東之方^ニ 而 表口四間半裏行拾五間五歩

五厘役相添代銀札三貫目^ニ 相極町内福本屋伊右衛門へ売渡度願承

り届^(同廿七日宛券状差届)

一 京町菊屋清左衛門義大坂道修町巷丁目伏見屋吉兵衛方へ廿五日計

之逗留^ニ 而 明廿二日出立願承り届^(三月十五日届)

一 西今町古金屋伊兵衛義石塔盗人伊藤長屋住貞蔵之脇差一腰預り居

候由届書差出候

一 出羽守様四月廿二日廿三日両日之内江戸御発駕被成候由御本陣割

石倉祐右衛門通行之旨人馬問屋へ申出翌朝御所へ相届候

二月廿二日 快晴 少風

一 大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉一人例年之通小間物売^ニ 来候段中之

町小山屋与三右衛門宿切手指出^(十一月六日届)

一 大坂山本町大坂屋忠兵衛手代伊兵衛助十郎惣兵衛惣五郎四人例年

之通小間物売^ニ 来候段坪井町川原屋治助宿切手差出^(三月四日届)

一 石工盜賊共申口寺方相札被呉候様藤本十兵衛へ懸合候処寺々并書

相廻候

一 長州赤間関長府屋左平次妻^并代人甚兵衛来り小性町瓜生原屋惣

兵衛倅へ相懸り出訴之義惣兵衛組合鳥屋与市伊勢屋十蔵取扱至極

宜早速致内済候^ニ 付右与市十蔵へ為御酒代大年寄場合之工面もの

、内を以拾匁差遣度旨蔵合孫左衛門伺出承り届候

一 元尾上八十七長屋住幾助牢賄二階町庄八宿之義故申付置候処甚困

窮もの^ニ 而 難洪仕右幾助兄弟林田町^ニ 有之候間同人^江も申付具候

様内々相願候趣之由大年寄伺出候^ニ 付宜取計候様申達候

一 同心組加人野尻和助義故障有之候^ニ 付右為代下田弥三郎差出候由

候由届書差出候

一 同心組加人野尻和助義故障有之候^ニ 付右為代下田弥三郎差出候由

候由届書差出候

一 同心組加人野尻和助義故障有之候^ニ 付右為代下田弥三郎差出候由

候由届書差出候

届有之候

一 東新町北側^ニ 而 鍛冶屋善六家屋敷表口式間裏行拾七間但三步三厘役也東隣ハ鍛冶屋善右衛門當時ハ鍛冶屋清助西隣ハ高原屋甚七也右家屋敷十五年以前^丁 年三月町内高原屋甚七ハ質物^ニ 書入銀札三百五拾匁借り受候所元利返済受返し候届書指出候

二月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 上紺屋町加登屋八左衛門娘運義脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村矢掛屋久吉妻^ニ 差遣度願御用番御聞濟^ニ 付大目附へ差出置御用聞申達候

一 脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡勝間田村市兵衛夫婦悻繁吉蔦藏娘らく右家屋五人上紺屋町対馬屋源右衛門役介^ニ 引受度願右同断取計濟 同廿九日住宅証文差出候

一 西今町福本屋伊右衛門借屋住中之屋太兵衛義去申ノ十月十九日出奔仕百日尋被仰付相尋候得共弥行衛不相知最早百日余^ニ 相成候^ニ 付除帳願右同断取計濟

一 京町加茂屋平兵衛姉しま義土岐山城守殿領分当国英田郡植原上村吉太夫方へ養女^ニ 差遣度願右同断取計濟

一 備前赤坂郡江田村源兵衛夫婦^并 同人妹^并 同人悻植吉娘常右家内五人二階町山手屋弥太郎家守仁兵衛引受度願右同断取計濟 同廿九日住宅証文差出候

一 久世御代官早川八郎左衛門殿支配所当国西々条郡藩尾村政右衛門一人上紺屋町作人清助役介^ニ 引受度願右同断取計濟 同廿九日住宅証文差出候

一 土井大炊頭殿領分当国久米南条郡原田東村重藏後家娘孝義戸川町

作人宇八借屋住松田屋佐助妻^ニ 引受度願右同断取計濟 三月朔日住宅証文差出候

一金屋村文右衛門方博奕参会御裁許伺差出候

一 桶屋町吉兵衛方博奕参会御裁許伺差出候

一 盜賊熊吉治助幸右衛門平兵衛御裁許伺差出候

一 茅町長岡屋久治繰綿致拔荷候御裁許伺差出候

一 堺町藤藏と沼村権太郎と先月晦日林田町^ニ おゐて致喧嘩藤藏義疵所致平愈候^ニ 付扱を以内濟仕度願書差出郡代所へ懸合之上御用番

^并 大目附へ相届候上御聞届明朝可申達旨^ニ 談置候

一 郷中^ニ 豆腐屋共多出來故障^ニ 相成候旨名面書を以豆腐屋共願出候旨内々大年寄申聞可取上筋之義^ニ 者 無之候得共豆腐直段ハ相届候

義^ニ 付一樣^ニ 無之候^而 も如何成もの^ニ 付内々郡代へ及相談右名面書相渡置候

一 石塔盗人源七^并 貞藏未他国人別之由申口^ニ 付西今町年寄内々承り合候様^ニ 大年寄へ申付候

一 出羽守様五月十四五日当所御通行之旨郡代所へ通用有之候

一 天神開帳芸居有之^ニ 付参間敷旨御触有之候得共芸居不始内ハ参候^而 も不苦旨大目附へ演達有之類役へも申通組中へも廻状差出候

一 細工町種屋嘉兵衛借屋住作人和兵衛義夫婦^并 悻鉄吉右家内三人旧臘廿七日致出奔所々相尋候得共不相知段届書指出候付先例之通百

日尋申付候 四月七日罷婚り婚性承り届ル

一 播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売^ニ 参候段新職人

町松の屋十右衛門宿切手指出候 同年六月三十日届

一 立合例之通出番幸治藤四郎^而 左之もの遂吟味候処弥盜賊筋携り

無之^ニ付伊藤主水方へ御長屋住平五郎義吟味筋相濟候^ニ付差戻し
可申間御家来被差出候様申達候処組之者一人来候付文藏^ノ引渡指
戻し候
伊藤主水長屋住牢舍人

吟味筋相濟候間主人方へ差戻候

平五郎

右之段御用番^并大目附へ相届候

二月廿四日 快晴

一堺町藤藏沼村権太郎喧嘩内濟^ニ付願下ヶ今朝承り届候

二月廿五日 晴 霞

一左之もの共去冬院庄入百性太七要藏新兵衛^ノ左之もの共左之通御
年貢買取御法度背候^ニ付右員数取上ヶ代物損失大年寄宅^ニおゐて
小頭代文藏部屋目附飯役栄治差出申渡候尤去ル廿三日右之通伺濟
也

米拾七俵式斗四升五合 安岡町 初屋伊兵衛

代式百六拾三匁四分四厘

米貳俵 同町 小倉屋長右衛門

代四拾四匁

米五俵

代百拾老匁 同町 井手屋太郎兵衛

米三俵

代六拾五匁 同町 小倉屋卯吉

米四俵

代八拾^八匁 同町 大黒屋利兵衛

米壹俵式斗式升

代三拾六匁五分式厘 同町 鍛冶 長右衛門

メ米貳拾七俵壹斗三升五合

代銀札合 六百八匁九分六厘尤三月六日相納候

右取上ヶ欠所^ニ取計候

右取計相濟候段御用番大目附へ相届候

一久世へ差出候町人共吟味詰口書印形被取尚又御裁許之御可呼出候
間引取候様被申渡候由^ニ而 中山百藏召連帰^リ候尤百藏義八道中警
衛^ニ被参候事故役所迄も召連不及出旨向方^ノ指図^ニ付始終不罷出
旅宿^ニ扣居候所万端手都合宜相濟候由尤左之式人他参留申付置候
様申来候^ニ付左之通申渡候

他参留

申付候

二階町材木屋善六
伏見町道心者宗元

右口書写^并返書御用番中へ差出大目附へも相届候

一院庄入百性太七要藏新兵衛今日^ノ牢賄^ニ致候段伺濟^ニ付申付候様
那代所^ノ申来其段昼廻り時治幸治を以牢番共へ申渡候

一院庄入百性太七義西今町小島屋孫市方^ニ而 脇差二腰致取込候右脇

差二腰那代所^ノ相廻り受取書差遣置候近日孫市へ可相渡事

一石工盗人伊藤長屋住貞藏召捕^ニ養野迄目明孫兵衛差遣候入用八匁

五^分六厘之書付差出先日八匁相渡置候間右不足^五分六厘相渡候

一備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜左衛門半兵衛善助小助右六人例
年之通来り候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出候^{十五月廿八日届}

一備前岡山中^ニ町五島屋八郎兵衛手代金兵衛一人例年之通元結卸売

ニ 来候段右同人宿切手指出候^{七月十日届}

一播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通呉服物売^ニ来候段右同人宿切手

差出候 七月廿八日 堀

二月廿六日 快晴 曇

一大目附佐々木^主馬^呼来相越候処左之通被申聞候

寺社取次門^主張文有之妙法寺納所義岡山浪人^ニ而甚不宜もの

^ニ而 同類も多惣町甚不用心付追払被仰付候様^ニ有之候^ニ付為

心得為見置候様被申聞候^ニ付昨昼私方^ニも同様之張弁有之候

段申述置候

右^ニ付小頭代を以目明共へ考申付置候

一江戸御留主居田中幸助^ハ旧年之返書到来島屋文七酒造株間違之義

龍野役人^ハ申来次第相届可申勿論直屋^ハ三端屋讓渡之義も其節一

緒^ニ可相届旨御届濟次第可申越旨申来候右書面近々可差出事

一大坂長沢清左衛門^ハ書状到来玉子屋九兵衛^ハ伊木屋惣五郎へ壳懸

ケ出訴相濟居候処不調^ニ而 不調法仕候段断書差越候是又近日可及

御沙駄候

一備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結売^ニ来候段

新職人町松の屋十右衛門宿切手指出 四月八日堀

二月廿七日 雨

一中山百藏義今日^ハ出勤^ニ付加人下田弥三郎今日^ハ差戻候段大目附

へ相届候

一牢舎扶持拾五俵内貸証文與印書取計之右^ニ而 三月中賄四月へ壹斗

式升持越積り

一昨夜更廻り差出候所無別条旨又六栄治左五兵衛幸治届出候

一牢舎人入百性多七新兵衛要藏入牢手形郡代^ハ相廻り認かへ差遣候

一材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住清藏義去ル十二日致出奔不

相知段届書差出候付百日尋申付置候 同年六月廿三日除帳

一元魚町北原屋長七悻初次郎義去ル午九月大坂天満九丁目玉屋藤兵

衛方へ三ヶ年之奉公願仕候所又候来ル亥年迄三ヶ年之追願承り届

一吹屋町持福院金毘羅參詣願承り届 十四日堀

一境町小林主水右同断 十二日堀

一吹屋町熱田數馬右同断

一下紺屋町一乘院右同断 十三日堀

一河原町熱田大藏右同断 十四日堀

一上紺屋町円乘院右同断 十三日堀

二月廿八日 雨

一御用日登城

一大目附^ハ左之通演達有之候

越州長恩寺御靈屋御焼失併御靈牌ハ御無難之旨申来候仍之御

機嫌伺申上有之旨被申聞候

右^ニ付七間廊下^ニおゐて御小性頭代謁有之三奉行以上御機嫌伺申

上候

一細工町指物屋百々吉借屋住作人権平義雲州神戸郡朝山村百性源四

郎方へ引越度人別除願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申

達候

一茅町岡崎屋後家守多助借屋住新兵衛 ^井悻庄吉右家内二人去申ノ

十月出奔百日尋候得共弥行衛不相知最早百日余^ニ相成候^ニ付除帳

願書右同断取計済

一西今町中野屋太郎兵衛弟太四郎義脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村玉屋善八方へ養子ニ差遣度人別除願右同断取計済

一左之条々思召無之伺之通宜取計候様御用番中被仰出候

一旧冬金屋村文右衛門方ニおゐて博奕参会候もの共同之通被仰出候
但右之内左五郎母子船頭町へ預ケニ申付置追而行跡も直り

■内々住居願出候ハ、聞届可申尤家業営勝手次第相働セ可申候

一桶屋町博奕参会伺之通被仰出候

一盜賊熊吉治助幸右衛門平兵衛右四人伺之通被仰出候

一茅町長岡屋久治伺之通被仰出候

右之通被仰出候所大目附右之内者敲刺も有之候ニ付大目附出席ニ改而被仰渡候筈之処無其義故矢張大目附出席ニ被仰出候
躰ニ可心得旨被申聞候

一牢屋縛縄二筋引かへ願出候付大納戸石垣雲平へ懸合候所勝手次第

ニ引かへニ出候様申聞候付其段百蔵へ申付候

一出火之節之纏焼灯損候ニ付張替可申達之処元々代り無之如何之ものニ付今般新ニ今巷ツ被仰付被下候様去ル廿三日大目附へ相達候所即刻承知ニ被申付候

一今日左之通御役替有之

御使番 藤本十兵衛 寺社取次 野条金平 中 奥目附 出九太夫

一同心組稽古道具之義正月廿三日伺済ニ付申渡置候所要心流疊六疊出来之由申出毛受時治へ疊代三拾三匁相渡候

一左之通年号改元去ル十三日江戸表ニおゐて被仰出候段大目附廻状到来 キヤウ 亨和

右之段町方并組中へ相触候

一東新町橋本屋茂右衛門借屋住幸右衛門一人林田村八兵衛借屋へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一東新町松本屋新六借屋住齊助義一人林田上之町文六後家方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一西新町湊屋清左衛門借屋住新七夫婦二人林田上之町甚七方へ引越度願右同断承り届

一大坂玉子屋九兵衛右西新町三原屋定七へ相懸り滞銀出訴相濟候段届書指出候

一右同人々西新町伊木屋惣五郎へ相懸り右同断出訴相濟候段届書指出候

二月廿九日 晴

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一立会例之通出番時治為治ニ左之もの共遂吟味候

牢舎人石工盗人伊藤長屋 貞藏

同 源七

同 忠太

西今町蘭田町石工 勘治

盜賊携無之ニ付 手錠組合預ケ差免 他参留申付候

右勘治差免候義御所へ相届候但他参留ハ不相届候

一 半舍人九兵衛病氣申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候

一 京町塗師兵吉出口石橋之下ニ錢筒有之候段昨日届出候所今日同町

一 豊屋伊兵衛借屋住長吉義右錢筒被盜候由届書差出候付差戻遣候様

大年寄へ申達候

一 大坂淀屋橋筋樫木町河内屋甚七手代宗兵衛一人例年之通焼灯張か

へニ来り右ハ甲屋幸助株付之もの、由中之町津田屋伝助宿切手差

出申候 三月十一日福

一 大坂玉子屋九兵衛今京町松岡屋太助へ相懸り滞銀出訴相濟候段届出候

一 安岡町桶屋伊助茅町麩屋元治年寄今申付を不受甚狼籍申募候由申

出候付大年寄宅へ出番時治為治差向手錠懸ケ組合預ケ申付候

但元治ハ三月十二日差免

三月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 上原彦藏

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

三月朔丁丑旦 快晴

一 撰州豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛一人例年之通植木売ニ来

候段境町西川屋善助宿切手差出

三月二日 曇

一 八出天神宮芝居大入仕候段九時頃届出候ニ付其段大目附へ相届小

頭代江警固差出候様申付候所栄治為治罷出無別条段届出候

三月三日 快晴

一 上巳ニ付組中罷出候ニ付例之通調

一 上巳ニ付旧格之通昼廻り不差出候

一 八出芝居役者三拾人中之町福茂屋磯吉宿仕度願承り届四月四日福

一 坪井町福恵屋伊兵衛義大坂心斎橋筋大川町玉子屋九兵衛方へ三十

日計之逗留ニ而来ル七日出立願大年寄承り届差出候

一 八出芝居大札百八拾三枚小札五拾六枚有之無別条段百藏伝蔵見習

藤四郎届出候

一 萩野左五兵衛義足痛ニ付引込候段昨二日届出候

三月四日 晴

一 八出芝居無別条大札百四十五枚小札五拾枚有之段文蔵為治届出候

三月五日 快晴

一 明六日盜賊并博奕打共御仕置取計候間立合被指出候様大目附へ相届小頭并牢屋へ夫々手配申付郡代所江も及通用右引合本琳寺長屋者申渡書社取次三浦十郎左衛門へ相廻候

一 右取計ニ付加入三人大目附へ申達候所中村栄治衣笠豊太松永市三郎来

一 元魚町くりや善兵衛義讚州金毘羅へ十日計之逗留參詣来ル七日出立願大年寄承り届指出候十一日届

一 林田町辰の屋喜助店ニ懸置候山満内一袋致紛失候段届書指出承り届

一 安岡町久米屋鶴藏義金毘羅參詣願承り届十三日届

一 新魚町鉄砲屋庄助家守孫三郎借屋住柳哉母たけ義備前岡山中島町木屋甚八妻泊母之処病氣ニ付百日計之逗留ニ罷越度願承り届六月十四日届

一 石工盗人源七義人別之義泉州へ為聞合西今町年寄の飛脚差遣右飛脚之者ハ貞藏事聞合ニ紀州迄差遣候付未罷帰候処泉州の飛脚差越向方ハ先年致除帳候旨申越候書面大年寄の差出候

一 八出芝居無別条大札百四拾八枚小札五拾式枚有之旨百歳時治届出候

一 大年寄共預り之工面物夫々致勘定預り帳面差出候

一 町方為御救万人講三步銀拾貫目余大年寄共へ預ケ有之右利分を年々町大割へ入来候然ル所大年寄も追々代替り候事故右証文改替申付古証文差戻候

三月六日 快晴

一 左之もの共於牢屋御徒日附仮役坂井万平下目附安井友治小頭代江原文蔵部屋目附中山百歳出番栄治為治立合左之通取計之

先年盜相働親文八へ引渡ニ相成 元太田村当時無宿盗人 其後親共勘当受ケ又立帰り 熊吉 所々盜相働候ニ付剽之上御領分追払

本覚寺ニ夜着蒲団鍋釜 無宿盗人 盜取候付五十敲之上御領分追払 治助

山田孫四郎長屋ニ銀札盜取候付 美濃職人町盗人 右同断 幸右衛門

聖徳寺ニ仏具盜取候付 無宿盜賊 平兵衛 右同断

金屋村文右衛門方ニ旧臘博奕参会 京町 原田屋 致候付五十敲掃町 嘉四郎

右同断 船頭町 新屋 伊三郎

右同断 河原町原田屋 喜次郎

先年山北村ニ博奕参会仕 同町 髮結 致出奔又候立帰リ金屋村ニ 万吉 博奕参会いたし候ニ付百敲掃町

二歳之節の船頭町帳外徳 小性町帳外 養子ニ相成母子共ニ今以帳外ニ罷在此度 左五郎

金屋村^ニ 博突参会いたし候付五十敲之上
船頭町へ預ケ
但家職當勝手次第之事

博突宿いたし候付

金屋村

百敲帰村

文右衛門

金屋村^ニ 博突いたし候付

一ノ宮村

五十敲帰村

忠八

右兩人ハ郡代所申渡

新魚町 蕃屋

先月五日之夕桶屋町吉兵衛

定吉

方^ニ 博突いたし候付五十敲之上帰町

同町作人

右同断

小性町赤穂屋

常吉

博突宿いたし候付

桶屋町作人

百敲之上帰町

吉兵衛

盜賊筋携り無之候得共

美濃職人町盜賊幸右衛門

幸右衛門右之通義^ニ 付立去り

妻子

△左之もの大年寄へ切紙差遣呼出於座敷下役小頭代立合直申渡

右盜賊平兵衛召仕居^并

札元

受人取様不将^ニ 付追込^{但日數三百}

武田七郎兵衛

△以下大年寄宅^ニ 申渡小頭部屋目附出席

右盜賊熊吉今於途中

戸川町 福島屋

繰綿一本買取候所右買取様

清七

甚不将^ニ 付其品取上ケ代物

損失之上追込^{但日數五百}

福島屋清七仲ケ間^ニ 而 右綿

同町 野本屋藤吉

買取候得共不取計事故

下紺屋町中谷屋

代物損失而已申付候

幸助

右盜賊平兵衛數日留置

京町瀧山屋

日雇^ニ 召仕候^ニ 付追込^{但日數七日}

惣兵衛

伝兵衛娘長死去跡断絶之所

船頭町元伝兵衛娘長

其旨不届長妹徳^并 左五郎

組合 勘兵衛 吉兵衛

右兩人内々^ニ 而 數年帳外^ニ 而

組合 勘右衛門 十兵衛後家

差置候不届^ニ 付追込^{但日數七日}

仁三郎 義助 四郎兵衛

右之通等閑^ニ 捨置候不将之至^ニ 付

右町役 文五郎 清助

追込^{但日數五日}

畢^而 右伝兵衛屋敷地取上ケ欠所申付候

且又徳左五郎兩人船頭町へ預ケ申付候

右畢^而 口達左五郎義行跡も相直り追^而 入帳願出候八つ

聞届可遣候

船頭町帳外伝兵衛娘

數年帳外^ニ 而 罷在不将^ニ 付

徳

追込可申付所病氣^ニ 付船頭町へ

同町

預ケ申付候^{但家職當勝手次第之事}

去六月以來徳義内々^ニ 而

同町 和市

差置候段叱

帳外左五郎義去六月以來

小性町塩田屋 平吉

内々^ニ 而 差置候不将^ニ 付

右平吉

追込^{但日數三百}

組合 徳半 宗兵衛

右不埒^ニ

右町役

急度叱

喜助 清左衛門

組合吉兵衛博突宿いたし候^ニ 付

桶屋町

過料五百文ツ、取上ケ之上
追込 但目數五日

隣家 伊助 甚助 新七
組合 才治 権吉 七介
幸之助 利助

右不将ニ付
追込 但目數三日

右町役 彦市

金屋村文右衛門方ニ而 博奕参会指口ニ而
出奔いたし候もの左之通

林田土手紺屋万治弟「」蔵
京町 錦屋万蔵
河原町 利右衛門
境町 伊兵衛
同町 利三郎
新魚町 油メ京平

右六人之組合共へ百日之内ニ不尋出ニおゐてハ組合共へ
過料五百文ツ、申付候段申渡受一札取置候

盜賊熊吉木綿ニ反買取候付 元魚町大庭屋 善兵衛
其品取上ケ損失申付候

右熊吉鳥惟子買取候付 境町 大花屋 松之助
右同断

右熊吉盗もの質置取次いたし候付 同町倉敷屋 銀藏
其品取上ケ弁銀申付候

右熊吉銀札五匁借り候ニ付 小性町 代二郎
取上ケ

盜賊幸右衛門銀札七拾匁払方ニ 美濃職人町乗物屋
受取候付不殘取上ケ 佐吉

右幸右衛門銀札三拾七匁余受取候付 三町目福永屋
右同断 吉兵衛

右幸右衛門銀札五匁余受取候付 二町目表屋

右同断 嘉兵衛

右幸右衛門銀并 銀札預り候ニ付 二階町茂七妻 そよ

陸荷練綿二本致拔荷候ニ付 茅町長岡屋 久治
追込 但目數十日

盜賊熊吉盗物質取次 本琳寺長屋 嘉藏
いたし候付其品取上ケ弁銀

右盜賊平兵衛受人ニ相立候付 本琳寺長屋 茂三郎
追込 但目數五日

但右兩人ハ寺社取次役所ニ而取計
右取上ケ候品々夫々江相渡し候

右取計相済候段御用番并 大目附へ相届候
一 目孫兵衛昨日引込候付仮役同人倅岩次へ申付候段文蔵申出候

一 京町吉田屋喜八郎義京都麩屋町錦下ル近江屋七三郎方へ廿日計之
逗留ニ而 明七日出立願承り届 同廿四日帰

一 西今町福本屋伊右衛門家屋敷北側ニ而 表口四間半裏行十五間但五
歩五厘役也東隣ハ本源寺前通り西隣ハ原田屋佐助也右家屋敷質物
ニ書入一ヶ月老歩三朱之利足ニ而 来戌正月切ニ銀札三貫目借受度
願承り届 同七日証文差出候

一 西今町永のや安兵衛義大坂大川町玉子屋九郎兵衛方へ三十六日計
之逗留ニ而 明七日出立願承り届

一 京町桶屋四郎兵衛役介兄登作義四国遍路百日計之逗留ニ而 明七日
出立願承り届 六月廿日届

一 坪井町小島屋和兵衛義摂州能勢郡妙見宮へ参詣明七日立大年寄承

り届指出 同廿日届

一西今町中野屋太郎兵衛義右同断願 同廿一日届

一茅町松島屋龜藏義讚州金毘羅參詣十日計之逗留^二 而 明七日出立願
大年寄承り届ケ差出候

一茅町大坂屋浜吉右同断願 十五日届

一元魚町藤の屋嘉四郎右同断願 十三日届

一二階町河内屋全右衛門右同断願 右同断

一江戸御奏者太田舍人^一返書到来大年寄共年頭御祝義披露相濟候段
申来大年寄へ相渡候

一八出芝居無別条大札百式拾式枚小札三拾五枚有之旨又六中村栄治
届出候

一懸合問屋是迄京町堺屋太次郎方^二 而 仕候所以後^者伏見町紙屋伝吉
方^二 而 仕度旨願出候段大年寄申出承り届

三月七日 快晴 霞

一札元茂渡藤右衛門父休吾義京都麩屋町近江屋七三郎方へ四十日計
之逗留^二 而 来ル十日出立仕度願承り届 四月十二日届

一二町目福永屋藤助娘義播州姫路本庄植之助妻^二 差遣候所昨晚来候
^二 付三十日計逗留為仕度願承り届

一美濃職人町団屋次兵衛持来候古道具屋株当西三月^一来ル寅ノ三月
迄五ヶ年之間河原町登茂屋利兵衛借り受商売仕度願承り届

一御領分東南条郡林田上之町久米吉^并 同人母右家内二人西新町住田
屋忠兵衛引受度願下方引合相濟候段申出承り届

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住喜庵義先達^而 西国^二 罷出去

申十二月廿二日五十日之日延願指出候所足痛仕候付又候百日之日
延願差出承り届

一戸川町中横町西側^二 而 播磨屋七左衛門所持之家屋敷表口三間小半
裏行拾壹間但半役也南隣ハ播磨屋清七北ハ三町目境也右家屋敷町
内中屋庄兵衛取次^二 而 質物^二 書入一ヶ月壹歩半之利足^二 而 来ル十
二月切銀札二百匁借り受度願承り届 同十三日日本証文指出候翌年正月廿九日受渡シ濟

一西今町山内屋平助義大坂大川町和泉屋六兵衛方へ四十日計之逗留
^二 而 明八日出立仕度願大年寄承り届差出 四月十二日届

一石工盗人伊藤主水長屋住貞藏義紀州人別之もの、由申候^二 付西今
町年寄^一 紀州へ飛脚差遣候所向方ハ先達^而 人別除候付差構無之段
返書差越差出候

一八出芝居無別条大札百式枚小札三拾四枚有之旨栄治伝藏見習藤四
郎届出候

三月八日 快晴

一御用日登城

一脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡安ヶ札村庄治郎^并 倅夫吉右家
内式人二階町山手屋弥太郎家守富藏借屋住安田屋左平次引受度人
別人願御用番御聞濟^二 付大目附へ差出置御聞届申達候 同廿六日日本証文差出

一早川八郎左衛門殿支配所当国西々条郡長藤村宗兵衛倅新吉一人新
職人町高角屋きり家守奥津屋茂右衛門役介^二 引受度願右同断取計

一備前和気郡香々登西村久兵衛倅甚之助一人林田町香々登屋六之助
引受度右同断取計濟 同十六日日本証文差出候

一備前和気郡香々登西村久兵衛倅甚之助一人林田町香々登屋六之助
引受度右同断取計濟 同十六日日本証文差出候

一土岐美濃守殿領分当国英田郡山城村豊治夫婦父次郎兵衛伴作治石家内四人福渡町作人左助引受度願右同断取計濟同十八日住宅証文差出

一森右兵衛佐殿領分播州赤穂郡西有年村勘六伴兵治郎義境町大花屋松之助養子ニ引受度願右同断取計濟同上日住宅証文差出

一脇松淡路守殿預り所当国久米南条郡神目村彦六伴市之助一人戸川町福渡屋新兵衛借屋家守作人久米藏引受度願右同断取計濟同上日住宅証文差出

一札元玉置卯左衛門義病氣為療治備前岡山へ三十日計之逗留而明九日出立願右同断取計濟同廿三條

一和田村政右衛門方へ去月廿四日夕盜賊這入八品被盜取代積拾六匁七分位之由触流し取計候様大目附之由触取計本書ハ差戻候同十八日町方無之旨申出候

一大阪長沢清左衛門之爰元町人江懸り借銀出訴取次候而も度々不束之義も有之候間以来者札之上可取次旨先日申來候ニ付御互之場合ハ御内輪之義故幾度間違候而も不苦候間無御遠慮御取次被下御番所へ不訴出様ニ御取計候様ニと及返書置候処藏合孫左衛門申出候

者大坂町人共も御番所へハ容易ニ得不相願候処御屋敷ニ御取次候而ハ聊之義迄訴出候様ニ相成却而当所迷惑之筋ニ候由弁書指出候依之右之段申遣可置と存下案相認候所右孫右衛門弁書写相廻し右之旨ニ付此段御差含可然様程能御計候様ニと可申遣旨被仰出

其旨此間之玉子屋誤一札相廻り候返書申遣候

一戸川町北側而三町目次田屋善左衛門家屋敷表口三間七步五厘裏行八間小半但半役也東隣ハ平野屋助左衛門西隣ハ次田屋善左衛門持家也右家屋敷代銀札六百五拾匁ニ相極町内松井屋弥七へ壳渡度願承り届同十五日壳券状差出

一当国勝山領真島郡一ノ宮村妙法寺治性院と申山状上下三人用事有之昨夜來候間五日計逗留為仕度願坪井町河原屋治助差出承り届

一目明孫兵衛出勤届出候付飯役岩吉差免候様ニ文藏へ申達

一江戸町人戸谷与市昨日來又々暫逗留為致候旨勘定奉行平井半平之案内有之并新職人町松の屋十右衛門も口上而届出候同廿二日補用

一田中幸助へ島屋文七酒造株讓受延引之断書之返書取計并龍野役人手紙ニ通差戻候

一御払米 正銀六拾九匁五分九厘 町米正銀六拾五匁五分九厘
一御藏米七拾匁 町米六拾六匁

一山田主膳殿來ル十二月御出府之由大目附之通用有之竹之間御杉戸外而先格之通御見送り申候

一主膳殿之牢舍人孤独之員數認差出候様被仰聞左之通差出候
一牢舍 貳拾四人 外ニ借牢之狂女老人
一町方孤独 拾四人

一八出芝居無別条大札貳百三枚小札五拾七枚有之段時治幸治届出候
三月九日 快晴

一左之もの共追込昨日迄而三日ニ相成候ニ付武田七郎兵衛義ハ呼出於座敷直ニ申渡其外ハ大年寄宅而申渡之

追込御免被成候
札元 武田七郎兵衛
桶屋町年寄 彦市

追込差免候
右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候
小性町塩田屋平吉組合四人

一大目附上原彦藏之昨夜紙面而申來候ハ此間八出天神芝居而狂

言代り目之節芝居小屋^ニ而内試いたし致郡集候趣^ニ相聞候是迄之

芝居^ニ而も右之通内試いたし候義^ニ候哉聞札申聞候様申来即刻大

年寄へ申付為相札候所是迄勸進元相勤候もの共呼出相札候所是迄
何之芝居^ニ而も狂言之代り目^ニ者前夜芝居小屋^ニおゐて打合せ致
来候由勿論内試之義^ニ候間見物ハ不為致積^ニ御座候得共近隣之も
の共余程忍込制兼余程見物も相集り候由^ニ御座候旨今朝大年寄申
出候付其段紙面^ニ而上原彦藏へ申達候処尚又後刻上原彦藏^ニ内試
之義^者為見間敷ものを見物為致処^ニ右之通大造^ニも相成候間最早
札^ニも不及候間右之通^ニ勸進元付之もの迄も心得居候様可申付之
旨紙面^ニ而申来斉藤孫右衛門呼出其旨申付置候

一 備中松山出所須戸柳左衛門と申もの江戸稼^ニ罷出途中播州揖西郡
能地村^ニ而相煩同所^ニ而療治相加へ快方^ニ者候得共歩行不相叶同
所^ニ送り出し川部村へ送り来候^ニ付承り届継送り候様申付候旨郡
代所^ニ通用有之其旨大年寄へ申達候

一 八出芝居大札式百拾壹枚小札三拾八枚有之然ル所河原町忠藏と申
もの致酔狂候^ニ付繩を懸け年寄組合呼出引渡置候段文藏伝蔵届出
尤御徒目附^ニも届有之旨申出候付大目附へ右之旨相届勿論酔狂之
義^ニも御座候得^者無程誤入可申候間即刻御用番中へ相届候^ニも及
間敷何分明朝之趣^ニ而相届可申候得共御徒目附^ニも御届可有之^ニ
付此段御届申置候段相届候然ル所へ大年寄共申出候^者河原町忠藏
義右之通之処宿^ニ而^者同人妻酔狂仕両人之義組合共手^ニ合不申候
間兩人とも手錠被仰付被下候様願出候段申出候^ニ付夜廻り百蔵為
治指向け妻^ニ者手錠懸け忠藏ハ縛之俵差置候

一 酒運上巻貫三百九拾匁分四厘四毛相納候由酒改書付差出候
一 河原町忠藏妻義昨夜不調法仕候旨何卒手錠御免被成下候様歎書指
出候由大年^ニ指出候付承り届置手廻り^ニ手錠差免候右忠藏義^者未
歎書も不差出候付上原彦藏へ罷越歎延引^ニ者候得共何れ酔狂之義
故御届^ニも及間敷此上誤書差出候ハ、承り届繩差免芝居中禁足申
付可置旨遂内談候処同意^ニ付其旨^ニ而可宜旨挨拶^ニ候

三月十日 快晴

一 八出芝居別状なく大札式百三拾三枚小札五拾三枚之由百蔵為治届出候
一二階町南関貫^ニ牛撃置夜^ニ入候^而も牛主不來旨届出候処無程牛主
来打穴村兵助と申もの、由連帰候段猶又届出候

三月十一日 快晴

一 戸川町福島屋清七船頭町年寄式人桶屋町^(兼所)吉兵衛隣家組合追込昨日
迄^ニ而五日^ニ相成候付大年寄宅^ニおゐて指免其段御所へ相届候
一 札元山本三郎左衛門母^并泊母^(つ)西国順礼罷出度百日計之逗留^ニ而
来
ル十四日出立仕度願承り届^{六月廿六日逗留承り届七月八日届}
一 境町美濃出屋清左衛門義大坂堂島南中町潮屋源兵衛方へ四十日計
之逗留^ニ而明後十三日出立願承り届^{四月廿六日逗留承り届五月十三日届}
一 八出芝居無別条大札百三拾五枚小札五拾八枚有之由又六時治届出
候

三月十二日 快晴

一 河原町忠藏義此間八出芝居^ニ而不調法仕全鉢酔狂^ニ而一向不相覚
此節本証^ニ相成先非を悔誤入候旨歎書昨夜指出候付今朝大年寄宅
へ呼出小頭代り百蔵昼廻り又六時治差向右之通申渡之

歎ニよつて縛縄指免
禁足申付候相慎可罷在候

河原町

忠藏

一 田中幸助の書状指越小瀬村吉右衛門の島屋文七へ讓渡候造酒株三拾石ニ候旨届直シ并直屋孫兵衛の三端屋貞藏へ造酒株讓渡候届
二月廿日相濟候段申来候付右「」旨島屋文七へ申渡候様大年寄へ申達候

一 山田主膳殿今朝江戸へ被致出立候

一 中之町甲屋幸助宿屋株指免候義先月三日伺濟候処折節歎書指出候ニ付其節指免候ハ不宜候付延置今日左之通大年寄へ申達候
宿屋株指免候間以来別入念

中之町 甲屋幸助
可相勤候

一 境町三津屋平右衛門義大坂大川町美作屋辰郎方へ三十日計之逗留ニ来十五日出立願承り届

一 木町三家屋之右衛門義京烏丸通六角下ルニ文字屋九兵衛方へ四十日計之逗留ニ明十三日出立願承り届四月廿七日延願承り届五月十三日届

一 中之町南側ニ作人多十郎家屋敷表口三間裏行拾七間但半役也東隣八玉の屋太助後家西隣八玉の屋藤十郎也右家屋敷寛政十一年未

ノ十月質物ニ書入四百匁借用仕候処今般元利弁濟受返し候届書指出候

一 坪井町北浜屋佐七義大坂心齋橋筋大川町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留ニ明十三日出立願大年寄承り届差出候四月十五日届

一 八出芝居無別条大札百四拾式枚小札三拾枚有之候段采治伝藏届出手錠指免候

三月十三日 曇 晴

一 御用日登城

一 備前和氣郡苦木村三太郎娘さの并倅菊治郎右母子三人美濃職人町三笠屋伊右衛門引受度願御用番御聞濟ニ付大目附へ出置御聞届申達同廿七日住宅証文差出

一 御代官柘植又左衛門殿支配所備前小豆郡中村久五郎娘常義美濃職人町財布屋平七借屋住中屋長吉妻ニ引受度人別入願右同断取計濟右同断

一 雲州神門郡今市村利左衛門倅長吉一人美濃職人町山本屋佐右衛門引受度人別入願右同断取計濟右同断

一 材木町近江屋庄八娘ちう義脇坂淡路守殿預り所当国久米北条郡宮尾村重兵衛妻ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一 脇坂淡路守殿預り所当国久米北条郡宮尾村惣助娘りせ義伏見町松本や平助妻ニ引受度人別入願右同断取計濟同廿九日住宅証文差出

一 材木町関貫損候由届書差出候付大目附へ差出候
一 京町瀧山屋惣兵衛小性町塩田屋平吉船頭町長組合七人之追込昨日迄ニ七日ニ相成候付今朝指免候段出仕之上御両所へ相届候

一去庚申年中当役所欠所銀払出残五拾七匁七分四毛上納栗田辰右衛門へ相渡し候

一 茅町麩屋元治義町役へ対し法外之義共申指図受け不申候由先月廿九日届出候付内分ニ手錠預ケ申付置候所誤入歎書指出候付大年寄場合切之取計いたし歎之趣聞届大年寄宅へ出番藤四郎差向ケ手錠指免候

相届候得^者 急度御答も可有之所今般ハ 茅町麩屋元治

憐愍を以大年寄場合切^ニ 指免候間以來急度可相慎候

- 一 久世表^江 先月十九日盜賊房五郎引合之町人共差遣候節道中警衛中山百藏指遣候諸人用六拾匁考分壹厘之証文指出奥印書取計之
- 一 元魚町豊屋喜兵衛大坂大川丁淀屋橋美作屋辰三郎方へ三十五日計之逗留^ニ 而明後十五日出立願聞^リ 届

- 一 船頭町田原屋稻藏母義四国遍路六十日之逗留^ニ 而明十四日出立願承^リ 届 五月十六日届

- 一 船頭町直原屋長菊妻右同断願承^リ 届右同断
- 一 安岡町井手屋太郎兵衛夫婦西国順礼百日計之逗留^ニ 而来ル十八日出立仕度願大年寄指出承^リ 届 六月廿九日届候段七月三日届出候 承^リ 届候七月八日届

- 一 東新町作人源助義西国順礼九十日計之逗留^ニ 而明十四日立願承^リ 届 六月十七日日届差出 承^リ 届候七月八日届

- 一 田中幸助造酒株讓受御届相濟候段申来候付右之段龍野へ之通用下案相認御用番中へ相伺候所思召無之仍之明十四日出飛脚指遣度旨大目附へ相届置候^處 中^尾 清藏へ相渡

- 一 大目附上原彦藏元御藏番相働候柴田庄右衛門と申もの当時林田町辺ニ酒造奉公いたし居候由右之もの御不審之筋有之^ニ 付召捕牢番預ケ申付候様被仰出候旨達有之仍之又六伝藏指向候所當時^者 林田町河田屋忠助借屋住^ニ 而夫婦暮罷在庄右衛門義八同町山本屋友三郎方へ致奉公居候由^ニ 而召捕牢番預ケ取計候段罷帰相届候勿論妻ハ組合心付候様^ニ 申付置候由

御用之筋有之^ニ 付 林田町 作人庄右衛門
牢番預ケ申付候

右取計候段御用番^并 大目附へ相届候右庄右衛門御不審之程内々彦藏へ承^リ 合候所同人義狐を遣ひ人を謠し候由^ニ 付先右之通被仰付置候由之旨被申聞候

- 一 右ニ付同心組致不足候^ニ 付加人兩人当日切^ニ 大目附へ申達候所荒木源四郎土居万兵衛来候

- 一 八出芝居無別条大札式百拾五枚小札五拾七枚有之候段文藏為治見習藤四郎届出候

三月十四日 雨

- 一 坪井町畑屋弁藏義伯州三朝村へ入湯三十日計逗留^ニ 而明後十六日出立願大年^間 届指出 四月廿日追願承^リ 届五月十二日届

- 一 坪井町備中屋喜兵衛義右同断 四月廿日追願承^リ 届右同断
- 一 雨天ニ付芝居延引届出候

三月十五日 快晴

- 一 桶屋町吉兵衛博奕宿致候^ニ 付隣家組合過料錢三拾式匁式分八厘大年寄相納候

- 一 金毘羅參詣旅人三百八拾七人有之頭錢取候段旅籠屋頭山北屋伊兵衛帳面差出候

- 一 龍野役人今昨晚飛脚指越小瀬村吉右衛門今林田島屋文七へ造酒株讓渡届違弥三拾石讓渡候御届相濟候由為知申越候^ニ 付承知之旨可及返書段御用番中へ相伺候処思召無之其段及返書候

- 一 細工町木屋伊兵衛義去十二月出奔仕百日尋申付置候所今五十日之日延願指出承^リ 届 翌年五月八日罷帰候

- 一 紀州海士郡日方浦善四郎手代喜兵衛一人例年之通椀折敷売^ニ 来候

段京町田戸屋宗五郎宿切手指出候

一八出芝居昨日之雨^ニ而下路悪敷^ニ付延引届出候

三月十六日 曇 時雨

一自分今日三浦十郎左衛門頼置木山宮^江致参詣候

一茅町長岡屋久治追込昨日迄^ニ而十日^ニ相成候^ニ付今朝指免其段三浦御所へ相届候

一八出芝居無別条大札三百八拾五枚小札百四枚有之段文蔵伝蔵届出候

三月十七日 快晴

一龍野表^江指遣候飛脚中尾清蔵今朝罷帰り造酒株讓渡之義承知之旨返書指越御用番中へ指出候

一下紺屋町万性院金毘羅参詣十日計之逗留^ニ而廿二日出立願大年寄承り届指出候 同廿九日届

一甲斐国甲府金手町早川秀向と申筆道者当所へ用事有之来候^ニ付三十日計逗留為仕度願書二階町立花屋伝吾指出候段大年寄申出承り届 同廿八日届

一久世支配所大庭郡久世村中磯屋利兵衛妻幾義西今町角屋吉兵衛内縁^ニ付来候間来戌ノ三月迄逗留為仕度願承り届

一中之町作人多十郎家屋敷西側^ニ而表口三間裏行拾七間但半役也東隣ハ玉野屋^{太助}後家西隣ハ玉の屋藤十郎也右家屋敷代銀札志貫目^ニ相極同町広戸屋勘助へ壳渡度願承り届 同十九日壳渡出

一境町利三郎伊兵衛博奕指口之処致出奔尋申付置候処召連帰候段大年寄届出候^ニ付夜廻り又六為治差向手錠預ケ申付翌十八日出仕

之上相届候

一御米三百俵正銀六拾八匁六分かへ 落札神田屋卯兵衛

町米 正銀六拾四匁六分

一御蔵米七拾匁 町米六拾六匁

一八出芝居無別条大札式百八拾三枚小札八拾五枚有之候旨榮治幸治届出候

三月十八日 雨

一御用日登城

一脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡山之城村重兵衛^并娘右式人二階町豊屋多助家守作人長八引受度人別人願御用番御間濟^ニ付大目附へ差出置御間届申達候 同廿六日住宅証文差出

一二階町藤野屋嘉四郎家守浅田屋平兵衛借屋住作人惣八義大久保安芸守殿領分当国久米南条郡下打穴中村忠蔵方へ引受度人別除願右同断取計濟

一境町利三郎伊兵衛罷帰手錠組合預ケ申付候義御所相届候

一茅町池上流滴田地公事一件愚意取計之趣上原彦蔵へ先月初旬及内談置候所此間同意之趣返答有之候^ニ付今日御用所へ罷出右一件公事昨年来内済取扱申付置候得共甚入組候趣^ニ相聞内済不相整候段届出候右^ニ付呼出し一ト通り相糺候上内済可申付と存候付此段及御噂置候段御用番中へ相届候所御存所無之宜取計候様被仰聞候

一当役所召捕もの入用斎藤孫右衛門取替来候趣^ニ而取替来候得共利分も不被下役老人^江兼^而申付候と申義も無之甚氣之毒成もの^ニ付大沢三平時分^ニ者三百匁ツ、内貸受取置候証文扣も有之候^ニ付右

之通_ニ者 相成間敷哉と伊達与吉郎へ談置候所同人出府_ニ付上原_江
 申送り置候由_ニ付同人_江も相咄置候所今日彦藏_江前以受取置候も
 如何_ニ付入用有之節ハ是迄之通大年寄へ為取替即日内貸証文差出
 受取可相渡左候ハ、三四日之義故取替候_而も苦かる間敷随分心を
 付内渡いたし候様_ニと被申聞候付右ハ下方_江強_申立候義_ニも無
 之候得共余り氣之毒成もの_ニ付申立候義_ニ而_右之通ならハ大躰是
 迄之趣_ニ候間下_江差支申出候迄ハ随分相濟候義_ニ候間御存寄之通
 取計可申旨及返答候右言詞_ニ付相察候得_者兼_而受取置払出候得_者
 疑敷様之口ふり_ニも相聞候付是迄ハ欠所銀有之候得_者右之内_ニ
 払出し上納之節致算様来候得共以來ハ欠所銀有之候_而も右之内_ニ
 而_不払出度々_ニ受取欠所銀ハ別_ニ相納候方可然哉_ニ被存候事
 一安岡町桶屋伊_助事福輪屋伊助義町役_江対し不法之義有之難捨置旨
 申出候付手錠預_ケ先月廿九日懸屋元治と一緒_ニ申付置候所誤入歎
 書指出候_ニ付大年寄宅へ出番文蔵差向手錠差免左之通申付候
 其方義町役へ対し法外之及支義 安岡町桶屋事
 御届申上候得_者急度御咎可被仰付候処 福輪屋伊助
 格別之用捨を以今般ハ大年寄場合切_ニ而
 歎之趣承り届手錠差免候間已来急度可相慎候
 一三町目板屋武兵衛妻去十一月妊娠届仕候処昨日満月之小児出生月
 取間違之断書指出候例之通叱置候様及差因候
 一小性町吉兵衛義町外左五郎指置候義_ニ付年寄叱有之候所同町兼帯
 菊屋清左衛門其節他出_ニ付今日叱取計候段大年寄届出候
 一牢舍人伝右衛門病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候
 一關所銀上納之受取書来单_江入置

一八出芝居雨天_ニ付延引届出候
 三月十九日 晴 時雨
 一玉置六郎左衛門義妻出産女子出生仕候付血忌引込候段斎藤孫右衛
 門届出候付御用番_并大目附へ相届候尤六郎左衛門引込中ハ蔵合孫
 左衛門月番相勤候旨申出候
 一八出芝居無別条大札式百八拾三枚小札七拾八枚有之候段百蔵伝蔵
 見習藤四郎届出候
 一大年寄血忌引込之先例相調候処近例ハ當時六郎左衛門妻出生之外
 ハ無之由_ニ付内々聞合候所安永三年四月十六日出生之由申出候_ニ
 付日記取調候得共一向相見へ不申候_ニ付此度も血忌御免不相伺可
 然義哉_ニ付其俣_ニいたし置候
 三月廿日 快晴
 一八出芝居大札式百七拾五枚小札六拾八枚有之無別条引取候段栄治
 時治届出候
 三月廿一日 快晴
 一昨日八出芝居於場所盜賊坊主智聡と申もの召捕候段届出候付下
 吟味致様_ニ申付候所昨年妙法寺本伝寺等_ニ而_盜相働候段及白状候
 由口書指出依之昼廻り文蔵栄治指指向牢番預_ケ申付其段御用番_并大
 目附へ相届候
 吟味中
 日蓮宗無宿盜賊坊主 智聡
 牢番預_ケ申付候
 右智聡義_ニ二町目竹本屋宇兵衛方_ニ致止宿居所持之品預り居候段届
 書差出候

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形売
来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出 六月三日始

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代吉兵衛一人例年之通小間物卸売
二 来候段右同人宿切手指出候 七月十四日始

一 八出芝居無別条大札二百五拾式枚小札六拾壹枚有之段百藏幸治届
出候

三月廿二日 快晴

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売来候段中之町津田
屋伝助宿切手差出 七月廿五日始

一 土井大炊頭殿弓削役人服部有右衛門去暮米相場書指遣候為挨拶
鱒壹本鯛壹枚指越候 二 付及相答候

一 下紺屋町原屋佐助義去申ノ正月相願戌十二月迄一方村水車場へ
妻子共家内四人出職願今般無抛義出来 二 付罷帰度願承り届

一 盗人坊主智聡義致世話宿屋相頼為泊候断書桶屋町桶屋善七家守広
瀬屋長七断書指出候

一 八出芝居無別条大札貳百貳拾七枚小札五拾九枚有之候段文蔵為治
断出候

一 盗もの拾もの等町方ニ預り居候品書指出候
一 町方帳外もの逐吟味候処無之旨大年寄届出候

三月廿三日 雨

一 御用日登城
一 桶屋町桶屋ちか家守桶屋久兵衛借屋住作人和兵衛義去申ノ三月四
国遍路罷出八月中旬日延願指出候処不罷帰候 二 付十二月下旬届出

百日尋申付置候処不相知候 二 付除帳願御用番中御聞濟 二 付大目
附へ指出置承り届候

一 新職人町龍田屋庄蔵借屋住代吉義去十二月出奔届出百日尋申付置
候処弥行衛不相知最早百日余ニ相成候 二 付除帳願右同断取計濟

一 安岡町扇屋兵助後家悻常吉義五ヶ年已前寛政九 七月勘当相願候
処当時久世辺ニ罷在心底取直候 二 付勘当指免度願右同断取計濟

一 三町目若松屋利助借屋住備前屋嘉兵衛役介太兵衛義大久保加賀守
殿領分東南条郡押淵村宗四郎養子 二 指遣度人別除願右同断取計濟

一 三浦志摩守殿領分当国真鳥郡下方村松右衛門娘いセ 二 孫むめ右母
子式人二階町兒鳥屋幸三郎妻子 二 引受度人別入願右同断取計濟

一 勝間田町吉田屋与三兵衛孫娘のへ義早川八郎左衛門殿 二 配所当国
大庭郡久世原方村西川屋伊兵衛妻 二 指遣度人別除願右同断取計濟

一 防州岩国多田村衣屋藤兵衛と申もの衣地縮緬帷子売 二 九年已前迄
来候所不勝手 二 付參不申候間右跡入備前岡山浜田町焼灯屋吉太郎
と申焼灯張かへ候者已来御出入奉願候段願書指出承り届

一 播州姫路本庄槌之助 二 円尾屋孫右衛門 二 蒲田屋六左衛門右三人上
下八人式町目福永屋藤助方へ来候付十日計逗留為仕度願承り届

一 山田主膳殿内井汲武平太姉義二階町木屋太兵衛妻 二 引受度人別入
願承届 同廿六日始

一 盗賊坊主智聡合芝居場所ニおゐて衣沓ソ預り居候由勸進元倉敷屋
惣兵衛合届書差出候

一 八出河原ニ新開出来候由左候 二 八洪水之節難義 二 付新開御許容不

被下候様東新町西新町中之町々歎書指出候^二付郡代^正相廻置候

六月三日開之旨申来候

一 田中幸助^二造酒株讓受御届相濟候段申来候返書今日指遣候尤御届書^一有之段尋遣候

一 八出村芝居雨天^二付延引届出候

一 神田栄治稽古道具しない二本大小棒式本代拾九匁六分五厘相渡候

三月廿四日 雨

一 八出芝居雨天^二付延引届出候

三月廿五日 雨 昼後晴

一 今九時^二新左衛門文藏百藏孫右衛門喜左衛門立合^二而池上流滴井

崎屋十右衛門呼出し兼^而訴出候田地公事一件双方理解申聞内濟申

付候

田地公事内濟申付候

西新町井崎屋十右衛門
茅町 池上流滴

一 細工町南側^二而板屋弥吉所持之家屋敷表口式間裏行拾壹間但式步

五厘役也西隣ハ大工多七東隣ハ板屋弥吉也右家屋敷代銀札百四拾

五匁相極屋根屋龜吉へ売渡度願承り届但実ハ植木左士長屋住卯助

相調候由内々申出候為後日記置候^{同略日亮券状出}

一 元魚町西側^二而糶屋文吉所持之家屋敷表口五間半裏行拾六間但壹

軒半役也北隣ハ齋藤孫右衛門南隣ハ檜物屋藤吉也右家屋敷之内^二

而北之方表口式間半小間中裏行拾六間御役七步五厘添代銀札八百

五拾匁^二相極^二三階町河内屋幾之丞へ売渡度願承り届^{同十七日亮券状指出}

一 吹屋町吹屋八左衛門妻兼^而経行不順^二付月取間違之旨届書指出追

而 出産之上先格之通叱置候様^二申達候

一 早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村角屋善三郎娘民義西今

町磯屋勘治へ内縁有之^二付来候間来戊三月迄逗留為仕度願承り届

一 八出芝居雨天^二付延引届出候

三月廿六日 時雨

一 京町田原屋伊兵衛義播州明石東橋屋町わさび屋伊右衛門方へ四十

八日之逗留^二而来ル廿九日出立願大年寄承り届指出^{五月八日燐ル}

一 八出芝居雨天^二付延引届出候

三月廿七日 晴

一 西今町菱屋治兵衛孫治助義正月廿五日相願下ノ関へ参候所向方^二

而 病氣^二付今三十日計之日延願承り届^{又五月廿九日三十日計日延願指出承り届}

一 播州加藤郡三木町徳屋平兵衛一人例年之通紺屋形売^二来候段西新

町山家屋利右衛門宿切手差出^{六月三日燐}

一 備中国津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛手代儀八一人例年之通畳表卸

売来候段右同人宿切手指出候^{七月十四日燐}

一 播州姫路備前町川口屋伊右衛門一人唐津物瀬戸物売^二来候尤同人

義^一去申八月九日承り届候もの^二而此度初^而来候段右同人宿切手

出^{六月三日燐}

一 西今町北側^二而作屋庄兵衛家屋敷表口式間半裏行拾五間但式步五

厘役東隣ハ直屋善吉西隣ハ塗師屋喜助也右家屋敷代銀札七百匁^二

相極町内直屋善吉へ売渡度願承り届^{翌廿八日亮券状指出}

一 西今町南側^二而正田屋平兵衛家屋敷表口三間裏行拾五間但三歩役

也東隣ハ辰野屋喜助西隣ハ直屋孫四郎借屋也右家屋敷代銀札^{七百匁}

相極町内作屋庄兵衛へ売渡度願承り届右同断^{同日}

同日

一 半凌申付候所無別条段又六幸治届出候

一 八出芝居無別条大札式百式拾三枚小札五拾式枚有之候段百藏時治届出候

三月廿八日 曇 晚方夕雨

一 御用日登城

一 坪井町益野屋喜助弟吉兵衛^并 倅^{とよ}虎吉右二人備前和氣郡益原村利助方へ引越度人別除願御用番御開濟^ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一 備前赤坂郡下方村松藏倅万藏夫婦^并 同人弟右家内三人河原町高島

屋鶴治借屋住甚八引受度人別入願右同断取計濟四月十一日住宅証文指出

一 脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡福渡村茂三郎妹ふさ義河原町登茂屋治助娘^ニ引受度人別入願右同断取計濟右同断

一 福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住橋屋源吉義去申ノ十二月出奔仕御届申上候所百日尋被仰付相尋候得共弥行衛相知不申最早百日余^ニ相成候付除帳願右同断取計濟

日余^ニ相成候付除帳願右同断取計濟

一 松平上総介殿領分備前和氣郡西片山村忠助倅辰五郎一人戸川町作人文四郎引受度人別入願右同断取計濟同四月八日住宅証文指出又

一 上紺屋町小山屋伊八借屋住作人岩助夫婦二人去申ノ十一月廿五日出奔仕其段御届申上候所百日尋被仰付相尋候得共弥行衛相知不申最早百日余^ニ相成候^ニ付除帳願右同断取計濟

一 材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住箕打屋庄助倅七之助義大坂高津新地つりかね筋七丁目榎木屋万兵衛方へ当酉歳ろ来ル亥ノ才

迄三ヶ年之間奉公^ニ差遣度願承り届享和四年二月十二日掃榻有之

一 播州網干唐細屋佐七郎一人例年之通小間物反物売^ニ来候段中之町

小山屋与三右衛門宿切手指出

一 信州木曾筑摩郡葦原宿古屋善吉一人例年之通木櫛卸売来候段右同

人宿切手指出候十一月六日掃

一 大目附上原彦藏ろ左之通申来候

狂人躰之者赤座屋敷仁藏屋敷辺^ニ居候所仁藏屋敷へ這入夫ろ

作事方^ニ而致穿鑿候得共相見へ不申旨申出候候間右之辺^并稻

荷山之辺致吟味候様取計可申尤手延候^而ハ弥難相知候間急^ニ

取計候様^ニ申来候

然ル所へ三軒屋番中尾清八届出候^者今四時過清八留主之間^ニ御太

鼓槽之方騒敷候^ニ付同人妻罷出見候得^者年頃廿四五位之色白き男

木刀之巷間計も有之を帶し山之方ろ下り候^ニ付見咎候所笑^而坂下

之道を北之方へ逃却り候由勿論作治義ハ今日御城当番^ニ而留主之

義女之義致方も無之右之趣清八罷帰り承り候趣届出候付直^ニ致登

城上原彦藏へ直談之上百藏又六時治藤四郎四人差向遂吟味候所右

狂人躰之もの^者今九時過一方村新下手下之茶屋^ニ而御中間茂兵衛

と申もの、倅庄吉と申もの打穴村ろ帰り懸け同所^ニ而逢候由最早

余程行過可申勿論他領へ懸り候事故被差向候ハ、右之支度^ニ而可

罷越旨四人之もの共罷帰相伺候付又々登城いたし其段彦藏へ申達

候所左候ハ、先夫切^ニ致置可然旨申聞候

一 右^ニ付同心組不足^ニ付加人申達候所野田数右衛門河村新吾井汲庄

平来

一 御払米三百俵正銀六拾八匁三分七厘 落札藁屋与七郎

町米 正銀六拾四匁三分七厘

一 御藏米七拾匁 町米六拾六匁

一大目附上原彦藏者又々申越候 右狂人之義出所致穿鑿召捕候者

不及候得共万一狂人ニ詫し忍入候程も難計ニ付目明并非人共江も

指心得居候様申付可置旨申来候付其段百藏へ申付目明孫兵衛へ申

付候

一 八出芝居無別条大札百五拾六枚小札六拾五枚有之段文藏伝藏届出候

三月晦日 曇

一 船頭町高瀬屋勘右衛門義和州大峰参詣廿五日計之逗留ニ而 来月二

日出立願大年寄承り届指出四月廿一日霜

一 中之町甲屋幸助義右同断

一 元魚町紙屋太兵衛義右同断四月廿一日霜

一 備前岡山浜田町桃灯屋吉太郎一人姚灯張かへ来候旨尤右者 当月廿

四日聞届之ものニ候処今日初而来候段新職人町松の屋十右衛門宿

切手指出七月十二日霜

一 福渡町阿賀屋助五郎義和州大峰参詣廿日計之逗留ニ而 来月二日出

立願大年寄指出承り届四月廿日霜

一 関貫番賃銀例用之通相渡候

一 中之町兵庫屋重兵衛義和州大峰参詣廿日計之逗留ニ而 来月二日出

立願大年寄承り届指出四月廿一日霜

一 八出芝居無別条大札八拾五枚小札五拾三枚有之今日切ニ而 引払相

濟右一札立合見届引取候段又六為治届出其段御用番并大目附へ相

届候尤右一札立合見届候得共郷中芝居之義故此方へ八一札取不申先例也

四月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

四月朔 丁未旦 曇 夜雨

一 牢舍人伝右衛門療治二廻り相濟候処未相勝旨届出大年寄へ申達候

所吉武祐三江申付候段届出候同十六日休業

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助一人例年之通筆白粉卸売来候段京

町美濃屋平五郎宿切手指出六月廿四日帰

一 坪井町箕勢屋作兵衛和州大峰参詣廿日計之逗留二而明二日出立願

大年寄承り届指出候同廿日罷帰ル

一 新魚町野田屋六郎太夫義但馬木の崎温泉へ三十日計之逗留二而入

湯仕度尤来ル五日出立願大年寄聞届指出同廿四日帰

四月二日 雨

一 西今町玉屋吉右衛門借屋住長藏と申もの盜賊筋疑敷有之昨日百藏

伝藏差向年寄宅二而為相札候所其場所へ逃去り候二付急度尋出候

様町内へ申付候尤妻一人有之由也同七月廿二日之宛 委細記置候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住源吉義去申十二月十四日出

奔仕其段御届仕候処其後同月廿六日右家内同人妻娘二人出奔仕候

処御届不仕恐入候段断書指出候二付百日尋申付并届延引之段叱置

候様大年寄へ申達候尤右源吉義ハ三月廿八日除帳申付候妻ハ七月十八日除帳申付候

一 大年寄宅二おゐて左之通申渡候様二申達候

禁忌指免候

河原町伊部屋

以来急度可相慎候

忠藏

右者先月九日八出芝居小屋二おゐて致酔狂候付禁忌申付置候

一 院庄川渡船留り候段午ノ下刻郡代所へ申来大年寄へ申達候

四月三日 快晴

一 御用日登城

一 土岐美濃守殿領分当国英田郡山外野村源四郎娘義河原町熱田市正

怱大藏妻二引受度人別人願御用番御聞濟二付大目附へ出置御聞届

申達候同廿四日住宅証文指出

一 公儀被仰出当正月二日御達御座候酒造人名面替り株讓渡等之改出

来二付大目附へ差出候所御用所御添削も有之其旨二認かへ左之通

指出候

一 酒造人天明八申年以來名面替讓渡等相札書上候覚 一冊

但大三折堅帳

一 天明八申年書上候美作国津山領酒造米高書付写 壹通

但大三折堅紙

一 天明八年御届被成候酒造人名面書之石數ノ高三拾之二字落

字有之江戸表二おゐても其俣御届二相成候義故右書損之段

附紙いたし差出候

右御届書以前も御祐筆清書有之其上^ニ而猶又当役致印形江戸表へ相廻り候間其段申達候尤右之通算様違も難計^ニ付算改被仰付可然旨大目附へ申達置候委細之義ハ扣有之^ニ付略之

一 院庄川渡船始り候段已ノ刻過郡代所^ニ申来大年寄へ申達候

一 上横野村和作方へ去月十九日盜賊這入衣類三品盜取候付町触取計候様大目附^ニ違有之町触取計本書ハ差戻候町方ニ無之旨届出候

一 大目附^ニ来ル廿四日一ノ宮田植祭^并市町中例年之通同心組差出候様紙面^ニ而申来候

一 牢舍扶持拾俵内貸証文奥書取計之右^ニ而五月へ老斗六升八合七勺五才持越候積也

一 西今町南側^ニ而檜物屋八郎兵衛家屋敷表口三間裏行拾五間但三歩

三厘役也東ハ中横町西隣ハ永田屋喜兵衛也右家屋敷六年已前辰六月永田屋彦右衛門取次^ニ而質物^ニ書入銀札三百匁借り受候所此度元利返弁受返候段届書指出候向八日券指出ス

一 右家屋敷代銀札五百匁^ニ相極町内永田屋喜七へ売渡承り届。

一 早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡赤野村権兵衛妹関義西今町直屋孫兵衛方へ参候付九月中旬迄逗留為仕度願大年寄指出承り届十一月廿八日届承り届

一 関貫番賃銀内貸百四拾式匁五分真北類藏^ニ差越受取候

四月四日 曇

一 昨夜更廻り文蔵百蔵為治幸治差出候所無別条引取候段今朝届出候
四月五日 雨

一 鍛冶町塩屋庄助義西今町長藏頼^ニ付二丁目小倉屋忠兵衛方^ニ而古

手綿入三ツ借り遣候所右長藏義御吟味有之候所其場所^ニ逃去り候^ニ付右之段御届申上候段双方^ニ届書指出候

一 小性町万屋利七借屋住久保屋周助義去申十二月廿二日百日之願^ニ

而四国へ罷出候処足痛仕候付今五十日日延願承り届

一 元魚町豊島屋伝治倅多七義中買役相勤居候所天明五巳ノ年相果候付右株中ケ間之者^ニ相勤居候所右伝治養子猪兵衛と申もの儘成もの^ニ付右多七跡役為相勤度旨願書指出承り届

一 新魚町藁屋定吉家屋敷南側^ニ而表口式間半裏行拾式間但半役也西ハ吹屋町横町東隣ハ同居人住宅也右家屋敷質物^ニ書入町内龜屋源助取次^ニ而一ヶ月老歩式朱之利足^ニ而当十二月切銀札三百式拾匁借

用仕度願承り届

一 安岡町福吉屋平吉娘かね義林田上之町下目附江田清左衛門妻^ニ差遣度人別除願承り届

一 鍛冶町庄右衛門倅繁藏義婦住歎書御箱訴大目附中^ニ被相渡候

四月六日 雨

一 院庄川渡船留り候段五ツ半時郡代所^ニ申来大年寄へ申達候

一 大目附^ニ昨日被相渡候御箱訴いたし候繁藏義先年博奕参会^ニ付出奔もの、所右之通致箱訴不埒之義^ニ付栄治伝藏差向左之通取計之

先年博奕参会^ニ付致出奔永尋もの、処 鍛冶町鍛冶庄右衛門倅立帰^リ右之次第^ニ付牢番預ケ申付候 繁藏

右之通取計候段御用番^并大目附へ相届候
一 右繁藏五人組共大年寄へ呼出し繁藏義永尋もの、所罷帰り候^而も

不届出却^而致箱訴候始末如何之心得^ニ候哉得と相糺弥相違も無之候ハ、追^而被仰渡も可有之候間夫迄他参留申付候段申渡置候様大年寄へ申付候

一右^ニ付目明共兩人小頭代宅へ呼出右繁藏義御尋もの、所立歸り町方^ニ致流浪居当人^并組合^ノ致箱訴候程之義^ニ候処召捕不差出致等閑置候段心得違之旨致察度敷敷叱置候様申付候

一銀礼場奉行^ノ錢六拾七箇川下切手相廻り奥書取計之

一矢田井村三宅順達と申醫師大熊鞆負殿へ来右家来五人新職人町松の屋十右衛門方^ニ宿いたし候所今一日逗留いたし候段届出候旨大年寄^ノ届出候

四月七日 晴

一院庄川渡船相始候段五ツ半頃申来大年寄へ申達候

一細工町種屋嘉兵衛借屋住作人和兵衛義家内三人共去十二月廿七日出奔仕候段二月廿三日届出百日尋申付候所罷帰帰仕仕度歎書指出承り届ケ無願罷出候段急度叱置候様申付候

一林田上之町作兵衛後家娘まき義一人新職人町坂本屋弥吉養女^ニ引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一一目孫兵衛義真賀温泉へ入湯仕度小頭へ願出承り届候所明日日出立仕度旨申出候^ニ付同人悴岩吉へ仮役申付候様百藏へ申達候^{四月廿三日届}

四月八日 快晴

一御用日登城

一因州高草郡徳尾村弥七夫婦娘右家内三人西新町湊屋清左衛門引受度人別入願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出し置御聞届相濟候段大

年寄へ申達候^{五月二日住宅証文指出}

一土岐山城守殿領分勝北郡河内村吉右衛門悴吉三郎義西新町瓜生原屋伊兵衛養子^ニ引受度人別入願右同断取計濟^{右同断}

一備前赤坂郡上市村嘉助悴八十八夫婦娘右家内三人河原町山形屋長七役介^ニ引受度人別入願右同断取計濟^{同廿四日住宅証文指出}

一河原町長屋敷地入札兩度迄相触候得共望手無之段大年寄届出候付町内へ預ケ置候様申付置其段御用番^并大目附へ及御囃置候

一神田栄治義病氣^ニ付引込候段文藏^ノ届出候^ニ付加人老人大目附へ申達候処飯島作右衛門来

一明九日牢屋吟味^ニ可相越処組不足^ニ付当日切加人老人大目附へ申達候所未沢折治来

一例年之通箆之触書指出候

一□□村穢多与三治治右衛門今日八幡前へ味細木拾^ニ出候所一ノ宮村忠八幸助兩人味細木不相渡候付及口論付随ひ町へ出候所右懸ケ木二丁目福永屋藤助方へ売候由仍^而右之段藤助へ指詰候由牢番へ届出候由^ニ勿論牢番^ノも福永やへ指詰り預ケ置候旨牢番上野円助届出候^ニ付其段郡代所へ可申遣所折節十郎左衛門廻村^ニ付添役

三浦伴左衛門へ申遣候

一酒造人調御届書御祐筆清書出来致印形候様^ニ大目附^ノ申来致調印候尤今晩仕廻之飛脚^ニ可相廻候所十郎左衛門廻村留主故明後日帰宅之上御飛脚被指立候旨被申聞候

一石工盗人貞藏源七人別聞合^ニ泉州紀州へ差遣候飛脚賃六拾八匁之由申出候得共夫^ニ而^者御定法渡^ニ不相成候付日数御定法^ニ引合さ

せ候処五拾五匁分七厘九毛ニ相成候由ニ付其通証文為指出奥書取計之殘而拾式匁八分二厘毫毛不足之分ハ町方工面もの、内分指出し遣候様ニ申達候

一 德守宮地子居永本屋松之助母ミつ耆人福渡町浜屋亀四郎家守源治借屋へ引越度願寺社取次野条金平へ引合之上承り届ル

一 鍛冶町鍛冶屋長八後家義福泉寺旦那ニ候処此度愛染寺へ寺替仕度願并兩寺引合之一札指添指出先格之通宗旨奉行分伺有之候処伺濟之旨藤本十兵衛分通用有之候ニ付御聞届申達候

一 当国大庭郡西原村幸右衛門娘磯同孫淺牧同重治右四人西今町かみや八郎兵衛内縁有之ニ付来候間当九月中旬迄逗留為仕度願大年寄指出承り届十二月三日通願承り届

四月九日 晴 晚時雨

一 今九時分牢屋吟味ニ相越新左衛門文藏百藏時治幸治立合左之もの共遂吟味候

兩人とも牢問取計候処
大躰及白状候

石工盗人元泉州 源七
元尾上八十七長屋住 幾助

明十日分牢賄ニ申付候

元紀州当時伊藤長屋 貞藏

西今町

旧臘金屋村文右衛門方而博奕参会
及白状候付牢番預ケ申付候

境町 利三郎
伊兵衛

右利三郎伊兵衛牢番預ケニ申付候義御用番并大目附へ相届候

忠太

一 西今町湯田屋太郎左衛門義備前岡山櫛屋茂右衛門方へ十日計之逗留而明後十日出立願大年寄指出承り届同十六日届

一 西今町岩見屋善四郎方へ昨夜盜賊這入衣類三品盜取候由届書指出候追而及御沙駄触流し可取計候

四月十日 快晴

一 三浦十郎左衛門義今日廻村分罷帰候付酒造人御届帳致連印大目附へ三浦分差出候

四月十一日 晴

一 宿馬見分例年之通小頭部屋目附指出候所何及宜相揃候旨毛附帳差出候

一 宮部隆助長屋へ一昨日盜賊這入綿入一袷一銀札三匁盜取候届有之候間遂吟味候様大目附分申来目明へ申付候

一 吹屋町南側而米屋太郎兵衛家屋敷表口三間裏行拾七間半但式歩役也東隣ハ村本屋八郎治西隣ハ山城屋善左衛門也右家屋敷代銀札

百八拾匁相極町内村本屋八郎治へ売渡度願承り届同廿一日売券指

一 階町山手屋弥太郎義病身ニ相成年寄役難相勤役免願指出無余義趣ニ付承り届右跡役ハ悴利兵衛へ被仰付候様大年寄申出承り届

四月十二日 快晴

一 新魚町米屋治兵衛借屋住人市右衛門義去ル十日不斗罷出不罷帰候段届書指出例之通尋申付候

一 伏見町南側而小坂屋善兵衛家屋敷表口五間裏行式拾四間但本役也東隣ハ八出屋多助西隣ハ和氣屋万吉也右家屋敷去申四月質物四

書入銀札八百目借用仕候処此度元利返弁受返し候段届書指出候

亥二月十二日 亥

一右伏見町小坂屋善兵衛屋敷又々同町小田屋伊平次取次^ニ而質物^ニ書入銀札六百匁一ヶ月沓歩式朱之利足^ニ而借用仕度願承り届

五月八日本証文差出候

一尾州島崎神職吉左右上下四人例年之通旦那廻り来候段境町西川屋善助宿切手指出

四月十三日 快晴

一御用日登城

一西今町岩見や善四郎方へ盜賊這入候届書御両所及御沙駄市郷触流伺濟^ニ付町触指出候^{同廿八日町方ニ無之段届出候}

一宮部隆助長屋被盜もの触流大目附へ相達町触取計候右同断

一丹後久美浜御代官塩屋大四郎殿支配所当国吉野郡鷺巢村忠助夫婦

二人小性町瓜生原屋喜平次借屋住作人善七兩親^ニ付引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ指出置御聞届申達候^{同廿日住宅証文差出}

一因州知頭郡知頭宿坪屋十四郎娘龜義中之町福茂屋武兵衛妻^ニ引受度人別人願右同断取計濟^{同十八日住宅証文差出}

一雲州秋鹿郡永江村長吉倅善六夫婦二人河原町作人定七引受度人別人願右同断取計濟^{同廿四日住宅証文差出}

一和田村伊伝次方へ去ル七日夕盜賊入込衣類拾九品代銀三百五拾弍匁位被盜取候^ニ付町触取計候様大目附へ達有之町触取計本書ハ指戻候^{同廿八日町方ニ無之旨届出候}

一昨夜百藏又六為治伝藏更廻り相勤候処上紺屋町東之関貫不^レ罷在候段届出大年寄へ吟味申付候

一一ノ宮市町^ニ付例年之通町触両通指出候

一吹屋町北村屋源右衛門借屋住与吉父八兵衛義老耄いたし居候所去ル十日風斗罷出相尋居候得共未行衛不相知段届書指出尚又尋申付候^{同十六日罷傳候}

一三町目若松屋利助借屋住金川屋茂右衛門^并娘右家内式人為渡世早

川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡目木村福島三郎左衛門方へ当月

月来ル丑年迄五ヶ年之間奉公^ニ参り度願承り届

一牢番中間乙吉妻出産血忌引込候段一昨十一日小頭へ届出候

四月十四日 雨

一神田栄治今日へ出勤届出候間加人御使組飯島作右衛門今日へ指戻候段大目附へ相届候

一牢屋下番中間乙吉義今日へ出勤届出候

四月十五日 雨

一播州網干余陸屋利兵衛一人例年之通荒物^并塩物卸売来候段中之町津田屋伝助宿切手指出^{七月廿五日届}

一播州網干余陸屋惣七壱人例年之通八百屋物卸売来候段右同人宿切手指出^{七月廿五日届}

一矢田井村三宅順達と申もの大熊鞆負殿被呼候^ニ付右家来兩人新職人町松のや十右衛門方^ニ宿仕候段大年寄へ届出承り届

一大信寺地内^ニ在之候天神本堂^ニ而十日開帳いたし候付林田町北側

下ノ横町往来端へ上之町之方へ行灯挑灯等差出度申出候段大年寄へ届出承り届ル

四月十六日 雨

一昨今両日例年之通溝見分^并出羽守様御通行^ニ付御道見分兼小頭代

文蔵部屋目附百蔵大年寄孫左衛門六郎左衛門諸吟味喜左衛門差出候処何之申分も無之旨届出候

一郡代所々島吉林蔵兩人立帰ものニ付入牢申来昼廻為治幸治差向取計之

一船頭町瓜生原屋六蔵并祖母并母并姉并弟右家内五人林田村布屋久助方へ引越度願下方引合相濟候段申出承り届但町役之義ハ親類瓜生原屋平七へ頼置候

一中之町玉の屋藤十郎妹とわ義御領分西北条郡上田野村南村六右衛門忰丈兵衛妻ニ差遣度人別除願右同断申出承り届

一桶屋町年寄大坂屋彦市義病身ニ相成候付忰京右衛門義名代ニ差出度願承り届

一吹屋町北村屋源右衛門借屋住与吉父八兵衛義去ル十日不斗罷出候段相届候処竹田村小三郎方ニ罷在連帰候段届出候

一御領分久米南条郡八出村平右衛門義一人橋本町朝元屋源蔵後家借屋住太兵衛方へ引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 下紺屋町長江長庵義因州鳥取四丁目紙屋嘉兵衛方へ四十日計之逗留而来ル十九日出立願大年寄承り届指出候

四月十七日 雨

四月十八日 雨

一御用日登城

一福渡町浜屋亀四郎家守源治借屋住長助一人備前赤坂郡広戸村親類和平次方へ引越度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一土岐山城守殿領分当国勝南郡原村金五義桶屋町倉敷屋仁助養子ニ

引受度人別入願右同断取計濟同廿一日住宅証文指届

一 小性町作人茂兵衛去申十一月南新座ニ而拾候切手式合五勺杓枚并布袋ニ米杓斗五升計拾候処戸川町馬持文四郎と申もの落候由弥相違無之旨ニ付相渡度届書指出候ニ付御用番并大目附へ及噂置例之通一札取置相渡候様大年寄へ申達候

一去ル十二日夕更廻り申付候処関貫番人不埒有之ニ付先格之通左之趣今日相伺候処即刻伺濟ニ付左之通申渡候様大年寄へ申付候

去ル十二日夕関貫開置 上紺屋町下関貫番人 市助
不埒ニ付過料三百匁申付候右取計濟御両所へ相届候

一 大目附例年之通痢疾薬被下置候間川島周庵受取可相渡旨被申聞候

一 酒造米当年御届之石数御届ニ相成候事故先格之通町分之石数相認郡代所へ相廻候但米式千式百八拾八石五斗四升

一 上紺屋町津島屋栄吉父三右衛門義去ル五日与風罷出不罷帰行衛不相知段届出百日尋申付候八月廿四日延願差出候翌年戊子一月九日除帳

一 御領分東北条郡山東村庄助夫婦娘右家内三人西今町大工屋伝兵衛引受度人別入願下方引合相濟候段届出承り届

四月十九日 雨

四月十九日 雨

一 西今町長蔵義盜賊筋ニ付年寄宅ニ而相糺候内出奔いたし候ニ付同人妻組合預ケ申付置候処際限も無之義ニ付他参留申付候様大年寄へ申達候

一 院庄川通船留り候段未ノ中刻郡代所々申来大年寄へ申達候

四月廿日 雨

一院庄川通船已ノ中刻々相始候段郡代所々申来大年寄へ申達候
一坪井町備中屋定吉兄喜兵衛義三月十四日伯州三朝村へ入湯願差出候
候処五月十日迄日延願差出承り届

一坪井町畑屋万藏父弁藏義右同断日延願承り届

四月廿一日 晴

一牢舍人宇吉郡代所々呼出申来昼廻り又六幸治出番時治出入取計之
一魚町糍屋伊助倅幸吉義大坂大川町綿屋義兵衛方へ四十日計之逗留
留^ニ而 来ル廿二日出立願大年寄承り届指出^{六月十五日迄願承り届}

一階町紙屋兵助借屋住福田屋伝藏義福田伝藏と相改伊藤主水へ奉
公仕度^ニ付人別除願承り届

四月廿二日 快晴 雷雨

一西今町北側^ニ而 福本屋伊右衛門家屋敷表口五間裏行拾五間但五歩
役也西隣ハ坪屋藤十郎借屋東隣ハ常屋文兵衛也右家屋敷代銀札壹
貫百匁^ニ相極町内坪屋藤十郎へ売渡願承り届^{同廿二日宛券状出}

一ノ宮市町^ニ付大坂九人連輕業參候付戸川町福見屋久藏引受彼地
へ罷越世話仕度願承り届^并引受一札指出候

一ノ宮市町^ニ付淡路島八人連操芝居參候付船頭町塩屋音松引受彼
地へ罷越世話仕度願承り届^并引受一札指出

一戸川町丸山屋浅吉役介瀧義妊娠之所届延引之断書指出候^ニ付先格
之通出産之上取計候様申達候

一河原町作人増藏義早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村松本
屋庄之助方へ当西五月々来ル子ノ五月迄丸三ヶ年之間出職仕度願
承り届^{子七月五日届届}

一ノ宮市町^ニ付參り懸り大坂拾壹連万藏芝居世話役之義被相頼候
付彼地へ參り引受世話仕度願京町山崎屋左七願書差出承り届右受
一札も指出候

四月廿三日 大白雨大雷霰降

一御用日登城

一備前津高郡宮地村武四郎倅弁治義一人鍛冶町金具屋権四郎引受度
人別入願御用番御聞濟^ニ付大目附へ指出置御聞届申達候<sup>同廿九日住宅証
文差出候</sup>

一松平相模守殿領分因州高草郡上砂見村茂平治倅源右衛門一人船頭
町瓜生原屋平七役介^ニ引受度人別入願右同断取計濟^{六月六日住宅証文指出候}

一京町播磨屋和吉借屋住人源治義一人脇坂淡路守殿預り所当国英
田郡倉敷村富平方へ引越度人別除願右同断取計濟

一京町播磨屋和吉借屋住亦四郎^并倅銀藏石家内式人森下野守殿領分
播州佐用郡湯脇村三太夫方へ引越度人別除願右同断取計濟^{七月十日寄宛候}

一備前岡山中出石町立古屋喜太郎倅伊助夫婦右家内式人京町大村屋
武兵衛後家借屋住升屋文藏引受度人別入願右同断取計濟<sup>五月二日住宅
証文差出</sup>

一因州知頭郡用瀬村庄治郎娘さよ^并孫女たけ右二人京町原田屋嘉四
郎妻子^ニ引受度人別入願右同断取計濟^{五月二日住宅証文指出}

一大目附小須賀貢^左之通被申聞候
札元見習之者一ノ宮市町出役之節ハ^{帯刀}不苦旨勘定奉行^ハ達有
之表立候義^ハ無之候得共当役^ニも指心得置候様被申聞候

一大坂金田町金屋半兵衛手代六兵衛一人例年之通大工道具具^ニ来候
段新職人町松之屋十右衛門宿切手指出^{五月八日届届}

一大村屋源右衛門義新引受取計居候所何角指支故障之義も有之哉^ニ

も候間勘定奉行へも達置候間彼へ懸合宜取計遣可然旨大目附上原彦藏先日申聞候付宮田喜左衛門呼出右之旨相札申聞候様申達置候所同人罷出聊差支之筋ハ無之旨源右衛門申候由申出候間其段上原彦藏へ申達候

一御初入取計調出候様先月上原彦藏被申達候間日記^并町触等書拔^并大年寄伺之ケ条目錄書写今日小須賀貢へ指出候尤右ハ顯徳院様御初入之節之取計書也勿論隆照院様御初入之取計も認出候様被申聞候得共其節ハ当役日記無之節^二付一向不相知大年寄^二も其節之日記紛失之趣^二而^二不相分候間其段も申達置候

四月廿四日 曇

一牢凌申付候所中村勘兵衛衣類之内^二銀札苅刃三分有之候付敵敷遂吟味候所去申聞四月十四日牢番預ケ之節指入候^二相違無之段及白状候由其余別条無之旨栄治幸治届出事過候義右^二付別条も無之^二付以来入念候様^二申付置候右銀札ハ欠所^二申付候

一大目附小須賀貢^二妹尾平兵衛裏土手水付候芝切取候由届出候左候^二而^二ハ洪水之節水入候不宜義^二候如何様之義^二而^二右之通^二いたし候哉遂吟味候様申来其段大年寄へ申付候

一一ノ宮田植祭^二付為治又六指出候所無別条例歳^二分別^二而^二淋敷有之候由届出候

一痢疾除棄左之通川島周庵^二受相渡候

惣町 七千七百九拾貼

組中 四拾三貼

メ七千八百^九拾貼受取

四月廿五日 晴

一大目附^二昨日申来候妹尾平兵衛裏土手芝切取候義遂吟味候所^二新町高松屋忠右衛門土藏建候^二付道無所^二板橋を懸ケ石^二水扱取候付踏切候候得共全芝を切取候義^二無之旨口書取指届候^二付大目附へ差出御答御用番中へ相伺可申哉と申達候所右鉢之義^二候得^二御用番中へ申達候^二も及間敷拙者場合^二急度叱置踏切候所道相直置可然旨被申聞候付左之申達候様大年寄へ申達候

其方義土藏普請^二付土手端無道所^二西新町

板橋を懸ケ石水等取上ケ其辺踏荒 高松屋忠右衛門

不埒之事^二候及御沙駄^二もへく節^二候得共憐愍を以叱置候間以来可相慎候

尤踏荒候場所急^二取繕可申候

一一ノ宮市町無別条引取候段百藏伝藏見習藤四郎届出候

一紺屋町渡部玄端悴三隅義去申四月播州乃井野学館へ罷越候所来戊

四月迄逗留仕度追願指出承り届

一稻荷山草苺相濟^二而^二例歳之通初終り届出候

四月廿六日 晩^二雨

一堺町美濃出屋清右衛門先月十一日大坂行願書指出候所今十五日計追願指出し承り届

一京都烏丸通り六角下ル町二文字屋九兵衛手代清四郎義兵衛久兵衛

三人例年之通来候段京町海老屋長右衛門宿切手指出

七月廿七百濟四郎一人燈〇翌戊三月廿四日久兵衛相届候

一備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎岩人例年之通元結売^二来候段

新職人町松の屋十右衛門宿切手指出^{七月二十日}

一ノ宮市町無別条引取候段栄治時治届出候

一田中幸助ハ返書来酒造讓受之御届書年月相違之趣申遣候所脇坂殿

衆江聞合相届候処鳥屋文七讓受初相届候者去申ノ二月届済ニ付此

度石数違届直しも御勘定所御指図ニ而初相届候年月ニ相届候旨申

来候間其通ニ相届候由申来候

一作州英田郡竹田藏谷村かねと申女雲州三十三所へ参詣いたし伯州

日野郡父原村ニ而歩行不相叶療養加へ候上同所ハ送り出し院庄村

へ送り来候由郡代所ハ通用有之候ニ付継送り候様申付候

四月廿七日 雨

一京都明暗寺院代文道と申もの此度院代ニ相成候由ニ而先年相渡置

候虚無僧ノり方之書面ニ継印いたし指越候由大年寄指出及一誑指

戻候尤右書面孫右衛門方ニ預り置候由也

一御領分西北条郡惣社村太郎左衛門娘冬義材木町車屋源兵衛ニ引受

度人別人願下方引合相济候段申出承り届

一材木町三家屋之右衛門義先月十二日京都へ罷越候所来月中旬迄日

延願承り届

四月廿八日 時雨

一御用日登城

一早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村松本屋宇八娘豊義坪井

町中津屋伊助妻ニ引受度人別人願御用番御聞済ニ付大目附へ指出

置承り届六月十七日住宅証文差出

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村茂三郎娘関義伏見町久世屋

利兵衛妻ニ引受度人別人願右同断取計済五月八日住宅証文差出

一牢屋破損届書指出候ニ付大目附へ指出候

一牢屋内貸証文拾三俵奥印書取計之

一昨廿七日一ノ宮出役文蔵幸治無別条段昨日届出候認落候ニ付爰ニ

記

一ノ宮市町無別条引取候段百蔵為治届出候

四月廿九日

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一牢舍人庄右衛門瀬助病氣申出大年寄へ申付候所吉武祐三江申付候

一西新町二文字屋彦太郎義京都二文字屋九兵衛方へ当西五月ハ来ル

子ノ四月迄三ヶ年之間出職仕度留主中家役之義ハ手代孫四郎差置

候旨願書承り届丑四月八日届

一安岡町南側ニ而神目屋栄助家屋敷表口三間裏行九間但三歩三厘役

也東隣ハ大坂屋宇八西隣ハ福島屋治左衛門也右家屋敷代銀札百八

拾匁ニ相極町内大坂屋増蔵へ売渡願承り届五月八日先案状指出候

一二階町組屋忠右衛門持之追廻し水車場へ昨夜盜賊入込黒米式俵盜

取候段届書指出候郡代所ハ届有之ニ付承り置

一一ノ宮市町無別条引取候段又六時治届出候

一千手院と申山伏元魚町八百屋平左衛門方ニ逗留いたし居候所罷掃

候段届出候

五月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 赤見類助

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

五月朔^丙 子旦 雨

一一ノ宮市町無別条引取候段栄治伝蔵届出候

五月二日 快晴

一自分義今日大熊鞞負殿内室葬礼ニ付礼受被相頼右留主中出火出役之義三浦十郎左衛門へ頼遣候処不快ニ付勘定奉行栗田辰右衛門へ頼遣候尤兩役^并郡代添役三浦伴左衛門迄故障之節ハ勘定奉行出火出役之義兼^而被仰付有之候由平井半平申開候事

一牢舍人廣札師古市主殿家来片山義平義大病難凌趣之由医師吉武修

格容躰書指出候付翌三日御兩所^江及御沙駄

一一ノ宮出役文蔵為治無別条引取候段届出候

五月三日 白雨

一御用日登城申上候御用向無之

一出羽守様江戸御発駕五月朔日二日ニ相成候由御先触来候段郡代所

より通用有之^并人馬問屋も申出候

一一ノ宮市町明日引払ニ付例年之通町触指出候

一伯州久米郡国府村清治郎と申もの西国ニ順礼罷出西吉田^ニ而步行不相叶川郡村へ送り来候段郡代所も通用有之ニ付継送り候様ニ大年寄へ申付候

一東新町綿屋忠兵衛義歛すき本羽^并さね^并縄右代金三匁式歩三厘買取候所小田中村佐右衛門被盜もの、由申来候段届書指出候

一御船奉行黒田鼎も出羽守様御通行ニ付院庄川へ御船被指出候間先格之通御蔵元船年寄下裁許人申付候様申来候

一一ノ宮市町無別条引取候段栄治幸治届出候

五月四日 快晴

一一ノ宮市町無別条今日切^ニ而引払ニ付例歳之通引払一札等立合相役引取候段百蔵時治届出候ニ付市中心組警衛指出候所無別条今日切^ニ而相濟候段大目附へ相届候

五月五日 快晴

一組中端午ニ付罷出謁ス

一旧格之通昼廻り不差出候

一左之通先触到来

御証文写論所地改手代 鈴木栄助 市川大助

馬式疋

右^著論所地改手代市川丈助鈴木栄助駿河遠江石見信濃上野国へ差出候間道中往返^并彼地御用中共書面之馬差出賃銭受取之可繼送者也

酉 三月 下野

御用付番形 左近

右宿々村々 問屋 年寄 名主

覚

御証文馬式正之内

一馬 壹疋

外 人足 四人

右^者就御用明廿八日六ツ半時石州邑智郡大貫村出立信州水内郡飯山町^江相越候間村々宿々^ニおゐて別紙御証文写之通相心得書面之人馬差出賃錢受取之繼立且止宿渡舟川場等無差支様取計此先触早々繼送り留^ハ右飯山町^江可被相届候已上

酉 四月廿八日

論所地改手代

鈴木栄助

市川丈助

石州大森^ハ信州水内郡迄

右宿々村々問屋年寄名主中

泊附 廿九日大森 五月朔日杵築 二日松江 三日米子 四日
大山 五日久世 六日津山 七日佐用 八日姫路 九日
明石 十日西宮 十一日伏見 十二日大津
右^ニ付先例取調候所左之通

保頭先払

隣町夜廻り

町内年寄旅宿^江見廻

右之通御用番中へ相伺候処其旨^ニ取計候様被仰出其段大年寄へ申

達ス尤右之内夜廻り程ハ相止候^而も可然旨相伺候処先致来候通^ニ

取計候様被仰出候

五月六日 雨

一論所地改役人市川丈助鈴木栄助八ツ時分原屋喜兵衛方へ致止宿候段大年寄届出承り置

五月七日 雨

一論所地改手代兩人今朝無滞出立候段大年寄^ハ届出候^ニ付御用番^并大目附へ相届候

一茅町角屋佐十郎借屋住吉原屋庄吉夫婦娘右家内三人御領分西北条郡新田村佐助方へ引越度願下方引合相濟候段申出承り届

一安岡町島屋熊治姉さよ義新田村持宝院妻^ニ指遣度人別除願右同断^ニ付承り届

五月八日 快晴

一御用日登城

一福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住佐助義正月十五日致出奔同廿三日届出百日尋申付置候所弥行衛不相知最早百日余^ニ相成候^ニ付除帳願御用番中御聞濟^ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一土井大炊頭殿履分当国久米南条郡弓削村平七忰万吾義一人三丁目小田原屋幸助引受度人別人願右同断取計濟^{同廿三日住宅証文並出}

一大目附^ハ左之もの共先日郡代所^ハ伺濟之由^ニ候先格之通大目附出席^ニ而^ハ当役^江被仰渡候趣^ニ相心得取計候様被申聞候

旧臘金屋村文右衛門方^ニ而^ハ博奕参会 日上村 島吉

いたし候付五十敵之上帰村 同 林蔵

右ニ付明九日取計可申旨立合被指出候様大目附へ相届置夫々手配申付候

一ノ宮村東山方幾右衛門方へ去ル朔日盜賊這入衣類六品代銀七拾式匁五分位盜取候触流取計候様大目附中被相渡町触取計候本書者

大目附へ差戻候同十八日町方無之候申出候

一下横野村三之助方へ先月廿九日盜賊這入二品代七匁位被盜取候触

流取計候様大目附被申聞右同断取計右同断

一細工町木屋伊兵衛義去十二月出奔仕尋申付置候所当三月十五日

延願差出承り届置候所罷帰り候ニ付帰住願出承り届例之通大年寄

場合ニ而叱置候様申達候

一妙願寺地内教信ニ講尺相頼候所何方ニ而も手狭ニ付町会所拜借仕

度旨願出候段大年申出候ニ付御用番中へ罷越相伺候所無程御存寄

無之候間宜取計候様申来其段大年寄へ申達候

五月九日 曇

一於牢屋小頭代文蔵部屋目附百蔵御徒目附山本藤四郎下目附土井佐

市立会左之通取計之尤郡代所申渡之

博奕参会仕候付五十敲之上

婦村申付候

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

一郡代所無宿盜賊千代蔵吟味中入牢申来出番栄治時治取計之尤入

牢切手指遣候

一左之もの共今九時呼出下役新左衛門小頭代文蔵部屋目附百蔵大

年寄孫左衛門諸吟味喜左衛門立合遂吟味候

口書印形取之

遂吟味候

五月十日 快晴

五月十一日 曇 白雨

一出羽守様御先触左之両通到来候旨大年寄指出候

以廻状致絡達候少将殿為帰国当月廿二日江戸被致發駕候依之

繼馬三拾三疋繼人足式百三拾人駄々無間違御手合頼入存候尤

西宮より久世迄之内ハ繼馬廿五疋繼人足百八拾人入用ニ候

人足付方手配帳面之通仕来りを以人馬相究如此先触仕出

下ケ紙シ候処人足附方相増候訳も有之候ハ、其増人足丈増入用

ニ相成候間其心得を以御手合可給候頼存候已上

明石津山御兩駅之分ハ繼馬三十三疋御手合頼入存候

則人馬望之人別板札相記是迄之通銘々江相渡置候尤馬之分ハ

一番ハ三拾三番迄番附致置候仍之人足手配帳并印鑑遣之候

且又右帳面之外入用之分ハ例年之通紙切手仕出候間左様御承

知可有之候右手配帳老册印鑑老枚宛御留置御順達可有之候

恐惶謹言

四月十八日

雲州人馬方 渡部治太平
平井幸三郎
桑原嘉市

牢舍人石工 貞蔵

同西今町 忠太

同堺町 利三郎

同同 伊兵衛

同鍛冶町 繁蔵

同無宿盗人 智聡

片山良平

遠藤林八

武州品川駅より東海道大坂通り伯州溝口迄 宿々問屋中

追絡至時人馬共少々余分之義も可有之候間其節御手合頼入存候且又同勢多ハ宮ノ桑名^江直渡り候間万場神守佐屋三宿之分

ハ印鑑計忝枚ツ、御留置順達可有之候已上

一尚又御延引先触左之通一緒^ニ到来

以廻状致絡達候少将殿少し不快^ニ付来ル廿二日江戸表被致発駕延引候間先達^而人馬先触仕出し候分不及御手配候尤至^而輕キ容

躰^ニ候間来月朔日二日之内被致発駕候含^ニ候間尚日取義定次第可遣申候恐惶謹言

第可遣申候恐惶謹言

雲州人馬方

四月廿日

前出之四人

宛所前書之通

追絡先達^而仕出候人馬手配帳面之分ハ忝冊宛駅々御留置可被

成候已上

右御先触両通共御用番中へ指出大目附へも写指出候尤手配帳面ハ

直^ニ大年寄へ指戻候

一出羽守様継馬数^左之通申来候付在方寄セ馬拾忝正大年寄申出候間

其段大目附へ紙面^右申達候

五月十二日 雨

一上野介様御先触左之通到来

以廻状申達候然^者上野介殿来五月二日江戸表出立在所^江被相越

候依之道中泊宿左^ニ相記候通相違無之様手合可給候若差支之義

も有之候ハ、其趣廻状^ニ相記可被差越候尚近日宿割之者罷越可

及对談候此廻状宿々無滞順達有之留より広瀬表田中八左衛門錦

織伊左衛門方へ早々差出可給候以上

松平上野介内

四月

永井五左衛門

河島郷右衛門

中川臣人

泊付 五月十八日土居 十九日久世 上下略之

右宿々本陣中問屋中

右先触御用番へ差出大目附へ相届候

一出羽守様上野介様御通行^ニ付例年之通町触指出候

五月十三日 晴

一御用日登城

一小性町茂渡庄右衛門家守大江屋藤助借屋住作人多助後家悻梅吉義

去申九月義絶勘当仕候処此節新田村^ニ罷在本心^ニ立帰^リ先非を悔

勘当指免候様相歎候間指免度願御用番中御開濟^ニ付大目附へ出置

御聞届申達候

一京町豊屋太助借屋住久仁屋岸義老母孝行之趣届出候付先格之通白

銀式枚家屋敷料百九拾匁被下候様伺書指出置候^{同十六日御済}

一船持共米大小豆へ荷割之分順番積^ニ仕度願書差出候得共不相成筋

^ニ付呼出し得と利解仕願書指戻可申と奉存候間右御沙駄申置候段

申述右願書御用番中へ指出置候^{同廿三日候候通被仰出候}

一昨昼廻り百蔵為治小性町伊勢屋治助方^ニ而博奕参会之趣承り駆付
遂吟味候処博奕打候躰^者不及見候得共一間たて切四五人打寄居遂
吟味候処算様合仕候由申之不及白状候^ニ付彼是隙取候由夜半頃届
出右之内^ニ者他領備中宮内五郎四郎と申ものも居候由伺越候^ニ付
他所ものハ即時^ニ追込可申其外ハ不及吟味預ケ置候様及指図候所

宿 小性町伊勢屋治助

福渡町松山屋清助

林田弓之町^{御城代組田政治屋敷住}

伊勢屋治助方預ケ置

浜七

右之もの共夫々預ケ置候段百蔵為治罷帰相届尤右浜七義ハ当人無
宿と申候得共右組屋敷^ニ妻子有之段申出候付今朝城代組小頭塩島
清助方へ百蔵指遣懸合候所右妻子ハ浜七とハ致離縁候^ニ付右妻子
へ借屋賃候得共浜七義ハ懸り合無之旨申候右之段御用番^并大目附
へ及御沙駄置猶追^而糺之上委細可申上旨申置候
一橋々^ニ而涼法度之触例歳之通指出候
一孤独扶持式百三拾九匁四分式厘式毛真北類蔵^ハ指越大年寄へ相渡
一出羽守様御免駕御日限御議定之先触到来左之通

以廻状致絡達候少将殿為帰国五月朔日江戸表免駕之議定^ニ候依
之道中入用之人馬先達^而相触置候通之員数^ハ無間違様御手合
可被下候此段為申述如此御座候恐惶謹言

四月廿六日

雲州人馬方

名前之通五人

武州品川駅^ハ東海道大坂通り伯州溝口駅迄宿々問屋中

右御先触写御用番へ差出大目附へも申達郡代^江も及通用寺社取次
野条金平へも掃除之義及通用候

一布原村武右衛門方へ去ル二日昼盜賊這入衣類等四品代積式拾式匁
程之もの盜取候触流取計候様大目附^ハ被相渡町触取計本書ハ大目
附へ指戻候^{同廿五日町方無之段届出候}

一二丁目唐津屋万助悴文助義四国遍路六十日之逗留^ニ而明後十五日

出立願大年寄承り届^{七月八日届^ル}

一新職人町松野屋十右衛門義右同断願承り届^{七月八日届^ル}

五月十四日 雨

一人馬問屋野田屋佐右衛門生母致死去引込候所雲州様御通行^ニ付差
支候間忌指免候段尤年寄以下之右等之義ハ不相伺先例^ニ者候得共
内々申聞候^而大年寄申出承り置

一牢舍人庄右衛門義平療治二廻り相濟候^所未相勝庄右衛門義ハ宿賄
之義下地^ハ吉武修格療治家之義故矢張修格^ハ治療相頼度義平義ハ
明後^日藤木良全^ハ申付候段大年寄届出候

一大目附廻状左之通昨十三日到来写取町中組中へ指出候

加茂川御梁場^ハ堀風岩迄之間網殺生御停止被仰出候

一大目附廻状到来左之通写取町中組中へ相触候

享^キ姫君様御誕生被成御台様御養被成候右御名^ニ指合候面々

可相改候

一教信講尺町会所^ニおゐて去ル九日^ハ相始候所教信仏事有之由^ニ而
一昨十二日切^ニ而先相止候段大年寄申出承り置

五月十五日 晴

一上野介様江戸御出立御議定之御先触左之通到来

本馬 拾七疋

輕尻馬 貳疋

人足 八拾九人

品川 川崎 神奈川 右五月二日入用

土居 勝間田 津山 坪井 右五月十九日入用

右者此度上野殿在所雲州広瀬表へ被相越候^ニ付五月二日江戸表被致出立候間右之通人馬無間違差出可給候尤松平出羽守殿五月二日江戸表出立^ニ相成候^者上野介殿同三日被致出立候間兼^而相心得可給候此帳面早々順達有之留より広瀬表田中八左衛門錦織伊左衛門方へ差遣可有之候 以上

四月廿四日

雲州広瀬家中

永井五左衛門

川島郷右衛門

中川臣人

右宿々問屋中

右御先触御用番中へ差出大目附へも相届郡代寺社取次^江も及通用候

一鍛冶町宗道宮^江町内の日待仕度右^ニ付焼灯灯申度旨届出候段大年寄申出承り届

一船持共米大小豆荷割之分順番積^ニ仕度歎書指出候付理解仕指戻可

申去ル十三日御用番へ指出置候所右取計并書指添出候様被仰出認差出候

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代宗兵衛一人例年之通茶碗類壳^ニ来候段京町田戸屋宗十郎宿切手指出候

一上野介様御宿割役人通行来ル十九日当所御通行^ニ相違無之段被申聞候由問屋へ届出候旨大年寄申出御所へ相届候

一田中幸助へ造酒人名面替御届書不宜候^ニ付認直し急^ニ相廻候様二日五日之飛脚を以申来十郎左衛門へ相廻同人へ差出候様申遣候

一一ノ宮市町同心組弁当代拾式匁六分百藏へ相渡候

一明十六日吟味可取計^ニ付加人一人大目附へ申達候処高木武兵衛来

五月十六日 快晴

一田中幸助へ昨晚指越候来書今朝三浦十郎左衛門へ指戻幸助へ申越候も和泉屋三郎助島屋文七讓受之株^ニ者株高無之候間先方^ニ而先

年御届之節ハ如何取計候事哉譲り人^江承り糺申越候様申来候^ニ付勝山^并龍野^江右問合之下案相認御用番中へ相伺候処思召無之其旨

取計候様被仰出候付右飛脚之者両人大目附へ申達候所申ノ刻前村上吉右衛門来り勝山へ之書状相渡候七時頃河野伊右衛門来龍野書状相渡候

一去ル十三日昼廻り召捕候小性町博奕一件之もの九時へ呼出立会例之通^ニ而遂吟味候得共不及白状候

不及白状

小性町伊勢屋治助
福渡町松山屋清助
無宿 浜七

此兩人博奕參会不仕証拠人ト (船頭町瓜生原屋弥吉)
申立候ニ付呼出候得共証人ニ者不相立候ノ新魚町甚吉

一久世御代官早川八郎左衛門殿帰府ニ付来ル十九日出立之由上野介様御通行と同日ニ宿馬指支候間寄七馬五疋被仰付候様申出候付其段大目附へ申達候勿論御帰府ニも御止宿ニ無之候得者当役ハ不出御近例ニ付罷出候

一中之町北側ニ而中屋文右衛門家屋敷表口三間裏行拾七間但六歩役也東隣者山手屋兵助西隣ハ森岡屋力藏也右家屋敷質物ニ書入銀札貳百五拾目式割之利足ニ而来戊五月切ニ借用致度願書承り届六月十一日筆文差出

一元魚町住屋市左衛門倅運吉義大坂大川町綿屋義兵衛方へ当酉年今来ル亥ノ年迄三ヶ年之間奉公ニ指遣度願承り届同七月十日別契ニ船ル

一東新町玉屋伊右衛門義病身ニ付雲州松江ノ在熊野村長沢宗左衛門方へ廿日計之逗留ニ而明十七日出立之願書大年寄指出承り届

一京町豊屋太助借屋住久仁屋岸老母へ孝心之段去ル十三日御賞被下候様伺置候処思召無伺之通被仰出候ニ付大目附へ相届右御褒美之品相廻り候様御達被下候様申達置候

一上野介様来ル十九日御通行ニ付先格之通御船被指出候間蔵元船年寄院庄江指出候様御船奉行黒田鼎分申来候

五月十七日 大雨

一院庄川渡船留り候段午刻前郡代所分申来大年寄へ申達ス

一久世御代官早川八郎左衛門殿十九日通行ニ付院庄川へ御船被指出候間昨年之通御蔵元船年寄等申付候様ニ御船奉行黒田鼎分申来候ニ付其段大年寄へ申付候尤上野介様江右同様船役人被指出候得共

右之余ニ別ニ指出候様申来候

一勝山へ指遣候飛脚之者未ノ刻過返書取帰り右申遣候和泉屋三郎助讓受候酒造株石高ハ貳拾九石ニ而有之其段天明八年公辺へ御届致置候段申来右返書御用番中へ指出候

一越中富山板屋理兵衛役介惣助宗四郎兩人昨日罷越例年之通十月迄京町松岡屋茂右衛門届書指出候

五月十八日 大雨

一御用日登城

一玉林ニ罷在追払ニ相成候阿わ屋亀太郎妻いよ義先達ニ而夫亀太郎追払ニ相成候節立去り被仰付候処離縁仕候付同人兄弟新魚町藁屋定吉方へ引受度帰住歎書指出候付郡代所へ引合候所存寄無之旨ニ付御用番中へ指出候所御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一去ル十三日認置候小性町伊勢屋治助方博奕一件之もの共遂吟味候処博奕參会不仕候ニ相決候付指免可遣旨御用番中へ申上候所思召無之ニ付大目附江も達置候近日可指免候

一妙願寺内教信義市郷教諭出精仕候ニ付御捨扶持五口計被下置候様郡代当役一緒ニ於別席小須賀貢へ申達候所向方分可申立由挨拶候

一久世御代官早川八郎左衛門殿弥明十九日出立之旨継馬五疋之先触出候得共川支ニ而未先触ハ不来候得共聞合之もの罷帰候段問屋分申出候趣大年寄申出御用番并大目附へ相届候尤先格之通可取計旨御両所へ申達置候

一上野介様早川殿御同日明日御通行ニ付加人大目附へ申達候所尾崎広助中村栄治荒木源四郎高木武兵衛可児兵治来

一右同断^ニ付先格之通出役可仕旨御用番へ申上御貸人馬之義大目附へ申達し小勘者へ談置候

一上野介様御使者御取次黒田鼎出候段大目附^中■^小■^須賀貢の達有之大年寄申達候尤御使者宿詰小従人組ハ不被指出候由^ニ候

一早川八郎左衛門殿明十九日通行^ニ付長沢丈四郎御使者西^大■^番■^所■^ニ而相動候間例之通立宿申付候様小須賀貢被申聞候大年寄へ申達候^{宮庭町阿賀屋助五郎へ申付候}

一惣社村善藏方へ去ル九日昼盜賊這入衣類二品代廿五匁位之もの盜取候触流取計候様大目附の達有之町触取計本書ハ指戻候^{同廿五日町方無之候申出候}

一酒造株名面違御届之帳面龍野の未飛脚不罷帰候得共其余^者、清書出来^ニ付大目附へ差出置候龍野の飛脚帰り次第尚又書入可差出候旨申置候

一鉄炮改帳面鉄炮奉行へ指出候由^ニ而右同様之帳面大年寄の指出先格之通受取置候

一宗旨奉行藤本番右衛門の例年之通宗門改案詞相廻り大年寄へ相渡候

一三町目福田屋又治娘かん義母子共二階町へ縁付候得共大円寺の放手形不指出依之夫之宗旨^ニ難相成甚迷惑之旨歎書指出候^ニ付寺社取次野条金平へ懸合之趣大年寄へ申達右歎書指戻候右ハ同町^ニ而追払^ニ相成候佐助妻子也

一酒改福永屋藤助義致改印候付印鑑指出候
一新魚町油屋権太郎家守原田屋伊兵衛妻妊娠相届置候所十五ヶ月^ニ相成候^而も出産不仕全病氣之由容鉢書指添断書指出候

一上野介様早川八郎左衛門殿御行違之節御先弘中座之義大目附へ及

相談候処上野介様^江者致中座早川殿^江者中座^ニ及間敷旨被申聞候間其段百藏へ申付候

一院庄川渡船初り候段亥ノ刻郡代所の申来大年寄へ申達候
五月十九日 快晴

一上野介様御先触西宮の^追■^追触到来左之通
池田川満水^ニ付西宮御泊之処郡山御泊^ニ相成十七日明石御泊
十八日三ヶ月御泊十九日津山御泊申来

右御先触御用番中へ指出大目附へ相届候右^ニ付諸事寛政十午年御泊之節之通^ニ手配早々致置候様大年寄へ申付置御用番^并大目附へ罷越右之通相伺候処其通宜取計候様被仰出候

一上野介様御止宿相成候^ニ付組致不足又々三人大目附へ申達候所野田数右衛門石井金治河村新吾来

一上野介様御止宿^ニ相成候故町奉行出張立宿へ書役相詰候先格之処新左衛門兼帯^ニ付召連候中間老人被仰付候様大目附へ相達候処承知^ニ候

一上野介様御止宿^ニ相成候間箱焼灯兩人被相廻候様小勘者北島唯七へ申遣候所承知^ニ候
一久世御代官早川八郎左衛門殿今日通行繼馬五疋人足^人人之先触昨晚到来之由喜左衛門昨晚申出候得共昨日御両所へ及御噂置候義故別^ニ不相届候尤町分取計左之通

一御通り筋不及掃除不見苦程^ニ取片着置可申事
一保頭先弘

但問屋の保頭代人足老入差出為案内為致候事

一御先同心組栄治幸治大之字羽織着用

右立宿安岡町大黒屋利兵衛

一院庄渡船場へ御蔵元姫路屋甚右衛門船年寄米屋兵助

但御船奉行の御船被差出候間右兩人申付候様申来候事

一御使者 長沢丈四郎 但西大番所前^ニ被相勤候事

右立宿宮脇町阿賀屋助五郎

八ツ時過町分通行無滞相濟候段御先^ニ大年寄の届出其段御用番

大目附へ相届候

一出羽守様御宿割中村重太夫人馬問屋へ来り出羽守様去ル十八日大

坂御出立被成来ル廿二日当所御通行被成候段申聞候旨人馬問屋の

申出候段大年寄届出御用番^并大目附へ相届候

一上野介様御止宿御本陣前両箱番所へ相詰候表組賄之義植木左士の

懸合有之日記取調候処寛政十年午五月十八日以来町取計^ニいたし

候様^ニ大目附の達有之候^ニ付其旨取計候様大年寄へ申付候

一大目附廻状到来

上野介様御本陣前通行致間敷^并御関札内へ下々迄差遣

申間敷旨申来候

御触書写取

一龍野へ指遣候飛脚返書取り罷帰候所右島屋文七へ讓渡候酒造株高

ハ老斗^ニ天明八年^ニ其通届置候由申来候右返書御用番へ差出大

目附へも相届右株高老斗之旨御祐筆河瀬宇太夫^江直^ニ申遣候

一上野介様今夕御止宿之積^ニ可致出役供之者共集置候得共遠見之

もの共も罷帰一向御様子不相分候^ニ付夜^ニ入候^而供方之もの共

も為引取諸出役之者共へも引取候様演達可致之旨大年寄へ申達候

五月廿日 曇

一上野介様御止宿^ニ付遠見之人足土居迄指遣置候処右人足佐用迄罷

越候処同^江齋崎問屋の廻状指越揖保川御差支^ニ付上野介様十九

日齋崎御止宿^ニ相成候由為知之廻状取歸り候段大年寄の指出候^ニ

付御用番へ指出大目附へも相届候弥右之御様子^ニ候ハ、大方今廿

日土居御泊明廿一日当所御通行^ニも可相成哉^ニ付其通手配いたし

候様大年寄へ申達候

一昨日早川八郎左衛門殿通行相濟候^ニ付加人石井金治可児兵治指戻

候

一酒造人名面替等之御届帳面御祐筆所^ニ清書出来^ニ付大目附の被

差越三浦拙者兩人致調印大目附へ指戻候所今昼立御仕立飛脚^ニ而

被差遣候由^ニ御座候右^ニ付両役の返書^并向方^の朱引^ニ致添削

来候写一緒^ニ封し大目附へ指出候

一出羽守様明後廿二日御通行之処明廿一日上野介様御通行^ニ付人足

買込働出来不申甚指支候付明後廿二日郷人足百五拾人被仰付被下

候様人馬問屋願出候段大年寄の喜左衛門を以申出無拋義^ニ付其段

大目附へ申達候所承知^ニ付内々郡代^江も懸合置候

一上野介様御通行とも御止宿とも一向不相分終日相待居候得共遠見

のものも罷帰昨日齋崎御止宿之旨問屋の申越候得共其後之御様

子一向不相聞嗚今夕土居御泊^ニも可有之哉と察候得共聡といた

し候義無之^ニ付御貸人等^其其^俣而相待居候所郡代所聞合之もの

罷歸り今日土居御泊明日御通行之旨申出候由通用有之依之先明廿

一日御通行之手配いたし候様ニ諸方へ申達置候処土居へ指遣置候
聞合之人足晝七ツ時罷帰り上野介様弥土居御泊^ニ而八ツ半時御出
立之旨承り罷帰候段大年寄^ハ届出候付右之旨御用番^并大目附へ相
届弥明廿一日御通行之手配ニ取計申付候

五月廿一日 曇

一上野介様御通行ニ付五半時供揃四時出宅林田町山本三右衛門宅へ
罷出相扣居候処九時過御通行被成例之横町へ罷出御目見仕候処御
駕籠脇之人相見へ候ニ付名札相渡候得^者町奉行増見右門殿と名披
露有之候処御駕籠之内^ハ久敷候ハ、不相替^ハ是才之旨御意有之候ニ
付名披露いたし候御駕籠脇之仁へ蒙御意難有段御礼申上相濟候処
中押へ加藤半平致下乗段々御馳走之御挨拶^并拙者義出役御苦勞之
旨念頃之挨拶有之拙者義も右ニ応上野介様御機嫌相伺^并自分及挨
拶畢^而又山本三右衛門宅へ引取扣居候所安岡町^ハ町分御離之住進
有之引取尤引懸ケニ御用番御宅へ罷越相届大目附へハ例之通馬脇
^ハ届手紙指遣候

供立^{口之者} 馬^{佐藏} 草履取^{幸治}

楯 合羽籠
挟箱

同心組役割 御先弘^{文藏} 馬駒^{西藏}

夜廻り^{加入野出敷右衛門} 但平日ハ供供番^ハ夜廻り相勤来候得^也也
高木武兵衛^{一昨日^ハ御止宿^ト申候^ニ加入受取居候^ハ付如此}

一上野介様又々御宿割違当所御通行ニ相成候段断之追触御通行前
来之由出張所へ大年寄^ハ指出候得共最早不用之義故即刻不相届帰
宅之上御両所へ相届候

一上野介様御通行ニ付町分取計左之通

一御本陣 玉置六郎左衛門

御本陣詰 平野屋助左衛門 櫻野や茂一郎 野々口屋七郎

右衛門 大村屋孫右衛門

外ニ 中買三人 給仕人三人

一御使者取次宿 斎藤孫右衛門

御取次 黒田鼎 供下宿 元魚町

一御奉行所立宿 山本三右衛門

供下宿 林田町

一御先弘同心組立宿 東新町 安永屋武助

一御徒目附下目附立宿 同町 高松屋平左衛門

一在分御先弘御使組立宿 安岡町 鍛冶屋長右衛門

一在宿医師 高島生斎 跡見春鷗 笹岡休意

一院庄渡場御藏元熊野屋文五郎 船年寄大坂屋彦市

一御使者案内 浜野屋栄四郎 福永屋林右衛門

一人馬問屋 出役宮田喜左衛門 式步中買三人

一前夕御泊聞合 老人

当日遠見 川部^ハ兼田 玉琳 老人ツ、

一御本陣へ被為入候得^者二階町境町京町御供方へ心付候事

一御通之節往来荷物土手へ廻候様東新町安岡町へ申付候事

一両橋建札為引取候事

一町分御通り相濟候得^者安岡町^ハ御奉行所御立宿へ申上候事

一□□□非人共へ別^而火之用心申付候事

一上野介様継人馬左之通

本馬 貳拾老疋 人足 百五拾八人

右問屋入用四百八拾五匁貳分八厘 御本陣入用八拾六匁七分

ノ 五百七拾老匁九分

一 上野介様被下物左之通

金 貳朱 御召船

銀 五匁 惣船

同 貳匁 川割足輕貳人江

同 四匁 御藏元并船年寄へ

同 老匁 下裁許人

右書付大目附へ差出候

一 上野介様御止宿ニ候得者御用使共ニ若堂四人可召連処御通行ニ相

成三人召連候ニ付加人河野新吾今朝指戻候

一 三船八郎右衛門義妻出産ニ付血忌引込候段大年寄今届出候ニ付御

兩所へ相届候

一 出羽守様弥明廿二日御通行ニ付御貸人馬大目附へ申達諸方手配申

達候

一 出羽守様土居駅へ七ツ二歩ニ御着被成七時御出立之旨聞合人足承

り帰御用番并大目附へ相届候

五月廿二日 曇

一 出羽守様御通行ニ付五半時供揃出宅林田町山本屋三右衛門宅へ出

張相扣居候処四ツ半少過頃御通行被成例之林田横町ニおゐて御目

見申上候処御駕籠脇松御名前様町御奉行増尾右門殿と披露有之

畢而御徒鉢之もの御目六金貳百疋持參被下例之通ニ頂戴仕又三右

衛門宅江引取居候所町分御離被成候注進安岡町今有之引取候引懸

ケニ御用番御宅へ罷越無滞御通行相濟候段相届大目附へ八馬脇合

以使相届ケ九ツ半時頃帰宅仕

供立昨日之通 若堂為治藤四郎時治

同心組役割 御先弘文藏 馬幸治 當番中村栄治 昼廻又六

夜廻時治

先格之通供番今夜廻り指出候付加人野田数右衛門高木武兵衛今朝

ノ指戻候

町方取計昨日上野介様御通行之節之通行仍而名面違計記置

一 御徒目附立宿 東新町相生屋清助

一 御先弘立宿 同町鍛冶忠右衛門

一 御持組立宿 安岡町鍛冶長右衛門

一 御本陣詰 茂一郎義七郎七郎右衛門

一 在宿医師 北山修伯 笹岡休意

一 院庄渡り場 藏元文五郎 船年寄釜屋清吉

一 御使用者御取遣り無之ニ付用意不仕候事

一 御家老奉文直ニ御門へ来候間町方ニ取次不仕候

繼人足左之通

本馬 三拾三疋 輕尻馬老疋 人足四百三拾八人

右問屋入用八百拾貳匁九分四厘

出羽守様合出役之者へ被下左之通

一 貳百疋 町奉行

一 三百文 御先払同心小頭

一 式百文ツ、 同平組式人^江

一 銀式兩ツ、 馬駅同人組式人^江

一 壹貫文 院庄川惣船五船へ

一 六百元 同御藏元船年寄へ

一 百文 同下裁許人^江

右之通大目附へ書付指出候

一 札元武田七郎兵衛伴利左衛門義大坂大川町淀屋橋綿屋茂兵衛方へ

廿五日計之逗留^ニ 而 明廿三日出立願大年寄指出承り届^{六月十二日届ル}

一 撰州有馬辻堂茂兵衛一人例年之通筆白粉元来候段中之町甲屋幸助

宿切手^御差出候^{七月十二日届}

五月廿三日 曇

一 御用日登城

一 博奕打境町伊兵衛利三郎御裁許何指出

一 船持共順番船ニ 仕度歎書指出理解為申聞指戻可申旨伺置候所伺之

通宜取計候様被仰出大目附へ届置候尤近日可取計事

一 加人御使組昨夜迄ニ 相濟候ニ 付中村栄治尾崎広助荒木源四郎今朝

夕差戻候

一 安岡町坪屋与八郎義伯州倉吉赤穂屋七郎右衛門方へ廿日計之逗留

ニ 而 明日出立願承り届^{六月十日届}

一 牢舎人林田町作人庄右衛門妻直訴ニ 罷出候段申候由ニ 而 何等之訳

哉年寄共之認出候様大年寄申達候処右ハ御城代組小頭塩島清助罷

越悻清治へ狐付候段申申訳いたし候^而も聞入不申甚難義仕候間御

吟味被下候様申候旨并書指出下地上原彦藏懸り合之義ニ 付同人^江
乃内談百藏ヲ以城代組部屋目附へ内々懸合候様ニ 申付置候

五月廿四日 晴

一 於玄関立会新左衛門文藏百藏孫左衛門喜左衛門詰合^ニ 而 左之通申
渡之

繼母へ孝行尽候段年寄共之

孝状書を以申出達

御聴奇特ニ 思召候依之為御褒美

銀式枚家屋敷料として銀札百五拾匁被下候

右岸義^者元境町住久仁屋宇兵衛娘ニ 候処明和八卯年見附割御用銀

被仰付候ものニ 而 右宇兵衛義七百匁指上候然ル所右宇兵衛養子岸

夫幸七義困窮ニ 責り溺死いたし候幸七妻ニ 候右之段伺濟之上承り

未申達候内ニ 付右之訳御用番中へ申上候処先伺濟候通申渡可然右

之義^者猶又追^而被申達方も可有之義と被仰出候右岸ハ六十才繼母

ハ八十才近キもの也右申渡濟候段御両所へ相届候

一 左之もの共立会右之通^ニ 而 九時之呼出遂吟味候但出番時治又六

口書介印取之

牢舎人 智聰

同 貞藏

同 源七

同 繁藏

博奕吟味ニ 付預ヶ置候得共携

無之ニ 相決候間預ヶ指免候

右ニ 付小性町へ預ヶ置候処吟味相濟候ニ 付 無宿 浜七

立去り申付候以来御領分へ立入申間敷候

但門前払取計之

（小性町伊勢屋治助
福渡町松山屋清助

一今日吟味取計候付組致不足加人一人当日切ニ大目附へ申達候所土井万平来

一沼村定七方へ当月五日夕十八日迄之内盜賊這入衣類五品代七拾五

匁程盜取候由触流取計候様大目附達有之町触取計本書ハ大目附

へ指戻候六月六日町方ニ無之段
届出候

五月廿五日 雨

一三町目福田屋又治娘孫寺放手形之義去ル十八日記置候通下方ニ而
懸合候得共大円寺承引不致寺社取次方放手形差遣候様達無之ニ付
不差遣候由申候旨大年寄申出其段野条金平へ申遣候

五月廿六日 雨

一院庄川渡船留り候段卯中刻郡代所申来大年寄へ申達候

一錢通用百四匁ニ相成候段届出候

一奥州仙台産六拾才計之男野伏乞食京町中之横町今出屋横ニ昨夜夕
行倒候由尤往来等も所持不仕近来迄町方乞食いたし居候もの、由
当人右之通ニ申候由尤足杯余程腫氣有之步行不相叶候間先格之通

□□へ為引取可申段大年寄届出伺之通宜取計候様ニ及差図其段

御用番并大目附へ相届候

一三町目太刀屋久治義因州鳥取川端三町目独活屋喜右衛門方へ四十

五日計之逗留ニ而明後廿八日出立願大年寄承届届出候七月三日補

五月廿七日 雨

一牟浚申付候処幸十郎義錢六錢筆毛先菅ツ陰囊ニ括付居遂吟味候得

共不及白状依之足かせ打置候段文蔵為治円助届出候

一院庄川渡船相始候段未刻過郡代所申来大年寄へ申達候

一牟舍扶持五俵内貸証文指出奥印書取計之尤壹石五斗式升式合五ノ
来月へ持越候積り

一左之通大目附廻状到来組中町中へ相触候

織田織部様御病氣之処御養生無御叶去ル十二日御死去被成候

依之急度被仰出ハ無之候得共明日慎候心得可有之候

一京町中之横丁行倒候奥州仙台之乞食昨日□□□へ為引取置候処落

命いたし候段大年寄届出候付先格之通大保頭見改ニ差遣別条無

之候ハ、勝手次第取捨候様大年寄へ申付置其段御用番并大目附へ

相届候

一下紺屋つゝ之祇園会ニ付例年之通行灯差出候段大年寄届出承置

一御領分東南条郡林田村金兵衛娘沢義河原町作人平藏嫁ニ引受度人

別入願下方懸合相濟候段大年寄申出承り届

一安岡町神目屋栄助并母并弟音吉右家内三人此度東南条郡林田村良

助□へ引越度人別願右同断申出承り届

一中之町作人多十郎東南条郡林田村上之町儀右衛門引受ニ喜八借

屋へ引越度人別除願右同断申出承り届

一新職人町坂本屋牧兄弥吉義林田上之町作兵衛後家方へ引越度人別

除願右同断承り届

一御領分東南条郡林田村新吉義戸川町赤崎屋文四郎借屋住古都後家

方へ役介ニ引受度人別入願右同断承り届

一新田村分新屋敷持宝院妹かつ義下紺屋町智教坊妻ニ引受度人別入

願右同断承り届

一東新町鍛冶屋忠右衛門弟重助義三ヶ年已前未ノ四月撰州大坂島之

内南谷町河内屋庄兵衛方へ三ヶ年之奉公罷出候所尚又当年の亥年迄三ヶ年之間同人方ニ奉公仕度追願承り届

一堺町稲実屋義七郎義大坂堂島中町潮屋源兵衛方へ廿五日計之逗留

ニ 而 明廿八日 出立願承り届 六月廿日届

一祇園会ニ付下紺屋町智教坊御戸開除役御祈禱修行仕度願承り届

一新魚町西側ニ 而 かとや政右衛門所持之家屋敷表口九間半裏行十七

間但本役也北隣ハ米屋治兵衛南隣ハ海布屋源治也右家屋敷之内南

方ニ 而 表口四間七步五厘裏行十七間御役半役付代銀札七拾五匁ニ

相極町内かと屋源左衛門へ売渡願承り届 六月九日宛券状指出

五月廿八日 雨

一御用日登城

一早川八郎左衛門殿支配所西々条郡菱尾村伊助妹菊義上紺屋町作人

清助役介ニ引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置候

聞届申達候 六月二日住宅証文差出

一京町洪屋藤助義御堀江 足代下し願大目附へ差出候

一三町目福田屋又治娘并 孫右両人大円寺放手形之義野条金平へ懸合

置候処全又治申方不宜由ニ 而 不差遣趣ニ相聞候付放切手取ニ罷越

候様又治へ可申付旨金平の挨拶有之大年寄へ申達候

一桶屋町桶屋八右衛門義四国通路ニ罷出度百日計之逗留ニ 而 来月三

日出立願承り届 八月八日届

一二階町西側ニ 而 児島屋幸三郎所持之家屋敷表口式間裏行拾七間但

半役也南隣ハ増原屋民助北隣ハ荒田屋忠藏也右家屋敷椋野屋助右

衛門取次ニ 而 質物ニ書入銀札四百匁来ル十二月切一ヶ月壹歩半之

利足ニ 而 借り受度願承り届 同廿一日証文指出

一祇園会ニ付二階町常宝院兼住所不動堂并 疱瘡守護神例年之通除疫

護摩修行仕度断書承り届

一越中富山船橋町松井屋源兵衛手代嘉助文三郎清兵衛以上三人例年

之通反魂丹売ニ 来候段京町美濃屋平五郎宿切手指出 翌庚午五月廿七日届ル

一奈良角振町徳田屋平七老人晒島端物売来候段京町美濃屋平五郎宿

切手指出右ハ去申十一月十三日承り届候ものニ 而 今年初 而 来候も

のナリ 六月廿四日届

一於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席

町奉行へ

境町伊兵衛同町利三郎義旧 臘 金谷村又右衛門方ニ 而 博奕参会

致不届ニ付五十敲之上帰町申付候

右之趣取計可被申候

一病犬出来候哉之趣相聞候間打殺候様□□□へ申付候様大年寄へ申

達勿論最早追々出来可申時節ニ付見 次第打殺候様町方へ演達致

候様ニ申達候

一上田邑平田村伊佐治方へ去ル十一日盜賊這入衣類四品代ニ積三拾

三匁位之ものを被盜取候触流取計候様大目附被相渡町触取計本書ハ

指戻候 六月八日無之断届出候

一国分寺村太七方へ去ル十五日盜賊這入木綿并 ひとへもの一代ニ積

り三拾匁五分位右触流右同断 右同断

五月廿九日 晴

一林田町年寄門屋久左衛門改印ニ付印鑑差出書役へ渡置候

一西今町菱屋治兵衛孫治助義当正月下之関江罷越病氣ニ付三月廿七

日日延願指出候所未勝候ニ付又候三十日計日延願指出承り届

七月四日尚又日延願承り届

一牢舎人義平療治二廻り相済未相勝段双方申出申付候所中村益安
へ申付候

五月晦日 晴 白雨

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一御蔵米 六拾七匁五分 町米 六拾三匁五分

一成覚寺境内之観音来月朔日夕十八日迄開帳ニ付東西大橋建礼之義

伺済候由寺社取次野条金平去ル廿八日通用有之大年寄へ申達置

候認落ニ付爰ニ記置候

一牢舎人幸十郎義去ル廿七日牢凌之節今足かせ打置候得共不及白状

候得共不便之義ニ付片足指免候様昼廻文蔵伝蔵へ申付候

六月 小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

六月朔乙 旦 快晴

六月二日 快晴

一下役小頭部屋目附出番伝蔵藤四郎大年寄三人諸吟味立会九時分船

持共呼出相札候

繰綿小麦并三拾五俵以下之半下荷

順番積ニ仕度旨歎書指出候段相札候所和泉屋清助老人

発頭ニ而 甚心得違之義ニ付同人義禁足申付置候

右取計ニ付組致不足加人老人当日切申達候所日下男助来朝番相勤

候処不快ニ付泊者飯島作右衛門来

右呼出入用ニ付筵拾枚御作事ニ而 致借用候

一元魚町豊島屋伊兵衛米中買株相続いたし候付先格之通一札差出候

六月三日 快晴

一御用日登城

一備前岡山上出石町備中屋三治郎倅丈八夫婦并弟新左衛門右家内三

人京町阿波屋亀吉役介ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附
へ指出置御聞届申達候 同日住宅証文指出候

一元魚町武川屋久右衛門借屋家守庄吉弟勘吉義兼々不所存ものニ
組合之もの迄異見を加へ候得共相用不申処去月上旬出奔仕相尋候
得共行衛相知不申右躰之ものニ付義絶勘当仕度願右同断取計濟

一福渡町作人佐助弟庄兵衛義去申ノ二月四国遍路ニ罷出不罷帰ニ付
同日日本証文指出候

追々日延願差出候処一向在所不相知候ニ付其段当二月御届仕候処
百日尋被仰付猶又相尋候得共弥行衛不相知最早百日余ニも相成候
ニ付除帳願右同断取計濟

一伏見町平佐屋兵藏義去ル天明七丁未年三月東新町ニ罷在河内屋仁
兵衛家守相勤居候節当国久米北条郡宮尾村十助娘さく義妻ニ引受
候所此度離縁仕親元へ差返度人別除願右同断取計濟

一船頭町和泉屋清助義今般船持共歎書頭取ニ付左之趣伺書指出候所
即刻伺濟ニ付左之通申付候尤文藏一人差向候

今般船持共歎書之趣相糺候所 船頭町 和泉屋 清助
其方一人之存付兼而 訳合も
乍存後難をも不省不届至極ニ候
仍之年寄役取上ケ追込申付候

右取計濟御用番 大目附へ相届候

一牢舎人贖札懸り合之古市主殿家来片山義平義先達 而 以来病氣之処
追々指重り不便之義ニ付主人主殿へ御預ケ被成若又全快も仕候ハ
、其節追払被仰付候様伺書指出候所御聞届無之即刻御戻被成候
一牢舎人無宿盜賊智聡御裁許伺御用番中へ指出置候

一牢舎人元鍛冶町住当時無宿立帰り繁藏御裁許伺右同断

一八出河原ニ新開出来候由 而 東西新町中之町分歎書指出候ニ付三
月廿三日郡代所へ相廻置候処歎之趣承り届新開不申付候段十郎左
衛門分通用有之候ニ付其段大年寄へ申達候

一元魚町縫屋清助義行重村甚之丞へ備前札四拾匁払方ニ相渡候由郡
代所分申来候付相糺候様大年寄へ申付候 翌日相違票之旨日書取差出候付他參留申付候様

一祇園会ニ付二階町元魚町北之関貫四時迄開置候義例年之通届出御
用番 大目附へ紙面 而 相届候

一祇園会ニ付例年之通下紺屋町灯笼燃候段届出承り置
一京町ニ行倒候仙台台者非人□□□へ引取捨迄之入用五匁六分八厘
之由大年寄証文指出奥印書取計之

一戸川町山手屋伊助悻儀八義四国遍路百日計之逗留 而 来ル七日出
立願承り届 九月廿三日届

一上河原村彦三郎後家方へ先月廿五日頃盜賊入込衣服三ツ式拾式匁
計之もの被盜取候触流取計候様大目附分達有之町触取計本書八大
目附へ返入 同日無之段申出候

一藤屋村伊八方へ去ル十四日盜賊這入拾壹ツ代十五匁計之品被盜取
候触流し右同断 同日町方無之段届出候

一中村浅右衛門方へ去ル十五日盜賊這入衣類二ツ代十六匁計之品盜
取候触流し右同断 同日無之段申出候

六月四日 快晴
六月五日 白雨

一勝間田町栄屋与三左衛門方へ一昨三日夕盜賊這入銀札百匁計盜取
其余紛失物無之旨届書指出候来ル八日可及御沙駄候

一元魚町糶屋伊助倅幸吉義四月廿一日大坂江罷越候所病氣ニ付今廿日計之日延願指出承り届同十三日罷掃候

一福渡町原田屋治兵衛義四国遍路百五十日之逗留ニ而来ル七日出立願大年寄指出承り届十月十一日掃

一福渡町作人文左衛門義右同断願承り届右同断

六月六日

一茅町岡崎屋善吉後家借屋住庄五郎と申もの昨年井口村兵助引受之宛米老儀之田地井北村ニ而三町目佐和屋孫四郎持之宛米半儀之田地致小作候処御年貢不相納致出奔候付御代官弁書指添急度申付呉候様郡代所々再応懸合有之候付左之通及答候

茅町岡崎屋善吉後家借屋住庄五郎小作御年貢不相納致出奔候付家主組合受人等々可相弁義と家主へ懸ケ合有之候得とも不承知ニ付役筋の急度申付候様被成度之旨再応被仰聞候得共右等之先例も無之候先例有之候共種々指支故障ニ相成候事故難申付既ニ先役取計ニも宝曆八年寅五月廿二日井上弥三兵衛在役中河原町かねと申女地主ニ而年貢不相納ニ付田地御取上ケニ相成り且又寛政四子年五月十六日松岡治部助而役引受中福渡町源助と申もの小作御年貢不相納候付村役町設立会身代限り引渡ニ相成候例も有之義ニ御座候且又御代官中考ニ者受状ニも有之義故可相弁義と被申候由乍慮外一卜通ハ御尤之様ニも御座候得共町々一樣ニ右之文言有之義ニ而も無御座既ニ茅町借屋受状之文段及見候処御年貢筋之義ニ一向認無之候令認有之候共急度ハ難申付哉ニも被存右受状ハ借屋借り受候

節之御大法ニ而何等之義ニ而も受人引受役介ニ懸ケ申間敷と申義ハ何方之受状ニも有之事ニ而諭ハ借屋借り受候後金銀借り受ケ不埒出来之節金主台受人江弁銀候様申候共元右証文ニ加印も無之不存義ニ候得者可致承知哉是同様之義哉ニも被存候御趣意之趣ニも候ハ、兼小作相渡候節小作受人御取置被成候筋ニ而者有之間敷哉不案内之乍義元来地主之不吟味ニ而不行届処右躰之不埒も可致出来義哉ニも被察尔来右之通受人頼と地主心得候様ニ成行候ハ、弥右躰之不埒可致増長哉ニ被察候何分右先例も有之義ニ付役筋の申付候義者難致御座候間乍御氣之毒御勘弁可被下候仍而者右書類不殘御戻申候間御落手可被下候以上

六月六日 増兎右門

三浦十郎左衛門様

一宗門改頭錢当年ハ四文宛取り立候段大年寄届出候
一郡代所々無宿盗人万吉入牢申来入牢手形差出出番時治取計之
一中之町小山屋与三右衛門所持之旅人宿屋株当西歳分来ル亥ノ歳迄三ヶ年之間林田町福吉屋安右衛門へ預ケ申度願大年寄差出右小山屋義ハ頭役相勤居候間右株ハ預ケ置候而も頭役ハ是迄之通相勤申候段申出尤頭役株預ケ置候先例も有之却而締も可宜哉之旨大年寄申出候付承り届十二月廿三日同八へ讀渡候

一元魚町大笹屋喜兵衛義悛瀨助病身ニ罷成候付召連四国遍路罷出度百五十日之逗留ニ而明後七日出立願承り届八月十九日掃

六月七日 快晴 少雨

一 牢舎扶持四拾九俵壹斗式升七合五勺之仕切証文指出奥印書取計之
一 牢舎扶持拾四俵之内貸証文指出奥印書取計之尤右ニ 而 来月へ式斗
七升持越候積也

一 新魚町北方ニ 而 山手屋治兵衛所持之家屋敷表口四間半裏行拾貳間
但本役也東隣ハ灘屋治右衛門西隣ハ角屋利左衛門也右家屋敷之内
西之方ニ 而 表口半間裏行拾貳間御役壹歩相添代銀札三百目ニ 相極

一 船頭町年寄米屋兵助義藤右衛門と改号願承り届
同廿五日見寄状差出

六月八日 快晴

一 御用日登城

一 板倉撰津守殿支配所備中国都宇郡矢部村源右衛門并 娘京右家内二
人寛政十年年三月新魚町紺屋重藏引願指出候処當時同町三津
屋平右衛門家守喜助借屋ニ 罷在親元江 罷帰度申候ニ 付指戻度人別
除願御用番御聞濟ニ 付大目附へ指出置御聞届申達候

一 備前邑久郡下山田村武兵衛と申もの夫婦式人材木町高田屋喜兵衛
引受度人別人願右同断取計濟同十六日住宅監文指出

一 京町畳屋伊兵衛借屋住玉岡屋清吉母さつ義八年已前寅六月脇坂淡
路守殿預り所当国勝南郡新田村平吉妻ニ 指遣置候所此度離縁仕罷
帰候付人別人願右同断取計濟

一 福渡町作人惣七方へ去ル四日夕盜賊這入脇指式腰衣類十二品合十
四品代ニ 積り三百六匁位之もの盜取候届書御用番中御聞濟触流伺
濟ニ 付大目附へ其段相届町触取計候

一 林田町栄屋与三左衛門方へ盜賊這入候義去ル五日記置候通御両所

へ指出候

一 於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席

町奉行

一 無宿盜賊智聰義所々ニ 而 盗いたし候段不届至極ニ 候依之五十
敲之上御領分追払被仰付候

一 元鍛冶町住居繁藏義兼々御法度之博奕参会いたし御吟味之節
逃去り出奔之身として立帰り又候博奕いたし其上今般御箱訴
いたし候段不届至極ニ 候依之百敲之上御領分追払被仰付候

一 香々美中村猿引甚兵衛義無宿市五郎病死一件ニ 付真經村要藏
元市場村坂治等と申合謀計を企太田村を（モトメ） 腦し内濟料を可貪手
段御領分之者として右鉢之取巧致候義不届至極ニ 候依之百敲
之上御領分追払被仰付候

右之通取計可被申候

右之通被仰渡候付郡代申談明九日可取計候間立会御徒目附被差出
候様大目附へ相達夫々手配申渡候并 貞藏源七忠太吟味も手配申達
候

一 右取計ニ 付組致不足候ニ 付加人三人明九日当日切ニ 被仰付候様ニ
紙面ニ 而 申達候所井汲庄平河村新吾土井万兵衛来

一 林田町豊国屋大助方へ去ル六日夕（モトメ） 并を切破り盜賊這入候得共紛失
もの無之段届書指出承り置

一 林田町常盤屋文右衛門方へも右同夕盜賊這入候得共紛失もの無之
段届出承り置

一 筑前遠賀郡柏原浦小平治手代与六一人例年之通茶碗類売ニ 来候段

京町田戸屋宗五郎宿切手指出

一 公保田村平治方去ル朔日之夕盜賊這入土藏之壁を切衣類并銀札并
錢共四拾品代ニ積り五百三匁五分計盜取候觸流取計候様大目附
達有之町觸取計本書ハ指戻候同十七日無之盗箱出候

六月九日 快晴

一 六ツ半時於牢屋御徒目附 藤四郎下目附小頭代文藏部屋目附百
藏出番栄治幸治立会左之通取計之

一 旧臘金屋村文右衛門方ニ 博突 境町 伊兵衛
参会仕候付五十敲帰町 利三郎

一 所々ニ 盜相働候ニ付五十敲 無宿盗人 智聡
御領分追払

一 先年博突参会仕吟味之節 元鍛冶町 繁藏
逃去り除帳ニ相成其後又々立帰
博突参会いたし其後又々立帰り出奔之身として
御箱訴いたし重々不届ニ付百敲之上

一 無宿市五郎病死一件ニ付 香々美中村

一 真経村要藏元市場村坂治等と 猿引 甚兵衛
申合謀計を企太田村を脳し候
不届ニ付百敲之上御領分追払

但郡代所申渡

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候
右智聡義所持之品町方ニ預ケ有之今朝牢屋門前へ持参候様申付置
穢多ニ為持遣御領分境ニ而相渡候様申付ル
右繁藏義除帳ものニ付牢屋賄ニ可申付所間違候而鍛冶町元組合ニ

賄申付置候間右取計相濟候段申達組合其他参留差免候様大年寄へ
申達候

一 牢舍人福寿瀬助早助右三人郡代所へ出牢申来栄治幸治取計郡代所
へ引渡候

一 成覚寺開帳中西今町橋下り口之所へ揚行灯差出候段昨夜大年寄
届出承り置

一 川端又六昨夜夜廻り之処不快ニ付得不罷出右断之致方不行届夜廻
り一人欠ニ相成依之又六恐入罷在候段百藏へ申出候間何れニも申
付方も可有之差懸り不足ニ相成候間加人老人唯今へ被仰付候様ニ
大目附へ申達候所松永市三郎来

一 橋本町塚角屋新八方へ去ル七日夜盗人忍入衣類十二品代ニ積百七
拾五匁位之もの盜取候届書指出明日及御沙駄市郷触流し可取計事

一 元魚町縫屋清助備前札通用仕候御裁許伺昨八日御用中へ差出置候
昨日之処ニ認落候ニ付爰ニ記置

一 三町目福田屋又治娘孫大円寺寺放手形漸差出相濟候段一昨日大
年寄届出其旨昨日野条金平へ及案内置候是又認落候ニ付爰ニ記置

一 茅岡崎屋善吉後家借屋住庄五郎義御年貢致不納逃去り候一件去
ル六日郡代所へ及返答置候所甚不承知之旨ニ而御用番中へ差出候
由昨日案内有之候処今日一学殿へ呼ニ来相越候所右之訳御尋ニ付
大意ハ郡代所へ答置候通身代限引渡候先例駈と有之義ニ候旨申上

候処右先例書為見候様ニと被仰聞候付其段三浦十郎左衛門へ申遣
此間相廻置候紙面取戻し其俣一学殿へ差出候

一 昨八日川端又六夜廻り之処不快ニ付罷出不申右頼相いたし候得共

行届不申処ハ夜廻り欠ニ相成其外も不束之事共ニ付小頭代於宅左之通文蔵百蔵ハ申渡之

一其方義昨夜夜廻りニ相当り候処 川端又六

折節不快ニ罷立仲ケ間内相頼候由

右頼方不行届夜廻り欠ケニ相成不念之事候依之追込申付候

一其方義昨夜夜廻りニ罷出候処 神田栄治

相役之もの罷出候由ニ其方一人

相廻候旨届出右躰之義ハ相互ニ可心付義ハ勿論之事ニ候

夫共子細有之候ハ、可伺出処無其義一己之存寄を以取計

不束之事ニ候依之追込申付候

一其方義昨夜泊り番候処申付置候 小野田為治

義全忘却其上ニ夜廻り之もの罷出候得者可心付

候処無其義打捨置右之段も不申開相尋候得者却而

不束成事共申述重々不埒之事ニ候依之追入申付候

一昨夜廻り川端又六不快ニ付其段 江原文蔵

同人妻其方方へ罷越申述方

不行届夫成ニ聞受置間違ニ相成候当時ハ小頭場合引受

相勤候事故飯初なから右躰奉公向之義ハ猶以入念

可心付処無其義等閑之事ニ候已後万端別而可入念候

一右之通三人追込申付候付今日切ニ受取候加人兩人留置候段大目附

へ相届尤河村新吾差戻候

一 下役新左衛門小頭代文蔵部屋目附百蔵出番時治庄平立会ニ九時

ハ左之もの共遂吟味候

牢舎人 貞蔵

同 源七

同 忠太

一 右門義明十日被為召候段一名之御奉書致到来候

六月十日 快晴 白雨 大雷

一 暑中御機嫌伺ニ付御徒格以上惣登城三奉行七間廊下ニおゐて例之

通御奏者番ハ三奉行迄一同申上之

一 近藤伊左衛門忰并右門忰武芸出精之御賞有之伊左衛門同道御用所

江 罷出右御礼申上之

一 橋本町塚角屋新八方へ盜賊忍入候義及御沙駄市郷触流大目附へ申

達候

一 町方右之通惣騒ニ付左之通取計御用所伺済大目附へも達置大年寄

へ左之通申渡候

一 町方一町切ニ金棒引廻り手ハ可相渡事

一 非人加廻り二組申付御家中屋敷上之町端々迄廻り可申事

一 町々無宿者不差置候様一町限りニ委敷遂吟味其段可届出事

一 御蔵米六拾四匁五分 町米六拾匁五分

一 大年寄玉置六郎左衛門方へ雷落候段届出承り置

一 目明甚七不快引込ニ付一昨日ハ孫兵衛忰岩吉へ仮役申付候段百蔵

ハ届出候

六月十一日 曇 白雨雷

一 橋本町按摩取幸助と申もの方ニ備中足森マツのもの、由関助と申鳥散

成もの致逗留居候由ニ而 昨朝ハ目明共遂吟味候処不相分昼廻り百

蔵市三郎立寄取計候得共不及白状一旦引取候処猶又百蔵幸治差向

遂吟味候処漸今曉及白状福渡町作人惣七橋本町塚角屋新八方へ

忍入盜取候段申之右盜取候品ハ追廻之藁ハくろ之内ニ隠し置候由申

候付見改候処無相違有之右両家盗もの不殘指出し受取置右関助ハ
入牢申付候尤未備中足森(ツギ)人別之もの、由申口ニ付下方ニ懸合候
様大年寄へ申付候右之段御用番并大目附へ相届候
一昨夜更廻り文藏藤四郎時治伝藏西之方角相改候処無別条旨今朝届
出候

一安岡町久米屋友七義大坂土佐堀二丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗
留而明後十三日出立願大年寄指出承り届同廿六日届

六月十二日 白雨

一小野田為治川端又六神田栄治追込今朝指免候右ニ付加人可差戻候
処今日吟味いたし候ニ付留置候

一川端又六不快引込届出候

一御城代組瀬島幸治義首尾克番代いたし候付林田町門屋又七役介ニ
引受度願承り届

一御用屋敷ニおゐて八時々下役新左衛門小頭代文藏部屋目附百藏出
番栄治幸治立会左之もの共遂吟味いたし候尤六郎左衛門喜左衛門
罷出候

牢舎人備中足森(ツギ)盜賊
関助

橋本町按摩取中島屋

幸助夫婦

右幸助義不埒之もの留置候付組合預ケ申付置今日呼出し相糺候処
申方不宜候付夫婦共手錠申付候

△右幸助方ニ目木村久助と申ものも致逗留居候由ニ付是又留置候様

ニ申付置候処右三人相糺候処久助義ハ決而懸り合無之趣ニ付年
寄方へ一札取置指返候様ニ申付置候処翌十三日指返候段届出候

△一久世手代貝塚五郎藏が昨日飛脚指越来ル廿四日重田又兵衛殿并生
野御代官布施孫三郎殿へ引渡し相濟次第引払候ニ付右為知且者是
迄之挨拶旁申越郡代所連名ニ付十郎左衛門々下案を以相伺今日以
飛脚右返書指遣候然ル所翌十三日受取書取之罷帰候

六月十三日 少雨 晴

一御用日登城申上候御用向無之

一船頭町和泉屋清助追込昨日迄而十日ニ相成候ニ付今朝指免御両
所へ相届候

一來ル十七日夕観音ニ付例年之通官脇町関貫四時迄関貫番付置候段

御両所へ相届候

一牢舎人義平療治ニ廻り相濟弥不宜趣ニ付吉武祐三へ申付候段届出
候

一布原村伊惣治方へ去ル四日昼盜賊這入衣類四品代ニ積り三拾四匁
位之もの盜取候触流取計候様大目附々達有之町触取計本書ハ指戻

候四十七日
無受旨申出候

△一盜賊関助盜取候福渡町惣七被盜もの并橋本町塚角屋新八被盜物
当然入用之品も有之趣ニ付昨十二日相渡受取書取置候

一昨夜更廻り百藏栄治時治幸治東之方相改候処無別条段今朝届出候
一二町目福永屋栄三郎所持之他国受酒株去申六月三日安岡町鶴屋茂

兵衛借一仕候処猶又当酉六月々来戌ノ五月迄借り受商売仕度
追願承り届同十月廿八日
一

一 二階町山本屋周右衛門所持自國受酒株去申八月十三日東新町五明

屋文吉借り受商売仕候処猶又当西六月來ル戌ノ五月迄一ケ年之

間借り受商売仕度願承り届戌六月百追願承り届

一 妙願寺内教信義市郷教諭至而宜敷趣ニ付五月十八日三浦十郎左衛

門并拙者於別席小須賀貢へ御捨扶持被下置候様申立置候所今日兩

役へ小須賀貢左之通達有之候

一 教信義市郷致教諭候様ニ被仰付候間其旨ニ可被相心得候

但右ニ付候而ハ入用も可有之義ニ付左少之品被下置追而九

月頃ニも至り弥効も相立候ハ、三人扶持被下置候御含ニ候

夫故爰ニ而右之当りを以九月頃迄之分相渡候差含ニ候勿

論市郷共右講尺入用ハ不被下候而も可相濟哉之旨被仰聞候

事故右入用ハ先爰ニ而ハ不被下候間追而無拋義も有之候ハ

、可被申立候

右之趣御達有之分而御用番中ハ不被仰出候旨被申聞候依之右之

趣大年寄へ心得候様申達置候

一 加人御使組井汲庄平松永市三郎今日ハ指戻候段大目附へ相届候

一 盜賊関助義備中足森人別之由申口ニ付橋本町年寄ハ聞合申遣候処

足森大年寄ハ返書指越逐吟味候処右躰之ものハ向方ニ者無之段申

越候右之段御用番并大目附へも相届候

一 大目附佐々木主馬ハ呼ニ來相越候処左之通被申聞候

一 茅町池上流濱義致箱訴候間右訴状御渡申候尤尚此上も当人并

組頭へ遂内談致内濟候様可被取計候尤組頭江も其段達置候

一 目明甚七今日ハ致出勤候間仮役若吉明朝ハ指免可申段百蔵届出候

六月十四日 雨

六月十五日 雨

一 半舍人盜賊関助ハ洗沢もの品々預り居候由中之町西屋治右衛門家

守倉敷屋伊助借屋住龜屋豊届書指出候

一金毘羅參詣止宿百六拾七人有之段山北屋伊兵衛帳面差出候

一 宗門改例歳之通取計候段大年寄届出候

一 德守宮納涼初日ニ付例歳之通昨夜栄治伝蔵指出候所無別条引取候

段今朝届出候

一 院庄川渡船留り候段午刻郡代所ハ申來大年寄へ申達候

一 兼田川渡船留り候段酉刻郡代所ハ申來大年寄へ申達候

六月十六日 曇 晴

一 院庄川渡船初り候段辰ノ中刻郡代所ハ申來大年寄へ申達ス

一 兼田川渡船初り候段巳ノ刻過郡代所ハ申來大年寄へ申達ス

一 長安寺町中夜念仏執行何濟候由郡代所ハ申來小頭大年寄へ申達ス

一 雲州能儀郡東赤江村修檢觀性と申もの去ル十四日伏見町吉田屋半

三郎方ニ致止宿候処熱氣強歩行不相叶候ニ付十日計逗留保養仕度

申候旨届書指出尤余程之義ニ付宿屋ハ在所へも申遣候様可取計旨

大年寄申出宜取計候様ニ申達ス同廿九日届

一 元魚町東側ニ而住屋市左衛門家屋敷表口七間六寸裏行拾七間但式

軒役也南隣ハ大庭屋善兵衛北隣ハ久里屋善兵衛也右家屋敷去巳ノ

四月相願質入ニ仕候処去申十一月元魚町靴屋伊助名前ニ而買取置

候処実ハ齋藤孫右衛門倅嘉藏買取候ニ相違無之ニ付右嘉藏名前ニ

付替度願指出承り届

一安岡町明石屋庄七借屋住しけ^并妹冬右二人西北条郡新田村七左衛門方へ引越度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届
一東新町作人喜市父源助義三月十三日西国順礼罷出候所足痛仕候付
今廿日計之追願指出承り届

一川端又六義今日致出動候付加人土井万兵衛今日指戻其段翌十八日出仕之上大目附へ相届候

六月十八日 晴

一御用日登城

一札元妹尾平兵衛義撰州能勢郡野間村妙見宮へ参詣十二日計之逗留
二 而 明十九日出立願御用番御聞濟^ニ 而 大目附へ指出置御聞届申達候^{七月朔日届}

一鍛冶頭鍛冶市郎右衛門義及老年候^ニ 付頭役^并御用達御免被下候様願書指出候^ニ 付右頭役之義遂評議候処鍛冶屋治左衛門と申もの源泉院様御入国之節^ニ 鍛冶頭被仰付四代迄致連綿鍛冶頭相勤罷在候処段々及困窮後^ニ 者 式人扶持^ニ 中間彦人^并 城代町^ニ 而 組屋^(ツ) 拜借被仰付寛政二年迄相勤居候所死去仕断絶被仰付夫^ニ 市郎右衛門老人相勤罷在右治左衛門も家筋之義御捨難被成筋之もの^ニ 付当時借屋もの^ニ 者 候得共仁物も宜町内^ニ 而 今以致尊敬頭役勤兼不申もの、由大年寄申出尤借屋もの^ニ 而 頭役相勤候例無之候得共同人義ハ格別之もの^ニ 候得^者 鍛冶頭被仰付候^而 も苦かる間敷旨大年寄共申出候付右治左衛門^并 市郎右衛門倅又一郎兩人^江 以前之通鍛冶頭被仰付可然旨伺書指添勘定奉行へ対談之上御用所へ指出置候委細之義^者 伺扣^ニ 有之^ニ 付爰^ニ 略之

一盜賊関助盜もの夫々相渡候段御用番中へ及御噂候
一昨夜観音^ニ 付例歳之通徳守官納涼警固文蔵又六指出候所無別条引取候段今朝届出候

一大目附廻状左之通到来

御家中之面々山川之殺生ハ達者之試候得共近来^者 得物を貪候処^ハ 風儀不宜候間士風を不猥^(ツ) 我察無之様可相慎之旨被仰出候

六月十九日

一下紺屋町長江朝庵義因州若桜宿近江屋周助方へ八十日計之逗留^ニ 而 来ル廿一日罷越度願承り届^{九月十九日届ル}

一大坂江戸堀三丁目坪屋新兵衛手代字八一人例年之通腰物小道具売^ニ 来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出^{同廿三日届}

一播州網干新在家村加賀屋善七手代忠治郎一人例年之通小間物卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出^{七月十四日届}

一安岡町岡崎屋善吉後家屋守作人太助借屋住田原屋金助夫婦倅右三人四国遍路百日計之逗留^ニ 而 明廿日出立願承り届^{九月廿八日届}

六月廿日 少白雨

一京町桶屋四郎兵衛兄登作義三月六日四国遍路罷出候処足痛仕候付今百日計日延願承り届^{八月廿日届}

六月廿一日 晴

一牢舍人贖礼懸り合古市主殿家来片山義平義久々病氣先日以來病氣指重り候段届置候処今未刻致落命候段牢番团助届出候^ニ 付御徒目附見分被指出候様大目附へ相届御用番中へも右之旨相届見分相濟候上別条無之候ハ、先格之通川向惣墓へ取捨可申付旨紙面^ニ 而 相

伺候処御承知之旨申来候依之小頭代文藏部屋目附百藏申刻立合見分指出候処御徒目附高橋三郎太下目附安井茂藏罷出遂見分候所申分無之旨文藏百藏届出候付惣墓へ取捨候様牢番へ申付右取計相濟候段届出候上其段御用番^并大目附へ相届ケ^并古市主殿へも右之段及通用候

六月廿二日

一 北郷門太夫長屋住嘉吉夫婦二人元来伯州会见郡川崎村孫右衛門悖^二四年以前放手形取り来居候付福渡町作人佐吉方へ引受度人別入願承り届尤送り手形も及見候
一 今九時^下役新左衛門小頭代文藏部屋目附百藏出番伝藏幸治召連牢屋^江相越左之もの共遂吟味候

穢多人足呼出牢間
取計之

無宿盗人 関助
石工盗人 源七
二階町 幾助
橋本町中島屋

幸助夫婦

右幸助夫婦先日以来手錠申付置候所今日幸助夫婦白状^二右関助義近来^者盜賊^二而も可有之段相察居候旨申口^二付手錠申付置候段翌廿三日御用所^并大目附へ出仕之上相届候

一 右吟味取計^二付組致不足加人老人今日当日切^二昨日大目附へ申達置候処下田弥三郎来

一 病犬出来候由相聞候付非人^江申付候様大年寄申達候

一 林田町へ牛子離来候由届出候付近辺相尋させ候様申達置候処牛主相知候付引渡候段翌朝届出候

六月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 橋本町中島屋幸助夫婦手錠申付置候段御用番^并大目附へ相届候
一新魚町村本屋太四郎方へ当月二日夕盜賊這入麻芋老束盜取候段去ル廿日届出今日御両所へ申達候

一 脇坂淡路守殿預り所勝南郡西吉田村忠助妹繁^并同人娘ゆかまつ右家内三人新魚町河本屋初五郎役介^二引受度願御用番中御聞濟^二付大目附へ指出置御聞届申達候^{七月十一日付書証文差出}

一 元魚町武川屋久右衛門借屋住佐伯屋庄吉^并同人母りん右家内式人真島郡垂水村弥右衛門方へ引越度人別除願右同断取計済

一 材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住清藏義去ル二月廿七日致出奔届出候所百日尋被仰付相尋候得共弥行衛不相知最早百日程出成候付人別除願右同断取計済

一 戸川町辻番所藤十郎義廿日晚方番所^二指置候裏表浅黄之寝巻布子老ツ五合入油德利一ツ被盜取候段届書指出御用番中へ申上触流候義大目附へ申達置町触取計候

一 林田町作人庄右衛門当三月^下入牢被仰付候所先日已来病氣差起り大病之旨医師^下承り伝候間病中出牢被仰付被下候様親類組合^下歎書指出尤医師吉武祐三^下も右之通届出候付元来上原彦藏受持之義^二付右歎書於別席上原彦藏へ及相談候処被受取候^二付相渡候処無程同人^下歎之趣御聞届被成候間病中出牢申付候様被申聞候付左候ハ、右歎出候^{親類組合}預ケ申付全快之節申出候様可申付旨申達置左之通申渡候様大目附へ申渡候

庄右衛門義病中出牢歎出歎之趣 林田町作人庄右衛門

御聞届被成御預ケ被成候間全快候ハ、 組合

早々可申出候 親類江

右申渡相濟候上出番 指出出牢相渡し右取計相濟候段御所へ相届候

一於御用所大目附出席一学殿左之通被仰渡候

鍛冶頭市郎右衛門義及老年職分難相勤願出候是迄之勤功ニ付 俸又一郎へ親之通申付候

右之通被仰渡候ニ付門松御合印も被差免候哉と大目附へ相尋候所猶又御用番へ被相伺候処門松御合印ハ以前も一緒ニ不被仰付候事故不被差免候段被仰出候旨大目附被相達候付左候ハ、鍛冶頭御用達計父市郎右衛門通ニ被仰付候様ニ認かへ可申渡哉又ハ右御書付之通申渡畢 而御合印門松者不被差免候段可申渡哉と猶又相尋候所御書付之通申渡置畢 而門松御合印ハ不被差免旨申渡候様ニ被申聞候付其通相認先格之通大年寄方ニ 而申渡候様ニ申付相濟候上御用番 大目附へ相届候

一元魚町肥後屋吉太郎方へ当月六日夕温鈍給ニ罷越候もの立島単物

一ツ盗取候由ニ相見へ候段届書指出承り届

六月廿四日 快晴

一元魚町武田祐吉所持之自国請酒株去申六月同町若本屋新助へ貸置候処右株当時伊丹屋徳兵衛相続仕候猶又右株来戌六月迄右同人借受度追願差出承り届 聖戌六月九日追願

六月廿五日 快晴

一元魚町ニ 而 百万遍執行届出夜廻りへ申達ス

一元魚町中野屋左助持来候古道具屋株当六月来ル寅ノ六月迄五ヶ年之間戸川町永野屋多助借受度願承り届

一堺町釘屋宗十郎持来候古道具屋株当三月来ル寅六月迄五ヶ年之間

宮脇町森原屋岩助借受度願承り届尤受人同町松の屋伝助 聖戌四月二日 取戻し候段届候

六月廿六日 快晴

一上紺屋町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一鍛冶町鍛冶頭又一郎義年寄役可申付旨伺出承り届 去ル廿三日申付候

一牢舍人弥助病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出候

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住喜庵義去申三月四国江罷出

追々日延願差出候所弥居所不相知候ニ付其段届出百日尋申付候

一種油四匁壳候処三匁五分壳仕候段届書指出承り置 十月八日除帳

一桶屋町小座屋利介義四国遍路八十日計之願ニ 而 来ル廿九日出立願

承り届 八月廿一日除帳

六月廿七日 快晴

一牢舍扶持拾四俵之内貸証文指出奥印書取計之但右ニ 而 七月中賄八

月へ式斗八升八合七勺五才持越候積

一中之町錦屋勘兵衛召仕友藏と申もの盜賊関助引合有之去ル廿四日

夕二前付申付勘兵衛へ預ケ置候処右引合携無之ニ相決候付今昼廻

り文藏為治より指免候様申付候

一東新町年寄玉屋伊 右衛門義十六年已前今年寄役相勤候処近来病身

ニ相成り難相勤役免願出無余義儀ニ付跡役同町橋本屋茂治右衛門

へ被仰付候様大年寄伺出候ニ付承り届ル

六月廿八日 快晴

一 御用日登城

一 板倉左近將監殿領分備中賀陽郡東村善左衛門娘かの義下紺屋町名

原屋忠兵衛妻ニ引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出

置御聞届申達候 同廿九日住宅証文指出

一 堺町豊屋太助家守福本屋伊兵衛借屋住平吉悱伝吉義兼々不所存者

ニ付異見を加へ候得共相用不申其上先月末頃出奔仕候ニ付親類組

合打寄り義絶勘当仕度願右同断取計相濟 七月四日勘当証文差出候

一 札元玉置卯左衛門悱為吉義備前山上之町赤穂屋徳右衛門役介ニ

指遣度人別除願右同断取計済

一 土屋能登守殿領分当国勝北郡福井村嘉四郎姉そめ義京町豊屋伊兵

衛借屋住人定藏妻ニ引受度人別人願右同断取計済 七月十一日住宅証文差出

一 南新座町臭橋作道五ヶ所有之候処追々作人替り候由ニ付右路次口

錠鍵受負相改候様大年寄へ申付先格之通町作庄屋方ニ而相改候処

千本準之助前路次口受負人難洪之趣申出候付錠鍵取上ケメ切ニ申

付其外四ヶ所路次口受負証文大年寄指出候ニ付受取置右路次口老

ケ所メ切ニ取計候段今日大目附へ相届濟勿論御用番へ八届ニ及聞

敷旨被申聞候

(庭敷場所不詳)

〔一〕件

〔一〕吉勘当願御聞濟之所

一 手島流講積是迄町会所ニおゐて北山修伯相勤来候所今般教信義教

論被仰付候ニ付以来者修伯相止教信へ相頼度勿論左様ニ致候得者

以来草履紙袋之世話も不仕入用も不指構旨先日喜左衛門伺出候付

伺之通宜取計候様申達置候付今日御用番中へ申上候所儒仏違も有

之義ニも候得共如何様とも宜取計候様被仰出候

一 御藏米六拾三匁五匁 町米五拾九匁五分

一 町方近来ハ先静謐之趣ニ相聞候付夜廻り非人加廻り今夕相止候

様御用番并大目附へ相達候上大年寄并小頭へも申達候

一金屋博奕出奔もの過料錢都合百貳拾四匁六分壹厘五毛大年寄相納

候

一 勝間田町大屋文吉方へ四月九日之夕盜賊這入夜着ニツ代ニ積り百

五匁程之品被盜取候所一向心付不申由乍延引届出候ニ付追而仕

之節可及御沙駄事

六月廿九日 快晴

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 雲州旅人修験勤性義去ル十六日伏見町吉田屋半三郎方ニ病氣ニ付

逗留いたし候所致全快今朝出立届出候

一 宮寺養錢等盜取候十一歳ニ相成候小盗人召捕候処戸島村半六孫坂

次郎と申もの、由申出候付郡代所江懸合候処下方目明場合ニ而引

渡呉候様申来り候ニ付相渡候様ニ文藏百藏へ申付候

一 徳守宮名越拔ニ付先格之通町方炆灯指出候段大年寄の届出候

一 右同断ニ付為警固文藏伝藏指出候所無別条引取候段翌朝届出候

一 西今町永田屋喜七方へ昨廿八日夕盜賊這入衣類四品代三拾八匁位

被盜取候届書指出追而仕之節申上触流可取計候 七月十二日町方無名届出候

一 町方夜廻り昨夕の相止候処右之通盜賊入込殊ニ西今町之義ハ柳土

手引受之場所ニ付左様之不埒有之候而ハ不相濟候間急度申付目明

非人共一己之心得を以自身忍廻り等いたし候程ニ可申付旨夫々江

申達候

七月 大

月 番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 上原彦藏

大年寄 斎藤孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

七月朔^乙旦^亥 快晴

一昨夜五ツ半時頃戸川町^ニ 而 塀和上之口村出生之民と申女目明孫兵

衛俸岩吉を呼出し小刀^ニ 而 三ヶ所計少々疵付自身^ニ も自害致懸ケ

右小刀^ニ 而 咽^ニ 突立往来^ニ 倒臥候由追々届出候然ル所名越警固文

藏伝藏引懸ケ^ニ 付立寄猶又百藏へも委細申含指出候所右女ハ塀和

出生之もの^ニ 者 候得共久々当地へ来居候由^ニ 而 按摩取一庵後家姪

ニ候由併彼方^ニ も近来ハ不差置候由^ニ 而 塀和村人別之有無耽と不

相分候^ニ 付年寄場合々聞合として塀和村へ飛脚指遣置官地東庫相

頼疵所見分仕候上治療取懸り候所双方共疵ハ少之義^ニ 而 命分^ニ 氣

遣ハ無之由右女孫兵衛へ預ケ岩吉義ハ組合へ預ケ置今午刻前文藏

百藏伝藏罷歸り右之段申出候付其段御用番中へ罷越相届大目附へ

ハ紙面^ニ 而 相届候

一右之通之変義^ニ 付孫兵衛義引込候間仮役松尾屋源之丞^江 可申付旨

小頭代伺出承り届候

一元魚町斎藤嘉藏家守文助借屋住作人兵治妻義家風^ニ 入不申候^ニ 付

娘品相添離縁仕右妻親元植木左士組鉄炮町田口広治渡り屋敷住伊

兵衛方へ指戻度離縁願承り届

一戸川町岩吉へ疵付候女民義人別之義町役々塀和村庄屋へ聞合^ニ 指

遣候飛脚夜^ニ 入罷歸り右女父伝藏と申もの塀和上之口村^ニ 而 致渡

世居候得共帳外もの^ニ 有之勿論右女ハ猶更之義向方懸り合無之候

間無差構勝手次第取計可申候由申越尤右伝藏義向方^ニ 居候事故罷

越候様内々^ニ 而 申付差遣候段申越返書大年寄々指出翌二日御兩

所へ紙面^ニ 而 相届候

七月二日 少時雨

一牢舍人盜賊関助義公田安養寺^ニ 而 脇差一腰風呂敷巻ツ先達^而 盜取

候由右脇差橋本町佐^{一ノ}と申もの相頼材木町^三家屋猪太郎方^ニ質物
「^一」候由安養寺^ノ懸合来候段内々伺出候付右関助義相糺候所弥
無^レ違付内々^ニ而目明場合^ノ懸合相渡候様申付候所今日引渡相濟
候段目明甚七^ノ申出候尤^ニ拾匁之質物^ニ而半銀橋本町^ノ致弁銀候
由^ニ相聞候

一御藏米六拾貳匁五分 町米五拾八匁五分

一無宿盜賊伝藏と申もの^ニ宮原^ニ而西今町岩見屋善四郎作廻候朝
瓜三荷計盜取茅町広原屋善太良と申もの^ノへ右瓜四十七代式匁^ニ壳
候由双方^ノ届書指出候処右無宿盜賊伝藏と申もの^ノへ去ル廿八日御
聞届之堺町利三郎事平吉悻伝吉と申もの^ニ而親勘当もの^ニ而候由
被盜主^ノ召捕目明へ申聞候由目明共^ノ届出候^ニ付出番又六指向入
牢申付置翌日出仕之上御両所へ相届候

七月三日 小雨

一御用日登城

一久世御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世原方村角屋善三郎
娘鶴義西今町磯屋勤治妻^ニ引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目
附へ指出置御聞届申達^{置西日住宅並文指出}

一船頭町船本屋佐助娘さき義脇坂淡路守殿預り所英田郡倉敷村尾原
屋伊兵衛妻^ニ差遣度人別除願右同断取計濟^{六月六日羅緒住}

一茅町広原屋善吉借屋住作人伊助義脇坂淡路守殿預り所当国久米南
条郡福渡村松右衛門方へ引越度人別除願右同断取計濟

一去ル廿八日廿九日認置候勝間田町大屋文吉^并西今町永田屋喜七方
へ這入候盜賊届書御用番中へ差出町触之義伺濟候^ニ付触書取計候

一戸川町岩見屋孫兵衛悻岩吉へ疵付候女孫兵衛へ可預ケ置筋^ニ而著
有之間數御用番中御察度有之候^ニ付右女町内預ケ^ニ預ケ替候様大
年寄へ申付其段御両所へ相届候

一盆中町触例歳之通指出候

一船出入一件川下小瀬村源右衛門ヲ四ヶ年已前午八月打こわし候御
下知有之明四日被仰渡有之由^ニ候旨土居三郎平倉敷代次郎^ノ檉野
茂一郎方へ内々申越候由^ニ而藏合孫左衛門^ノ左之通指出候付極御
内々御用番中へ出仕之上指出候尤未御達無之内之義故具々も沙駄
致間數旨堅頼来候右御答計写置候

先達^而被相伺候其御預り所作州小瀬村源右衛門宅へ同国塚角村
義助其外之もの共罷越及狼籍候一件伺之上安藤对馬守殿依御差
図御仕置之義左^ニ申達候

過料三貫文 龍野預り所作州小瀬村庄屋 源右衛門
所払 松平上総介領分備前田原村船肝煎 惠助

江戸払 同 西大寺村 忠次郎
但御構場所徘徊致間數候

中追放 同 田原村名主 甚吉
御構場所同断

過料三貫文 同 坂根村大庄屋李右衛門
重追放 龍野預り所作州塚角村船持 儀助
御構同断

重追放 土井大炊頭領分作州栗子村船持
御構同断 三吉

所払

右三吉兄 万吉

所払

同

同村船持 岩次郎
寅次郎

過料式貫文

同

塚角村船持 十三人

右同断

栗子村船持式拾耆人

右同断

龍野預り所大戸下村船持 四人

右同断

久木村船持 三人

急度叱り

栗子村庄屋 浅次郎

過料三貫文

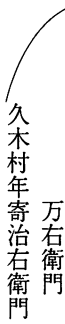
船肝煎 善右衛門

塚角村庄屋 橘次郎

大戸下村庄屋又十郎

急度叱り

久木村庄屋兼帯山之上村庄屋
万右衛門



存命候ハ、所払

塚角村船持 忠助

存命候ハ、過料三貫文

同村船肝煎 忠藏

一右之外吟味付呼出候もの共ハ咎之不及沙駄

右之通夫々領主家来為立会申渡甚吉儀助三吉忠次郎ハ銘々御構

場所書付相渡一同証文取之右証文相添申渡相濟候月日早々可被

申聞候且過料錢者三日之内其役所へ取立御勘定所へ可相伺候追

放候もの欠所之義其外御構場所并御仕置除日書付とも別紙

相達候以上

西六月十一日菅沼下野守印

脇坂淡路守殿

御預り所役人

一 小性町百万遍執行届出候

七月四日 大風雨

一 院庄川渡船留り午刻郡代所申来大年寄へ申達候

一 兼田川渡船留り未刻郡代所申来大年寄へ申達候

一 戸川町岩見屋孫兵衛倅岩吉へ堀和上之口村住帳外源藏と申もの娘

民義疵付一件上之口村右女父源藏と申もの来内済仕連帰り度旨

申候由孫兵衛願下ケ願書指出御用番中へ持参相伺候処無程思召

無之候間宜取計候様被仰出即刻可相達候処及深更候付翌五日早朝

内済願下ケ御聞届大年寄へ申達大目附も右之段相届候

一 牢番預ケ関助并伝藏義昨三日入牢取計指紙差遣候

一 西今町菱屋治兵衛孫次助義当正月下旬関参り病氣付五月廿九

日日延願差出候処未相勝候付今廿日計逗留日延願承り届

七月五日 曇

一 院庄川渡船初り候段辰ノ中刻郡代所申来大年寄へ申達候

一 兼田川渡船初り候段巳ノ刻前郡代所申来大年寄へ申達候

一 二階町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一 御藏米六拾壹匁五分 町米五拾七匁五分

一 兼田川渡船留り亥ノ刻郡代所申来大年寄へ申達候

七月六日 晴

一 兼田川渡船初候段辰中刻郡代所申来大年寄へ申達候

一 目明孫兵衛出勤付仮役源之丞指免候

一 大目附上原彦藏ハ呼ニ 来相越候処左之趣被申聞候

一 昨夜川戸御藏へ盜賊這入御藏かへ余程落し横こまへハ吉本切取候ハ得共夫切之事ニ 而別条無之候当役筋考も可有之ニ 付申達候様御用番被仰聞候

一 船頭町今津屋橋上之腰石垣ニ さ、げ植有之由ニ 相聞候間 早々取捨候様可取計候尤不埒之段不及札候

右御藏盗人之義百藏を以目明孫兵衛へ申付候所翌七日罷越逐吟味候処全素人小盗人之仕業ニ 而内へ這入御米を盗出し候手段とハ不相見さしニ 而少々刺取候積之様ニ 相見へ先別段ニ 手当も無御座ニ 付忍廻り可仕候旨申出承り置

右船頭町腰石垣さ、げ植之義即刻大年寄へ申付候処早々取捨させ候段翌朝届出候

七月七日 晴 曇 少時雨

一 伏見町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

七月八日 快晴 夜大雨

一 御用日登城

一 二町目伏見屋茂七義同人甥坪井町河原屋治助義存寄ニ 不相叶候ニ 付義絶仕度願書指出先例取調候得共見当り不申依之郡代所聞合候所是以前先例無之由ニ 付大目附へ及内談候処先例無之候共無余義趣ニ 候得者 御聞届可有之事ニ 候得者 御用番中へ相伺可然旨挨拶ニ 付御用番中へ指出候所御受取被置候

一 馬持共例年之通大豆壹俵つ、拝借願指出勘定奉行へ引合候上御用番江 指出候所御聞濟ニ 付大目附へ指出置候

一 例歳之通来ル十四日廻町可仕段御用番并 大目附へ申達并 御貸人馬之義大目附へ申達尚又小勘者へも懸合置候

一 盆中例歳之通町方関貫開立番付置候段御両所へ申達候

一 郡代所取計無宿盜賊宇吉義敲追払ニ 先達而 相極居候ものニ 付役筋へ被仰渡候姿ニ 相心得取計候様先月大目附ハ 相届右手配夫々申渡候右取計ニ 付組老人致不足候間加人老人大目附へ申達候所河村新吾来一石工盗人伺書之内忠太家主組合御答御不審被仰出候付認かへ指出候処伺之通被仰出候

一 寺院宗判取例歳之通廿日ハ 廿三日迄ニ 取計度書付大年寄指出寺社

取次野条金平へ相渡候

七月九日 雨 晴 曇

一 於牢屋御徒目附河村市兵衛下目附還八小頭代文蔵部屋目附百藏立会文蔵ハ 左之通申渡之出番藤四郎

所々盜相働候ニ 付百敲之上

無宿盗人

御領分追払

宇吉

右取計相済候段御両所へ相届候

△右盗人宇吉盜取候米大豆代合三拾式匁四分六厘茅町坂本屋佐助後家へ相渡候

△右宇吉盜取候間鍋代杓可返所無之ニ 付郡代所懸合候上欠所ニ 取計候

七月十日 曇

一 御掘掃除料例歳之通式百八拾九匁分四厘大年寄指出候作事江 為

持遣御作事奉行分受取書取玄闕ニ張置

一八朔割惣町入用帳面左之通指出及一見指戻候

三貫四百九拾式匁式分六厘

但老貫文ニ付百三拾三匁三厘八毛五 尤昨申分ハ三^百五^拾三匁

七分五厘減

一元魚町米屋鹿之丞役介連吉義当五月十六日大坂^江奉公ニ罷出候所

病氣ニ付罷帰候段届出候尤右運吉義ハ住屋市左衛門^ニ候故其

旨ニ相願候処市左衛門義當時借屋もの^ニ而米屋役介ニ相成居候故

当五月市左衛門^ニ願出候^者誤也

一下紺屋町出口屋佐助孫女清義十六才ニ相成候所当月二日致家出相

知不申候由届書指出候ニ付百日尋申付候^{十一月十八日除帳}

一林田町山本屋友三郎義久世支配所大庭郡赤野下村権兵衛分銀子五

貫目取次大久保安芸守殿領分久米北条郡宮部村平弥へ貸渡候処指

滞候ニ付西川役所へ出訴仕度添簡願出候ニ付添簡下案相認御用番

中へ罷越し相伺置候処無程思召無之候間宜取計候様ニ申来候ニ付

大年寄へ右願承り届候間出立日限相極候ハ、添簡可相渡旨申達置

候尤大目附へも達置候^{同廿六日相渡 廿八日出立}

一備前和氣郡香々登村勘九郎悴平藏義九年以前寛政五丑四月船頭町

今津屋孫十郎養子ニ引受居候所離縁仕度人別除願孫十郎後家分差

出候御用番中へ罷越相伺候処無程御聞濟申来大目附へも紙面^ニ而

申達置御聞届大年寄へ申達候

七月十一日 曇 少時雨

一郡代所分去暮金屋村博奕参会之節船頭町源治商ひ道具指置候右ハ

下方^ニ而為引渡可申哉又ハ役筋へ可相廻哉と尋来候付下方^ニ而被

引渡候様^ニ及返答候

一牢舍人弥助休薬届出候

一西新町升屋惣兵衛方へ昨夜盜賊這入木綿布類^并銀札等都合六品代

五拾六匁八分位盜取候届書指出候追^而及御沙駄触流可取計候

一当国東北条郡物見村藤兵衛と申もの回国ニ罷出讚州多度郡沢田村

^ニ而病氣付同所分送り出し古城^江へ送り来候旨郡代分通用有之候^ニ

付継送り候様大年寄へ申達候

一西今町南側^ニ而作屋庄兵衛所持之家屋表口三間裏行拾五間但三步

三厘役東隣ハ辰野屋喜助借屋西隣ハ直屋孫四郎借屋也右家屋敷質

物ニ書入銀札壹貫式百目来戊三月切一ヶ月老步三朱之利足^ニ定三

倉屋善四郎取次^而借用仕度願承り届^{同十二日本館文指}

一牢屋払六拾老匁八分四厘牢番^江相渡候

一牢屋取計之節酒代拾三匁式步牢番へ相渡候

七月十二日 快晴

一安岡町初屋伊兵衛役介宇助義四国遍路^并九州大社参詣来戊七月迄

之逗留^ニ而明後十四日出立願承り届

一関貫番質銀例年之通相渡候

一播州網千余子浜菊屋弥七郎悴源次郎一人例年之通小間物卸売^ニ来

候段中之町甲屋幸助宿切手指出^{九月十九日始}

一目明義先月廿八日已後自分心得を以忍廻りいたし居候所此節有明

月^ニも相成候間一先ツ相止させ可申哉と文藏分伺出候ニ付明夕分

相止候様ニ申達候

七月十三日 快晴

七月十四日 快晴

一 例年之通盆中廻町七半時罷出無別条段帰り懸ケ御用番中へ相届大目附へハ馬脇を以て相届四時前帰宅供廻り先格之通若堂又六藤四郎

七月十五日 曇 晴

一 安岡町久米屋鶴藏大峰参詣廿二日計之逗留ニ而 来十七日日出立願承り届四日届

一 堺町小坂屋平兵衛右同断廿日逗留十六日立承り届八月四日届

一 安岡町打穴屋友八（福屋町）綱治屋文右衛門同治郎左衛門大黒屋喜兵衛右同

断八月四日届

一 坪井町山陰屋平六右同断願廿日逗留十七日立八月四日届

一 坪井町尾上屋喜兵衛右同断願

一 茅町中屋宇之助右同断願八月四日届

一 西今町山陰屋和兵衛（福屋町）小坂屋彦治水の屋安兵衛右同断願八月五日届

七月十六日 快晴

一 同心組萩野左五兵衛義久々病氣之処養生不相叶死去仕候段小頭代文藏届出候

一 石工盗人貞藏源七義御裁許来ル十八日可取計旨引合有之ニ付寺社

取次野条金平并郡代所へ及通用候

一 中之町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

七月十七日 快晴 少時雨

一 牢屋諸人用七月払之内貸証文六拾壹匁八分四厘先日取替置候分証

文差出奥印書取計之

一 仮目明酒代正月の七月迄之分式拾匁之証文差出奥印書取計之

一 石工盗人貞藏源七一件御裁許明朝可取計ニ付御徒目附被差出候様ニ大目附へ申達并右ニ付加人壹人当日切被仰付候様ニ申達候所河村藤兵衛来ル其外手配夫々申渡候

七月十八日 快晴

一 御用日登城

一 今六半時揃於牢屋御徒目附河村市兵衛下目附池上利兵衛小頭代文藏部ヤ目附百藏出番為治藤四郎立合左之通取計之

所々ニ而 石塔盗取候付百敲之上

御領分追払

妙法寺ニ而 石塔盗取候ニ付五十敲之上

御領分追払

所々ニ而 墓石盗取候付五十敲之上

御領分追払

盜賊筋携無之候得其夫追払ニ相成

其上帳外ものニ付御領分立去リ

其方借屋住忠吉義盜賊相働候ニ付

同人妻も急度御吟味も可有之ものニ候処

兼而帳外者之由ニ而 不伺出我俣ニ受人江引渡重々不埒至極ニ付追込 但日数十日

右同断申渡之上右組合之内福見屋吉兵衛方ニも 右組合

盜賊貞藏数日留置重々不埒至極ニ付追込 日数右同断

右源七貞藏数日留置候付

追込 但日数七日

伊藤主水長屋住 貞藏

無宿盗人 源七

西今町作人 忠太

右同人 妻

西今町直屋 孫四郎

右組合

同町 磯屋 勘治

右之通不埒至極^ニ付急度叱

同町 年寄三人

右貞藏數日差置候付追込 三日

船頭町内野屋

与吉事善七

右^二兩人貞藏受人^ニ付追込 五日

下紺屋町作人勝左衛門
西今町小畑屋紋吉

△右忠太妻ハ牢屋門前へ呼出し小頭分申渡之其余ハ大年寄宅^ニ而小頭部屋目附立会申渡之

△忠太家財御境目へ持七行可相渡哉と年寄伺出候由文藏分伺出差構無之候間勝手次第可致旨及差図候

△右貞藏分西今町古金屋鹿之丞脇差老腰拵^ニ付兼^而預り居候由^ニ而可相渡哉と伺出候^ニ付貞藏所持^ニ相違無之候ハ、勝手次第指戻候様^ニ及差図候

様^ニ及差図候

△右盜取候石塔多ハ無施主殊^ニ白削直し候故難相分^ニ付施主有之分計為差戻其余ハ其俣^ニいたし可置伺済^ニ付追込差免之上ハ大円寺

分役僧指添施主召連忠太宅へ被指出候ハ、石塔可相渡旨寺社取次金平へ懸合置候其余ハ無施主^ニ付愛染寺へ返し置候様可申付事且

又此訳八月三日之処^ニ記置候引合可^ニ見候

△右取計済御用番へハ手紙^ニ而相届大目附へハ出仕之上申渡書指出候

△右直屋孫四郎組合之内常屋文兵衛弟平吉義銀札場判摺手代^ニ付出入之義伺出候付御用之義^ニ候得^者無余義義^ニ付ひそか^ニ隣家或裏

分出入可然旨及指図候

一御代官布施孫三郎殿支配所当国勝北郡植月東村玉之丞娘きよ義元

魚町油屋与三兵衛借屋住龍野屋百助妻^ニ引受度人別人願御用番聞済^ニ付大目附へ指出置御聞届申達候^{八月三日住宅蔵文並出}

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住橋屋源吉妻^{并娘}人右三人^而

先達^而致出奔四月二日百日尋申付置候処最早百日余^ニ相成除帳願

指出右同断取計済尤右ハ源吉と一所^ニ致出奔候処源吉一人除帳相

濟居候所右家内三人未除帳^ニ不相成居候付今般願出濟

一西新町大和屋利兵衛方へ去ル十二月夕盜人這入衣類二ツ^并羽仁村

船頭利左衛門布財布内^ニ銀札百三拾匁金老分式朱有之を盜取候届

書御両所へ申達尤右財布ハ林田上之町之もの拾候由^ニ而届出候由

早速手錠打被置候処右之内帷子無之^ニ付触流し取計候様郡代中被

申聞其段及御沙駄取計候<sup>同廿九日無之
役申出候</sup>

一西新町升屋惣兵衛方へ去ル九日之夕盜賊這入候届書御用番中へ指出候尤委細十一日之処^ニ記置候

一船出入一件龍野御下知写大目附分被指戻密書之義^ニ付藏合孫左衛

門へ渡置候

一二町目伏見屋茂七義甥と義絶願去ル八日御用番中へ指出置候処今

日御紙面^ニ而先例無之義故御聞届無之旨被仰出候付其段大年寄へ

申達し願書指戻し候

一船頭町年寄一人欠居候間境町美濃出屋清右衛門義同町持家も有^ニ

付同人^江年寄役申付度伺出承り届

一牢舍人千代藏手^ニ腫物出候由^ニ而醫師願出大年寄へ申達候所藤木

良全へ申付候

七月十九日 晴 夜少雨

一橋本町徳島屋忠助借屋住塚屋藤助と申もの昨十八日四時宮川大橋之上ニ而小風呂敷包巻ソ内ニ空色惟子紋二重輪之内ニ影桔梗之紋付たるを沓ッ拾候段届書指出候ニ付先格之通其所ニ張紙取計可申段紙面を以御用番中へ相伺候所何之通被仰出候ニ付其段大目附へも相届置大年寄へ申付候

七月廿日 雨

七月廿一日 雨

一船頭町内野屋善七追込昨日迄ニ而三日ニ相成候付今朝差免其段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

一茅町池上流湊義先達ニ而井崎屋十右衛門と出入一件内済被仰付候所内済受ケ不申由扱人先日届出候ニ付流湊呼出相糺候上届出候様ニ申付置候所病氣ニ而罷出不申漸今日罷出候付相糺候所弥内済受不申違背仕候段大年寄今届出勿論禁足申付置候段申出候付明廿二日召連罷出候様大年寄へ申付夫々手配り申渡右ニ付加入者人大目附へ申達候所松永市三郎来

七月廿二日 快晴

一茅町池上流湊呼出候所病氣ニ付断申出候ニ付夫々江延引申達加入松永市三郎其俵差戻候

一西今町湯田屋太郎左衛門義大坂大川町綿屋義兵衛方へ廿日計之逗留ニ而明廿三日出立願承り届

一町方ニ而懸ケ将基掛ケ双六致流行候風聞相聞候付町々年寄共呼出急度相止候様演達候様大年寄へ申達候

一船頭町船本屋佐助娘当月十一日出産兼而月取間違御届可取計并出

産届も延引候段叱可取計旨伺出承り届候

一西今町玉屋吉右衛門借屋住山崎屋長藏義当四月朔日夕盜賊懸ケ合ニ付年寄宅ニ而組差向遂吟味候処其場合致出奔嚴敷尋申付候所行衛不相知候段届出候ニ付永尋申付尤右長藏合被相頼候而鍛冶町塩屋庄助義二町目小倉屋忠兵衛方ニ而古手調遣候処代銀未相済致催促候処右為引宛古蚊屋二単物一夏羽織一長藏より差越候ニ付小倉屋相渡置候段兼而届出有之候ニ付右長藏買取候古手者西今町正田屋質物ニ有之旨兼而長藏申口ニ付庄助合相對を以右古手を取戻し小倉屋へ相渡右引宛ニ遣置候古手ハ塩屋庄助方ニ預り置候様可申付旨大年寄へ申達候同廿六日預り一札差出候

七月廿三日 快晴

一御用日登城

一茅町山広屋五兵衛借屋住三家屋武藏義脇坂淡路守殿支配所久米北条郡宮尾村茂市方へ引越度人別除願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一牢屋破損届書指出大目附へ指出候

一石工貞藏受人下紺屋町勝左衛門西今町小畑屋紋吉追込昨日迄ニ而五日ニ相成候ニ付今朝差免其段出仕之上御所へ相届候

一御使組木藏番所ニ相勤居候日下喜助義致番代右夫婦男子者人家内三人伏見町古金屋善七引受度人別人願承り届

七月廿四日 雨

一昨夜文蔵百藏時治更廻り西之方相改候処別条無之段今朝届出候一明廿五日郡代牢屋吟味罷出候由申来夫々手配申付当役ニ而も吟味

可取計ニ付組致不足加人三人当日切大目附へ申達候所并汲庄平野田数右衛門河村新吾来

一美濃職人町百万遍執行届出廻之組之者へ申達候

一大目附上原彦藏左之通演達有之郡代所江も申通候

御用番要人殿御不快并御家内病人有之ニ付今日一学殿月番

被相勤候

七月廿五日 晴

一西今町磯屋勘治追込昨日迄而七日ニ相成候間今朝差免候段御両所へ相届候

一昨夜同心組文藏栄治伝藏幸治更廻り東之方へ指出候所東新町紺屋

万治方而左之もの共博奕参会いたし居候ニ付召捕届出候

元播州室出生当時無宿

重兵衛

元備前岡山新町当時無宿

藤十郎

播州佐用郡長谷村殿野町

勘治

真鳥郡乗水水村

長吉

元西新町当時帳外

大黒屋藤七

元河原町当時帳外

嘉市

宿東新町

紺屋万治

右他国他領もの四人ハ其場而追払申付当所帳外藤七嘉市并二宿

紺屋万治三人手錠懸ケ組合預ケニ申付置其段御用番并大目附へ相

届候

一今九時左之もの新左衛門文藏百藏孫右衛門喜左衛門出番加人数右衛門庄

平而左之もの共呼出遂吟味候

牢舍人無宿盜賊 関助
中島屋幸助義段々遂吟味候処 橋本町右関助宿中島屋

宝曆十二年九月二ノ宮而夜籠之女を奪取候 幸助夫婦

中島村權助と申ものニ相決候付旁以幸助一人入牢

申付其段御両所へ相届候尤同人妻ハ矢張手錠組合

預けニ申付置候并幸助義宿賄も申付置候

林田町上田屋三之丞事

久平

委細及白状候

牢舍盜賊元堺町住 伝藏

一郡代中今五時過牢屋吟味被参候付番時治又六朝夕代り合相詰候

一郡代所新田村仁兵衛孫定吉と申もの牢番預ケ申来又六取計之

一右同断下横野村帳外久右衛門入牢申来手形相廻又六取計之

一橋本町年寄山形屋藤吉義大坂大川町淀屋橋前美作屋辰三郎方へ廿

日計之逗留而来ル廿八日出立跡役ハ材木町年寄伊太郎へ頼置候

願差出承り届八月廿三日届

七月廿六日 曇 夜雨

一茅町大坂屋浜吉雲州大社参詣十七日之逗留而明廿七日出立願大

年寄指出承り届八月十日届

七月廿七日 晴曇

一牢舍扶持拾老儀内貸証文指出奥書取計之右而八月中賄九月へ三

合七勺五才持越候積也

一西今町万屋市右衛門悴辰治義今般塩屋管内と相改小須賀一学殿長

屋へ引越奉公為仕度ニ付人別除承り届

一寛政八辰五月奉願伏見町紙屋伝吉買取候橋本町松田屋佐助家屋敷表口三間裏行拾貳間但半役也北隣ハ中島屋幸助南隣ハ浅本屋源藏後家也右家屋敷代銀札三百五拾匁相極伏見町紙屋伝吉買置候得共実ハ下目附本沢茂市被買取候所奉公人之義故名面借し置候所右本沢茂市義下目附致番代其後御城代組相勤居候所是又致番代當時桶屋町内海察州■致相談同町へ人別入いたし居候所橋本町へ引越商売仕度右ニ付宝珠屋茂市と名面付替度願相違無之旨大年寄申出承り届

一牢凌申付候所無別条候段又六為治届出候

七月廿八日 快晴

一御用日之所拙者義不快ニ付三浦十郎左衛門を以当病御断仕^并御用向同人^江相頼遣候

一西今町直屋孫四郎^并右組合追込昨日迄ニ^而十日ニ相成候付今朝指免右之段紙面ニ^而御両所へ相届候

一林田町山本屋友三郎西川へ出訴^今廿八日出立届出候付一昨廿六日添簡相渡候

一御代官篠山十兵衛支配所播州赤穂郡原村嘉四郎弟武八と申もの二階町組屋忠右衛門家守弥兵衛借屋住品屋恵十郎引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置候段十郎左衛門の申来御聞届申達候 八月九日生誕文差出

一脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡福渡村助次郎妹はつ義寛政元酉三月三町目太刀屋久治引受候処今般親元へ差戻度人別除願右同断取計済

一西新町大坂屋利助借屋住治郎八夫婦式人此度伯州久米郡新田村角兵衛方へ引越度願右同断取計済

一西今町三倉屋善四郎方へ去ル廿六日夕盜賊這入銀札四拾匁余^并筆筒ニ有之候立島紙入一盜取候届書右同断取計済尤触流ハ不取計候

一東新町紺屋方治方ニ去ル廿四日之夕博奕参会ニ^而召捕候元河原町住ニ^而御城代組相勤居候池上伝吉当時嘉市と申もの河原町ニ居候者 十四五年以前之事ニ^而番代後何方^江も入帳不致昨申年一ノ宮

ニ^而鬼太と申ものニ被切候其節ハ林田上之町文太郎と申もの方ニ帳外ニ^而居候由ニ^而其節郡代所ニ^而立去り被申付候ものニ^而其外

何之聊も無之ものニ付昨年立去り相成候もの故一段重く取計可申筋之もの哉ニ付目明場合ニ^而御領分境へ連行追払可然哉と奉存此

段十郎左衛門を以御用番中^江相伺候何れ者人先へ裁許可致ものニ無之^并目明場合之取計も御承知無之ニ付帳外もの、取計筋同人

の申述候得共何分ニも御承知無之ニ付左候ハ、本途之吟味ニ可取計哉と相伺候何れ其通ニ取計候様御差図有之候由十郎左衛門の申来候仍^而近日入牢可取計事

一小川兼助横関貫去ル廿四日之夕不埒有之候ニ付左之通伺済之上申付候

去ル廿四日夕小門開置番所ニ不居合 小川横関貫番人
不届至極ニ付追込申付候 但日数七日 善助

其方町内引受之番所之義候処兼^而心付薄 境町年寄月番
処の右躰之義出来不埒ニ付急度叱置候 平右衛門

右大年寄宅へ百藏指向申渡取計済御両所へ相届候

一宮脇町武田屋祿郎兵衛義因州用瀬玉屋助左衛門方へ十二日計之逗

留^ニ 而 明廿九日出立願大年寄承り届差出 八月十二日延願承り届

一元魚町福井屋喜七當時改名いたし広野屋長兵衛と申もの一昨申年
今北村分悪水抜柳溝末^ニ 三白付水車沓ケ所相願稼候処水抜悪敷候
^ニ 付当六月朔日相止候付冥加銀沓枚差上候義御断申上水車相止度
願差出郡代所へ引合候所承り届候由申来候付聞届申達候

一安岡町河本林幸姉しん義御領分西北条郡上河原村平三郎役介^ニ 差
遣度人別除下方引合相濟候由大年寄申出承り届

一桶屋町作人長藏役介市之丞妻りよ義去ル廿一日夕致出奔行衛不相
知段届書差出例之通百日尋申付候 十一月十八日届候

一中之町三宝屋宗兵衛所持之他国受酒株去申八月十八日坪井町倉敷
屋利八借受候所差返し度願承り届

一元魚町東側^ニ 而 斎藤嘉藏所持之家屋敷表口七間六寸裏行拾七間但
式軒役也北隣ハ久里屋善兵衛南隣ハ大庭屋善兵衛也右家屋敷代銀

三貫式百五拾匁^ニ 相極メ京町海老屋長右衛門へ売渡願承り届右
ハ元住屋市左衛門家也 八月二日宛状出

一美濃職人町三笠屋伊右衛門悱忠吉義四ヶ年已前三月八日御領分西
々条郡二ノ宮村伊助借屋へ引越候所此度罷帰候付帰住願下方引合
相濟候段申出承り届

七月廿九日 晴

一東新町紺屋万治方^ニ 而 博奕参会^ニ 付召捕候大黒屋藤七義^ニ 二三年已
前今伯父西新町大黒屋藤藏方^江 立帰り忍居候由申口^ニ 付相糺候所
無相違^ニ 付昼廻り栄治時治今西新町大黒屋藤藏へ預ケ申付候

一西今町直屋孫四郎方へ去ル廿六日夕裏堀を切盜賊這入候趣^ニ 候得

共粉失ものハ無之旨届書昨廿八日差出承り置

一西今町永田屋喜七義大坂大川丁玉子屋九郎兵衛方へ廿日計之逗留
^ニ 而 八朔日出立願大年寄承り届差出候 八月十六日届

七月晦日 雨

一戸川町打穴屋長七義和州大峰参詣願大年寄承り届指出候 八月十八日届
一元魚町縫屋清助備前札通用仕候御裁許伺濟候由上原彦藏今郡代所
へ一諸^ニ 下り候由郡代所今通用有之候

一茅町百万遍執行届出夜廻りへ申達候
一茅町岡崎屋善吉後家借屋住庄五郎と申もの去暮御年貢不相納致出
奔右未納受人今相払候様郡代今懸合有之左様ハ難申付旨六月六日

及返答候所伺^ニ 相成右^ニ 付大目附上原彦藏今呼^ニ 来罷越候所左之
通被申聞候
御年貢不埒ハ不相成義^ニ 付受人今相払候様可被申付旨被申
渡候^ニ 付於町方も後難有之義故即答も仕兼候間得と考候上
^ニ 而 不日御返答可申旨申置候

一三町目余田屋与七郎義大峰参詣願大年寄承り届指出 八月十八日届

一安国寺飼犬大病犬^ニ 相成候間打殺候様大目附今申来其旨大年寄へ申
付候所翌八朔朝打殺候段届出候

一紺屋町熊屋源右衛門悱新七義夫婦喧嘩いたし昨夜妻^ニ 疵付候由届
出部屋日附百藏出番為治差向疵見分^并 新七手錠申付候
一牢舍人多七伝藏相牢^ニ 而 致口論昨日梳を以多七へ疵付候由牢番今
届出尤跡ハ相納り相牢^ニ 而 も氣遣ハ無之旨届出候追^而 過対可申付

事

八月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢

大年寄 藏合孫左衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

八月朔^甲 巳旦 雨

一八朔^ニ付旧格之通惣登城例之通御奏者大目附三奉行一同於七間廊
下御祝儀申上済

一紺屋町熊屋新七夫婦喧嘩^ニ付昨夜百藏為治指出候所今朝罷帰り疵
所遂見分候所^ニ而頭中と肩と両所^ニ疵付頭中疵ハ深疵^ニ而既
^ニ危位^ニも跡見春鷗申候所同人療治いたし候所今朝ハ趣も宜大方
氣遣ハ有之間敷旨申候由尤右妻ハ土岐美濃守殿領分^ニの^ニ而未
人別人も不相願候由甚不埒之事共^ニ而親元へも昨夜申遣候由^ニ候
尤右女組合内高砂屋金四郎方へ駆込倒臥候由右^ニ付新七方^ニも難
差戻組合渡部玄端ハ新七從弟之続柄^ニの^ニ付同人方へ為引取候
而可然旨大年寄申出候^ニ付病人も快方^ニ而動候^而も不苦旨医師指

図之上ハ玄端方へ引取候様及差図候且又新七義ハ手錠懸ケ組合預
ケ申付候右之段出仕之上御用番^并大目附へ相届見分一札御用番中
へ差出置尤右女ハ土岐美濃守殿領分英田郡南海村又治郎娘也

一牢舍人千代藏休薬届出候

一戸川町中屋庄兵衛弟定吉義往来中間罷出度^ニ付人別除願御中間頭
へ引合之上承り届^{七月改入}

一福渡町阿賀屋助五郎家守方五郎借屋住庄助俵万吉義往来中間^ニ
罷出度人別除願右同断取計済

一一ノ宮神主広瀬雅楽弟八百吉義船頭町和泉屋清助養子^ニ引受度人
別人願寺社取次野条金平へ引合候上承り届候^{七月改入 宗和三家十月離候いた 雅楽方へ差込候}

八月二日 大雨

一院庄川留り巳ノ中刻郡代所^ニ申来大年寄へ申達候

一兼田川留り未刻郡代所^ニ申来大年寄へ申達候

一橋本町飯岡屋佐七俵豊吉同弟乙吉右兩人とも去ル十日十六日兩日
^ニ致出奔候段届書指出例之通百日尋申付候右ハ徳島屋長十郎後家
借屋住也^{十月十八日離候}

一芸州広島本道医師戸田理庵と申もの用事有之来候付三十日計逗留
為仕度願坪井町羽織屋九一右衛門指出承り届^{同廿八日離候}

一西今町菱屋治助義先達^而下之関^江罷越候所病氣^ニ付七月四日追願
差出候所未相勝候^ニ付尚又三十日計日延追願承り届候処翌四日罷
帰

一種油壱升^ニ付三匁五分壳^ニ御座候所今日^ニ三匁七分壳^ニ仕度願承
り届

八月三日 快晴 少雨

一御用日登城申上候御用向無之

一井口村平五郎方へ先月廿八日昼盗這入衣類四品代式拾式匁位盜取候触流し取計候様大目附込達有之町触取計取計本書ハ指戻候同十三日町方無之段届出候

一石工貞藏盜取候大円寺之石塔施主へ引渡可申旨懸合相濟其段先月十八日取計候処ニ記置候所寺社取次野条金平今無施主も他寺之石塔と相知候ものを引渡候も不心濟ものニ付大円寺被盜候有施主

之石塔ハ損失ニ可申付候間其趣ニ取計呉候様被申候ニ付其段大年

寄へ申渡忠太方ニ有之ハ右不殘夫々江勝手次第指戻置候様ニ大年寄へ申渡候

一兼田川明キ九時過郡代所今申来大年寄へ申達候

一備中都宇郡早島金田屋伝藏手代柴八一人例年之通うんさいもんば足袋壳ニ来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出同年大三十日届

一院庄川明キ未ノ刻過郡代所今申来大年寄へ申達又

一元魚町年寄年寄福永屋源吾義病身ニ相成候付退役願無余趣之付承り届尤先当分ハ跡役無之候而も相濟候段大年寄申出候

一牢舍人伝藏義相牢多七江疵付候処ニ寄て昨日昼廻り又六為治合足か七取計之

一妙願寺万部經東西大橋建札伺濟候由寺社取次三浦十郎左衛門今通有用之候ニ付大年寄へ申達候

八月四日 快晴

一町方宗旨証文指出例年之通奥書取計宗旨奉行へ指出候尤人別メ高左之通

一天台宗 千三人 一真言宗 貳千百七四十四人 一禪宗 四百

七拾貳人 一淨土宗 六百三拾一人 一淨土真宗 四百五十八

人 一日蓮宗 貳千貳百貳拾九人

ノ惣人数 六千九百六拾四人 内男三千六百七拾人 女三千貳百九拾四人

一京町田原屋伊兵衛義因州独活屋喜右衛門方へ四十日計之逗留ニ而明後六日今立願大年寄聞届指出候

八月五日 雨

一小川兼助横関貫番人善助追込昨日迄ニ而七日ニ相成候付今朝指免其段御用番并大目附へ相届候

一明六日吟味可取計処組不足ニ付加人老人当日切大目附へ申達候処

并汲兵四郎来其外右手配夫々申達候

一船出入一件龍野御裁許濟ニ付備前御一家之取計も可有之ニ付承り合指出候様藏合孫左衛門へ申達置候処風聞書指出候追而可及御沙

駄候但竹内又右衛門半知ニ相成候出也

八月六日 快晴

一大年寄宅ニ而文藏百藏指向左之通申渡候

備前札行重村甚之丞江 元魚町縫屋

四拾匁相渡不埒至極ニ候依之 清助

其員数過料取上ケ追込申付候 但日数五日

右取計相濟候段御両所へ相届候

一立会新左衛門文藏百藏孫左衛門喜左衛門出番又六伝藏ニ而九時今左之もの共呼逐吟味候

口書爪印取之

牢舍無宿盗人 伝藏

右同断 同二階町帳外 幾助

同無宿盗人 関助

東新町紺屋 万治

先月廿四日夕博奕宿仕候付

入牢申付候宿賄

右参会ニ付

西新町立帰リ帳外

入牢申付候

大黒屋 藤七

右同断牢賄

元河原町帳外林田上之町立帰リ

嘉市

右三人吟味中入牢申付候段御両所へ相届候

他参留申付藤七賄申付候

西今町藤七立帰リ宿

大黒屋 藤蔵

一西今町坪屋藤十郎方へ一昨四日夕盗賊入込裏口ノ堀を切候得共紛失ものハ無之旨届書指出候八日及御抄候

一西今町万屋市右衛門悻辰治義塩屋曾助と相改小須賀一学殿へ出入奉公仕度人別除願承り届七月改入

一教信町講尺先月廿五日夕相始昨夜迄ニ而仕廻候由喜左衛門届出候

八月七日 曇

一龍野御裁許ニ付備前取計之風聞書一学殿へ指出候

一備後国三上郡峰村与吉と申もの因州八上郡袋川原村ニ而病氣付歩行不相叶榑村へ送り来候様郡代所へ申来継送り候様大年寄へ申達候

一船頭町備前屋茂七妹さよ義天明八年申七月三町目原田屋治助妻ニ差遣置候処右治助義八ヶ年已前二ノ宮へ引越居候処今般致離縁罷

帰候付人別人願下方引合相濟候段申出承り届

一元魚町豊島屋伝治借屋住磯屋忠助方へ当五月四日十四五才之男小

風呂敷包一ツ預ケ置罷出其後不罷帰候ニ付見改候処浅黄膳半一浅

黄蒲（ひつと）苗ひつとき裏一御座候処今ニ取ニ不来候ニ付届出候段申出耽

と預ケ置候様ニ大年寄へ申達候

一安岡町大坂屋鉄五郎方へ一昨五日夕盗賊裏口今入込候処目覚候付

逃去り紛失ものハ無之旨届書指出翌八日及御沙駄

八月八日 雨

一御用日登城之処拙者義風邪ニ付三浦十郎左衛門相頼当病御断仕御用向も相頼遣候

一板倉主水佐殿領分備中嘉屋郡庭瀬中田村八太夫悻久右衛門老入新

魚町豆腐屋又吉家守備中屋甚七役介ニ引受度人別人願御用番御聞

濟ニ付大目附へ指出置候段三浦今申来御聞届申達候九月二日在宅証文並出

一備前小島郡水口村友右衛門悻七百吉義六ヶ年已前辰年西今町小島

屋孫市養子ニ引受居候所離縁仕親元江指返度人別除願右同断取計

濟

一大久保安芸守殿領分当国久米北条郡桑村并蔵兄蔵義橋本町広瀬

屋喜助養子ニ引受度人別人願右同断取計濟同十三日在宅証文並出

一伯州日野郡生山段塚六郎左衛門娘今義札元玉置卯左衛門養女ニ引

受度人別人願右同断取計濟

一福渡町浜野屋嘉市家守中屋久米吉役介忠兵衛夫婦悻龜吉右家内三

人伯州倉吉岩倉町松葉屋平兵衛方へ引越度人別除願右同断取計濟

一西今町坪屋藤十郎并安岡町大坂屋鉄五郎方へ盗賊這入候届書三浦

士を以差出^并右^二付目明共一己之心得を以非人召連廻り伺出候
付承り届置^并関外東西外町々申合別^而敵敷遂穿鑿候様^二申付置
候段及御沙駄候

一大目附左之通三浦士を以演達有之候

町方賭將基致流行中^二者^一身代^二も懸り候程之取引も有之哉之

風聞候間同心組流込急度召捕候様^二被申聞候段三浦被申開候

右^者此間も大年寄^二演達為仕置候義^二者^一有之候得共猶又大年寄^江

も申達同心組^江も急度申付候

一大目附廻状到来近々武芸一覽有之段被仰出候旨申来候

一船出入一件龍野御裁許^二准し備前^二而も御家改取計有之竹内又右

衛門半知^二相成り候風聞書御用所^并大目附へ指出候所即刻相戻り

候^二付船出入書類之内^江入置

一林田上之町忠助借屋住乙吉と申もの京町岩佐孝順借屋住家根屋三

郎治弟^二付同人方へ引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一堀江源藏長屋住利兵衛夫婦娘右家内三人元魚町村本屋万吉借屋住

作人幸右衛門養子^二引受度人別入願承り届右ハ牢番相勤候内田利

兵衛事^而彼義ハ老母兄弟も有之未致流浪居候様^二相聞右三人ハ

致如何候哉と相尋候処此度一緒^二人別入仕度候得共養子^二參候身

分^二而者^一不能其義候間落着候上追^而引受候手段^二有之旨大年寄申

出候

一町方宗門帳書類相改指出候様藤本伴右衛門^二申来大年寄へ申達候

八月九日 朝飯後晴

一牢舍人庄右衛門千代藏万吉郡代所^二呼出申来出番伝藏百藏差向出

入取計之

一牢舍人新八全快^二付休葉双方^二届出候尤膏葉ハ未指遣候由申出候

一大目附^二大熊鞞負殿門前^二飛脚挑灯老張捨有之由届有之候処御合

印も無之趣^二付当役へ被引渡候様申達置候間宜取計可申旨申来則

鞞負殿^二為持来受取置候処紋所丸之内^二抱めうか山清と印有之候

^二付右躰之挑灯町方^二所持之もの無之哉と大年寄へ吟味申付置候

一目明孫兵衛義不快引込^二付仮役源之丞へ申付候段百藏伺出承り届

八月十日 雨

一三助様昨九日御国元御発足御先触^并引統御宿割岩倉祐右衛門と申

御道中懸之輕役人来御馳走振堅御断之書面指出候旨昨夜及深更申

出尤明十一日当所御止宿被成候所御本陣ハ御遠慮被成候間脇本陣

茂渡庄右衛門宅御所望被成度候旨祐右衛門申^{御書付}候段申出候付宜懸

合候様玉置六郎左衛門へ申達置候所庄右衛門方故障無之則御宿割

見繕今朝出立候旨大年寄^二届出候^二付先例取調候処寛政九年八月

御止宿之先触有之其節御止宿取計伺濟候処御道中川支有之御止宿

^二者^一不相成候得共其節之伺濟之例取調折節拙者不快^二付御先触写

并御断書と一緒^二御用番中^江紙面^二而指出相伺大目附へも右之段

相届取計例書も指出候

一御先触写左之通

以廻状致絡達候三助殿江戸表^江被罷越候^二付来ル九日国元被

致発^駕候依之繼人足三拾八人繼馬四疋入用候間駅々無間違様

御手合頼入存候尤人馬望之人別板札^二相記銘々相渡置候間持

參候上別紙書付^二引合可被相渡候別紙印鑑^并人馬望之人別書

付老枚宛御留置御順達可被遣候恐惶謹言

西
八月四日

雲州人馬方 平井幸三郎

桑原嘉市
片山良平

伯州溝口駅今東海道通り武州品川駅迄

宿々問屋中

追絡右之外至時人馬とも少々余分入用之義も可有之候間其節望之人別々相對御頼可申候間御手合頼入候 已上

覚

一人足 式拾五人

本馬 式疋

雲州 生駒彦助

右来ル九日雲州出立東海道通り江戸表へ罷越候付入用^ニ候間無間違様御手合置可給候 以上

雲州 小泉弥右衛門

八月四日

一御断書左之通

出羽守弟松平三助義今度被致帰府候付^而来ル九日国元発足被致旅行候処兼^而嚴敷儉約中^ニ付道中別^而省略被致通行候間於御領内道筋掃除等^并御役人被差出候義勿論弁当御馳走振等決^而無之様^ニ被致度候^而令御役人等被差出候^而も御挨拶等^ニも被及間敷候左候^而ハ却^而失礼^ニ相成氣ノ毒^ニ被存候条何分堅被及御断候此段御役人中^江宜御申達可被下候以上

一寛政九年八月九日三助様御止宿之御先触到来^并御馳走振無之様段

々々委敷御断被仰進候^ニ付町方取計左之通伺濟

一御本陣 玉置源五兵衛

一御本陣詰用達 三人

一隣町夜廻り

一御本陣前通行無用之旨保頭^ハ相触

一御通筋改^而不及掃除不見苦程^ニ可仕事

一町々保頭御先払

一同心組自分羽織着用見^江隠御先払

御目通^江不出様^ニ可落事 但夜中御「」脇出張

一出火之節御除地 本源寺大信寺

一東西川場へ高瀬船^ハ艘つ、被指出候^ニ付下裁許人^ハ人ツ、差出候様被仰付候

一御止宿被成候ハ、左之通御本陣^ハ可致演説被仰出候

御止宿被成候事故御使者^并奉文^ニ而も御伺も可有御座筈

之処是迄も度々御断被仰進尚又今般別^而事を分ケ委細^ニ

御断具々被仰進候義^ニ付乍御鹿略被為任仰御使者^并出役

之者も不被仰付候間此段御申上候様被仰付候

是迄御止宿之例無御座^ニ付右之通^ニ伺濟之所御川支^ニ而御宿割

違同十六日御通行^ニ相成^{其節}御止宿ハ無御座候

右之通御用番中へ相伺候処思召無之併右ケ条之内御本陣^ハ申述

候口上振御附紙^ニ而思召被仰出其余^者伺通被仰出候右御附紙次^ニ

^ニ記置候

一町方所々^江盜賊入込候付目明共へ急度考付候様申付置候処今夕^ハ

更廻り可仕旨甚七百藏を以伺出承り届候所左候ハ、仮役今一人被

仰付候様申出承り届尤先日已来非人召連忍廻り候事と存居候所非人ハ不召連候由依^而今夕々非人召連廻り候事○倉敷屋宗兵衛へ仮役申付候段尚又申出候

一 盜賊伝蔵引合之もの共被相糺候様ニ郡代所へ申遣伝蔵口書相廻候一 茅町池上流滴出勤之旨昨日大年寄届出候間近々可呼出候事

一 勝間田町大屋文吉方へ昨夜隣家中之町三宝屋宗兵衛持之納屋より盜賊這入候得共早速聞付候付紛失ものハ無之段双方「」書指出

八月十一日 雨

一 郡代所^レ盜賊万吉千代蔵町方引合之もの糺呉候様申来大年寄申付候

一 大目附廻状到来写取組中へ差出候

近々三助様当所御止宿ニ付御旅宿前下々迄通行致間數旨被仰出候

一 三助様御発駕御延引来ル十二日御発駕被成候御先触到来左之通

以廻状致絡達候三助殿江戸表江被罷越候ニ付今日爰元発駕之積を以泊々御懸合申候様去ル七日宿割之者へ申含差遣候ニ付

定^而御承知可被成と存候然ル所発駕被致延引来ル十二日被致發駕候間其心得を以万々取扱可被遣候尚委敷飛脚之者へ申含

候間御承知●被下候ハ、各御名之下ニ御印形可被成遣候恐惶謹言

八月九日

雲州 平井幸三郎
桑原嘉市
片山良平

八月十二日 溝口口

篠原伊左衛門殿

同 十三日 美甘泊

河合金左衛門殿

同 十四日 津山泊

玉置忠兵衛殿

佐用^レ伏見宿迄本陣名面有之候

右之段御用番^并大目附へ相届夫々申達候尤郡代所へも及通用

一 植木左士組福田与八悴勇藏義林田町鍋屋治之助借屋住丸尾屋弥市郎養子ニ引受度人別人願植木左士へ引合候上承り届

一 元魚町縫屋清助追込昨日迄^ニ五日ニ相成候付今朝可差免処致失念晩方存出漸暮前時分差免其段御両所へ相届置右失念不調法之段

三浦十郎左衛門を以差扣相伺候処夜分之義^ニも候間明朝被伺出候振合^ニ可被取計之由大目附返答候旨三浦士^レ申来候

一 院庄川留り五時過郡代所^レ申来大年寄へ相達候

一 石名伝蔵義不快引込届出候

八月十二日 大雨

一 拙者義昨晚之不念^ニ付指扣伺置候処大目附小須賀貢^レ十郎左衛門へ左之通申来候

増見右門差扣不及其儀旨被仰出候

一 中之町鮎屋藤吉娘かん義八出村源治郎後家悴御中間部屋頭相勤居候能井源兵衛妻ニ差遣度人別除願下方大庄屋引合相濟候段申出承

り届

一 宮脇町武田屋録郎兵衛義先月廿八日因州用ケ瀬罷越候所今十日計

之逗留日延願承り届同十六日届

一ノ宮牛馬寄ニ付例歳之通町触差出候

一郡代所ノ無宿盜人伊八入牢切手相廻り認カヘ出番時治指向取計之

一町方金銀指詰甚及困窮候右ハ備前札通用仕候付御貸付等不出ニ寄

而右之通及困窮候認御勝手懸リ之義故上原彦藏ヘ指出尤扣別帳

ニ在之

一田中川供水ニ付西大番所前橋危候段大年寄届出大目附ヘ相届候右

ニ付大年寄孫左衛門六郎左衛門致出役見計候所水早速干落別条無

之旨無程届出候○右之通橋危候段使口上ニ届出其段相届候所大

目附ノ察度も有之翌日相糺候所橋危ト申ハ口上間違ニ而左様之義

者無之候得共兼而洪水之節届之印迄水出候付届出候段申聞候ニ

付右定之寸尺追而申聞候様ニ申達置候大目附ヘも追而序之砌可申

達事

一大雨ニ付俄水ニ而二階町御門外水道湛候段大年寄届出大目附ヘ相

届候

八月十三日 曇 小雨

一御用日登城

一雲州島根郡久谷村松右衛門倅角三郎義寛政四子年八月材木町万屋

与三兵衛借屋勇八引受伏見町吉田屋半三郎後家養子ニ仕候処今度

離縁仕親元ヘ指返し度人別除願例之通取計済

一西今町三端屋貞藏方ヘ去ル七日夕盜賊這入銀札十五匁盜取候届右

同断取計

一備前邑久郡北地村伴十郎倅伴助一人河原村沼野屋房家内ニ引受度

人別入願右同断取計済五月廿八日離縁除候

一土屋但馬守殿領分当国勝北郡新野村西下村百性斧八夫婦倅しつ五

郎乘五郎右家内四人福渡町作人藤吉引受度人別入願右同断取計済

一林田村久助方ヘ去ル六日夕盜賊這入衣類二ツ代十五匁位之品盜取

候触流取計候様大目附ノ達有之町触取計本書ハ大目附ヘ差戻候

一関貫番賃銀百四拾壹匁六分真北類藏ノ指越受取

一孤独扶持十四人分貳百拾五匁八分四厘貳毛右同断受取

一魚町北横町南側桶屋伊助家屋敷表口壹間半裏行四間但五厘役也

西隣ハ縫屋清助持家東隣ハ桶屋伊助宅也右家屋敷代銀札六拾匁ニ

相極組合縫屋清助ヘ売渡度願承り届同十四日売渡状並出

一郡代所ノ申来候盜賊万吉千代藏引合候もの共延屋重四郎戸島屋伝

吉板元屋重藏平野屋治兵衛沢田屋善助指物屋長左衛門三宝屋宗兵

衛材木屋善六右八人之口書取之郡代所ヘ相廻候

一自分宗旨証文例歳之通内抱書役之文字相認指出候所先日藤本伴右

衛門ノ當時ハ下役大脇新左衛門兼居候而同人義別ニ証文指出候事

故改二重ニ相成候付書役之文字相除可然旨大目附ヘ申達候所尤之

由被申聞候間右文字相除指出候様被申聞○候ニ付一ト通り承知候旨及返

答置罷帰取調候処天明五乙年七月宗旨証文扣ニ後藤守助申送り

ニ左之通認有之

当年ノ書役内抱前々之通被下候ニ付書役之二字書入候近年

書役一統不相渡候節右之二字相除差出候得共此已後万一書

役一統相止候共御用所大目附自分証文ニ書役之文字有之候

ニ付不可（被申聞）除方可然被存候後役為心得記置候夫共其節御考

可然存候

右^ニ付紙面^ニ而^レ左之通藤本伴右衛門へ申遣候

宗門之義^者如何様^ニも御役筋御差図次第之義^ニ御座候得

共先役守助申送り^ニも先年一統書役不相渡節も御用所大目

附自分証文^ニ矢張書役之文字有之候^ニ付当役^ニ而^レも有無共

書役之文字不可除候旨取極趣^ニ而^レ後役へ申送有之候被仰

聞候通^ニ二重之様^ニも可有之哉^ニも御座候得共全く告朔之餼

羊之意と被察殊^ニ而^レ三年も右之^ニ而^レ濟来候義^ニも御座候

得^者右之通^ニ而^レ御濟し被下候様^ニ而^レ相成間敷哉之旨申遣候

所

左之通伴右衛門の返書来

御細書之趣致承知候然ル所先年一統不相渡節書役之文字有

之候義ハ其節御評義之上^ニ而^レ右之通^ニ相極候義と被存候此

度之義^者大脇新左衛門書役兼候得^者二重^ニ相成いか、^ニ付

大目附中へも申談候上及御噂候義^ニ御座候且亦近年相濟来

候義^者全御内抱有之候義と心得是迄濟来候得共新左衛門被

召出候節内抱相止同人兼候義承知いたし候得^者書役文字御

除被成候様御噂申候義^ニ御座候間何分二重^ニ相成候^而ハ不

宜候間附紙之通御認直し可被成候

右之通申来候間折節隣家類助及見同役^江致相談可申旨^ニ而^レ其後同

人^ノ役筋^ニ而^レも耽難申候間御噂有之候得^者御用所へ伺之上御返答

可及旨申事^ニ候間月番^江御噂被成可然旨申聞候付其段小須賀貢へ

申達候所伺之上左之通被申聞候

昨日被仰聞候宗旨証文内抱書役之文字之義御用番中相伺候

処書役兼帯大脇新左衛門在役中ハ書役之文字相除候様被仰

出候

右^ニ付書役之文字当年^ニ相除差出候後年為考委細^ニ記置候

八月十四日 快晴

一院庄川明キ四時郡代所^ノ申来大年寄へ申達候

一御代官重田又兵衛殿今般久世陣屋へ被引越候^ニ付左之通先触到来

覚

一人足式拾九人

内一式人具足箱式荷 一八人長持式棒 一四人兩懸ケ

四荷 一式人合羽籠二荷 一老人竹馬老荷 一十二

人山駕籠五挺

一本馬 六疋

一軽尻 壹疋

右^者重田又兵衛義明後十二日明六時大坂出立美作国久世村陣屋

へ被引越候間於宿々御定之賃錢受取之書面之人馬差出無滞繼送

り且渡船川越等差支無之様取計別紙人数書之通旅宿用意致置此

先触不限昼夜早々順達坪井^ノ久世陣屋へ可被相届候已上

重田又兵衛手代

藤井圭助

西 八月十日

曾根源治郎

撰州尼ヶ崎^ノ八月十二日泊 西宮 同十三日泊 明石

同十四日泊 姫路 同十五日泊 三ヶ月 同十六日泊 勝

間田 同十七日泊 坪井迄

右宿々問屋年寄名主中

右先触御用番^江指出大目附へも相届候

一三助様御義夜九時御旅宿へ御到着被成其段御用番^并大目附へ相届候右^ニ付町分取計左之通

一御本陣 茂渡庄右衛門

一御本陣詰用達 榎野屋茂一郎野々口屋七郎右衛門大村屋源右衛門

一隣町夜廻り

一御本陣前通行無用之旨保頭分相触

一御道筋改^而不及掃除不見苦程^ニ可仕事

一町々保頭御先私

一同心組自分羽織着用見^江隠れ御先私

御目通へ不出様^ニ可落事 前夜文蔵為治 翌朝百蔵栄治

一但夜中御本陣脇出張 宿二階町紙屋兵助

一同心組立宿 安岡町岡崎屋善吉後家

一出火之節御除場 本源寺大信寺

一東西川場へ高瀬船老艘つ、被差出下裁許人老人つ、差出

一在宿医師 北山修伯 高道齋

一問屋場へ宮田喜左衛門袴^ニ而為締指出尤御目通へハ不出事

一御止宿被成候ハ、左之通御本陣分可致演達旨被仰出候

今般御通行^ニ付不一通御断故被任思召御使者御役人不被

差出御沙駄^ニ御座候

右之外取計無御座候

八月十五日 晴 曇

一三助様御義六時過御出立被成町分無御滞御通行相済候段夫々届出候上御用番^并大目附へ紙面^ニ而相届候

一久世御代官重田又兵衛殿明十七日引越^ニ付初^而当所通行依之大目附小須賀貢^江相越取計之義相伺候処先是迄之振合^ニ而可宜向方^ニ

而も御取調も可有之明昼頃迄^ニハ尚可申達候得共先是迄之通^ニ心得居候様被申聞候尤此度入用之義^ニも無之候得共郡代出役相止候

様之義^ニ候得^者以来止宿^ニ而も当役も出役^者無之可相済義哉^ニも候哉と及噂置候

一明十六日吟味可取計^ニ付加人兩人大目附へ申達候所石井金治荒木源四郎来

八月十六日 雨

一御用屋敷^ニおゐて文蔵百蔵六郎左衛門喜左衛門出番時治為治新左衛門立合左之もの共遂吟味候

井崎屋十右衛門と田地公事先達^而茅町 池上流滴
内済申付候所内済^ニ不付破談
扱人分届出候^ニ付段々理解申聞候得共

甚不承知併違背ハ不致旨申候^ニ付扱人内済之通^ニ
急度申付候段申達漸御受仕引取候

右三人博奕参会口書

爪印取之

再吟味印形取之

右盜賊伝蔵盗もの取次売払

候^ニ付呼出口書印形取之

牢舍人東新町紺屋万治

同西新町帳外大黒屋藤七

同帳外立掃り 嘉市

同無宿盗人元堺町住伝蔵

林田上之町元坂原六太夫

屋敷当時御作事預り同所
住人幸助 同居与三郎

右ハ今日被差出候様御作事へ

被仰達候様大目附へ申達候^而呼出候

一 材木町河内屋武兵衛借屋住伊勢屋弥市方へ当月上旬横野村之者鏡一面持来代三匁五分^ニ相調候処在目明^ハ盗もの、由申来候間相届候旨届出指届郡代所へ相廻し候

一 林田町川田屋忠助借屋住牢舍人庄右衛門妻義御城代組塩島清助と口論之趣先達^而訴出候所致内濟候^ニ付願下ケ願書指出承り届願書差戻候

一 銀札場奉行栗原衛守^ハ錢七拾壹箇川下ケ送り申来奥書印形取計相渡

一 郡代所^ハ牢舍人万吉庄右衛門伊八久右衛門呼出申来出番為治時治出入取計之

一 久世御代官重田又兵衛殿今般久世表^江初^而被引越候^ニ付明十七日当所通行^ニ付当役^ハ取計伺置候所寛政四子年当役^ハ伺濟之通と被仰出候由郡代所^ハ通用有之候依之明日通行之節取計左之通

一 道筋改^而不及掃除不見苦程^ニ可仕事

一 町々保頭先払

近例保頭代問屋^ハ人足指出東^ハ西迄^ハ吾人^ニ致案内候事

一 町々同心組先払 為治 時治

但大之文羽織着用右立宿安岡町鍛冶屋甚四郎

一 御船奉行藤本伴右衛門^ハ東西川場へ高瀬船^ハ艘つ、被差出候間船年寄裁許人^ハ吾人つ、東西へ差出候様申来申付候

但以来御代官通行^ニ而御蔵元^ハ不被差出候旨御船奉行

ハ御蔵元へ達有之段大年寄申出候

一 参着帰国^ニ者郡代出役之伺濟^ニ候処先頃早川八郎左衛門殿

帰国之節^者出役御指留^ニ候所此度ハ郡代出役被仰出候段通

用有之候尤御使者御口上振兼相動られ候故別^ニ御使者ハ不被指出候

一 前宿聞合人足吾人差遣御立懸見受帰候事

一 牢屋下番中間伝助義数年病身^ニ付御奉公難相勤依之今日番代被仰付右代り中間割場^ハ相廻候段上野円助届出候

八月十七日 曇 雨

一 重田又兵衛殿為聞合勝間田^江指遣置候人足昨夜及深更罷帰り一向睨と致候義不相聞候得共何とやら風聞^ニ重田殿病氣^ニ而何方^ニ歟

御逗留之沙駄も有之候得共慥成義不相聞何れ昨夜勝間田泊^ニ者相成間敷之由^ニ而罷帰候段昨夜及深更届出候付右之段今朝御両所へ相届候

一 重田殿通行何れ今日^ニ而ハ有之間敷品^ニ寄明日当所止宿^ニ可相成程も難計取沙駄候趣川部大庄屋^ハ申出候付十郎左衛門義も先引取候段通用有之候^ニ付御先払之組者も先引取候様申付置其段大目附

へ及噂候

一 坪井町南側^ニ而小倉屋清右衛門家屋敷表口拾壹間裏行十七間但式

軒半役也東隣ハ三船八郎右衛門西隣ハ南北通筋也右家屋敷五年已前寛政九巳年西今町常屋文兵衛取次^ニ而四貫匁之質物^ニ書入候処

今般元利返弁受返候届書指出

一 桶屋町西側^ニ而角屋敷宝珠屋元吉家屋敷表口三間裏行拾式間但半

役也南隣ハ嵯峨屋卯之助北^者新座町通筋也右家屋敷代銀札三百目

一 相究町内広瀬屋幸之助へ壳渡度願承り届同廿二日壳渡度願承り届

一 橋本町牢舍人中島屋幸助義困窮仕今日之飯米も差支候ニ付指戻

候蚊屋ニ品共壳払度ニ同人妻夜具無之此節風邪ニ罷在難義仕候間

御封印付之内ニ有之候古蒲団御開封御渡被下候様昨日歎書指出承

り届則夜廻り幸治加人金治古蒲団相渡遣候様申付候

一 重田又兵衛追先触左之通到来

覚

八月十六日三ヶ月 同十七日土居 同十八日津山

右者重田又兵衛此度久世陣屋引越候ニ付先達ニ先触を以泊付

申達候処通行相延書面之通止宿之積ニ候之間旅宿用意致置人

馬差支無之様可被取計候此追触昼夜継送り別紙御用状共坪井

久世陣屋へ可被相届候 以上

重田又兵衛手代 藤井圭助

西八月十二日 曾根源治郎

三ヶ月古坪井迄

右宿々問屋年寄中

右先触写御用番中へ指出大目附へ相届候

一 重田又兵衛殿右之通御止宿申来候付寛政十午八月廿四日早川八郎

左衛門殿止宿之節之通諸事取計可申右例書指添大目附へ紙面ニ

差出候所此間三浦十郎左衛門へ申達置候通以来是迄取計来寛政四

子九月十八日当役古伺濟候通相極候問其旨三浦へ御伝達申置候

通之義ニ付伺之通諸事先格之通可取計勿論右ニ付拙者義も為見廻

出役可致則御貸人馬も申付可置旨返書来尤御用番中へも右之旨申

達置候段申来候ニ付夫々手配申付候

八月十八日 雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 久世御代官重田又兵衛殿今般初ニ陣着当所止宿ニ付先格之通為見

廻出役仕候段御用番中へ申達候

一 御年貢不相濟内在方古正米買取候義御停止之触書大目附古被相渡

例年之通御触取計候

一 大目附廻状左之通到来組中へ相触候

例年之通御年貢不濟内ハ為替米御停止之御触到来

一 播州加古川ねしわく細工手伝ニ九郎兵衛長治式人例年之通呼寄候

間十二月迄逗留為仕度願承り届七月十三日届

一 林田町門屋又七役介幸治義去ル十日致出奔行衛不相知旨届出候ニ

付百日尋申付候十二月四日候

一 藤井嘉津馬長屋住治助并娘母右家内三人下紺屋町作人市六借屋

引受度人別人願承り届

一 伏見町孤独宗元先日已来痢疾相煩候所差重り候段届出為見分百藏

差向見分一札并容鉢書取罷帰り手当等行候趣申出候

一 久世御代官重田又兵衛殿初ニ着陣当所止宿ニ相成申ノ中刻前二町

目福永屋藤助方へ到着其段御用番并大目附へ紙面ニ相届自分義

為見廻相越候ニ付本陣詰用達慳野屋茂一郎ニ為吞込置向方勝手宜

時分致案内候様ニ申付置候処刻過及案内罷越候処用人田中勘藏

玄関江出迎御旅中為御見廻罷出候段申述名札差出候処與之間へ致

案内夫古手代曾根源治郎罷出及挨拶候ニ付今般久世御陣屋へ御引

移被成長途御苦勞之義奉存候依之為御伺（原註）罷出候御用事も御座候
ハ、無御遠慮被仰聞候様申述候処又兵衛へ可申聞旨（原註）而引込又罷
出又兵衛義懸御目可申旨申候処へ又兵衛直（原註）被出初而謁候挨拶互
申述畢（原註）右同様之及挨拶候処段々御叮嚀事忝次第御座候今昼も
三浦十郎左衛門途中へ御出（原註）而江戸表之御口上共被仰聞厚忝
存候乍序御願申候者江戸表出立之砌御案内（原註）も罷出処甚取紛不
及其義不本意罷過失礼罷成候段宜御断被仰上被下候様呉々被相頼
畢而御隣境之義故以來者御心易可申談杯と挨拶有之相応之及答被
入御念御逢被下忝奉存候御勞も可被成間御入被成候様申述候処壹
式尺計進（原註）被出候（原註）付強而及挨拶候処奥之間へ被入夫又曾根源
次郎罷出段々及物語以來者毎度御懸合も可致御心易御談可申杯と
互（原註）及挨拶未得御意候得共御同役中様へも宜頼入候と申述引取候
処田中勘藏曾根源次郎兩人とも敷台へ送り出候引取懸ケ御用番中
へ相届（原註）大目附月番御奏者番小須賀貢（原註）逢又兵衛殿御挨拶御断之
趣具（原註）申達四時前帰宅

供立箱提灯 同 同 馬幸治 同 草履取箱 同 合羽籠二荷
右御止宿取計左之通

一本陣 二町目福永屋藤助

一本陣詰用達老人 櫻野屋茂一郎

一隣町五町夜廻り 元魚町戸川町式丁目三丁目美濃職人町
但金棒挽廻り

一道筋改而不及掃除不見苦程（原註）申付可置事

一保頭先私

但近例（原註）而保頭代人足老人問屋之指出東之西迄致案内候
事

一同心組先私 大文字羽織着用夜中本陣脇（原註）出張大文字付

高張挑灯壹張差出之夜中代り合翌日之先私相勤

一町奉行道見廻旅宿へ相越候事 但立宿無之

今般久世表（原註）御引移被成候（原註）付当駅御止宿被成長途御苦
勞之御義奉存候御用事等も御座候ハ、無遠慮可被仰聞候
右口上振大目附小須賀貢へ遂相談候処安否申述候ハ
御堅勝（原註）而も可有之候得共先ハ右之通あやなし可
然旨被申聞候尤石代改勝与八郎殿（原註）御堅勝と可申
述御代官稲垣藤四郎殿野村権九郎殿通行之節ハ右之
通安否不申述候様被仰出候事

一 大年寄老人麻上下着用御止宿へ伺（原註）罷出候 玉置六郎左衛門
一 式町目年寄老人右断断伺（原註）罷出候事
一 在宿医師 式人 高鼻生（原註） 笹岡休意
一 出火之節御除場 本源寺 大信寺
一 同心組立宿 東新町鍛冶屋利八
一 一同出張宿 三町目一文字屋伊三郎

一 勝間田遠見 老人 問屋人足

一 式步中壳（原註）式人御旅宿へ相詰候

一 髪結三人御旅宿へ差出候事

一 給仕人式人旅宿へ指出候事

一 東西川場へ高瀬船老艘被指出候付船年寄一人下裁許人老人つ
、東西へ指出候但御船奉行之申來候

○今般ハ那代御口上兼川崎迄出役有之候（原註）付人足御使者ハ無之候

○右ニ付同心組致不足加人申立候所荒木源四郎松永市三郎末沢折治来

○同心組役割左之通

十八日 当番時治 藤四郎 御先払昼廻兼文藏 夜廻り又六 折治 供番幸治 市三郎

十九日 当番藤四郎 御先払昼廻兼又六 為治 夜廻り時藏

但右之通ニ而ハ先番式人夜中御先払ニ出候事ニ者候得共当日休居候姿ニ而如何ニ候已来可有考事尤今日ハ孤独見分有之候ニ付此分ニ而「」

八月十九日 大雨

一重田又兵衛殿出立之所明六時院庄川留り申来右ニ付彼是郡代江も人足等之義数度懸合何れニも高瀬船ニ舟子増候ハ、渡船可相成と申達船頭三人之処加人三人申付六人ニいたし候得者可也ニ越立可相成哉と申趣ニ付四時御出立被成候段届出其段御両所へ相届候

○右人足之義と申ハ右之通ニ而高瀬ニ而越立候ニも馬越不相成七駄分之人足三拾人計急ニ出来兼候段申出郡代所へ懸合候得共急出来間敷由ニ而不承知ニ付如何様ニ取計候ニも間を合候様ニ問屋へ可申付旨大年寄へ申達候

○然ル所又兵衛殿合船子等相増被呉役筋合厚く世話ニ成候為挨拶手代拙宅迄可相越と申由ニ付本陣詰櫓野屋茂一郎合及挨拶左候ハ、茂一郎合宜申伝具候様ニ又兵衛殿直ニ被相頼候由茂一郎罷出申聞候

○大目附中合も今朝申来候者又兵衛殿逗留ニ付候ニハ取計方面役存寄も有之候ハ、承り度旨申来候得共先例と申形も無之差懸り

何れ共申上兼候併高瀬ニ而越立可相成旨唯今申出候間彼是申内ニ者出立可被致候間御取扱ニも及間敷旨及答置候

一因州高草郡上原村与七郎と申もの回国ニ罷出当国下二ヶ山手村ニ而步行不相叶古城村へ送り来候旨郡代所合通用有之継送り候様大年寄へ申達候

一大雨ニ付二階町御門外水湛難義仕候付水門唐戸御開被下候様申出候段大年寄申出右之段御作事へ御達被下候様大目附へ申達候

一重田又兵衛殿院庄川越立無滞相濟馬越出来不申ニ付馬荷持人足難相調問屋働を以中測賀ニ而人足雇出し越立候由大年寄合届出候尤右之内拾式人ハ院庄合指出候旨郡代所合申来候

一大雨ニ付御堀高水ニ而伏見町材木町へ水入難義仕候付大番所前之水門唐戸御開被下候様願出候段大年寄申出右之段御作事へ「」下候様大目附へ申達候

一大川筋洪水之段戌刻前大年寄注進申出其段御用番并大目附へ相届右ニ付馬仕候間御貸人馬被仰付候様大目附へ申達割場へも申遣即刻致出馬候

八月廿日 快晴

一大洪水ニ付昨夜戌刻前致出馬船頭町土手端ニ而見及候所七ヶ年已前卯年洪水位ニ相見へ候ニ付馬脇合大目附へ御出馬可然旨口上ニ而相届候処大目附上原彦藏出役郡代三浦十郎左衛門も其以前合出馬ニ候「」所土手端雁木下り口合水打込甚危見へ候ニ付兼而申付置候土俵取寄為防候内次第ニ水勢増土手端不殘打越所々切込実ニ防兼候次第依之尚又大目附月番へ軽からぬ大洪水ニ相成防兼候趣

馬脇より申達置夫の追々川下へ廻廻り牢屋辺見繕候処牢屋外屋敷へハ夥敷水切込最早牢番共牢屋中へ家内逃込老人も居不申依之文蔵を牢屋へ指遣万一危相成候ハ、罪人共不残屋根へ上ケ候様及差図置夫の林田へ可參と存伏見町迄出懸ケ候所最早腰水ニ相成人馬共ニ難叶何卒船を入候様ニ精々申付候得共行届兼尤並之高瀬船ハ町江^者一向入不申小船相尋候^而も最早川端へ行候事不相叶依之酒屋共ニ半切為差出桶船ニ組合セ候得共一向不用立外ニ差懸り致方も無之処安岡町も水打込候段届出候ニ付夫の端々透見分安岡町筋違橋迄罷越候処橋桁一盃之水ニ^而安岡町裏角之なげ水打越居夥敷事ニ候得共格別之損しも不相見へ夫の引帰し町会所ニ^而少々致休息并当取寄遣下部共ニも酒給させ候内余程水引候ニ付夫の東へ^而相越候処伏見町之辺藤切位之水ニ相成宮川大橋も橋一盃之水ニ^而中之町今先へハ人馬共難叶依之東新町辺之小船引寄中之町今^而東新町升形之辺迄相越見及候所肥後屋裏土手余程切込小家二軒潰居候得共怪我ハ無之町筋大方逃去り候趣ニ相見へ道々相改候処弥怪我人ハ無之由ニ付夫の引かへし又々船頭町土手辺見及候所所々切込候得とも最早水四尺余も引キ最早氣遣も無之様子候処大目附郡代とも斎藤孫右衛門方ニ休息ニ付立寄致対面候所安岡町土手崩候由注進有之候ニ付玉置六郎左衛門差遣及見危趣ニも候ハ、又々可相越申含^{差遣}候処水引候上少々崩込候計「^決而氣遣敷ハ不相見候ニ付相越候^者不及旨申越候ニ付夫の上原三浦拙者三人とも明ケ六時前ニ引取引懸ケニ御用番中へ相届大目附へも同様申達引取其後晩方御用番中御宅へ参り洪水之趣委細ニ申達候

一 先年寛政七卯年之洪水ハ京町吉田屋喜八郎辺迄船入候処当年之洪水ハ中々左様之事ニ^而ハ無之京町堺町新職人町ハ不残往来膝切或股迄つかり候所も間々有之ニ階町ハ馬形町之角迄元魚町ハ伊勢屋辺迄水来七ヶ年已前之洪水ハ大躰尺尺計も増候趣ニ相見へ候

一 伏見町孝庵後家裏御堀石垣崩土蔵御堀へ崩込諸道具御堀へ流失仕候付急ニ引上ケ度由申出其段大目附へ相届御作事ハ杖突被指出候様ニ申達

一 吹屋町船頭町両町之間之関貫扉押流候ニ付今夕今立番申付候段大年寄申出承り置

一 洪水ニ付鍛冶場橋落候段大年寄の届出其段御用番^并大目附へ相届候

一 右ニ付出馬供立左之通^{但將衣取務羽織陣笠合羽腰差着用}

^{高張御場} 同ノ者 馬^{引張旗灯ニ張持之} 草履取^{持之} 槍^{御場} 合羽籠^{御場}
^同 同 同 同 同 同
^{相立者當番人相見} 其餘ハ皆召遣候 挾箱^同

八月廿一日 快晴

一 江原文蔵眼病ニ付引込届出加入申達候所土井万兵衛来

一 稻荷山三軒屋上之御城之堀覆一昨夕之大風雨ニ式尺余損候段昨朝三軒屋番届出即刻大目附へ相届候昨日之処ニ記落候ニ付爰ニ記置

一 川々洪水注進申出候兼^而之定認出候様申付候所左之通町々々指出

一 大川筋注進 船頭町 吹屋町

境町稲実屋前通り川土手見通し川へ下り口雁木上今三ツ目之西角之石へ水付候を見受注進申出候
 但石石上今土手迄壹尺七寸五歩有之候
 船頭町吹屋町^{船頭町吹屋町}

尤東之方土手並^者少々地形高く御座候

一宮川筋注進 橋本町

町内杉屋市右衛門裏通り雁木上二ツ目之大石二水打乗候
而 弥満水と見受注進申出候○但橋二北袋町迄之間川土手之
雁木也

但右之石二土手往来へ式尺有之候

一右同断注進 材木町

中村益安前なげ北之端之上石へ水打乗候を見受御注進申出
候

一藺田川筋注進 西今町

大番所前之橋柱貫江水付候得者御注進申出候

一筋違橋

町方二指構無之仍而注進無之

八月廿二日 曇 夜雨

一兼田川渡船始候段四時頃郡代所二申来大年寄へ申達候但留りハ不
申来候

一長州美祢郡嘉万村梅之助後家京参いたし播州佐用郡西大島村二而

步行不相叶同所二送り出し川部村へ送り来候段郡代所二通用有之
継送り候様大年寄へ申達候

一坪井町北側二而 表口五間裏行拾七間高砂屋兵助後家家屋敷寛政三

年静虎屋利兵衛取次二而 壹貫目之質物二書入借用いたし候所今般
元利返弁請返候届書指出候

一御領分東南条郡太田村六郎兵衛借家住甚助夫婦娘二人右家内四人
中二之町西屋治右衛門家守倉敷屋惣兵衛引受度人別人願下方引合相

濟候段大年寄申出承り届

一御領分東南条郡林田村与茂七役介岩吉一人西新町江見屋伝助引受
度人別人願右同断下方引合相濟候段申出承り届

一洪水二而 鍛冶場橋落候二付橋代り横渡船申刻二相始候段大年寄二
申出御両所へ申達候

一院庄川明キ申ノ中刻郡代所二申来大年寄へ申達候

一洪水二付万人講諸道具并小屋組并置場共二致流失候段講元二届書
指出し明日出仕之上御両所へ可相届候

一洪水二付追廻し郷藏致流失候段今津屋二届書指出明日可及御沙駄
候

八月廿三日 雨

一御用日登城申上候御用向無之

一東新町紺屋万治方博突参会御裁許何差出候

一追廻し万人講道具置場并今津屋郷藏洪水二致流失候段御両所へ及
御沙駄候

一牢屋破損書大目附へ指出候

一ノ宮神主美土路豊前守方去ル十七日夕盜賊這入六品盜取候触流
取計候様大目附二演達候旨三浦二申来町触取計本書ハ差戻候

一三町目太刀屋久治義京都麩屋町錦下ル近江屋七三郎方へ三十五日
計之逗留二而 明廿四日出立願大年寄承り届差出十月七日補ル

一桶屋町通土橋破損届書指出大目附へ紙面二而 差出候

一下紺屋町板倉全柳娘浅孫元右式人西一ノ宮村山方百性吉右衛門妻
子二差遣度願下方引合相濟候段申出承り届

一御用材木三拾本計伏見町河原町辺流懸り居候由御作事〆届有之候
間遂吟味申出候様大目附〆達有之大年寄へ申達候

一毛請時治疥瘡^ニ而御奉公難相勤引込届出候^ニ付加人大目附へ申達
候所高木武兵衛来

一洪水^ニ付町分破損^并水之之町分遂見分左之通書附差出候

今般洪水^ニ付破損家書上覚

一船頭町山北屋伊兵衛裏當時美濃出屋清右衛門持土藏西南角

石垣突流東之方老間北之方老間半計大破^ニ御座候

一右同所西角^ニ而吹屋町釜屋市郎右衛門持土藏東南之角石垣

西之方へ五尺計北之方へ老間^間突流申候

一船頭町瓜生原屋平吉持土手側納屋老間東西三間南北老間半

崩申候

一同町錢龜屋兵吉塀覆雪隠共崩申候

一同町今津屋橋東手之土手突切片田屋市右衛門居宅へ水突当

テ及大破申候

一同町瓜生原屋伝吉居宅東隣明地御座候^而今般東之方^江水^ニ

被押かやりか、り住居難相成程^ニ相見^江申候

一東新町地子居鍋屋甚右衛門居宅^并長屋共崩申候

一同町橋本屋茂右衛門持地子居借家三軒一棟崩申候

一同町地子居作人吉太郎納屋老軒崩申候

一同町野田屋磯右衛門裏納屋老軒崩申候

一同町土手端^ニ有之候非人番小屋老軒流失仕候

右之外水入之町々往来至^而相損申候以上

西八月 藏合孫左衛門

今般洪水^ニ付水入之町々覚

一東新町床之上三尺計

但下横町床之上四尺計

地子居家床之上五尺計

一西新町床之上老尺老寸五歩

但地子居家床之上老尺七寸計

一中之町床上五寸計

一勝間田町床上式寸計

一林田町常盤屋庭水高廿八寸計

一材木町床上老尺五寸計

一伏見町横町床上四尺計

但同町通筋床上式尺式三寸計

一京町下横町床上三尺式寸計

但同町通筋床上老尺老寸計

一境町大溝近辺床上式尺式寸計

但同町通筋床切

一小性町床上式尺式寸計

但同町上横町南之方^ニ而床上三尺式寸計

一河原町床上三尺四五寸計

一船頭町床上三尺式寸計

一吹屋町床上老尺八寸計

但同町下横町床上式尺計

一新魚町床上式尺五六寸計

一桶屋町床上老尺計

但同町北横町床上卷尺五寸計

一新職人町床上式尺計

一元魚町下床上卷尺計

一戸川町上裏通り袋町床下卷尺計

一二階町茂渡内庭水高サ三寸計

一西今町床下四五寸計

但同町下横町南端床上卷尺壹式寸計

一茅町床上八九寸計

一安岡町床上卷尺五六寸計

右之通相改書付差上申候以上

酉八月 藏合孫左衛門

別紙之通

一潰家 六軒

一大破家 四軒

一流失 非人番小屋卷軒

今般之洪水ニ付町分損右之通ニ御座候以上

八月 増兎右門

右洪水先年之通御届ニ相成候ニ付破損所改書指出候様被仰出候

ニ付先年之通ニ相認八月廿四日御用番并大目附へ同様ニいたし

兩通指出候

一左之通川筋土手損見分書大年寄ル指出候得共役筋支配之場所ニも

無之勿論先年も不指出義故今般も指出不申候得共大年寄共指出候

事故為心得記置候

享和元^{辛酉}年八月十九日洪水ニ付同廿二日見分仕候処左之通ニ御座候

一安岡町岡崎屋伊兵衛裏通り川^(風致)手石垣廿六間計腰石垣共崩

申候

一同町大黒屋利兵衛裏通り腰石垣西ノ端少し損申候

一同町之内新田村ル懸り候溝入口町之方へ切込申候尤溝場所

者新田村分ニ御座候

一茅町出抜ニ有之候升なげ不残潰れ申候東西式間計上り卷間

半計尤残石十計相見へ申候

一柳土手溝筋南側十間計崩申候

一船頭町山北屋伊兵衛裏雁木切込横六間計吹屋町通り筋迄石

砂流込大損ニ御座候

一同町高瀬屋勘右衛門横同町へ入口雁木東ノ方式間計并石垣

共損申候

一同町板屋八十兵衛裏雁木之処置土手下石垣損申候

一同町今津屋橋横入口雁木横六間南北卷間計雁木三段程大損ニ御座候

一木蔵御門前町へ入口地形損申候

一鍛冶場入口雁木大損ニ御座候

一追廻し北入口雁木少し損候

一林田町山本屋横町出離レ土手地形不メ損居候様子ニ相見へ

申候

一勝間田町土手筋水門崩込大損ニ御座候

一同町下ノ横町土手内びら雁木大損ニ御座候

一中之町平岡屋忠右衛門裏通り土手北側崩レ東西三間横式間程ニ相見ヘ申候

一西新町上ノ横町雁木東式間計置土石垣共損申候

一同町妹尾平兵衛裏置土損候

一西新町腰石垣并置土所々損候

一同町下ノ横町入口雁木東西三間計石砂流込大損ニ御座候

一同町清水屋裏往来損候

一同町飯網屋万蔵裏石垣式間計崩候

一東新町上横町出口土手東西七間計深サ五尺程切込土砂流込甚大損ニ御座候

一同町(妻)なげ端ナ大損ニ御座候

一同町橋本屋茂右衛門裏通り土手砂土押流し損居候

一同町下横町出離レ土手筋東西三拾五間計之間上土悉ク洗流し地形減一円ニ損申候

右損し候場所玉置六郎左衛門宮田喜左衛門見改候上書上申候已上

酉八月 蔵合孫左衛門

八月廿四日 雨

一未明ニ大年寄申出候者夜中降続大雨ニ付大川筋出水東新町此間之切口今無程水入可申趣ニ付同町今土俵ニ而防居候得共防兼候旨隣町ヘ土俵被仰付「」候様願出候ニ付其旨取計申候右ニ付大年寄共兩人とも罷出及差図可申旨届出候付其旨承り届宜取計候様ニ申

達置右之段御用番并大目附ヘ紙面ニ而相届候

一鍛冶場渡船出水ニ付留り候段届出候ニ付御両所ヘ相届候

一院庄川留り五時前郡代所申来大年寄ヘ申達候

一兼田川右同断

一御用番一学殿ガ十郎左衛門同道ニ而罷出候様五時前申来則同道ニ

而相越候処洪水ニ而此節甚人氣立不穩趣ニ相聞候所先刻御届候様

ニ惣町ヘ土俵申付候杯とけた、間敷取計有之候而ハ弥人氣立甚不

宜殊ニ他邦之ものも入込可居処兼而不覚悟之様ニ而他聞も如何ニ

付万端穩ニ取計候様被仰出候ニ付今朝御届申上候者惣町ヘ土俵申

付候とハ不申上東新町老町ニ而防兼候ニ付余町ヘも土俵被仰付候

様願出候付隣町ヘ申付候段申上候左様之義「」も思召候ハ、此上水

増候共先ハ私共出役ハ不致様ニ可仕哉と相答候所夫ハ趣ニも寄り

可申出役差留候義ニ而ハ無之人氣不立様ニ隠ニ取計候様ニと申事

ニ候由被仰聞候所十郎左衛門申上候者作目附等差出切口之手当可

取計哉と申候処随分左様之筋ニ而可然町奉行所ニ而も下役等ニ而

も差出可然旨尤作事も可被差出哉と被仰聞候ニ付御差出被成候様

仕度思召之趣委細奉畏候猶此上之趣ニ寄下役等差出可申旨及挨拶

引取候所甚御心得違之事共ニ而ケ様之義も有之候得者大年寄共兼

而申立可置義と被申甚不機嫌之事共ニ候併右之思召不相達候而ハ

如何ニ付思召之通諸事穩ニ取計候様ニ大年寄共出役先ヘ申遣候

一大目附御作事中間共多川向ニ居候所渡川留り罷出候事不相成差

支候間鍛冶場横渡格外ニ船頭増右中間共渡川取計候様ニ申来其段

大年寄ヘ申達候所船頭呼出申付候所随分相成候段御受候由申聞候

一 昼後^ニ至り大年寄^ハ申出候^者 今朝被仰出候穩^ニ 取計候義奉畏候然
ル所差当り今日之防^ハ可也^ニ 間^ニ合最早引水^ニも相成候事故御下
役不被差出候^而も随分相濟申候段申越候^ニ 付其段御所^ハ相届候
然ル処孫左衛門六郎左衛門喜左衛門共七時頃引取候段孫左衛門罷
出相届承置

一 上紺屋町津島屋栄吉父三右衛門義四月十六日致出奔百日尋申付置
候処今百日目延願指出承り届

一 町方宗門帳橋本町中島屋幸助入牢中^ニ 付組頭代印^ニ 而指出候様申
来右之通相認藤本伴左衛門へ指遣候

一 病犬有之由^ニ 付柳土手へ申付候所京町^ニ 而打殺候段申出候

一 茅町川土手升投西側^ニ 雁木有之大川へ之用事相并候所今般之洪水

^ニ 崩候^而川端へ下り候事不相叶出火等之節水汲候義も不相成候^ニ

付御普請出来候迄之内土俵^ニ 而雁木付川縁通ひ諸用弁度願茅町^ハ

指出候付御用番中へ罷越相伺候所即刻御聞濟^ニ 付大目附へも相届

置御聞届申達候

一 上紺屋町熊屋新七義先月晦日夫婦喧嘩いたし手錠申付置候所右妻

八土岐美濃守殿領分英田郡南海村文治郎娘^ニ 而無願内分^ニ 引受居

甚不埒之趣^ニ 相聞^也内濟仕度旨内々申出南海村親類も来り先日以

来内濟取扱居候趣^ニ 相聞候所漸々内濟相整一札取替し右女ハ親元

へ差返し度内濟^ニ 付願下ケ願書差出御用番へ罷越右之段相伺候処

早速御聞濟^ニ 付右之通無願他之ものを引受^也願答も追^而可相伺^ニ

付夫迄ハ新七義手錠之俵^ニ 而可差置哉と相伺候^也右咎ハ追^而之義

^ニ 候得^者 内濟承り届候上ハ手錠も先差免可然旨被仰聞候付左候ハ

、右咎ハ追^而別^ニ 可相伺旨申上置内濟承り届候段大年寄へ申達夜
廻栄治^也兵衛^也手錠差免候様申付候尤大目附へも相届候

一 下紺屋町大溝埃堰損候段届書大目附へ指出候

一 大目附^ハ昨日達有之候御用木河原町伏見町材木町遂吟味候処弥有
之候^ニ 付其所^ニ 預ケ置候書附三町^ハ取差出候^ニ 付大目附へ指出候

一 洪水^ニ 付町分破損所^并 所々水入寸尺付御用番^并 大目附へ今日指出
候尤昨日之所^ニ 認置候通也

一 東新町博奕参会御裁許西新町年寄三日追込と伺候処御附札^ニ 而役
筋ヲ蔑^ニ いたし候訳も有之候得^者 十日之追込^ニ 取計可申其余^者 思
召無之旨^ニ 而一学殿^ハ御渡被成候

八月廿五日 快晴

一 牢屋表門之戸損^并 南出口之路次洪水^ニ 而大破一向^ハも出来不申繩

^ニ からめ置候位之義^ニ 而至^而不用心と之旨牢番共申出候^ニ 付急

^ニ 御繕被仰付候様大目附へ申達候

一 鍛冶場横渡船辰ノ中刻相始候段届出其段御用番^并 大目附へ相届候

一 稻荷山草刈今日^ハ相始候段三軒屋番届出承り置^{同廿九日相濟候段届出候}

一 院庄川明キ巴ノ刻郡代所^ハ申来大年寄へ申達候

一 今般之洪水^ニ 而道々大損宮尾村^ハ西ハ馬駕籠往来留り候段宮尾村

庄屋^ハ人馬問屋へ申越候旨大年寄申聞候^{九月二日及御禮候}

一 目明孫兵衛義明日^ハ出勤仕候付仮役源之丞差免候段百藏申出承り

置

一 石名伝蔵明日^ハ出勤届出候

八月廿六日 時雨

一院庄川奥水出水ニ付渡船留り候段今暁七時頃郡代所申来大年寄
へ申達

一兼田川昨巳刻過明候処通用失念之旨今暁同時ニ申来大年寄へ申達
又

一御藏米 六拾三匁五分 町米 五拾九匁五分

一院庄川明キ巳ノ中刻郡代所申来大年寄へ申達候

一牢内変義有之由利左衛門申候ニ付相尋候而も牢内ニ而ハ難申由ニ

而 一向不申旨円助届出候付小頭代百藏昼廻栄治伝藏差向為相札候
所牢舍人万吉義這入口之釘老本拔取外ニ五寸釘老本錢一錢板之間
堀り出し利左衛門万吉要藏致所持居候ニ付取上ケ候旨百藏申出
外ニ取計方も無之候ニ付三人共足かせ申付置候段届出候九月八日差免

一小頭代中山百藏宅ニおゐて左之通申渡之

其方義今日夕番致失念

小野田為治

不埒至極之事ニ候依之追込申付候世三

八月廿七日 曇

一林田町田部屋方ニ備中もの義兵衛と申ものタナガへ致召捕遂吟
味候処外ニ悪事無之ニ付非人差添御領分境江追込可申哉と目明甚

七伺出承り届候尤先格之通一札為仕追込候事

一林田町川田屋忠助借屋住人庄右衛門義病氣ニ付出牢御許容被成

候所今以不相勝候ニ付河野道齋へ転業仕候届書承り届

一橋本町西側ニ吉見屋儀助家屋敷表口八間裏行拾壹間但老軒半役

也北隣者吉田屋太助後家南隣ハ往来也右家屋敷之内南之方ニ表

口四間裏行拾壹間御役七步五厘付林田町常盤屋弥太郎へ代銀札四

百目ニ壳渡度願承り届八月朔日壳券状届出
一牢舍扶持拾六俵内貸証文奥印書取計之右ニ而九月中賄十月へ式斗
七升七合五勺指越候積

八月廿八日 快晴

御用日登城御用日

一盜賊伝藏義五十敲追込御裁許伺書御用番中へ差出候即刻伺済ニ而

百敲ニ取計候様被仰出其段大目附へ相達候所大目附出席ニ而被仰

出候振合ニ認置候様被申聞候尤取計日限相極候ハ、其節立合可申

達旨申置候

百敲御領分追込

元形町平吉格當時無宿盜賊 伝藏

一上紺屋町熊屋新七御裁許伺候処即刻伺済ニ付左之通大年寄宅お
ゐて小頭代部屋目附兼百藏一人差向左之通申渡之

上紺屋町熊屋源左衛門倅

新七

他領もの内々妻ニ引受置

不願出不埒之至ニ候仍之追込申付候但日数三日

右之段等閑ニいたし置候段

不埒至極ニ候仍之急度叱置候

右取計相済候段御両所へ申達候

一牢屋破損書大目附へ指出候

一町会所破損届書大目附へ指出候

一藏合孫左衛門差出候備前札通行指留候考之内一学殿御不審被仰

出候ニ付孫左衛門ニ答書いたし指出候様上原彦藏合達有之孫左衛

門へ申達候同廿九日答書差出

一芸州広島本道医師戸田理庵と申もの坪井町羽織屋九一右衛門方ニ

致逗留居候所未用事不相濟候^ニ付今廿日計之日延願承り届

一上河原村彦之丞方へ去ル廿二日夕盜賊這入九品代百四匁位之もの九月十日水見遣湯助家来城召抱候届有之

被盜取候触流取計候様大目附分達有之町触取計本書ハ指戻候

一坪井役人田中健藏(健藏)今般之洪水為伺飛脚指越御用番中へ差出伺濟九月十日無之役届出候

之上及返書候

一牢凌昨廿七日申付候所別条無之旨又六幸治届出候

八月廿九日 快晴

一小野田為治追込昨日^ニ而三日^ニ相成候間今朝差免候

一坂目明倉敷屋惣兵衛不快^ニ付指免延屋岩藏へ申付候段百藏届出候

一境町太布屋喜兵衛所持之他国受酒株去ル未二月元魚町吉屋清藏へ

貸置候所今般取戻し境町三津屋平右衛門へ讓渡願差出承り届ル

一船頭町注進石之処平水^ニ而石垣端迄何程有之義哉相計り呉候様郡

代所分申来左之通

平水^ニ而水際分石垣端迄 凡壹丈式尺三寸五歩

右書付郡代所へ相廻候

一安岡町岡崎屋善吉後家借屋住庄五郎義昨年町作御年貢不^(前條様)相納致

出奔候付受人分上納いたし候様御申付候様御懸合有之候得共役筋

不承知之由左様候^而ハ以来御年貢取立一向相成り不申候間何れ^ニ

も受人分弁銀候様^ニ申付候様先日大目附上原彦藏分被申聞候付夫

ハ新法之義故容易^ニ難申付既^ニ松岡治部助当役引受居候節身代限

り申付候先例有之義故其通^ニ被仰付候様^ニと申候処出奔もの^ニ身

代限り引渡と申義ハ無之義都^而受人有之ものハ受人弁銀致来り地

主ハ定^而借屋もの^ニ者有之間敷故受人無之もの故地面御取上ヶ先

格^ニ候と被申聞候^ニ付借屋もの^ニも地面持候もの何程も有之候所

受人^江者御懸ケ不被成地面御取上ヶと申先格^ニ候然ル所受人有之

ものハ皆受人弁銀と被仰聞候義御新法之義故得不申付義^ニ御座候

併市郷ハ兩輪之如もの^ニ而何れがかけても不相成もの^ニ候得^者差

当り事之重き方分御裁許可有之筋^ニも候得^者御年貢之方ハ眼前^ニ

以来取立不相成義^ニ候得^者先此所^ニ而ハ受人弁銀^ニ申付置右^ニ付

而町方衰微^ニ相成眼前^ニ故障相頭候節受人弁^銀御免被成候筋^ニ而

も可有之義哉^も奉存候得共今般先格と違ひ御代官之方^ニ而新法

を被立候義^ニ付以後之形^ニ相成り甚障り候義^ニ付何れ表向^ニ而ハ

得不申付不得止事時ハ極密^ニ年寄を以役筋分分指図と不相響様^ニ

岡崎や後家を教諭いたし弁銀為致候分外之手段ハ有之間敷奉存候

得共元来今般之一件取纏^ニ相成候起ハ林田町豊国屋大助御年貢取

立之節下作御吟味被下候様歎書指出候所御年貢取立方^ニ而上分ハ

決^而下作^ニ者御食着不被成筋と睨と申聞右歎書被指戻候付右之段

役筋へ願出郡代^江懸ケ合候義^ニ御座候仍之下方一統俄^ニ氣請違是

迄数十年無事故済来候義を右之通取纏^ニ相成候義^ニ候得^者町作取

立方^ニ而右取計違之訳を豊国屋大助^并安岡町年寄へ得と被仰聞以

来下作之分も是迄之通上分御世話被下庄屋分取立地主へ相渡候旨

一統^江も響候様^ニ昨年之手違候段被申聞候ハ、早速氣請直り相濟

可申義と申達候所夫ハ甚之上計^ニ候と上原答有之弥其通^ニ取計有

之候由然ル所猶又昨日上原彦藏分右之趣御代官方^ニ而取計有之林

田町年寄呼出し右之趣相達候所一向氣向ふれ候趣無之至^而穩成答

而下方氣請ふれ候義ハ無之由御代官分申出兼^而被仰聞候とハ甚

之相違^ニ候間役筋^ニ而も承り札候様上原彦藏被申聞候付其段大年寄へ申付候処即刻林田町年寄久左衛門丈右衛門兩人呼出し承り候所此間青木新六呼^ニ来り丈右衛門罷出候所新六申聞候^者豊国屋大助義昨年御年貢取立方不埒^ニ存此節願立候様^ニ承り候右願差留候^ニ而ハ無之候得共大助身為^ニも宜かる間敷哉^ニ付内々申聞候段申候^ニ付丈右衛門答^ニ左様之義一向承り不申何れ相濟過去り候義^ニ候得^者左様之義ハ有之間敷定^而世評^ニ而可有之哉と答候由大年寄^ル書付指出兼^而上原と談置候とハ甚之相違之義^ニ付右書付上原士^江指出候

八月晦日 快晴

一番賃銀例月之通相渡候

一蔵合孫左衛門備前〇指留候考書^ニ一学殿御不審被仰出答書申付候処指出候^ニ付上原彦藏へ指出候

一境町三津屋平右衛門他国受酒株来戊二月迄元魚町吉屋清藏借り受商買仕度願承り届^{豐茂三月二日通願承り届}

一江原文蔵明日^ハ出勤届出候付加人万兵衛明日^ハ差帰候段大目附へ相届候

九月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 赤見類助

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

九月朔^乙 旦 快晴

一上紺屋町熊屋新七昨日迄^ニ而三日^ニ相成候^ニ付今朝差免其段御兩所へ相届

一御蔵米 六拾六文 町米六拾弍文

九月二日 大雨

一牢屋賄余り銀札去申ノ十月^ハ今西七月迄之分八拾八匁三厘有之牢番共指出候然ル所此節洪水^ニ付甚難渋之趣^ニ相聞候付左之通取計之但新左衛門立会^ニ而申渡之

其方共義牢舎人賄之義正敷取計候由 上野円助

残銀札八拾八匁三厘指出寄特之事^ニ候 加藤清右衛門

仍之自分心得を以兩人^江指遣候弥牢舎人^江御定法之通不足無之諸事約^ニ入念可取計候右^ニ付候^而ハ御下番共^江も相応^ニ難

義無之様取計可遣候

一 鍛冶場渡船留り候段申ノ刻前届出御所^江相届候

一 伏見町能勢屋源助妻先月六日出産仕候処兼^而病身^ニ而^而月取間違之

届書先達^而指出候所藏合孫左衛門手前^ニ而^而間違有之今日迄延引之

旨六郎左衛門申出先格之通叱取計候様申達

一 伏見町紙屋茂七妻先月廿九日出産仕候処月取間違之段届書指出し

先格之通叱置候様申達候

一 境町西川屋善助方へ江州神崎郡新堂村島屋新平と申ものきせる墨

筆壳十七ヶ年以前迄参候処不勝手ニ付参不申右代ニ丹波水上郡文

室村紙屋定八と申ものすか原細^并切々壳指越度願承り届

一 院庄川申ノ刻前留り郡代所^江申来大年寄へ申達ス

一 鍛冶場横渡船ニこやし石砂^江先格之通乗セ不申届出勿論御制札

ニも有之義故其通ニ取計候様申達ス尤宝曆七年三月廿九日日記ニ

も其訳記有之

一 小性町北側ニ^而屋根屋源太郎家屋敷表口五間裏行東之方ニ^而沓間

半之間拾間西ノ方ニ^而三間半之間九間但七歩五厘役也東隣ハ紅屋

幸吉西隣ハ茂渡庄右衛門借屋也石家屋敷代銀札式百五拾匁ニ相極

境町水田屋佐七へ壳渡度願承り届^{同十五日壳券状差出}

一 兼田川留り酉刻前郡代所^江申来大年寄へ申達候

九月三日 快晴

一 御用日登城

一 土岐山城守殿預り所当国英田郡横尾村伝十郎悴友助一人二階町高

田屋治助借屋住魚崎屋権右衛門引受度人別入願御用番中御聞濟ニ

付大目附へ指出置御聞届申達候

一 撰州大坂曾根崎新地三丁目伊丹屋喜兵衛悴平五郎一人新職人町作

人市助借屋住原屋徳治引受度人別入願右同断取計濟^{同十八日住宅証文指出}

一 今般洪水ニ付坪井迄之往来荷付馬不通候故人足持歩ニいたし候然

ル処右賃錢之義坪井宿聞合候所馬荷^ニ而^而人足賃申受候由申越候

間此方^ニ而^而其通ニ取計候段届出候旨御用所^并大目附へ及御沙駄

候

一 藏合孫左衛門義伏見町能勢屋源助妻出産月取間違之届大延引いた

し依之恐入昨晩六郎左衛門を以差扣伺出候付承り置今朝左之通

六郎左衛門へ差紙指遣候^{但早朝申達候}

一 藏合孫左衛門差扣不及其義以来入念候様可申達候

一 院庄川辰ノ中刻前明キ申来大年寄へ申達ス

一 鍛冶場横渡相始候段巳ノ中刻申出御用番大目附へ直ニ相届候

一 兼田川明キ巳ノ中刻申来大年寄へ申達候

一 東新町鋼屋善五郎裏ニ昨夜式間階子土藏ニ差掛有之隣家鋼屋善助

境之戸^并裏門明ケ有之候得共紛失ものハ無之旨尤右階子近辺相尋

候得とも相知不申旨届書指出承り置郡代所^江及噂置候

一 小須賀一学殿^江洪水ニ付以後之取計考書左之通御渡被成候右之外

ニも可然考も可有之哉阿役熟談之上考申上候様被仰出候

一 非常之節大目附町奉行郡代等出役之節町内意町ニ両側四五ヶ

所懸ケ挑灯可差出事

一 水難為防是迄軒別ニ土俵其時ニ為差出候所以来^者年々軒別意

俵ツ、土俵仕立差図次第川岸向寄之場所^江四月中ニ差出可置

事

一出水等^ニ而郡代出役之節^者向寄之大庄屋可罷出事

一同断之節郷中人足兼^而大躰近在^今出候分相定置差図次第庄屋

召連可罷出事

一船頭町辺^ニ而作船可有之候得^者前以船頭町年寄罷出内町へ入

候事無差支様^ニ取扱兼^而右船頭^者順番^ニも壹艘^ニ兩人つゝ相

定置急度可相勤事

一林田船之義も同断右之外^ニも定置候ヶ条可有之哉町奉行郡代

^ニ申談伺可有之事

八月

一造酒屋共名面替等之御届書先違^而大目附へ指出候所公辺御届相濟

候由^ニ而右扣式冊先年御届書損之御届も相濟候由小須賀貢^今被相

渡勿論不審之ヶ条も有之候間其段取調候上可申聞旨被申聞候右書

面^者酒造株取調之内へ入置候

一坪井町北側^ニ而高砂屋兵助後家家屋敷表口五間裏行拾七間但壹軒

役也西隣ハ福恵屋伊兵衛東隣^(ツ)之勝尾屋茂七也右家之内西ノ方^ニ而

表口式間半裏行拾七間但半役相添代銀札壹^メ勿^ニ相極西今町坪屋

藤十郎へ売渡度願書承り届^{翌四日荒券状差出}

一郡代三浦十郎左衛門^今般洪水^ニ付破損取調書大目附へ指出候所

町奉行と兩名^ニ而差出候様被申聞候付拙者名面書加へ左之通認指

出候由通用有之候

一当八月十六日^今雨降統十九日午刻頃^今大雨^ニ相成追々出水い

たし未刻頃^今風吹出戌ノ刻頃^今洪水^ニ而子刻頃^(ツ)水勢強丑刻

頃^今追々水落風止申候右^ニ付御領分町在破損所左之通御座候

一出水高サ平水^今所^ニより壹丈五六尺程

一往還道筋六千百三拾四間

一田方反別五拾三町七反壹畝三步

但荒川砂入共

一畑方反別三拾三町八反九畝貳拾七步

但右同断

一潰家 三拾壹軒

四軒 流失内^{三軒在分}

貳軒 風吹潰 在分

内 壹軒 山崩潰 右同

六軒 水押潰 町分

拾八軒 半潰内^{十四軒在分}

一水車 四ヶ所

内 壹ヶ所 流失

三ヶ所 破損

一川除 九千七百四拾四間

但石垣土手共

一井堰 三百三ヶ所

一山崩 五十六ヶ所

一橋大小 三拾貳ヶ所

一川除竹木流失員數不相知

一懸樋 三拾間流失

一水門^井唐戸共 拾壹ヶ所

但流失破損共

一 西々条郡真加部村宗枝村古川村吉原村と御料薪森原村下原村

と論所御裁許之節御定杭之内三本流失

但 拾壹番 拾貳番 拾六番 根囲共

一流死人^并牛馬流死無之

右之通^二御座候尤田畑荒川砂入其余水押等^二而御損毛高之義ハ追

而見分之上御届可仕候 以上

西九月 三浦十郎左衛門

増兎右門

九月四日 少雨

一 寺社取次野条金平^ハ先年御手廻り之妻^二相成居候^而江戸迄罷出候

西川出生之女俗称西川姫と申もの宗永寺長屋^二罷在半乱心之趣^二

而取扱候処右女^者元来鍛冶町神場屋と申もの引受未町人別之もの

、由申之趣^二相聞候間右御相糺呉候様昨日被申聞候付大年寄へ申

付為相糺候所神場屋と申もの右夫御手廻り之受人^二而相立居候得

共右女引受候義^者無之旨申候^二付猶又鍛冶町相糺候所同町へ引受

候義^者無之旨申出候段大年寄申出候付其段野条金平へ申遣候

一 酒造屋名面替御届済之帳面昨日小須賀貢被相渡及一見候所先達^而

幸助^ハ申越候朱引但書朱引案詞とハ認方但書之分不殘違候得共意

味違候義^者無之^二付其趣^二扣帳直置候尤右帳面之内誤字相見^江候

^二付致附紙^并幸助^ハ大目附中之方へ来候追絡^二以来株替名面替等

有之候ハ、右帳面之末へ認置候様^二申来此段難解^二付承り度旨附

紙いたし御糺被下候様^二相達月番赤見類助へ指戻候且又先達^而指

出候堅紙^二相認候石数高書付^者御指出^二者不相成候哉承り度旨申
達置候

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売

来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出^{聖正月三日始}

一 撰州大坂大宝町万屋善次郎一人例年之通皮足袋水漉金通し卸売^二

来候段右同人宿切手指出候右同断

一 繰綿上中下三段之改印付来候所近来他領^二而右印を似七紛ハ數気

受も如何哉^二付当年^ハ俵之内へ印紙札入度右入用老万^二付四拾匁

計懸り候由大年寄伺出候付宜取計候様及差図候

一 大目附^ハ左之もの共広瀬橋杭御用木盜取候届有之候間可被相糺旨

被申聞候^二付出番文藏栄治差向左之通取計之

吟味中手錠

町内預ケ申付候

橋本町 吉田屋和助^{小三郎事}

同町 上総屋茂市

同町 桶屋彦兵衛^{彦之丞事}

右之通取計候段大目附へハ即刻相届御用番^江者翌朝相届候

一 西川^江出訴添簡指遣候林田町山本屋友三郎代人罷帰り右一件内済

取扱被申付五貫目之処当時老貫式百六拾六匁受取残りハ五年賦^二

致内済候由済口届書指出^并西川役人平沢助八大谷代藏^ハ之返書指

出候大目附へハ即刻相届御用番へハ翌朝差出候

九月五日 曇 晴

一 論所地改手代左之通先触到来

馬 式疋

右^者論所地改手代大島恒蔵福田両作相模美作国へ差遣候間道

中往返并 彼地御用中書面之馬差出賃錢請取之可継送者也

西七月 下野

御用付無印形 左近

右宿々村々問屋年寄名主

覚

御証文

一馬 式疋

右^者就御用今晦日四ツ時大坂出立美作国へ罷越候間別紙御証
文写之通相心得於宿々書面之^馬差出置無滞繼立船川越止宿等
無差支取計此先触早々繼送り津山町久米北条郡領家村宮尾
村兩村之内へ可被相届候以上

西八月廿日

論所地改手代

福田兩作
大島恒藏

大阪久長崎海道姫路迄夫^分 飾西 贅崎 千本 三ヶ月

土井 佐用 勝間田 津山

作州久米北条郡 領家村宮尾村迄

右宿村問屋年寄名主中

泊り付左之通

晦日西宮 九月朔日兵庫 二日加古川 三日飾西 四日土居

五日勝間田

一左之通追触到来

追触を以申達候然^者我等義於途中御用有之止宿日限致相違候
間左之通相心得可被取計候已上

西九月二日

論所地改手代

福田兩作
大島恒藏

三日姫路 四日千本 五日土居 六日津山

右宿々問屋年寄中

右先触御用番中へ持参指出^并当五月地改手代止宿之砌町方取計旧
例ハ隣町夜廻り有之候得共近例之当^ニ而ハ夜廻りハ可相止旨御用
番中へ相伺候得共先ツ先格之通隣町夜廻り申付候様御差図有之其
通取計候得共此間大目附^分達も有之公儀御役人通行止宿取計近來
取計來候通^ニ御決定被仰出候^ニ付其旨^ニ相心得尚又認出候様被申
聞唯今調罷在候処先年何極候節手代通行之格認無之全其節調落^ニ
付弥當時^ニ而^者夜廻り無之相当^ニ付相止メ可申相伺候処其通^ニ取
計候様被仰出候付左之通可取計旨大年寄へ申達候

一町々保頭先払 但保頭代問屋人足

一止宿 御用宿

一同町年寄旅宿へ見廻 但袴着用

一明六日盜賊伝藏^并東新町博奕一件之もの共御裁許取計候^ニ付左之
通夫々手配申達候^并昨夜手錠申付候橋本町三人も呼出候様申達候

一明六日於牢屋敲払取計候間御徒目附下目附立会被指出候様

大目附へ届

一戸メ取計有之^ニ付貫三挺 釘十本被相渡候様^ニ御作事^江御
達被下候様大目附へ達

一右^ニ付加人^三人大目附へ当日切^ニ申達候処并汲庄平河村新
吾松永市三郎來

一 町大工彦人町人足彦人指出候様大年寄へ申達
一 右引合之町人共不殘召連出候様大年寄へ申達

一 牢屋江も右手配申達候

一同心組小頭へ右同断申達又

一 郡代^井 寺社取次^二も右伝蔵引合候もの有之^三付及通用候

一 右盜賊伝蔵^ハ盜物取次売払候林田上之町御作事構屋敷^二居

候与三郎^ハ右代物御取上ケ被下候様大目附へ申達与三郎口

書指出候

一 今般之洪水^二付伏見町小借屋多持候もの共借屋物必至之難渋^三付

御救被下候様歎書指出候旨大年寄^ハ内々伺出難捨置義^二付大目附

へ及相談候上御用番中へ御内意相伺候御聞届難被成もの^二付宜

取扱候様御紙面^二而被仰出候^三付其段新三郎を以大年寄へ申達候

一 安岡町岡崎屋善吉後家借屋住庄五郎年貢不納之義八月廿九日上原

彦藏へ委細談置候処其旨取計有之候由此間御代官竹内要左衛門方

へ安岡町年寄呼寄岡崎屋後家并納不承知之定^而豊国屋大助取計^二

付心得違右躰^二不得心之^三察候右ハ全取計違^二而以来是迄之取

計と違候義ハ無之小作之ものも上^ハ御世話被仰付御取立被下候間

右之段得と申聞上納候様^二可取計旨被申聞候付年寄返答^三左様之

義^二候ハ、嘸得心可仕如何様私共迄も是迄之御取計と違候様^三相

心得居候由申述罷帰り右後家へ申聞候得共彼是申募不承知之由^二

付無抛大年寄へ申出候^二付大年寄へ呼出し段々理解申聞候処漸々

致得心弁銀可仕申候^二付其段年寄^ハ竹内へ及返答候様申付候段大

年寄申出右一件筋立相濟候

一 一ノ宮茶屋^二而湯郷之もの、脇差盜取候もの有之右^者因州もの^二

而當時^江西新町へ致入帳居候もの、由目明申出候付番百蔵伝蔵指

向候処紺屋町^二而召捕候段届越候付左之通取計置候様申付ル

吟味中牢番預ケ

組合預ケ

右同人家内

右利右衛門と申もの元因州出生^二而五ヶ年已前西新町江見屋伝七

引受同町岸田屋伊三郎借屋^二罷在候由右脇差盜取候^三相違無之段

及白状候旨百蔵^ハ届出候尤右之段翌六日御両所へ相届候

九月六日 晴曇

一 神田栄治妻今暁出産男子出生血忌引込候段届出依之加人一人申達

候所飯島作右衛門来

一 於牢屋今六半時揃御徒目附河村市兵衛下目附近藤文兵衛小頭代文

蔵部屋目附百蔵出番幸治武兵衛立会左之通取計之

所々盜相働其上畑物等盜取 元魚町出生当時無宿盗人

不届至極^二付百敲之上御領分追払 伝蔵

博奕宿宿いたし候付百敲之上 東新町紺屋

帰町 万治

博奕参会いたし候付御城下追払 元河原町出生当時無宿

以下於白測書役読渡之

同人甥大黒屋藤七義立帰もの、処 西新町大黒屋 藤蔵

数年同人裏屋^二為忍置不届至極^三付戸メ申付候^{但目数三十日}

畢^而大黒屋藤七妻義其方へ預ケ申付候

以下於白砂大年寄申渡之

右^二付追込但日数五日

西新町大黒屋藤藏

組合

町々無宿者敵敷遂吟味候処

同町 年寄 三人

町内右等之もの無之旨先日届出候所

右牀之義有之全上を蔑^二いたし

不届至極^二付追込 日数十日

東新町紺屋万治

紺屋万治義博奕宿いたし

隣家

候^二付過料五百文つゝ、申付

組合

其上追込 但日数五日

同町 年寄 壹人

右^二付追込 但日数三日

中之町 三室屋

盜賊伝藏^二盜物質^二

惣兵衛

取置触流之節不申出盜賊伝藏

白狀之上指出不埒至極之事候依之追込申付候但日数三日

右取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候

一立合例之通^二而 左之もの共遂吟味候

右御用木橋木盜取候^二而 八無之旨

橋本町吉田屋和助

申口^二付其旨口書取之

同町 上総屋茂市
同町 桶屋彦三郎

右口書大目附へ差出談置候

一昨夜召捕候西新町盜賊懸り合^二付左之通申付候

右盜賊利右衛門盜取候脇差預り置候付

下紺屋町

吟味中手錠組合預ヶ申付候

里屋松五郎

右之段御用番^并大目附へ相届候

一大隅宮宵祭^二付来ル八日林田六町例年之通挑灯差出候段大年寄届

出承り届

一論所地改手代福田兩作大島恒藏七半時過元魚町原屋佐市方へ止宿
いたし候段大年寄届出御所へ相届候

一論所地改手代止宿之処人馬間屋佐右衛門罷出候所右手代分佐右衛
門へ申聞候^者爰元^二而 露払杖突ハ被指出候得共宿役人出迎無之

御証文持參之事^二候得^者何方^二而 宿役人出迎既尾張様^二而 右

之通^二候処爰元^二而 致如何出迎無之哉と甚不機嫌之趣^二而 被相

尋佐右衛門義甚及当惑当座之間^二合^二宿役人不快^二付私名代^二罷

出候段申述如何様之訳哉不存候間承り可參哉と申候処何^二も改候

筋^二者 無之候間名代^二而 不存と申義^二候ハ、承り參候^二者 不及旨

被申聞候由^二而 佐右衛門伺出如何可取計哉と大年寄申出候^二付大

目附へ及相談候処考も難付何分御用番へ伺可然旨^二付御用番中へ

罷越相同候処愚意御尋有之右取計様忝式様も申上候処愚意考之通

今夕彼是及答候^而ハ却^而事を好候様^二相成たとへ宿役人出候様^二

申候共例無之義ハ御取計難被成もの^二付向方名代^二而 不知とあ

れハ承り參^二ハ不及と申候を幸^二今夕之処ハ佐右衛門一人切^二

而 何方^江も一向不申聞趣^二いたし置重^而右之旨申聞候ハ、尋来^二

不及と被仰候故何れ^江も不申聞と申述此段も又々佐右衛門一己之

不調法^二かふり候様^二可取計心得^二而 先捨置候^而も可然明朝之処

何れ人馬用事^二而 罷出候得^者今夕之躰^二而 矢張明朝も白衣^二而

罷出不機嫌さう^二も見へ候ハ、矢張名代之趣^二而 忝式町も付送り

候義ハ兎も角も不目立事^二而 不苦筋且又例^二も不相成義^二候得^者

其段ハ如何様とも宜取計候様^二被仰出候^二付其旨得と六郎左衛門

へ申含置候

九月七日 曇

作人幸助引受度人別人願右同断取計濟同十七日住宅証文並出

一論所地改手代福田両作大島恒藏今四時頃出立いたし候旨大年寄届出其段御用番并大目附へ相届候尤今朝問屋佐右衛門罷出人馬之世話いたし候処昨夜宿役人出迎之彼是申候処今朝者何之沙駄も無之

一戸川町豊屋喜兵衛借屋家守二葉屋伊八一人今般備前赤坂郡周匝村惣右衛門役介二引越申度人別除願右同断取計濟

二付乍機嫌取三町目辺迄荷物之致世話候風情二而付随ひ參候処昨夜之趣とハ違近頃入念之義最早引取候様二と両三度も致挨拶候二

一中之町玉茶屋唐吉方へ盜賊這入候義御両所へ申達觸流伺濟二付取計但右ハ去ル四日夕衣類五品代二積り廿五匁位之もの、由也同十八日町方無之段申出候

付引取候由右二付佐右衛門察候処全問屋役人と申義二而可有之哉と存候旨申出候由大年寄申出候明日出仕之上可及御沙駄候

一大目附二左之通御達有之候
二階町材木屋庄右衛門持之宮川尻之水車へ懸り候井堰上へあけ榎野茂つぎ左衛門辺二堰たて井出筋長く付候様可申達候

一大目附二先日已来愛染寺へ来居候奇妙之祈禱等いたし候四国之家上二被追立候処立歸り町方二忍ひ致逗留候趣相聞へ不宜候間内々二而申達候間宜取計候様被申聞候付其旨大年寄へ達置候

右之段茂渡庄右衛門へ申達候様大年寄へ申達候
一三奉行一同御用所へ御呼出被成左之通一学殿二被仰達候

一盜賊伝藏寺方二而盜取候品々取上寺方之分野余金平へ為持遣受取書取置候

備前札取扱差留候義藏合孫左衛門考書指出右之内不審之義も有之相尋候処答之趣も詳成義二而能ケ程二も身を入考候者奇特之至二思召候勿論町方之盛衰（盛衰）之義ハ可申出義二候得共兼

一南新座稲垣前関貫破損書文藏二指出宮田喜左衛門へ繕之義申達候

而引受銀札之義迄ケ程二も考出候所札元共ハ如何心得居候哉受前之義不申出不束之事二候此段ハ勘定奉行二可叱置候右

一備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結完来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出十一月廿八日届

取扱方之義種々取計方も可有之候処何を申候而も御領分狹義殊二此節指懸り候義二付右考之通可被仰付候併暫之間ハ權道を以可防義尤之義二候得共何れ權道之義二候得者いつ迄と申

一種油三匁七分売之処今日二三匁八分売二仕候届書指出候

限も可有之右取計申付候仁物撰肝要之事二候得者三奉行申合得と遂熟談右取計方可申出候此段申達候

九月八日 曇

右御受仕引取候

一御用日登城

一小性町伊勢屋十藏義先達而致普請候節境町境之溝之上へ建出し溝を潰シ境町水抜あしく相成候付同町水田屋佐七二訴出殊二伊勢屋

一御代官布施孫三郎殿支配所当国西々条郡山城村助五郎夫婦二人戸川町平野屋助左衛門引受度人別人願御用番御聞濟二付大目附へ差出御聞届申達入同十二日住宅証文並出十一月廿三日除帳

一雲州神戸郡西還村百性伊八悴新兵衛夫婦悴嘉十右家内三人細工町

十藏義不埒之返答等致候趣ニ相聞候付昨日小頭部ヤ目附大年寄諸吟味見分指出候処古来有之候而町境之溝を潰し家建出し候ニ相違無之旨申出候付左之通口達ニ御用番中へ相伺候処早速御聞濟ニ宜取計候様被仰出候

小性町伊勢屋十藏義境町境之溝を潰し居宅建立し不埒之義ニ付家居切取右溝を元之通堀候様申付無願右躰我俣成義いたし候段叱追込三日可申付候

一戸川町久藏と申もの同町多藏娘を妻ニ引受居候処夫婦合儀ニ不和ニ相成離縁申懸候得共乳呑子有之筋立かたき旨双方訴出候段大年寄内々申出候ニ付宜取扱候様及指図候

一牢屋下番中間ニ河原町久五郎と申もの召抱度旨御中間小頭ニ牢番伺出候間承り届

一大目附廻状左之通到来

一惠高院様来ル十一日七回御忌御相当被成候

一愍生院様来ル廿一日廿七回御忌御相当被成候

右ハ為御知而已之廻状ニ候得共先格之通町方組中へ相触候

一牢屋南路次御繕出来ニ付昼廻り為治作右衛門合封申付候

一牢舍人千代藏腫物再発医師願出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候

一牢舍人利左衛門万吉要藏先月廿六日足かせ申付置候処歎ニ寄而今日昼廻り為治作右衛門合差免候

一大目附松田三夕飼犬病犬ニ相成候間急ニ為取候様申来非人三組申付差出候処其内岸権四郎打殺候由又々申来候

一安岡町細屋嘉兵衛所持之自国受酒株去ル丑二月同町三倉屋八百治へ貸置候処今般取かへし候届書承り届

一安岡町細屋嘉兵衛所持之自国受酒株今酉九月来戌ノ八月迄一ケ年之間西今町松田屋佐助へ貸申度願承り届候聖戌五月廿六日取戻候

一盜賊伝藏町方ニ盜取候品々相渡受取書取置候

一大隅宮宵祭ニ付林田六丁揚挑灯届出候所西新町年寄三人共追込ニ

付差叩揚挑灯相止軒下ニ挑灯出ニ大年寄届出候付神事ニ付候義

ニ候得者不苦旨及差図候処大年寄心ニ伺出候趣ニ致置候由申出候

九月九日 快晴

一重陽ニ付組中罷出謁

一中之町三室屋惣兵衛追込昨日迄ニ三日ニ相成候付今朝差免其段

御両所へ相届候

一東新町年寄一人右同断指免

一大隅宮祭礼ニ付文藏百藏又六武兵衛指出候所無別条引取候段届出

候

九月十日 曇 雨

一坪井役人田中健藏瀧口与次右衛門合飛札差越与次右衛門来候ニ付健藏義致交代候案内例年之通申来及相答

一病犬出来ニ付追々ニ非人七組差出候

一病犬数多出来候趣ニ付大目附と談候上明朝合組兩人つゝ差添非人

三組ツ、可差出之旨取極夫々手配申付候依之加人兩人申達候所川

野浪右衛門下田弥三郎来

一先月以來久々目明共更廻りいたし居候所近来者余程穩ニも相聞并

有明月ニも相成候事故今夕ノ相止候様申付候右ニ付目明仮役岩藏

明日ノ差免候様百藏へ申付候

一尾州和多郡島崎之内寺元村陰陽師高橋伊豆上下式人例年之通來候

段新魚町三沢屋与八郎宿切手指出十月廿九日届ル

九月十一日 雨

一東新町紺屋万治隣家組合并西新町大黒屋藤藏組合追込昨日迄ニ而

五日ニ相成候間今朝指免其段御両所へ相届候

一牢屋下番中間伝助番代久五郎事久三郎義文藏百藏召連來於台所目

見江申付候

一久世御代官重田又兵衛殿止宿之節院庄川馬越無之人足ニ而繼立候

処洪水ニ相成り人足共二日半懸り右賃錢之義彼是伺出候付一日老

勿五分積ニ相渡候様及指図候

一鍛冶場横渡出水ニ付留り候段未ノ刻過届出其段御両所へ相届候

一院庄川留り申ノ刻郡代所ノ申來大年寄へ申達ス

一兼田川留り右同時申來右同断取計

一広瀬横渡留り申之刻過申來右ハ今日初而郡代所ノ申來候得共先例

も無之義且又本往還と申ニも無之ニ付人馬問屋へ為知置ニも及間

敷哉ニも存候付承り置

一盜賊伝藏義惣社村ニ而盜取候品郡代所へ送り書を以引渡受取書取

置候

一病犬防ニ幸治浪右衛門為治弥三郎非人三組召連朝夕差出候所最早

居不申趣ニ付今日切ニ而先相止可申段大目附へ対談之上夫々申達

候

九月十二日 晴

一院庄川明キ五時郡代所ノ申來大年寄へ達ス

一広瀬川明キ右同刻郡代所ノ申來承り置

一兼田川明キ四時前郡代所ノ申來大年寄へ申達ス

一鍛冶場横渡相始候段四時前届出御両所へ相届候

一大年寄宅へ左之もの共呼出文藏百藏差向左之通申渡之

境町境之溝を潰家居建出し

不届ニ付右家居切取本之通溝

堀可申候右之通無願我俣ニ義いたし不埒ニ付追込申付候三日

右両町境之溝潰居并右溝之上ニ境町水田屋佐助

雪隠等も有之趣ニ付崩取本之通 同町佐泊屋文助

右申渡相済候段御両所へ相届候

一牢舎人庄右衛門伊八弥太郎久右衛門郡代所ノ呼出し申來出番又六

差向出入取計之

一山岡十藏來り同人近辺ニ居候犬未何之別条も不相見候得共病犬ニ

被喰候故子供杯も懼候様子ニ候間非人ニ申付呉候様被申聞則大年

寄へ申付六人差向候又夕ニも六人差向候処向方ノ断ニ付不召捕罷

帰真不束之事ニ候

一東新町松本屋新六借屋住久野屋茂兵衛義盜人利右衛門ノ木綿島尅

反当分預り銀札拾匁貸置候由届書指出

一材木町今井屋伊助伴忠藏義御代官重田又兵衛殿支配所久世村和田

屋安五郎方へ当酉九月ヨリ來ル亥ノ八月迄三ヶ年之間奉公ニ差遣

度願承り届ル 戊七月廿七日罷掃

一 茅町越屋元治義備中国庄村政吉方へ廿五日計之逗留 而 明十三日
出立之願書大年寄承り届指出 同廿五日拂ル

一 伏見町孤独宗元先月十八日病氣見分差出候所今日相果候段届出候
ニ付勝手次第取葬いたし候様ニ申達候右ハ明日及御沙駄久世引合
之ものニ付病死之旨久世へ可申遣筋ニ付明日可相伺 并 勘定奉行へ
も可及通用事

一 安岡町荒神祭礼宵祭ニ付例年之通揚行灯差出候段大年寄届出承り
置

九月十三日 曇 風

一 御用日登城

一 備前赤坂郡多賀村忠七夫婦二人林田町鍋屋治之助引受度人別入願
御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候 同十七日住宅並文並出

一 京町吉田屋喜八郎娘義脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村玉串
柳軒方へ養女ニ差遣度人別除願右同断取計済

一 安岡町菱屋太助後家方へ去ル十日夕盜賊這入衣類何々ノ十三品代
ニ積り九拾匁計之もの被盜取候届書右同断取計済触流し伺済ニ付
其段大目附へ申達置町触取計候 同廿二日町左無之官届出候

一 伏見町孤独宗元病中見分一札持参昨十二日落命之段御用番中へ申
上右ニ付久世へ引合ものニ付可申遣段申上右下案を以相伺候処思
召無之旨被仰出其段大目附へ申達今昼立 而 久世へ之飛脚被仰付
被下候様申達候処御飛脚山本八十助来八ツ時右書状相渡候

一 大目附左之通演達有之類役 江 も申通候

柔姫様先達 而 御病氣之処此節御全快被成候ニ付右恐悅申上来
十八日三奉行以上有之候此段及演達候

一 小性町中之横町土橋破損届書指出大目附へ指出候
一 伏見町道具屋武助御堀 江 足代下し願大目附へ指出候

一 菜種御届左之通大目附へ指出候

覚

七拾八ヶ村菜種作高

一百五拾九石四斗壹升五合

内百拾六石九斗九升五合 油屋共手作手校

残 而 四拾貳石四斗貳升

右 者 兵庫問屋へ積登申候

右之通ニ御座候以上

西 九月 増見右門 印

三浦十郎左衛門 印

一 林田上之町御中間定助妻宅へ先月廿九日夕盜賊這入衣類綿風呂敷
等五品代積り拾式匁七分位盜取候触流大目附左達有之町触取計本
書ハ指戻候 同廿一日町左無之官届出候

一 神田栄治今日夕致出勤候付加人飯島作右衛門明日夕指戻候段申達
其段大目附へ相届候

一 洪水之節左之もの共相働候ニ付御酒代被下候様兩名 而 相伺候処
即刻御用番御聞濟ニ付大目附へ申達置候尤郡代取計也尤来ル十六
日取計ニ申談置候

格別出精ニ付三百文ツ、

中之町 船屋藤吉
林田上之町 甚七

出精^ニ付式百文ツ、

東新町 作人 庄助

林田上之町 万助

同 甚吉

同 和七

右之もの共去月十九日洪水之節相働候段部屋目附下代共申

出候付右之通被下置候度奉存候已上

九月十三日 三浦十郎左衛門 印

増見右門 印

一公儀御役人御代官^ハ囚人迄之当所通行止宿是迄之取計方取調小須

賀貢^江指出候尤郡代所^ハ別紙^ニ被指出候然ル所穢多囚人取計

之義先例無之^ニ付今般新^ニ相伺候処明石姫路之取計承り合候様被

申聞候付其段大年寄へ申達候人馬問屋^ハ申遣候様^ニ申達候

一盜賊弥太郎久右衛門庄右衛門右三人之口書郡代所^ハ相廻り町方^ニ

而 盜物買取候もの共相札候様申来大年寄へ申付候

一來春芝居興行願之義当年天神^ニ而 いたし候故来歳ハ町分^ニ而 可

有之三役申談候処^ニノ宮急難之由^ニ付相成候ハ、^ニノ宮へ申付度

ニ 付任其意候

一東新町紺屋万治隣家組合過料錢都合三拾六匁九分三厘大年寄^ハ相

納受取置

一河原町若松屋善左衛門^并同町作人万蔵菜園へ先月十九日之洪水^ニ

材木^并竹等流^江「今以主不相知候段届書指出大目附へ遂相談候処

今以主無之もの^ニ候ハ、菜園主へ指遣可然旨被申聞候付其段及指

図候

一明十四日夕河原町鎮守宵祭^ニ付例年之通揚挑灯いたし候段届出承

り置

一芸州広島戸田理庵と申本道医師坪井町羽織屋九一右衛門方^ニ致逗

留先月廿八日日延追願書指出候処永見造酒助殿家来^ニ被召抱御宅

へ引越候段届出候

九月十四日 晴

一久世^江指遣候飛脚昼時過罷歸り返書取来り宗元事落命候段早々御

届ケ可致^江申来候^ニ付右返書御用番中へ指出候

一杉山松茸甘本小勘者^ハ昨日相廻り致頂戴候

九月十五日 雨

一小性町伊勢屋十藏追込昨日迄^ニ而 三日^ニ相成候間今朝指免其段御

両所へ相届候

一銀泊町宗道大明神宵祭^ニ付例年之通銀泊町美濃職人町挑灯差出候

段届出承り置

一伯耆大山ヨリ来り候もの、由^ニ而 一昨十三日昼後刀指老人中間老

人来り塗状箱町奉行へ指出し呉候由^ニ而 指出候旨紙屋助右衛門指

出勿論状箱封印も無之^ニ付披見候処御役人中伯耆大山本坊役所と

認候封状老通有之候得共何方と申宛所も無之義故開封も成不申如

何様之事^ニ而 来候もの哉と助右衛門へ相尋候所盗人召捕^ニ来候も

之の由^ニ相聞候段申候^ニ付折節藏合孫左衛門出合居候付宛所無之

書状故開封ハ難成候得共尋もの等之義^ニ候ハ、目明共へ懸合可然

旨宜取計候様申達置候処其旨^ニ取計右尋もの鉄炮町庄助後家方^ニ

居候由^ニ而 孫左衛門^ハ懸合候内昨朝勝間田之方へ家内參候由^ニ而

直^ニ孫兵衛同道^ニ而 勝間田へ參候処右妻ハ矢張鉄灯町^ニ居候由甚

七呼出其旨助右衛門ノ勝間田ヘ申遣候由甚七申出候付非人共召連行急度番為致置何方之支配所之もの哉承り糺申出候様申付遣候処其内ニ逃去り居不申候由又々申出兩人とも甚不束之取計ニ付非人共指出し急度遂吟味候様申付置候処夜中口々ニ番付置候得共相知不申右不取計ニ付彼は六ヶ敷申懸候処大年寄ヘ宿を以申出候由右ニ付受人ともを引合七真偽相糺度候得共右もの、受人大目附構并郡代構之ものニ付夫々相断候処郡代ノハ御用番ヘ相届候由ニ付御用番一ニ罷越委細相届置候

九月十六日 曇

一西新町年寄三人追込昨日迄ニ而十日ニ相成候付今朝差免其段御用番并大目附ヘ相届候

右ニ付東新町年寄ヘ西新町年寄役兼帯差免候

一大年寄宅ニ而左之通申渡之

洪水之節格別出精相働候ニ付 中之町 鮒屋藤吉

鳥目三百文被下之

右同断出精相働候ニ付 東新町 作人庄助

鳥目式百文被下之候

右取計済ハ不相届候

一牢舎人院庄村入百性要藏新兵衛多七右三人郡代所ノ出牢申来手形

認かヘ出番栄治差向取計之

一伯耆大山ノ尋ものニ来候所目明共取計不宜候ニ付彼は六ヶ敷申懸候ニ付右鉄炮町庄助後家方ニ居候而逃去り候直太郎受人并右世話

人等差出面談為致度申出候付大目附一ニ代所ヘ懸合今朝夫々差

出孫兵衛宅ニ居候内ニ右直太郎夫婦立帰リ候ニ付目明共召捕候段

届出候ニ付右受人共不及面談差戻候様ニ申達右直太郎夫婦孫兵衛宅ニ而為引合大山役人ノ相糺候所弥人違ニ相決右直太郎ニ以後申分無之旨申之右ニ付明朝ハ罷帰リ可申段申之さつぱりと相濟候段目明孫兵衛届出候ニ付右之旨御用番并大目附ヘ相届郡代所并も及通用候

一御用宿玉屋太兵衛難相働ニ付指免右跡役元魚町大庭屋善兵衛ヘ申付度旨人馬問屋ノ内々申出候趣大年寄伺出候ニ付承り届宜取計候様及差図候処翌十七日申付候段届出候

一旅籠頭山北屋伊兵衛義家内少不勝手ニ付頭役難相働旨ニ付退役願申出候処同人義是迄取計方も宜御座候付今老人同役申付候ハ、相勤リ可申趣ニ付橋本町後藤屋佐市ヘ頭役申付度旨大年寄伺出右同断及差図候

九月十七日 晴

一久世御代官重田又兵衛殿手代曾根源治郎ノ昨夜及深更飛脚指越無宿盗人一左衛門召捕相糺候所奥津ニ而盗取候品之内綿入袷都合二ツ当所桶屋町長治郎と申一相頼当所質屋ニ拾老并質置候旨申口ニ付右之段相糺相違無之候ハ、右長治郎質屋他参留申付質物不取散候様ニ申付置候様申来御用番中ヘ其段申上置候而長治郎呼出相糺候

久世ノ申来候通相違無之ニ付口書取之 桶屋町広瀬屋

他参留申付候 長治郎事長治

右質物長治郎ノ預リ候趣相違無之ニ付 新魚町村元屋

札書取之他参留申付置候但大年寄取計 多四郎

右小頭部屋目附大年寄諸吟味新左衛門立会遂吟味候処相違無之ニ

付右兩人口書写^并返書下案相認御用番中へ相伺候尤右飛脚八因州へ罷越明日返書取^二罷歸候由紙屋助右衛門^一申出候

一 林田町橋本屋和助娘義新田村之内広原分民之進役介^二差遣度願下方引合相濟候段申出承り届

一 他所札通用指留候考去ル八日三奉行へ御達有之候^二付申談近藤伊左衛門^一今朝左之通一学殿へ指出候

他所札引替之義申談候処左之通相触候^而可然奉存候

他所札通用停止之旨度々相触候処近来別^而猥^二相聞不埒至極之事^一候依之急度可遂吟味之処此度ハ令用捨一旦当札^二引替

申付候間老錢^一三錢之歩相添来ル十月十五日迄^二堺町稲実屋義七郎方へ可指出候若心得違隱置候もの有之^一においてハ急

度曲事可申付候

右之通一旦取計猶停止之義敷敷申付置其節之様子^二寄猶又追々相考可奉伺候且又銀歩立替之儀^者右取計相濟候上^二而時節相考申上取計可申候以上

九月十七日

町奉行

勘定奉行

郡代

九月十八日 曇

一 御用日^并柔姫様御病氣御全快被成候恐悦^三奉行以上申上有之^二付

麻上下着用例刻登城

一 於七間廊下例之通御奏者番^一三奉行迄一同罷出柔姫様御病氣御全快被成候恐悦申上之

但先達^而御脚氣腫滿御煩被成候由御沙駄^二候

一 板倉主水正殿領分備中賀陽郡庭瀬新町金房屋十兵衛悻宗十郎義境町山田屋利右衛門養子^二引受度人別人願御用番御聞濟^一付大目附へ指出置御聞届申達候^{同廿三日宅証文指出}

一 久世へ之返簡書類今朝指出相伺候処即刻思召無之段被仰出其旨相認罷脚宿紙屋助右衛門へ相渡置候尤大目附へも指出濟^{同廿三日取付候}

一 他所札通用指留候考昨日伺候通宜取計候様一学殿^一三役一同^江被仰出依之来ル廿日可取計候旨三役談置候尤其段大目附へも三浦^一被相達濟

一 洪水之節広瀬橋御用材木引上候三人之もの共叱之上追込三日可申付旨御用番中へ指出候所即刻伺之通被仰出候^二付大目附へも相届猶取計済可相届旨申置候

一 德守宮宵祭^二付例年之通町々関貫開立番付置候段御所へ相届候

一 勝部村義右衛門方へ去ル三日盜賊這入下人之古裕前懸ケ盜取候触流し取計候様大目附^一達有之町触取計本書ハ指戻候^{同廿七日町方^一無之係届}

一 手島流講尺跡近来教信へ相頼候処相応之入用も少々、有之候間矢張手島講尺同様^二上払^一可取計旨小須賀貢へ懸合候所承知^二而

相濟候^二付其段宮田喜左衛門へ申達置候

一 坪井迄之往還荷付馬洪水^二付不相通候処今日^一荷付馬通路出来候段大年寄申出候付其段御所へ相届候

一 秋葉関守宵祭之夕例年之通西今町挑灯指出候段大年寄届出承り置

一 德守宮祭礼^二付同心組役割左之通指出

十八日当番^{又六}

夜廻^{為治}

警固出役^{藤四郎^{幸治}}

小頭代百藏

十九日当番^{藤四郎}

夜廻^{幸治}

警固出役^{武兵衛}

小頭代文藏

九月十九日 雨

一 大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代宗兵衛一人例年之通挑灯張か

へ来候段中之町甲屋幸助宿切手指出十月五日堀ル

一 徳守宮祭礼無別条相済引取候段警固之者届出其段御所へ相届候

尤昨日ハ御徒目附河村市兵衛今日者山本弥市罷出候由届出候

勿論例歳之通弁当御酒指遣候

九月廿日 雨

一 左之もの共大年寄宅へ呼出し小頭代文蔵部屋目附百蔵出番又六差
向左之通申渡之出番手錠指免候

其方共義洪水之節広瀬橋

橋本町 吉田屋和助

御用材木流来候を引上ケ

同 町 上総屋茂市

候処御用木と乍心付不届出

同 町 桶屋彦三郎

等閑ニ致置不届至極之義ニ候依之急度御答可被仰付候

御憐愍を以急度叱之上追込申付候相慎可罷在候 但日数三日

右取計相済候段御用番并大目附へ相届候

一去ル十八日伺済ニ付三役申談之上左之通町触差出候去ル十七日之延ニも罷者

他所限用止之旨度々相触候処近來別而猥ニ相聞へ不埒

至極之事ニ候依之急度可遂吟味之処此度者令容捨一旦当札

ニ引替申付候間壹錢匁ニ三錢之歩相添来ル十月十五日迄ニ

境町稻実屋義七郎方へ可指出候若心得違隠置候もの有之ニ

おゐてハ急度曲事可申付候

右之通惣町裏借屋迄可被相触候 已上

右取計済ハ相届ニ不及旨三浦土の申来候付不相届候

△稻実屋義七郎へハ銀札場奉行の達有之候

△右御触之通町方入念相触候処大年寄共心得を以若又不行届候而

ハ不相済義ニ付入念翌廿一日町々年寄共呼出一組切ニ致寄合能

々身合心得違無之様ニ猶又申付候段申出候

九月廿一日 快晴

一 牢屋下番中間久五郎引込ニ付割場加入来候段牢番届出候尤翌日申出

一 牢舍人千代蔵療治二廻り相済候処未相勝候ニ付猶又藤木良全へ療

治申付候段双方届出候

一 御廻米今日初積いたし候段御蔵元届出候

一 明廿二日牢屋吟味可取計ニ付加入老人大目附へ申達候所日下藤右

衛門来勿論右手配夫々申達□□□非人三人差出候様百蔵へ申付候

一 但馬生野御代官布施孫三郎殿先触左之通到来

覚

一人足 拾貳人

内三人駕籠壹挺 貳人具足 壹人合羽駕籠 壹人両掛壹

荷 壹人竹馬

一人足五人

内四人山駕籠荷挺 壹人両懸ケ壹荷

一馬 四疋

内三疋本馬 壹疋輕尻

右者 布施孫三郎義明廿一日明六ツ時草屋分出立当田方為検見廻

村被致候条書面之人馬無遲滞差出勿論不用之人馬不差出可被繼

立候尤検見村々者 見込帳前日止宿へ指出改受可被申候此先触早

々順達留ニおゐて我等とも着之上可被相返候以上

西 九月廿日 布施孫三郎手代 大場十蔵

鯨井与三郎
中沢良分

廿一日泊新野山形村 植月北村 同西方

廿二日泊上野田村 津山 河本村

廿三日泊高山村 蕎麦尾村 山城村 入村 塚谷村 馬場村

上森原村 貞永寺村 久田下原村 長土路分 富仲間

村 楠村 土生村

右村々庄屋年寄中

右先觸写御用番中へ指出町分取計先格之通^ニ可仕旨申達右同様大目附^江も相届郡代所^江も及通用小頭^并大年寄へも先格之通取計候様申達候

九月廿二日 快晴

一今九時分新左衛門百藏出番為治幸治召連牢屋へ相越左之もの共遂吟味候勿論目明老人非人三人召連罷出候

兩人共大躰吟味詰り候

牢舍人 関助
同 利右衛門

右非人共へ酒代式勿差遣候

一郡代所分牢舍人弥太郎伊八久右衛門呼出申来出番為治出入取計之

一但馬生野御代官布施孫三郎殿明日通行^ニ付左之通取計申達候

一 道筋不及掃除不見苦様大年寄分演達

一 保頭先払但町々保頭継送り候

一 同心組為治幸治先払但大文字附黒羽織袴着用股立木杖立宿

更新町いづも慶幸吉

一 御使者永井要藏被仰出立宿材木町車屋源兵衛へ申付ル

一 東西川場へ御船不被指出候^ニ付船役人不申付候尤以来御代官

^ニ者 参着帰国之外^者不被差出候旨^ニ相極候尤亦見三浦分承之

一 銀札場奉行分錢拾^(三)固川下ケ申来奥印書取計之

九月廿三日 雨

一 御用日登城

一 橋本町吉田屋和助上総屋茂市桶屋彦三郎追込昨日迄^ニ而三日^ニ相成候間今朝指免其段出仕之上御両所へ相届候

一 脇坂淡路守殿支配所当国久米北条郡南方中村林右衛門倅佐太郎義

一人中之町日上屋義助役介^ニ引受度人別人願御用番中御聞濟^ニ付

大目附へ指出置御聞届申達候^{同廿六日住宅証文差出候}

一 船頭町今津屋孫十郎後家義五年已前巳ノ年倅平藏義林田町上田屋

久平分銀三ノ匁借り受追々相払右残六百拾九匁七分六厘有之不

筋立由^ニ而 上田屋久平分歎書指出候付御用番中へ指出是迄下方^ニ

而 内扱取計候得共不筋立^ニ付無掬大年寄共指出候義^ニ者 御座候得

共今一応役筋分内濟申付弥不筋立^者引渡候様申付可然哉と奉存

候旨申上候処先内濟申付候様被仰出候^ニ付不相濟^者又々申上可

取計哉と相同候処其通^ニ而 宜候旨被仰聞候付其段大目附へも申達

置内濟申付候

一 近藤伊左衛門分是迄鉄砂取^并小桁用水^ニ付覗堰留候処今般小桁へ

之并手相止候^ニ付覗之堰相止八出尻百間敷之上^ニ而 以来鉄砂取計

候并手少し付是迄分八却^而宜趣^ニも相成候林田辺分彼是申所^ニ付

及噂置候間一己切^ニ聞置候様^ニと噂有之候^{○又々相止候段翌年二月廿三日}

^{被申聞候}

一 但馬生野御代官布施孫三郎殿八時過町分無滞通行相濟候段御先払

今届出其段御所へ相届候

一 牢舎人橋本町中島屋幸助義牢賄組合之もの致難洪歎出候趣大年寄
今申出同人義ハ立帰リ罪状重きものニ 最早罪極候ものニ付明廿
四日今牢賄ニ申付候

一 上横野村治右衛門方へ先月廿八日今当月二日之内ニ盜賊這入衣類
四品代ニ積リ廿七匁位之もの被盜取候触流取計候様大目附今違有
之町触取計本書ハ指戻候 同廿七日町方無之旨届出候

一 院庄川船渡昨日今土橋ニ相成候由郡代中被申聞大年寄へ達ス

一 町医師名面取調差出右之内伏見町石井宝庵京町高道齋下紺屋町長
瀬元庵事当時中島宗元右三人本道仕候付已来牢屋療治可相廻旨大
年寄伺出承り届

一 大目附廻状左之通到来

御家中之面々年来困窮可為難洪候当暮取扱等之義遂勘弁候様
相達候得共当年洪水悪作等年々御物入夥敷万之上ニも御行届
兼被成候御事ニ候仍 乍少分亥子寅歳年賦之分御用捨を以流
ニ被仰付候間何も此上艱難取統御奉公相勤可被申候

右之趣可相達候旨黒田要人殿御申聞候間可被得其意候

右廻状写取組中へ相達候

一 加人高木武兵衛引込代河村新吾来

九月廿四日 快晴

一 牢凌申付候処無別条段栄治伝藏届出候

一 兼田川土橋出来候由郡代所今通用有之大年寄へ申達候

九月廿五日 曇

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛老人例年之通紺屋形壳ニ

来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出 翌正月三日届
一去ル十八日差出候久世へ之返書一昨廿三日飛脚之者因州今帰り取
帰り候由紙屋助右衛門届出候

九月廿六日

一 郡代所今牢舎久右衛門口書繼印取ニ下代金治差出度立合之義申来
昼廻文藏幸治差向候

九月廿七日 雨

一 但州生野囚人止宿先触左之通到来

覚

一人足 五人

一本馬 壹疋

右 我等義囚人式人召連明廿七日朝七ツ時作州西々条郡上才
原村出立但州生野陣屋江罷越候間書面之人馬御定之賃銭受取
之無遅滞差出可被繼立候尤川越渡船等差支之節 前宿村今通
達いたし置是又差支無之様可被取計候且泊之宿村ニ 而ハ囚人
番人用意可有之候此先触早々順達森垣村ニ おゝて御役所へ可
被相届候以上

九月廿六日 布施孫三郎手代 北尾算藏

作州西々条郡 上斎原村 下斎原村

同州西北条郡 寺谷村 井村 年信村 寺和田村

右四ヶ村申合寺谷村へ人足差出津山町へ可被繼立候

廿七日泊 津山町

右宿村問屋庄屋年寄中

「 』

此先觸着候上其町ニ御留置可被下候右者夫町ハ勝^{（と）}候^{（と）}江可參哉
又ハ平福通可參哉泊定不致候間何れ着候上何れ江とも別段先
触先出候積ニ候間左様御承知被下御留置可被下候

一河面村江之沓封是又着次第人足沓人御立被成可被下候委細
者被面之上万々申上度如此御座候以上

九月廿六日

助市事

津山問屋様

北尾算藏

右先触到来ニ付取計例書相添御用番中へ持參相伺候処無程宜取計

候様被仰出大目附へも其段相届候右取計左之通

一旅宿 元魚町大場屋善兵衛

一保頭先立

一同心組警衛跡を固メ行夜中隣家出張高張挑灯出之

一不寝番 式步中買 人足 沓人つゝ

一旅宿前後人留立番

一前後町夜廻り

一同町年寄度々見廻

一大年寄老人挨拶ニ罷越候

一髮結沓人申付候

一同心組立宿一ノ宮ノ方ハ可来ニ付元魚町

一同夜中出張宿 元魚町糺屋伊助

一茅町池上流滴西新町井崎十右衛門田地公事先月十六日内済申付置

候処流滴義久々不快ニ未得懸合不申旨延引之届書指出候

一雲州大社中官西村神太夫御師上下四人例年之通且那廻りニ来候段

坪井町河原屋治助宿切手指出候十二月廿六日

九月廿八日 晴 時雨

一御用日登城

一但州生野四人昨夜四時過致着候段届出候ニ付其段御用番并大目附

へ昨夜紙面ニ届置候所今五時前出立いたし町分通行無滞相濟候

段警衛之同心組届出候付其段出仕之上御所へ相届候

一元魚町作人与吉借屋住中野屋佐助後家かね母しやう義去々未十月

大坂上本町備中屋徳兵衛方へ引越候処此度病氣ニ付罷帰候間帰住

為仕度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一今九時ハ左之もの共呼出し立会例之通出番栄治為治ニ遂吟味候

此三人口書爪印取之

牢舍人 関助
同橋本町中島屋幸助夫婦
同東新町 利右衛門

東新町盜賊利右衛門引合ニ付 下紺屋町里屋

手錠組合預ケ申付置候処弥携り 松五郎

無之ニ相決候ニ付口書取之手錠組合預ケ 指免他參留申付候

右松五郎指免候段御用番并大目附へ相届候

一玉琳ニ大商内いたし候ニ付町方故障ニ相成候段大年寄共申出其

段郡代へ懸ケ合候所小商内ハ御聞濟之事ニ候得者御沙駄無之者

難取計候間其段御用番中へ申立候様十郎左衛門申聞候間昨日要人

殿へ罷越申達候所何分相考可申由被仰聞候同八月九日息難取立要人殿發仰聞候

一大目附廻状左之通到來

此間亥子寅三ヶ年之年賦流^ニ被仰付候段相触候所調違^ニ而子

寅辰三ヶ年之拜借年賦流^ニ被仰付候段申來候

右之段組中へ演達取計候様文藏百藏へ申付候

一備前札引替此間相触候所一向不持來由^ニ相聞候付平井半平へ対談

之上左之通大年寄へ申渡候

備前札引替申付候得共一向不持來銘々隱置候事と相見へ候間

一町々一組合切^ニ遂吟味持合候ものハ早々可引替若又隱置候

もの有之候ハ、急度御答可被仰付候間銘々友吟味^ニいたし最

早無之候ハ、其段可届出候

九月廿九日 晴

一関貫番賃銀例月之通相渡

一二階町堺屋延借屋住玉屋太兵衛義先月初旬出奔仕相尋候得共行衛

不相知候段届出例之通尋申付候

一銀札場奉行今京町小豆屋与平次錢日附差免跡役銀札場手代新魚町

秤屋甚左衛門へ申付候由通用有之候

十月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舍人

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十月朔^{甲辰}旦 晴

十月二日 曇

一先日領家村へ相越候論所地改手代今二日未明宮尾村出立当所通行

之由宮尾村の人馬問屋へ申越候段今晝大年寄の届出尤先日之通保

頭先扨道筋見苦敷無之様^ニ申付置候段申出候付今朝御用番^并大目

附へ紙面^ニ而相届置候所昼時左之通先触來候

一御証文 馬式正先触写^{先月五日通行之節之通}

覚

御証文

一馬 式正

右^者就御用今二日六半時作州久米北条郡宮尾村出立大坂^{江罷}

越候間別紙御証文写之通相心得於宿々書面之馬差出御定之質

錢受取之無滞繼立渡舟川越止宿等無差支様取計此先触早々繼

送り神崎駅今大坂鈴木町大和屋善兵衛方へ可被相届候已上

論所地改手代

酉十月二日

福田両作

大島恒蔵

作州津山駅今播州姫路夫今大坂迄

右宿々村々問屋年寄名主中

泊り付 二日勝間田 三日三ヶ月 四日姫路 五日明石

六日西宮

然ル所八時頃通行相済候段申出候付右届と一緒先触も御用番へ差出大目附へも通行済相届候

一郡代所今牢舍人新田村定吉給蒲菌入遣候様申来牢番へ申付候

一牢舍人腐右衛門病氣申出大年寄へ申達候所吉武祐三へ申付候段申出候

同廿九日休業

一御蔵米七拾匁五分 町米六拾六匁五分

一牢舍扶持仕切証文指出奥印書取計之右ハ六月今九月迄内貸高五拾

五俵内五拾式俵式斗八升壹合式勺五才仕切表引残 式俵四升八合

七勺五才此度返上ナル

一牢舍扶持拾壹俵内貸証文差出奥印書取計之

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助一人例年之通筆自粉壳 来候段京

町美濃屋平五郎宿切手出

同晦日始

十月三日 少雨

一御用日登城

一船荷割之義俵数 割来候所夫 ハ船頭不勝手之筋 付以来ハ

船数割 取計呉候様長岡筋船肝煎 田原船肝煎今当所船肝煎田原

屋定太郎方へ頼越左候ハ、長岡受前之宮尾村樺村瓜生原河面河岸

出荷是迄等閑 相成居候 付以来者、メを付右船切手長岡船肝煎今

差出来候所右切手を船頭町茂村屋伊助へ頼置同人方へ右四ヶ所出

荷為知越候上 船差向候河岸々へ申越置右切手無之候ハ、吉ヶ

原御番所 通船被差留候様 可申置候以来ハ船数割 取計呉候

様申越勿論此方 亦も俵数割ハ甚迷惑いたし居候処幸之義 付承

知候旨返答 及度右返書下案 来書共蔵合孫左衛門今指出御用番

中へ指出相伺候処思召無御座宜取計候様被仰出其段大目附へも相

届置承り届候段孫左衛門申聞候付取置船出入一件之内へ入置候

其俵留置候様孫左衛門申聞候付取置船出入一件之内へ入置候

一洪水防之手段考書御用番中へ指出置候

一米相場書近領へ相廻候入用青繩油紙指札大目附上印取之荒物方

而 例年之通受取之 御作事へも挾板注文申遣候

一御払米三百俵 正銀七拾式匁分五厘 落札浅川屋与七

町米六拾八匁分五厘

一御蔵米 七拾匁五分 町米六拾六匁五分

一三町目和田屋九兵衛方 菓子拵ほいろ 火移燃上り候得共早速

消留候段大年寄届出候得共誠 些之義 付不及御沙駄候

十月四日 晴

一備前岡山浜田町挑灯屋吉太郎手代松治郎式人例年之通挑灯張替

来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出

十月廿三日始

一西川役人平沢助八大谷代蔵今例年之通米相場書頼来及相答候

十月五日 曇

一昨夜百藏為治幸治新吾更廻り差出候所関貫^并西町之分相改候得とも何之別条も無之旨今朝届出候

一御払米三百俵正銀七拾匁五分五厘 落札綿屋佐助

町米正銀六拾六匁五分五厘

一御藏米 七拾匁五分 町米 六拾六匁五分

十月六日 快晴

一昨夜更廻り為治伝藏幸治栄治東町方^江差出候所関貫^并所々相改候処無別条旨今朝届出候

一牢浚申付候所別条無之旨又六新吾届出候

一町方他所銀札所持之もの有之哉と一町々一組切^ニ友吟味昨日迄^ニ

取計候処老人も無之旨書附を以町々今届出候段大年寄今届出平并

半平へ及通用候右^ニ付稻実屋義七郎方^ニ而引替遣候員数内々孫左

衛門へ相尋候処左之通申出候

引替高 六貫三百匁計り

内因州札七百匁計 西川札式百匁計有之余ハ皆備前札

之由

一牢舍人千代藏全快^ニ付休薬双方今届出候

一加人御使組河村新吾引込代

一筑前遠賀郡柏原浦小平治手代利介恵助式人例年之通茶碗類売来候

一段京町田戸屋宗十郎宿切手指出 同廿六日編

一京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代清四郎善七兩人例年之

通呉服物売来候段京町海老屋長右衛門宿切手差出候 翌戊三月廿四日 船橋候段届出候

一大坂谷町二丁目御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作

合昨年之米相場書頼来及相答

十月七日 快晴

一六半時出番又六藤四郎指遣左之もの呼出立会例之通^ニ而左之通申

渡候

戸メ指免候

西新町 大黒屋藤藏

右指免候段御両所へ相届候

一 下紺屋町作人五百吉借屋住十藏と申もの先月十日出奔仕相尋候得共行衛不相知段届書指出例之通百日尋申付候 翌戊二月八日人別除帳頼指

一 林田町下横町通番所及大破候付普請仕候届書指出承り置

十月八日 曇

一御用日登城

一 二階町豊屋太郎家守長八借屋住作人五兵衛八十四才相成娘吹五十

四才罷成五兵衛義及老衰娘吹賃仕事等仕養育仕候処右吹義四年已

前午四月の長血相煩ひ家主組合の預助力漸相送り候処永々之義行

届不申候^ニ付右吹全快迄兩人とも御救扶持被下置候様歎書指出御

用番中御聞濟^ニ付大目附へ指出勘定奉行へ通用^ニ及置御聞届申達

候

一雲州神門郡^{（現鹿野市）}神樂大社北村和平次倅勝助義下紺屋町鳥屋利兵衛借屋

住杵築屋吉助引受度人別人願右同断取計済 同十五日住宅証文並出

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住喜庵義去申三月西国順礼^ニ

罷出不罷帰候^ニ付当六月其段届出候^ニ付百日尋申付置相尋候得共

弥行衛不相知最早百日余^ニも相成候^ニ付除帳願指出右同断取計済

一 勝間田町永勢屋勘九郎方へ去ル三日夕盜賊這入衣類七品代五拾八匁位被盜取候由届書指出右同断取計触流御聞濟ニ付町触差出候

一 中之町中屋文右衛門方へも右同夕盜人這入綿入老ッ盜取右同断取計之同十二日同人裏へ投込有之候
町方二書之於十月十七日申出同日召捕

一 西今町角屋庄七方へも右同夕同断衣類銀札等七品代六拾匁余之もの被盜取右同断取計之同十七日町方無之段申出候

一 京町小豆屋与平次義御堀へ足代下し願大目附へ指出候

一 御弘米三百俵正銀六拾八匁三分式厘 落札神田屋宇兵衛

一 町米 正銀六拾四匁三分二厘

一 御藏米 六拾九匁五分 町米六拾五匁五分

一 播州加古川今拾獲細工手伝友八老人呼寄候ニ付極月迄逗留為仕度願坪井町歛柄屋吉右衛門願出承り届十月十七日届

一 来十二日御給米相渡候御藏廻状到来組中へ相達候

一 備前札已来取扱之義三役連盟ニ而指出候所思召ニ不相叶戻ル

一 林田町作人庄右衛門入牢被仰付候所病氣ニ付出牢被仰付此節宿預

ケ候処甚困窮ニ付右妻義昼之内程賃仕事ニ近辺へ罷出度勿論病人

江者 親類付置候段歎書指出候付大目附へ相談之上御用番中へ相伺候処役筋聞置候と申義ハ如何ニ付大年寄已下ニ而見免候様ニ取計可然旨被仰出候付其段大年寄へ申達候

一 郡代所盜賊引合ニ付西今町安田屋清助茅町佐十郎御裁許伺書三浦士を以要人殿江差出候

十月九日 雨

一 久世御代官重田又兵衛殿手代石沢伊八郎曾根源次郎今例年之通米

相場書頼来及相答

一 安岡町坪屋与八郎義勝手付所持之造酒株東新町橋本屋藤右衛門へ為引受今西十月今来ル未ノ九月迄丸拾ケ年之間商売為仕度尤も名前之義者 矢張坪屋与八郎と仕候由届書指出承り届

一 公儀ニ而御誕生有之候由左之通大目附廻状到来

御誕生有之菊千代殿奉唱御台様御養被成候御名ニ指合候面々

可相改候

一 公儀御触左之通大目附廻状到来

博奕之義猥ニ相聞不届之義ニ候寅年被仰出候通敵數可相守候

勿論以来ハ私領たり共町奉行組被指遣被召捕候様ニ被仰付候

右廻状兩通写取町方組中へ差出候

一 牢舍人伝右衛門病氣申出大年寄へ申達候所吉武祐三へ申付候同廿一日

十月十日 快晴

一 先月十七日久世今申来候盜賊太左衛門引合之桶屋町長治新魚町村

元屋多四郎義久世今申来候ハ、指出候様江戸御勘定所菅沢下野守

殿今被仰出候間宜取計候様大目附今申来右御達有之候案内久世へ

申遣候先格ニ付文通下案相認御用番中へ相伺候処御添削有之宜取

計候様被仰出候付右之段久世へ申遣候間飛脚被仰付候様大目附へ

申達候所御飛脚村上吉右衛門来書状相渡候

一 御代官今町作御年貢取立ニ付近々今町方へ入込遂吟味候間不埒候

ものも有之候ハ、手錠申付候段例歳之通案内申来候

一 種油三匁八分売候所今日今三匁九分売ニいたし候段届書指出候

一 御領分西北条郡上河原村新藏役介佐四郎と申もの美濃職人町作人

新兵衛借屋住清八娘きやう響^ニ引受度人別入下方引合相濟候段申出承り届

一京町田原屋伊兵衛義備中笠岡八間町柳屋源五良方へ四十五日計之逗留^ニ而明十一日出立願承り届^{十一月十九日届}

十月十一日 時雨

十月十二日 時雨

一久世^江指遣候飛脚村上吉右衛門受取書取之罷帰候

十月十三日 曇

一御用日登城申上候御用向無之

一郡代所盜賊引合^ニ付左之もの共御叱可申付候旨伺置候処兩人共左

之通申付候様御用番中^ニ被仰渡候

兩人共三日追込申付候様

被仰出候

西今町 安田屋清助
茅町 角屋佐十郎

右之段大目附へ相達郡代所へも懸合候処未被仰渡無之由^ニ候

一二階町孤独五兵衛^并娘右二人御救扶持当月中之内貸真北類藏^ニ銀

札七匁指越大年寄へ相渡候

一惣牢御修覆^ニ付昼廻り伝藏幸治^ニ入替取計之

一御払米三百俵正銀六拾八匁八分九厘 落札大黒屋利兵衛

町米正銀六拾四匁八分九厘

一御蔵米 六拾九匁 町米六拾五匁

一中之町中屋文左衛門方へ去ル三日盜賊這入綿入老盜取候所昨十二

日同人裏扉覆之内へ投込有之候段届書指出候追^而御両所へ可及御

沙駄候^{同十八日及御沙駄候}

一備前札引替御領分中之分ハ来ル十五日迄^ニ而相濟候得共已来他領^ニ調物代^ニ持来候分当分町方八ヶ所^ニおゐて引替遣度旨去ル八日

三役連名^ニ而指出候処思召^ニ不相叶御指戻被成候得共左様無之^而

ハ町方俄^ニ衰微仕候間何卒当分右之通^ニ被仰付候様押^而三役連名

^ニ而弁書指出候所左候ハ、此度ハ三役へ御任七可被成候間宜取計

候様被仰出候旨栗田辰右衛門^ニ通用有之候

一安藤丹後殿去ル三日江戸立帰御用被仰付候旨大目附^ニ通用有之候

^ニ付御悅申上候所来ル十六日御出立^ニ付御暇乞申上候様大目附^ニ

達有之例之通竹之間外^ニ而御暇乞及挨拶候

十月十四日 時雨

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物^并晒燼壳^ニ參候段林田

町福吉屋安右衛門宿切手指出^{翌年正月十八日届}

一播州網干丸尾屋六三郎老人例年之通荒物^并塩物壳^ニ来候段右同人

宿切手指出^{翌年二月廿五日届}

一播州網干新在家平松屋佐十郎一人例年之通挑灯張かへ来候段右同人

人宿切手指出^{十一月六日届}

十月十五日 快晴

一牢舍人布右衛門療治二廻り相濟候処未相勝候^ニ付明日^ニ吉武修格

へ申付候段届出候

一牢舍人久右衛門病氣申出大年寄へ申達候

一御払米三百俵正銀六拾七匁九分壹厘 落札高瀬屋勘右衛門

町米正銀六拾三匁九分壹厘

一御蔵米 六拾九匁 町米 六拾五匁

十月十六日 時雨

一左之通町触差出尤下案勘定奉行の相廻候

此度格別之以容赦他札引替申付候付以来無心得違兼而被仰出候通堅可相守候然ル所此後御近領の調物等ニ他札持来外ニ当札不持合もの有之差支之節^者

東新町 鋼屋^{ゼン}五郎

西新町 高松屋忠右衛門

材木町 三家屋之右衛門

境町 稲実屋義七郎

新魚町 樫野屋茂一郎

三町目 佐和屋孫四郎

西今町 野々口屋七郎右衛門

安岡町 久米屋鶴藏

方ニおゐて暫之内三錢步落ニ而引替申付置候間持参之者ニ為引替受取可申候若相背候もの於有之^者 曲事可申付候

右引替場之もの共ハ銀札場奉行の達有之猶又^{候間}入念勘定所の井口惠左衛門を以被相達候由ニ候

一銀札引替之員数昨十五日迄之所内々承り候処左之通申出候

七貫九百六拾七匁八分 ^{但右之内四州札西川札も有之}

一牢舎人久右衛門病氣申出大年寄へ申達候所吉武修格へ申付候

一勘定奉行栗田辰右衛門の先達^而 広瀬橋材木橋本町之もの共引上ケ取歸り候右之材木元之所へ持返し置作目附へ相届候様申来候付其

段大年寄へ申付候 ^{同十八日引渡候段申出候}

十月十七日 快晴

一久世の昨夜及深更飛脚差越兼^而 引合之桶屋町長治新魚町村元屋多

四郎右兩人立合役人指添勝手次第指出候様申来尤右飛脚八生野へ参り候由ニ而受取いたし候様申出候付受取書相渡差返し置今朝大目附太田舎人^江 参り此節米相場書時節故大脇新左衛門難差遣候間

御徒目附ニ而も可被仰付哉又ハ米相場書之節書役歟又ハ御役人之内ニ而も認候もの御渡可被下哉と及内談候処使組之内ニ^者 有之間

敷哉と被申聞候付其以後新抱之ものハ可有如何御座哉先達^而 も而

三度書役代受取候得共一人も相勤り不申内々ニ而懇意之もの共相

頼間を合七候位之義ニ候得^者 迎も使組之内ニ^者 有之間敷殊ニ米相

場書ハ御勘定所^江 も出候事ニ候得^者 格別愚筆ニ而も如何ニも候得

^者 何卒右両様之内被仰付被下候様申達候所新左衛門義も兼^而 ケ様

之御用之御含ニ而被召出候事ニ^者 候得^者 差出度ものニ^者 候得共無

抛義ニ候得^者 御徒目附被仰付候歟又ハ御役人之内御貸被下候の外

ハ無之義ニ候得^者 其段御用番中へ御伺被成候様ニと挨拶ニ付御用

番中へ罷越右両様を以相伺候処以外御不機嫌ニ而書役代無之と

申義ハ有之間敷今一応得と相考候上ニ^而 申聞候様ニと被申聞候付

左候ハ、尚又大目附へ遂対談可相伺旨申置猶又太田舎人^江 相越右

之段申述候所左様ニ相成候^而 ハ迎も埒明不申申候程六ケ數相成無

益之義ニ相成候間表向ハ御使組書役代リニ取置不相勤候ハ、蔵合

孫左衛門へ内々相頼候様致度孫左衛門手跡ハ兼^而 存居候所彼位之

義ニ候得^者 可也ニ可相濟候間平ニ其通ニいたし候様挨拶ニ付左候

ハ、勘定奉行へも尚又書役代之義申談孫左衛門へも内々申聞承知

候ハ、其通ニ可致旨申置勘定奉行へも申談候処尚又遂吟味候上
 ニ可申聞旨ニ付新左衛門を以内々蔵合孫左衛門へ相頼候処誠ニ
 無御拋御訳合ニ被仰付候義ニ候得者御辭退も難仕併蔵合一人ニ
 而者当惑仕候間先年後藤時分書役引込之節大年寄書役御頼被成候
 義も有之候間不苦候ハ、書役佐右衛門召連罷出相勘可申旨申聞候
 由新左衛門申聞然ル所勘定奉行も書役代引受相動り候ものニ
 者無之候得共野田数右衛門義ハ可也ニ間も合可申哉其余ニ者老
 人無之旨申來候付左候ハ、数右衛門被相廻候様申達置大目附へ紙
 面ニ辰右衛門手紙差出右之通ニ申來候間大脇新左衛門指遣候様
 ニ可相伺旨申遣置御用番中へ又々罷越可也ニ書役代も可有之趣ニ
 付大脇新左衛門明後十九日立ニ而可差遣旨相伺候処即刻御聞濟ニ
 而宜取計候様被仰出候ニ付御代官所へ指出候得者肩衣御免之先格
 ニ而明和年中石名平太兵衛久世へ罷出候節も被差免一昨年郡代所
 分江見貞右衛門指遣候節も被差免候事ニ候処新左衛門義去春因州
 へ指遣候節者他之交も無之向方之役所へ出立合候義ニ而も無之受
 取ものニ参候義ニ候得者定而町宿ニ而引渡可有之と申御評議ニ而
 不被差免候得共今般ハ他之交も可有之候得者向方へ被為対候も
 御失礼ニも可相成ニ付被差免候様相伺候処随分其通ニ而宜候間拙
 者今申遣候様被仰聞候付此義ハ支配頭分御達可有御座義ニ而ハ有
 之間敷哉と申上候処左程之義ニ而も有之間敷候間拙者分申達候趣
 を大目附へ申達候ハ、大目附分御用番へ噂さへ有之候得者宜候旨
 被仰聞候ニ付其旨大目附へ申達勘定奉行へも及通用置左之通夫々
 申達候

今般久世へ町人共被指出候間 町奉行下役
 立合被仰付候召連可罷越候 大脇新左衛門
 但他方懸合之義ニ付懸合中ハ肩衣被差免候

右同断ニ付指添申付候 同心組
 川端又六

桶屋町広瀬屋長治
 新魚町村本屋多四郎

右兩人町役者人つ、指添指出候様大年寄へ申渡候処左之もの
 共罷出候段届出候

桶屋町年寄
 大坂屋彦市

新魚町年寄
 姫路屋甚右衛門

△川端又六代加人大目附へ申達候所橋本恵助來
 △書役代申達候所野田数右衛門來

△大脇新左衛門召連候拵若堂并草り取被仰付候様大目附へ申
 達候

△右久世へ指出候もの共明後朝役宅へ相揃町人共へ申渡いた
 し可差出候所自分義不快ニ付新左衛門宅へ相揃致出立候様

夫々江申渡候

一 盜賊千蔵と申もの召捕候所去ル三日中之町長勢屋勘九郎方へ這入
 候段及白状代呂物も少々致所持居候由尤未備前人別之もの、由申

口ニ候由目明孫兵衛届出候付出番幸治差向牢番預ケ申付置中之町

分備前へ内々聞合候様大年寄へ申付置其段御用番并大目附へ相届

候 同廿一日総帳申来

十月十八日 晴

一 御用日之所自分義持病之頭瘡再發仕出勤難仕^二付三浦士を以当病御断^并御用向頼遣候

一 左之通被仰渡候段三浦^分申来候

於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席

町奉行へ

一 無宿盜賊弥太郎^三之上追払申付候所立帰盜相働不届至極^二付死罪申付候

一 右同 伊八^(3,4) 公保田村平治方土蔵壁を切忍人所々盜取不届至

極^二付^三剽之上御領分追払申付候

一 下横野村帳外盗人久右衛門所々^江這入盜相働不届至極^二付百

敲之上御領分追払申付候

一 無宿盜賊万吉 右同断

一 右同 庄右衛門 右同断

右之通取計可被申候

一 土岐山城守殿領分英田郡山城村新左衛門悴良助一人吹屋町金屋新右衛門役介引受度人別入願御用番中御聞濟^二付大目附へ指出置候

段三浦士^分申来候^二付御聞届大年寄へ申達候^{十一月九日住毛証文差出}

一 中之町小山屋与三右衛門方へ去ル十二日夕盜賊這入錢札三四匁計

盜取候届書右同断取計濟候段三浦^分申来候

一 昨夜為治栄治伝藏幸治更廻り指出候所無別条旨今朝届出候

一 三町目太刀屋久治因州鳥取川端三丁目独活屋喜左衛門方へ四十八

日計之逗留^二而明十九日出立届大年寄承り届指出^{十一月十二日総帳承り届}

一 橋本町朝元屋源藏後家借屋住作人武兵衛夫婦娘右家内三人林田上之町丈助方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出候所同人妻義ハ盜賊関助^分質物取次仕候^二付右質物受戻し指出候上除帳願承り可届旨申達候

一 勝間田町長勢屋勘九郎方被盜候品調落有之由^二而追届差出候尤右品^者盜賊千藏致所持居候^而心付候由^二付不及追候

一 盜賊千藏^分衣類五品兼^而馴染^二付預り置候由勝間田町菊屋利兵衛届書指出候

一 当国勝南郡河面村嘉四郎と申もの新魚町金屋庄吉家守大和屋利兵衛妻之兄^二付病氣為保養夫婦連^二而罷越候間極月迄逗留為仕度願書指出し承り届

一 御勘定所^分御渡之久世へ引合候もの可指出御達書大目附へ指戻候様三浦より伝書有之大目附へ指戻候

十月十九日 雨

一 久世へ指出候町人共大脇新左衛門召連今朝出立候段夫々届出候^二

付御兩所へ相届ル尤大目附へハ不殘名面書指出候

一 太神楽岡田忠太夫昨晚来候段大年寄^分届出候^二付今朝大目附へ相届候

一 銀札場奉行^分錢拾箇川下し申来例之通裏書取計候

十月廿日 快晴

一 毛請時治義今日^分出勤^二付加人寺坂兵治明廿一日^分指戻候段大目附へ相届候

一元魚町豊屋喜兵衛方^ニ而^ニ今四時頃手過いたし裏之室屋少々燃上り候処近辺^ニ打寄早速消留候段届書指出先格之通以来入念候様申達置御用番^并大目附へ相届候

一御仕置もの死罪ハ来廿三日劊敵等^者廿五日^ニ可取計旨御用番^并大目附へ相届候処大目附^ニ死罪^者御家老中御名代御慎有之義^ニ付御用^ニ而^ニ差支候間廿五日^ニ一緒^ニ取計候様申来候付郡代所へも申通候上弥廿五日一日^ニ可取計旨御用番^并大目附へ申遣候

一二町目三谷屋与三左衛門義廿二年町役相勤候処病身^ニ相成候付忤助六名代^ニ指出度願承届

一揚屋修復^ニ付昼廻り^ニ入替取計候

十月廿一日 時雨

一小性町豊屋太助家守新吉借屋住音吉義浮田茂兵衛と相改小沢又右衛門へ出入奉公仕度人別除願承り届

一金毘羅參詣当六日之夜旅人止宿者人も無之旨旅籠屋頭^ニ届指出候一盗賊千蔵義未備前人別之ものと申候^ニ付勝間田町年寄^ニ聞合候様申付候処今日返書指越千蔵義不埒もの^ニ而^ニ当四月致出奔除帳いたし候もの^ニ付少も指構無之旨申越候右書面翌廿二日御用番へ指出し大目附へも相届候^{即日御戻^ニ付大目附へ出}

十月廿二日 時雨

一久世へ指出候町人共昨日口書印形相濟候由^ニ而^ニ今七時頃大脇新左衛門召連罷帰り口書写^并新左衛門応対覚書指出候付不殘御用番へ指出大目附^江も相届候即日御戻被成候付翌日右書類大目附へ指出候

十月廿三日 快晴 風

一御用日登城之処自分義不快^ニ付当病御断三浦士を以相届^并御用向頼遣

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡越尾下村安右衛門娘すみ義戸川町山城屋惣治妻^ニ引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ指出置候段三浦^ニ申来御聞届申達候^{十一月二日住宅証文差出}

一三浦志摩守殿領分当国真島郡下市瀬村与九郎悻源藏一人戸川町武蔵屋長太郎引受度人別人願右同断取計濟右同断

一雲州能儀郡安木灘町大津屋佐右衛門悻九兵衛義一人新魚町藁屋義八役介^ニ引受度人別人願右同断取計濟^{十一月十日住宅証文差出}

一脇坂淡路守殿領分所当国勝南郡福力村和平娘^并右娘悻方吉右二人材木町大和屋熊藏妻子^ニ引受度願右同断取計濟^{同前日住宅証文指出}

一油方引請之もの共願書指出し大坂油屋共^ニ去年^者大坂油大数取寄候処当年^者一向無数^ニ付不正之油取扱候哉締不行届候ハ、見廻^可り指遣旨致察度候右^ニ付以来ハ大坂油取寄候度毎^ニ御蔵屋數御名代深江屋惣左衛門送りを以指越右印鑑^ニ小桁御番所^ニ引合之上指返し候様仕度御聞届之上油方引受之内一人出坂仕双方へ懸合申度段願出美^ニ無抛趣^ニ而^ニ左も無之候^而者^者他之人込之油可防様無之^ニ付其段口達^ニ而^ニ三浦^ニ被申達右願書指出置候処御用番中御受取被置候由申来候

一紀州高野山万性院使僧惠敷上下式人例年之通且旦那廻り来候段坪井町川原屋治助宿切手指出入^{十二月廿七日始}

十月廿四日 曇

一 明廿五日於兼田御仕置有之^ニ付夫々手配申渡候

一 右^ニ付加人老^人御渡候様大目附へ申達候渡部八十助来

一 右^ニ付明日正六時揃不及遅刻候様^ニ御徒目附へ御達被下候様大目附へ申達候

一 右^ニ付首切刀刃之付様不宜候間入念候様木屋太兵衛へ牢番を以申達候

十月廿五日 時雨

一 正六時揃於兼田御徒目附河村市兵衛下目附 (下) 小頭代文蔵部屋目附百蔵出番榮治藤四郎立会小頭代文蔵^ル左之通申渡之

盜相働先年敲追払被仰付候処立帰り 元田野村産當時無宿盜賊
猶又盜相働候^ニ付剿追払被仰付候処 弥太郎

又候立帰り盜相働不届至極^ニ付打首被仰付候
右取計相濟畢^而於牢屋立合右同断^ニ而 左之通取計之

公保田村平治方^ニ而 土蔵壁を切品々盜取候付 無宿盜賊
剿之上御領分追払申付候 伊八

所々^ニ而 盜相働候^ニ付百敲之上 下横野村親外盗人
御領分追払申付候 久右衛門

但帳外^ニ付郡代所下代申渡之
右同断 無宿盜賊 万吉

右取計相濟畢^而大年寄宅^ニ而 左之通取計候但小頭代部屋目附立合

可指出処数ヶ所取計^ニ付遅刻^ニ相成候付立合不指出候

先達^而右盜賊庄右衛門義を無願 西今町安田屋清助
養子^ニいたし候段不埒至極^ニ付叱之上追込申付候但日数三日

先達^而右庄右衛門を出所も不相糺 茅町 角屋 佐十郎

西今町安田屋清助方へ養子^ニ致 世話不埒^ニ付叱之上追込申付候但日数三日

右盜賊共^ニ懸り合盜賊取次質入いたし又ハ買取候もの共不殘代

銀損失申付取上ヶ夫々^江相渡候

右取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候

一 西新町高松屋忠右衛門方へ去ル廿三日夕盜賊共表之戸をこじはづし懸候処目覚候^ニ付這入不申段届書指出承り置

一 西新町井崎屋十右衛門方へも右同夕表之戸を外し候得共目覚候故紛失もの無之旨届出承り置

一 中之町綿屋勘兵衛方へも右同夕盜賊這入錢筒盗出し候得共右之内^ニ者 錢式拾文計有之被盜取候迄^ニ而 其外紛失もの無之段届出承り置

一 右之通盜賊致徘徊候趣^ニ付外町之分銘々致用心候様大年寄へ申達候

一 安岡町久米屋友七大坂土佐堀二丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗留^ニ而 明廿六日出立仕度願大年寄指出し承り届 十一月十二日届

一 御払米三百俵 正銀六拾七匁式分五厘 落札木和屋源兵衛

町米 正銀六拾三匁式分五厘

一 御蔵米 六拾八匁五分 町米六拾四匁五分

十月廿六日 時雨

一 播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物卸売来候段中之町葛屋伝助宿切手指出 翌年正月十四日届

一 播州網干余陸屋利兵衛一人例年之通荒物塩物卸売来候段右同人宿切手差出し右同断

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売来候段右同人宿切手指出し右同断

一 林田町鳥屋文七所持之他国受酒株去ル辰十一月今東新町樽屋清八借り受商売仕候処尚又当酉十一月今来ル寅十月迄丸五ヶ年之間借り受商売仕度追願指出承り届取渡儀十月一日

十月廿七日 時雨風

一 牢舍扶持拾老儀内貸証文奥印書取計之十二月へ老升老合式マツ五才指越候積也

一 久世へ先日町人差出候入用七拾九匁三厘毫毛有之候段新左衛門ハ承之

一 牢舍人千代藏義病氣申出大年寄へ申達候

一 八出渡船町作共ハ受負定橋ニいたし度願郡代ハ被差出候所大目附考ニも作道弁理ニ相成八出尻新開多相成候ハ、水難無覚束哉ニ被存勘定奉行考も南橋詰不宜候間度々流失無覚束左候ハ、今迄済来候義故不入もの哉と被存候由右ニ付大目附ハ町方故障ハ無之哉存寄申上候様勘定奉行へ伝言有之右之通新開多相成候筋ニ而ハ町方故障ニ相成候付勘定奉行同意ニ被仰達候様栗田辰右衛門へ申遣右之段及御答候段郡代所ハも及通用候

十月廿八日 快晴

一 御用日登城之処自分義未相勝候ニ付当病御断三浦士を以相届ハ御用向頼遣候

一 西今町安田屋清助茅町角屋佐十郎追込昨日迄ニ而三日ニ相成候付今朝指免其段御用番ハ大目附へ相届候

一 久世御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡西原村幸右衛門役介勘治義一人林田町福吉屋安右衛門役介ニ引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出置候段三浦士ハ申来御聞届申達候十二月九日住宅証文卷出

一 西新町住盗人理右衛門御裁許伺指出候所御受取被置候

一 木屋太兵衛義此間御仕置もの、節首切刀刃付候様例之通申付候所太兵衛義ハ兼ハ御免と相心得居候由折節同職之ものも故障有之差支候付以来ハ太兵衛ハも可申付筋哉ニ存候間其段可申付哉と伺書三浦士を以差出候所御用番御受取被置候段三浦ハ申来候

一 林田町牢舍人庄右衛門義病氣ニ付出牢被仰付候所医師差函ニ寄ニ而月代仕度歎書差出候右大目附中ハ御達ニ而入牢取計候もの、義付大目附ハ被遂内談候様三浦士へ申遣候所小須賀貢承り届候も如何之ものニ付最早追払相伺可然旨被申聞候ニ而歎書相戻候

一 牢屋破損書三浦士を以大目附へ指出候

一 油方之ものハ取締伺書早く不被仰出候得者見廻り之もの可差越程も難計存候間何卒早く被仰出候様三浦士を以御催申上候

一 御勘定所菅沼下野守殿左之通御達有之候段大目附ハ被相渡候

御領分作州西北条郡津山林田町道心者宗元

同郡二階町材木屋善六

右之もの共無宿房五郎盗いたし候一件引合ニ付重田又兵衛方ニ而吟味詰申聞候付御仕置之義伺之上松平伊豆守殿依御差函又兵衛方へ申達候然ル所宗元義者病死いたし候由ニ付善六義ハ又兵

衛方へ呼出咎可申付候間此段申達候已上

酉十月

右御書付大目附中ニ被相渡今般ハ為御知而已之趣ニ付久世へ案内ニ著及間敷哉何分先例相考申達候様三浦へ伝言有之候ニ

付先日右同様之義案内申遣候節も返書無之ニ付此間大脇新左衛門差出候節右等之通用ニ著不及義哉間合候様申付遣候所郷宿へ頼置候得著何分向方之様子聞繕米相場書取ニ来候節否可

申越由申候間今兩三日御見合被成候様ニと太田舍人江紙面ニ而申遣候

一但州生野御代官所囚人通行先触左之通到来

覚

一人足 五人

一本馬 壹疋

右著就御用我等等明廿六日晚六ツ時但州生野出立囚人召連作州久世陣屋迄相越候条書面之人馬差出無遲滯可被継立候且川越渡舟有之場所著前宿ニ及通達指支無之様取計泊宿之義著左之通用意可給候以上 布施孫三郎手代

酉十月廿五日

北尾算藏

作州森垣ニ作州久世迄右宿々問屋年寄庄屋中

廿六日泊姫路 廿七日泊細月 廿八日泊勝間田 廿九日久世着

右先触写大年寄指出候付先格之通問屋ニ保頭代指出町々先立且又為警衛同心組指出候間立宿申付候様遣置御所へ相届候

一盜賊弥太郎伊八久右衛門万吉庄右衛門引合之盜もの不殘取上ケ郡

代所へ相廻し受取書取置之

一西今町坪屋藤十郎改印ニ付印鑑差出候

一二町目福永屋栄三郎所持之他国受酒株当六月ニ安岡町鶴屋茂兵衛へ貸置候所限月来候付取戻候届書指出

一中之町三室屋惣兵衛所持之他国受酒株当西十月ニ来戌ノ九月迄丸一ケ年之間安岡町鶴屋茂兵衛へ貸渡願承り届○戌九月追願届

一紀州高野山宝蓮院上下式人例年之通且那廻り来候段正木屋才吉指切手指出候○戌三月廿八日掃り届出候

十月廿九日 快晴

一太神樂岡田忠太夫今朝罷帰候段届出候ニ付大目附へ相届候

一但州生野囚人町分無滯通行相濟候段七時頃警衛指出候又六時治井大年寄ニ届出其段御所へ相届候

一牢舍人布右衛門休薬双方ニ届出承り置

一牢舍人千藏病氣申出大年寄へ申達候

一船頭町元屋市右衛門忤熊藏義藤田熊藏と相改近藤伊左衛門へ出入奉公為仕度人別除願指出し承り届

一雲州杵築多久十太夫御師上下三人例年之通来候段新職人町松のや十右衛門宿切手指出○十一月廿三日掃

一木屋太兵衛義昨日之所ニ記置候通不埒有之候付左之通伺書指出置候処今日大目附太田舍人ニ三浦十郎左衛門呼ニ来木屋太兵衛義甚不埒之義ニ付御用所御聞被成候而ハ急度御咎無之而ハ不相濟大造ニも相成候間何之趣を役筋切申達ニ取計候様被仰出候尤御道具太兵衛方へ下り居候節ハ致遠慮可然候間其旨可申付候旨被仰出候段

十郎左衛門承之

此間御仕置もの、節例之通首切刀式本中間ニ為持牢番足輕差添木屋太兵衛方へ差遣昨年者切刃付様至而龜抹ニ而不宜候間当年ハ昨年之様ニ龜抹無之人念切刃付差出候様分而口上申遣候処其俣牢番共へ研屋万兵衛方へ持參候様ニ申候由ニ而同人方へ持參候処同人義此節眼病ニ而得不仕候由及断候付太兵衛方へ持歸候処左候ハ、研屋安兵衛方へ持參候様ニ申候故又々同人方へ持參仕候処安兵衛申候者此時刻ニ成り式本迄ハ得不仕忝本者刃を付可申候得共忝本ハ持歸り候様申候由ニ而又々太兵衛方へ持歸り扣之分も刃不付候而ハ御用之御間合不申如何いたし候哉と申聞候処得不仕と申セハ外ニ致方も無之旨申候ニ付其旨罷歸り可相届哉と差詰候処御届被成候様ニと申不及貪着候由牢番足輕罷歸申聞甚不埒之義殊ニ牢番足輕も太兵衛申セハ逆左様ニ所々可持歩筋有之間敷旨申聞置大年寄へ得と申合太兵衛義同人方へ呼出し不束之取計不埒至極之旨為相糺候処同人義ハ御上御道具取扱仕候故首切刀刃付候事ハ御免之事ニ御座候旨申候ニ付いつ頃被差免候事哉何も不存義と致察度候所親太兵衛時分御免と申義ニ而取計候義ハ無御座候得共親之代之義故年月等不存旨申候ニ付仮令其方ハ御免之義ニ而も当時忝も有之同人忝義ハ修行被仰付候ハ近来之義何も覚居候得共御免と申義者決而無之段申聞候処忝義も御道具ニ懸り候義團（御座候）当太兵衛部屋住之節不取計義故不為仕筋と相心得居候旨申候ニ付其方忝義當時御道具取扱被仰付候御擬作

被下候と申義ニ而ハ無之修行被仰付候御擬作被下候義ニ而修行之身分ニ候得者願而も可仕と可申義と差詰候処甚心得違之旨申之今夕之処ハ如何様ニ仕候而も御間を合可申候間宜御断被仰上被下候様申聞候段大年寄申出候付昨年之様ニ龜抹有之候而ハ不相成候間安兵衛方ニ而刃を付候道具も太兵衛方へ取寄得と相改候上ニ而六時前迄ニ差出候様申付置右御免と申義ハ追而取調候上否可申達候旨申聞置旧記取調候処大沢三平役中安永七戌年十月首切刀刃付之義ニ付木屋太兵衛心得違之義有之以来之義迄申付候様相見へ候得共委細之訳不相分候ニ付大年寄共日記及見候所是ニ者委敷有之丁と此度と同様之義ニ而甚不束（御座候）之義申出三平義も殊之外致立服候趣ニ而御免と申訊相糺候所鈴木喜右衛門時代御用向度々有之被呼出候節太兵衛義ハ外研屋と違御用も切々被仰付候得者断罪者之御用ハ差免候様喜右衛門申候由申披ニ而改而被仰付候義ニ無之勿論年月も不相覚不埒之申訊ニ相成り甚心得違不調法之段誤入此以後ハ右御用ニ付御道具御下ケ被成候ハ、使之人と同道ニ而順番之者方へ參り早速相調可申若又仲ヶ間之内差支候節ハ太兵衛方ニ而相調可差出と誤申出候付其俣ニ而差免以来忝幸太郎并同職之内順番相勤候様申付有之太兵衛御免と申有無之義駢と申付不相見故又候今年親太兵衛同様之心得違申出候然ル所御道具取扱候共余之品と違凶器之義ニ候得者首切刀取扱御免と申義謂有之間敷哉ニ奉存候既ニ御道具御試被仰付候得者研屋ハ是非召連可出ものニ御座候得者不浄と申而可遁筋ハ

無之候間以來左之通申付可然哉^ニ奉存候

御仕置者刀刃付之義余之品と違職分之義^ニ候得^者御用達た

り共被差免候と申義無之候御用達之義故其方へ申付候間同

職之者申合順番^ニ相勤候義ハ勝手次第之事^ニ候尤何方^ニ而

刃付候共以來其方方へ取寄得と見改候上^ニ而可指出候

右之通奉伺候已上

十月廿八日 町奉行

十月晦日 雨

一 大年寄宅^ニおゐて左之通申渡候様申渡之

其方義此間御仕置刀刃付之義^ニ付 木屋太兵衛へ

心得違之義申出不埒之事^ニ候及御沙駄候ハ、申渡

不輕義^ニ付令容赦役筋切之取計を以

左之通申付候以來心得違無之様可相慎候

御仕置者刀刃付候義余之品と違ひ職分之義^ニ候得^者

御用達たり共被差免候と申義無之候御用達之義故

其方へ申付候間同職之者申合順番^ニ相勤候義^者

勝手次第之事^ニ候尤何方^ニ而刃付候共以來^者其方方へ

取寄得と見改候上^ニ而可指出候

但上御道具下り居候節^者一己之心得を以右道具取扱

指扣可申候勿論悻義^者不及指扣候

一元魚町美濃屋彦兵衛方へ廿八日之夕盜賊入込戸棚^ニ有之候錢六百

文盜取裏之方へ逃去り候処其後吉屋清藏方^ニ而追懸け出候節二丁

目^ニ捨置候^ニ付取帰り候段届書指出し承り置

一元魚町吉屋清藏方へ廿八日夕盜賊這入銀札三拾八匁盜取表口へ逃

取締り候届書指出承り置

一 御藏米 六拾七匁五分 町米 六拾三匁五分

一 一閏貫番質銀例月之通相渡候

一 例年之通米相場所大年寄指出候所左之通

上米 六拾六匁七厘三毛三

中米 六拾三匁七厘三毛三

下米 六拾匁七厘三毛三

大豆相場三口指出候処高値之処 四拾六匁八厘

十一月 小

月番

後家老

御年寄 黒田要人殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十一月朔^甲 戌旦 快晴

一 御吉事日登城之處自分義今以不相勝当病御断三浦へ頼遣

一 龍野御預り所役人関口作兵衛平野七郎兵衛三沢清太夫へ米相場書

昨日取^ニ 来今日例之通相認飛脚^ニ 相渡候但大森八太夫転業跡役平

野七郎兵衛相勤候段申来候

一 勝山役人榊原九郎左衛門尾崎小右衛門へ米相場書取^ニ 来相渡候但

渡部唐兵衛死去^ニ 付尾崎小右衛門相勤候段申来候

一 西川役人平沢助八大谷代蔵へ例年之通米相場書指遣候尤坪井町羽

織屋へ出置候

一 備中小坂部水谷弥之助殿内鈴木甚右衛門へ例歳之通米相場書差出

江戸御留主居田中幸助へ頼遣

一 於御用所大目附出席御用番黒田要人殿へ左之通被仰渡候旨三浦十

郎左衛門へ通用有之

来年御初入被遊候御儀定候未

公刃^へ者被仰立無之候間其心得可罷在候

一 歳末年頭献上物例歳之通仕度旨大年寄願出候

一 下紺屋町長江朝庵義備前岡山橋本町讚岐屋茂兵衛方へ四拾五日計

之逗留^ニ 而明後出立願大年寄承り届指出候^{十一月廿一日}

一 元魚町美濃屋彦兵衛同町吉屋清藏方之盜賊之義^ニ 付船頭町保頭勘

太郎吉屋清藏下人藤吉右兩人疑敷もの、由文蔵申出候付番栄治

伝蔵差向手錠預ケ申付候

十一月二日 時雨

一 弓削役人岡野右左衛門へ米相場書取^ニ 来差遣候

一 坪井役人瀧口与次右衛門へ米相場書取^ニ 来差遣候

一 撰州豊島郡池田村月野木町植木屋半兵衛一人例年之通植木壳^ニ 来

候段境町西川屋善助宿切手指出

一 上紺屋町鳥羽屋源十郎借屋住十吉と申もの桶屋町大坂屋彦市持分

之榎原前車場手代^ニ 召抱大坂屋彦市家内人別^ニ 相加置候処去月中

旬出奔仕候段届出例之通百日尋申付候^{翌月二日始係届候}

一 大目附佐々木主馬へ左之通申来候

古市主殿組谷村定七木部屋之壁を切米式俵麦式俵被盜取候間

宜取計候様申来目明へ申付候^{且金火著之義四日記置}

一 元魚町吉屋清藏下人藤吉義手錠封印損候段申出候付昼廻り栄治伝

蔵指向猶又相礼候所右藤吉盜取候^ニ 相違無之段致白状候段届出候

付番又六指向左之通取計之

致盜候段及白状候付

元魚町吉屋清藏下人 藤吉

右之通取計候段御用番^并大目附へ相届候。○戊五月十七日^并奉申付ル

△右^ニ付河原町保頭勘九郎^ト手錠預ケ指免候段出番又六差向申渡之

十一月三日 快晴

一御用日登城之處自分義未相勝候^ニ付当病御断三浦士を以相届^并御用向頼遣候

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡上福原村助右衛門娘わき義茅町魚屋仁左衛門伴伝右衛門妻^ニ引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置候段三浦^ト申来御聞届申達候^{同十八日^并宅証文差出}

一牢舍人病氣歎^ニ付出牢預ケ^ニ相成居候林田町川田屋忠助借屋住庄

右衛門義殊之外逆上いたし難義仕候付月代仕度医師指図之旨歎書先日指出候付三浦を相頼大目附へ経内意候処小須賀貢^ト最早追扨候^而可然間其旨相伺候様指図候旨先日申来右庄右衛門義八元来上之御舍^ニ而吟味中牢舍被仰候もの、義^ニ候得^者兎角可申筋^ニ而も

無之候得共病中之義右取計も可出来もの^ニも可有之哉病躰之処鑑察申付候処実^ニ平臥之仕合至^而逆上強頭面迄も腫候仕合如何様快日^ニ而御呼出^ニ而も被出可申候得共不出来之日ハ一向歩行も不相

叶位之由申出候付右躰之もの追扨候も如何成もの哉^ニ付今日猶又三浦士を以右之段大目附へ申達今少快方^ニ相成取計可申哉左候ハ、何れ^ニも月代之義御聞届有之候様仕度申遣候^ニ三浦^ト大目附へ

委細^ニ被遂内談候処御聞届もの^ニ而も有之間敷併御用番へ御伺^者存寄次第と被申候由^ニ付御用番中へ被相伺候候御席^ニ而御聞届もの^ニ而ハ無之当役^ニ而も如何成ルもの^ニ付大年寄場合切^ニ而承り届置相濟し可然旨御指図御座候由三浦士^ト申来り其旨大年寄へ申

達候

一大目附^ト去ル廿五日取計候盜賊共盗もの引合之もの共名面認差出候様三浦へ伝言有之候^ニ付右名面不殘認太田舍人^江指出候尤人数廿三人有之

一布原村文藏方へ去月廿四日盗人這入綿四斤計代^ニ積拾六匁位之物被盜取候触流取計候様大目附^ト達有之取計本書ハ指戻候^{一丹後久美浜御代官塩谷大四郎殿手代勝田近藏前山源次郎^ト米相場書取^ニ来例歳之通差遣候}^{十五日^并之段申出候}

十一月四日 時雨

一大坂谷町御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作^ト米相場書取^ニ来例歳之通相渡候

一久世御代官重田又兵衛殿手代石沢伊八郎曾根源次郎^ト米相場書取^ニ来右同断相渡候

一明五日盜賊共吟味申付候付組不足いたし加人壹人当日切^ニ申達候処山本清二郎来右吟味手配夫々申付候

一大目附佐々木主馬^ト此間申達候吉市主殿組谷村定七方へ盜賊壁を切候処金火箸落有之候段届出候間欠所^ニ取計候様申来候付相廻候ハ、受取欠所もの^ニ可取計旨及返書候尤昨三日申来候認落候^ニ付爰^ニ記ス

一久世郷宿塚谷屋忠平へ新左衛門^ト頼置候引合もの、節公儀^ト此方へ御達有之候節久世へ案内申遣候^ニ而不及義哉と聞合頼置候処忠平義手代共へ承り合候^ニ左之通被申聞候由新左衛門方へ申越候

久世役所へ相伺候候^ニ被仰聞候^者右等之掛合ハ此方^ト懸ケ合

候事故被仰越候^ニ者不及義と被申候

右ハ先頃御勘定所引合之もの久世へ指出候様被仰出候節久世へ
右之案内申遣候処返書不指越猶又呼出候節向方方仕懸ケ之書面指
越候付右之段新左衛門へ聞合申含候

△右ニ付先月廿八日之御勘定書御達之義も弥申遣^ニ者及間敷旨太
田舎人へ申達右忠平書面翌五日指出候

十一月五日 晴

一但州生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏^ニ米相場書取
ニ来例歳之通大豆相場書迄指遣候

一今九時立合例之通^ニ而 出番栄治伝藏^ニ而 左之もの共呼出自分義
不快ニ付新左衛門ニ吟味為取計候

牢舎人元魚町吉屋清藏下人藤吉

右同断盜賊 千藏

右同断 関助

一西川役人平沢助八大谷代藏^ニ米相場書指遣候返書来候

十一月六日 朝雨 昼後晴 夜風烈

一小性町伊勢屋十藏義家切崩本之通境溝付候段届出候付為見分小頭
代文藏部屋目附百藏大年寄六郎左衛門諸吟味喜左衛門差出候所絵
図面之通仕直し相違無之段何^成届出候

一牢舎人千藏全快ニ付休薬双方^ニ届出候

十一月七日 曇風

一材木町板本屋定吉妹たか義九年已前丑正月林田村量助妻^ニ指遣候
所離縁仕罷帰候付人別人願下方引合相済候段申出承り届

一御蔵米 六拾六匁 町米 六拾貳匁

一西今町三倉屋善四郎^ニ安藤丹後殿家来中山市左衛門へ相懸り借銀
指滞内済申付置候処内済相整願下ケ願書指出候付承り届願書指戻
候

十一月八日 快晴

一御用日登城之処自分義未不快ニ付当病御断三浦士を以申達^并御用
向頼遣候

一森下野守殿領分播州佐用郡秋里村市郎兵衛倅常右衛門一人林田町
常盤屋弥太郎引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出候

一段三浦^ニ申来候御聞届申渡候^{同廿二日付老証文指出}

一戸川町岩見屋孫兵衛倅岩治義兼^而不所存もの、所近頃罷出行衛不
相知候ニ付親類組合打寄義絶勘当願右同断取計濟^{印十八日勘証文指出候}

一船出入ニ付龍野表御裁許之義相知次第内々為相知候様土居三郎平
倉敷代二郎^ニ櫻野屋茂一郎^ニ兼^而頼置候所其節兩人^ニ委細^ニ態飛
脚を以申越候付右為挨拶肴代金式百疋指遣度申出候由藏合孫左衛
門^ニ弁書指出候ニ付拙者義添書いたし三浦を以指出候所御用番中

御聞之旨申来候付右被下物相廻候様御達被下候様大目附へ申達候

一左之通於御用所大目附出席御用番御年寄被仰渡候旨三浦^ニ申来候

町奉行へ

盜人理左衛門義盜相働不届至極ニ付五十敲之上御領分追払被
仰付候此段取計可被申候

一山北村多助方へ去ル二日盜人這入衣類其外六品代銀四拾壹匁四分
計被盜取候触流取計候様大目附^ニ達有之段三浦^ニ申来取計本書ハ

三浦へ指戻候廿一日無之段届出候

一 桶屋町左七義夫婦致喧嘩親元二階町九兵衛方へ帰り居候処同町喜助妻八同人姉ニ付右喜助方へ参居候所一昨六日夕右左七喜助方へ参り口論之上喜助妻を理不尽ニ打擲いたし氣絶等いたし絶食ニ相成候段届出候付部屋目附百蔵疵見分ニ指出し左七方へハ出番伝蔵指向手錠組合預ケ申付候

手錠懸ケ

桶屋町

組合預ケ申付候

佐七

右之段翌九日御両所へ相届右届書并見分書御用番へ指出候戻候付大目附へ出ス

一 備中小坂部水谷弥之助殿江之米相場書今曉之御便ニ江戸へ相廻候

一 大年寄共歳末年頭御礼并献上もの、代金式百疋江戸表へ相廻候

一 教信町講尺来ル十三日相始候段喜左衛門届出候

一 久世御代官手代石沢伊八郎曾根源次郎并飛脚差越当春差出候盗人

房五郎引合之林田町備前屋武兵衛伏見町勇助二階町材木屋善六一

ノ宮村与十郎右町村役人差添来ル十二日差出候様申来候処及深更候故翌朝相伺取計候

十一月九日 快晴 風

一 久世并町人共差出候様昨夜申来候ニ付承知之旨返書下案相認郡代所及通用候処存寄無之旨申来候付御用番中へ差出尤当春之通同心組耆人差添可差出旨相伺候所思召無之旨申来候付大年寄へ其段申渡明後十一日可差出候間六半時役宅へ召連出候様申達置右返書飛脚之者へ相渡候仍而左之通申渡候様文蔵へ申付候

今般久世へ町人共指出候付 毛受時治
差添申付候

右之段大目附へも相届同心組指出候間留主中加人耆人被仰付候様ニ申達候処飯島作右衛門来

△然ル所大年寄并届出候者 当春材木屋善六として煙管屋藤助指出候処同人義此節病氣ニ而一向歩行不相叶候ニ付煩代并筒屋新蔵指出度届出候付寛政七年卯六月菱屋太助後家龍野へ指出候例を

以病氣逐見分一札可相廻ニ付諸事其旨ニ取計候様大年寄へ申達置病氣為見分部ヤ目附江原文蔵指出候処見届一札取之指出候

△久世へ指添候年寄共林田町丈右衛門伏見町卯左衛門二階町理兵衛罷出候段大年寄届出候

一 土居三郎平倉敷代二郎へ樫野屋茂一郎并差遣候肴代之義勘定奉行近藤伊左衛門并受取証文指出候様申越候付其段大年寄へ申達蔵合

孫左衛門受取証文指出候ニ付奥書いたし孫左衛門へ相渡候

一 京町甲斐屋源蔵義四国遍路ニ罷出度百五十日逗留ニ而明後十一日出立願大年寄指出し承り届翌四月三日今百五日通願奉届候又五月十五日百五十日届願

十一月十日 快晴

一 久世へ指遣候材木屋善六病氣ニ付代人願書并容牒書写相認并病氣見分一札拙者致奥印并右之段申遣し添簡相認御用番中へ紙面ニ而相伺候処思召無之段被仰出候付其段大目附へ相届郡代所へも及通用左之通書類取認同心組時治ニ為持遣候

一 作恐御届奉申上候事

私義来ル十二日久世御役所へ被為召出候ニ付明後十一日出

立可仕旨今日被仰渡奉長候然ル所去ル八月〆脚氣相煩一向
歩行等も相叶不申甚相勝不申候而 医師北山修伯老預療治居
候処別紙容躰書之通ニ御座候間速も急出立難仕候ニ付煩代
として親類同町并筒屋新藏差出申度奉存候間乍恐右之趣御
許容被為成下候ハ、難有仕合可奉存候此段宜被仰上可被下
候以上

年号 十一月九日

二階町材木屋善六印

五人組五人印
同組頭 印

町年寄大年寄奥書

一 容躰書 壹通 医師一判

一 御見分一札之事

私義来ル十二日久世御役所へ被為召出候ニ付明後十一日出
立仕候様被仰付奉長候処去ル八月〆脚氣相煩今以甚相勝不
申此分ニ而者 押而も難罷出代人指出申度旨奉願上候処病氣
為御見届御出被成私共一同立合之上容躰御見及被成候処弥
病氣之趣相違無御座候ニ付御見届一札被仰付差上申候以上

年号 十一月九日

二階町材木屋善六印

五人組 印
組頭 印

年寄三人印

江原文藏殿
中山百藏殿

右之通役人共差出為見届候処弥病氣相違無之候以上

西十一月九日 津山町奉行

増見右門 印

右見分一札ハ本書之俵ニ而 持遣願書容躰書ハ写相廻候右添簡ハ郡
代兩名ニ而 右善六病氣之趣前以懸合候間無之ニ付承り届代人差出
候段申達候

十一月十一日 快晴

一久世へ差出候町人共左之通今朝六半時呼出小頭部ヤ目附大年寄諸
吟味立合之上自分義不快ニ付下役新左衛門〆差出候趣申渡之

林田町備前屋武兵衛

右町役常磐屋丈右衛門

伏見町 勇助

右町役田野村屋卯左衛門

二階町材木屋善六煩代

同町親類并筒屋新藏

右町役山手屋理兵衛

右差添同心組 毛受時治

右之もの今朝久世表へ指出候段名面書を以御両所へ相届候

△時治差遣候付用意銀札欠所銀之内〆五拾匁取かへ遣候

一昨夜六半時頃茅町ニおゐて公保田村百性喜七と安岡町土手普請所

江出候町人足共と喧嘩いたし大勢ニ而 右喜七を打倒疵付逃去り候

由右日雇頭者 船頭町半兵衛と申もの、由届出候段大年寄届出候ニ

付其段郡代所へ及通用立合疵見分可差出旨申遣右為見分部屋目附

百藏差向右相手方逃去り候もの共一々召捕候様申付栄治幸治為治

伝藏四人船頭町へ相越日雇頭相札候ハ、相知可申旨申付差向候所
今晩罷歸り右日雇中ケ間同道之もの左之通九人ニ候所打擲いたし
候ものハ船頭町平藏^并同町八十八と申式人ニ候ニ付右二人手錠懸
ケ其余同道人も不殘預ケ申付置候段相届候

此二人打擲いたし候付手錠申付候
十二月十四日内済承り届

船頭町 平藏
同 町 八十八

同 町川口屋義助

同 町 仁三兵衛

同 町高松屋平吉

小性町 平吉

吹屋町 吉之丞

新魚町 友平

林田上之町辰藏

然ル所百藏義も今六半時過遂見分罷歸り疵所^者鬢先少々打疵有之
大分致破血其外面部ニ^有之候得共格別之義^ニ者無之双方共大醉
ニ^而吟味之節も本症^者無之位之義^ニ而全醉狂ニ候由何^也申出候
其段御用番へ相届見分一札差出猶糺之上可申上旨相届大目附へも
同様相届候依之右之もの共今昼後呼出新左衛門ニ為相札候積ニ手
配申付候

△右取計ニ組致不足候ニ付当日切兩人加人被仰付候様大目附へ相
届候処御使組渡部八十助橋本恵助来

△九時右八人之もの共^并日雇頭半兵衛呼出文藏百藏孫左衛門喜
左衛又六伝藏立合ニ^而新左衛門ニ為相札候所吹屋町吉之丞も致

打擲候段及白状候付左之通申付外七人之ものハ弥不携ニ相決候
付不殘預ケ差免候

手錠組合預ケ 吹屋町 吉之丞

右之段御用番^并大目附へ相届郡代所^江も及通用候且又林田上之町
辰助義何れもへ相尋候所打擲不仕携無之旨申候ニ付其段郡代所へ
申達候

二階町孤独五兵衛義八十四才老病差重り候段昨夜届出候ニ付今朝
部ヤ目附文藏差向病氣見分申付候所老病相違無之手当も行届候様
ニ相見候段申出見分一札取歸り候所無程落命之段届出候付勝手次
第取算^也いたし候様申付候十三日御用日可及御沙駄候

一大目附太田舍人^ハ先日差出置候懸り合之もの公儀^ハ御代官所へ差
出候様御達有之節案内之義久世へ承り合候書状被相戻左之通申来
候

右承合之趣御用所へ及御沙駄候処向方^ハ返事無之を咎候様ニ
而不宜候併此度ハ相済候ニ候得共以来ハ聞合等之義ハ内々之
義ニ^而一ト通り相伺取計候様被仰出候段申来候

十一月十二日 雨

一牢舍人千代藏義二廻り療治相済候処未相勝候ニ付藤木良全へ申付
候段双方^ハ届出候

一郡代所^ハ下田邑村川西^也と申もの今日庄屋^ハ被相頼切手拾俵檜
野屋ニ^而借り受歸り懸^者本松迄之間ニ^而落候由明朝御用番へ御届
可申候得とも先今夕ニ^も中買共へハ申達置候度旨頼来候付其段大
年寄へ申達候然ル所右落切手同村新藏と申もの拾候由翌十三日朝

申来其段大年寄へ申達触書不差出相済候

十一月十三日 快晴

一御用日登城之處自分義未相勝未出勤難仕_ニ付当病御断三浦十郎左衛門へ頼遣候所同人義も不快_ニ而_ニ不参之趣申来候_ニ付勘定奉行近藤伊左衛門へ諸事頼遣候

一徳守宮社地_ニおゐて当月中旬花相撲一日興行仕度願吹屋町一ノ浜

長吉願書指出寺社取次野条金平へ引合之上頼遣候御用番御聞濟

_ニ而_ニ大目附へ指出候由近藤分申来候_ニ付御聞届大年寄へ申達候

一二階町孤独五兵衛病氣見分一札_并相果候段御両所へ及御沙駄相済候段近藤分申来候

一新魚町大溝土橋破損届書指出右_ニ付土橋_ニ而_者洪水之節落候得_者

其辺之もの立退候道を失ひ人命_ニも預り候事故何卒石橋_ニ被成被

下候様年寄共分弁書指出大目附へ被指出候処弁書有之義故御用番

中へ相伺候様_ニと大目附指図_ニ寄御用番中へ近藤分被指出候処即

刻御聞済候由_ニ而_ニ大目附へ達置候由近藤分申来候付左候ハ、上御

普諸_ニ候間御作事へ被達被下候様申遣置御聞濟之趣大年寄へ申達

候

一林田町山形屋伝右衛門後家倅才之丞義去々未五月十九日出奔仕同

九月除帳相済候処同人義当時久世辺_ニ罷在先非を悔帰住相款候間

帰住為仕度願書御用番御聞濟_ニ付大目附へ差出置候由近藤分申来

御聞届中渡候

一二階町藤野屋嘉四郎家守平兵衛義御堀へ足代下し度願書大目附へ

差出候由近藤分申来候

一近藤伊左衛門分申越候_者大目附太田舍人分達候由_ニ而_ニ先日指出候

油方三人之者分願出候大坂油取寄候締方取計之義御家中市郷共他

之油買取候義御法度と申義も急度無之様_ニ思召何れ大躰年々取寄

候程取寄候得_者彼是申筋も無之義と思召候間願書御尻被成候由被

仰出候段伊左衛門分申来候_ニ付公儀御触入用之取計書抜他国他領

油買取候義_者不相成当時之姿御家中市郷共大坂油調候御形_ニ候段

相認右之通猶又被仰達右締方急_ニ御許容有之候様_ニ伊左衛門へ頼

遣候

十一月十四日 晴 夜大雨

一他領川岸々船荷割之義先達_而申出候通茂村屋伊助へ申越荷割取計

候手段_ニ相談相済候処先日長岡筋之船肝煎罷越右約束之通諸方締

り取計候処生野御支配所奈良村川岸之荷主共不承知_ニ而_ニ左候_而ハ

銘々望之船へ不被積候間是迄之通勝手次第船積仕度相願候由右_ニ

付其段被仰聞候得共長岡船持一同津山備前_ニ而_ニ荷割受渡世いたし

候事故此方分も荷割不相渡候_而ハ向方分も不被呉筋_ニ付左候ハ、

奈良川岸荷物ハ積申間敷と申立置候所長岡筋之内_ニ而_も西川領船

肝煎武助と申もの右約を背奈良川岸荷積いたし候趣_ニ相聞候

間弥右林之義_ニも候ハ、当所_ニ而_ニ荷割被指留候様致度右一件_ニ付

此度龍野へ御呼出_ニ付罷越候間此段得御意置候由申聞候間先日藏

合孫左衛門より申出出勤之上可及御沙駄存居候得共余り延引_ニも

相成候付今日紙面_ニ而_ニ御用番中へ申上置候

一久世へ指出候町人共今七時前毛受時治召連罷帰り昨十三日右一件

之もの共御裁許有之右引合之盜賊辰五郎ハ死罪_ニ相成当所分指出

候もの共ハ材木屋善六老人過料三貫文被仰付其余者指構無之被盜もの御渡被下受取罷歸り候尤左之通書類写指出候

一 御裁許受書 写

一 被盜もの御渡被下候受取書 写

一 過料三貫文曾根源次郎受取書

一 右御裁許御違書并右之通取計相濟候段通用之仕懸ケ之書面

右書面追絡ニ先日指出候盜賊太左衛門引合之村本屋太四郎

桶屋町長口書少々相直候間町役差添一兩日之内差出候様申

越候

右書類郡代所へ相廻候上御用番へ指出右ハ仕懸候書面故太四郎長次指出候節返書可差遣并指出候者も明後十六日立ニ申付候上ニ

返書下案可奉伺ニ而申上置大目附へも同様相届候

△右ニ付左之もの共明後十六日立ニ而久世へ指出候段夫々申達候

新魚町村本屋太四郎

右町役右衛門

桶屋町 長次

右町役彦市

右差添同心組

石名伝藏

右之通申渡候所姫路屋甚右衛門義先日已来風邪罷在難罷出ニ付

同役櫻野屋茂一郎可罷出旨大年寄ニ届出候

一 鍛冶場橋出来ニ付只今ニ往来相始候段作目附ニ届出候段郡代所ニ

申来右ハ当役ニ届来ニ付相届候ハ、郡代ニハ相届間敷旨申来候ニ

付右者以前ニ届来候事ニ候得共郡代所構ニ而郡代所手先ニ而申付

られ候事ニ而当役ニ食着可致筋ニ無之所以前ニ届来ニ而如何成も

のニ付旧記取調候得共一向不相分候間以来ハ御役筋ニ諸事御取計

有之当役ニハ相届間敷候間右之訳被仰達以来右之通ニ取極度旨郡

代所へ申遣候処左候ハ、今日之所ハ郡代所ニ相届当役ニハ御届不

仕趣申達可置候間右之訳ハ私出勤之上申上候様申来以来其旨ニ相

極候事

十一月十五日 雨

一 久世へ之返書太四郎長次指出候添書下案并組老人差添出候段御用

番中へ相伺候処思召無之宜取計候様被仰出昨日之返書八十郎左衛

門連名相認候

一 種油三匁九分売之処今日ニ四匁壹分売仕候段届出承り置

一新魚町鳥屋与三兵衛義大坂堂島山崎八郎右衛門方へ四十五日計之

逗留ニ而明十六日出立願大年寄承り届指出候

一 油方三人之者ニ之願去ル十三日認置候通伊左衛門を以申達置候処

今日伊左衛門ニ紙面ニ而申越候者右願書ハ御聞届無之候間主意を

替相頼候ハ、猶又御評議も可有之由太田舍人申聞候間其段申達何

分考申付候様申来候付其段大年寄へ申達尚又下方ニ而考直し差出

候様申達候右者甚思召違之義と被存候間右之愚意相認伊左衛門へ

ハ遣置候

十一月十六日 曇

一 久世へ指遣候町人共今六半時大年寄諸吟味召連出例之通小頭部ヤ

目附立合下役新左衛門ニ指出候段申渡候

新魚町村本屋太四郎

右町役櫻野屋茂一郎

桶屋町 長次

右町役大坂屋彦市

右指添同心組石名伝蔵

右之通指出候段御用番^并大目附へ相届候^{○九十八日罷掃候}

△右^ニ付入用欠所銀之内^ニ五拾匁取^取かへ伝蔵へ相渡候

十一月十七日 曇夜時雨

一萩野左五兵衛番代松岡治部助家来神崎喜和右衛門と申もの指出度願書指出受取置

一新魚町南側^ニ而魚屋吉兵衛所持之家屋敷表口三間裏行拾貳間半但

七步五厘役也西隣ハ櫻野屋茂一郎東隣ハ黒田屋十吉也右家屋敷代

銀札六百目^ニ相極新職人町研屋万兵衛へ売渡願承り届^{十二月十日赤祭状出}

一伏見町南側^ニ而竹島屋七三郎家屋敷表口四間裏行貳拾六間但半役

也東隣ハ魚屋権兵衛西隣ハ柴田屋勘七也右家屋敷代銀札五百目^ニ

相極家守富貴屋治左衛門へ売渡願承り届^{十二月二日赤祭状出}

一伊勢内宮藤波神主名代松井全衛と申御師老人例年之通来候段新職

人町松野屋十右衛門宿切手指出候^{十二月六日届}

十一月十八日 快晴

一御用日登城之处自分義未相勝候^ニ付当病断^并御用向三浦士へ頼遣
又

一橋本町徳島屋長十郎後家借屋住飯岡屋佐七後家悴豊吉音吉兩人去
ル八月出奔相届尋申付候所弥行衛不相知最早百日余^ニも相成候間

除帳願御用番中御聞濟^ニ付大目附へ指出置候段三浦^ニ申来御聞届
申達候

一桶屋町作人長蔵役介市之丞妻りよ義当七月廿一日出奔いたし右同

段除帳願右同断取計濟

一下紺屋町出口屋佐助娘きよ義当七月出奔仕右同断願右同断取計濟

一脇坂淡路守預り所当国英田郡倉敷村綿屋勘七忠岩五良義去ル申ノ

四^四月^四月上紺屋町浅屋八十市養子^ニ引受居候所家風^ニ入不申候^ニ付親
元へ指返度人別附願^ニ右同断取計濟

一久世御代官重田又兵衛殿支配所大庭郡久世村淀川屋清次郎娘りき

義去ル^{申三}四^四月上紺屋町灰屋与右衛門妻^ニ引受居候所右同断^ニ付離

縁仕度人別除願^ニ右同断取計濟

一徳守宮於社地花相撲一日興行御許容候処来ル廿二日興行仕度届書

指出寺社取次引合之上御両所へ申達濟候段三浦^ニ申来其段大年寄

へ申達候

一久世御裁許濟書類去ル十四日指出し置候処大目附^ニ戻り候^ニ付過

料錢之受取書被盜もの受取書写ハ大年寄へ差戻御裁許濟受書ハ役

所^ニ取置候

一大熊鞆負殿家臣秋間類助と申もの暇出候由坪井町浜屋龜四郎引受

度願書指出候安永十年丑二月西川平兵衛暇之節町方へ引受候例^ニ

任小頭代百蔵を右家臣方へ差遣聞合候所指構無之由^ニ付承り届

一油方引請三人之もの共^ニ縮方願書指出所御聞届無之別^ニ趣意を付

願候様被仰出候通申達置候所右之外^ニ而考無御座候旨弁書指出候

然ル所大坂^ニ油見改之もの

播磨屋伊兵衛 谷口屋徳兵衛 岡島屋宗左衛門

右三人来り紙屋助右衛門方ニ致逗留候段依之孫左衛門喜左衛門呼
出思慮承り候所孫左衛門申聞候者 毛頭考も無之候得共乍居事之破
を見候も如何成ルものニ候得共乍不及先頃指出候締方御許容被成
候思召ニも候得者 右取計ニ手間取致延引候旨相断取扱見可申弥不
致承知候得者 大年寄場合へ呼出秤改ニも銘々勝手次第ニ者 応対
不為致候事故油屋共へ直懸合改候義不相成旨申聞候様ニ取計候
外ニ手段無之旨申聞候付其段三浦十郎左衛門を以御用番へ申達候
所先日之締方之趣上ノ御世話被成候義ハ御許容不成候間下方ニ而
穩ニ懸合候様被仰出兎角御承引無之甚六ヶ敷御心得違候様ニ相覚
何も打寄種々評議遂候■右御好候通大坂御藏屋敷御名代印鑑を小
桁御番所へ指出置候義相止候ニハ締方手段無之致当惑候処殊之外
及深更候付何分夜中ニ了簡を付明朝可相伺ニ決候勿論太田舍人兼
而懸りニ付同人江申達候上御用番へ被指出候事

一萩野左五兵衛番代神崎喜和右衛門呼出業振致透見候

十一月十九日 快晴

一大坂油屋見改之者来候付昨夜種々遂評義候所孫左衛門考ニ及深更
当所三人之もの共姦邪之取計有之哉ニも承り候義も有之候間何分
被仰出通三人之もの不取計ニ付来候事故三人之もの共勝手次第宜
懸合差返候様ニ申付可申旨申出尤右之通ハ上答通ニ付思召ニ者相
叶可申候得共何とか如何成ルものニも被存候得共孫左衛門深差含
有之趣ニ相見へ候ニ付今朝新左衛門を以三浦士へ右之趣頼遣即刻
御用番中へ被申達候所御紙面ニ而油方之義先刻御申聞之通三人之

もの共へ穩ニ取扱候様可申付旨申来候付其段大年寄へ申達候所尚

又孫左衛門ノ伺出候者 油之義締方申主通りハ御取上ケ不被成候節

ニ付三人之者共宜懸合早々罷帰り候様可取計ニ外油屋へ直懸合不

相成ニ宿へも右之旨申含可置と伺出候付見込候通宜取計候様及差

図候尤右三人之者来候義月番大目附へハ未届不仕候故今日相届候

一田の邑村千年寺へ去ル十六日夕盜賊這入諸色十三品盜取候触流大

目附ノ申来写取本書者 指戻候 同廿六日町方無之段届出候

一萩野左五兵衛番代喜和右衛門義願之通承り届候段百藏へ申渡自分

義引込中ニ者 候得共明廿日目見可申付旨申渡候

一三船藤四郎義丈夫ニ相成業振も出精候旨ニ付明廿日ノ表勤指出候

様百藏へ申渡候

一教信講尺去ル十四日ノ相始候所出席も少く候ニ付昨夕切ニ而仕廻

候段喜左衛門届出候

一孤独扶持式百六拾八匁四分式厘六毛勘定場下代伝左衛門持参受取

候尤右之内ニ者 拾六匁余返納有之候

一京町田原屋伊兵衛義備前岡山中島町松本や又八郎方へ廿日計之逗

留ニ而来ル廿二日出立願大年寄承り届差出 十一月十四日届

十一月廿日 快晴

一御藏米六拾七匁五分 町米六拾三匁五分

一同心組萩野左五兵衛番代喜和右衛門義自分義乍病中出勤迄と申而

者 余り延引ニも相成候ニ付乍平臥目見申付候仍而新左衛門詰合無

之

三本人扇子箱

萩野喜和右衛門

即日請状もいたし指出し先格之通明日今三日之間見習申付候

一伊勢山田河北助太夫名代辻田善治一人例年之通来候段新職人町松のや十右衛門宿切手指出候癸卯年四月五日

十一月廿一日 快晴

一油方之三人^{御儀也}之者共申出候由昨晚喜左衛門罷出申聞候者当秋菜種兵庫へ積登七候節上乘桶屋町唐屋熊右衛門と申もの頼差遣候所右船兵庫へ可着所同船^ニ山上参り有之右船を大坂へ着候所大坂^ニ而見付彼は六ヶ敷申右積之内^者備前種も有之由^ニ而石数等致吟味候処散種と一緒^ニ廻候事故御届^ハ石数過分有之段逐吟味不審申候由右備前種有之義ハ灘屋吉三郎色々と申披一札等仕相済居候処右石数過分有之義を大坂油屋共御番所へ致出訴候得^者御大名様相手取候事故一応ハ御取上ケ無之御指戻し^ニ相成候得共油方之もの共再往出訴仕候由^ニ而万一御取上ケ^ニ相成候得^者御領主様御名も出取計候御役人中之越度^ニも相成候事之由^ニ相聞至^而六ヶ敷取纏候間湯田屋太郎左衛門^ニ急^ニ登坂候様^ニ書状差越候段則右来書指出即刻三浦士を以御用番中へ昨夜申上候所御留主^ニ付又々今朝三浦士被相越委細申達当時此方^ニ而承り候^而も致方も無之義^ニ付油方引受候者共之内早々差登如何^ニも内分^ニ為取扱候様可仕併右散種取集承之石数多相成候義を大坂^ニ而ハ御届之外^者無之義と存居候所多分積登候義を見付候義^ニ御座候様^ニ相聞候先爰^ニ而ハ不存分^ニ而油方之者私用^ニ而登坂願候趣^ニ取計可差遣旨相伺候処無程思召無之宜取計候様被仰出候付其段大年寄へ申達万端宜取計候様異々及差図候然ル所御用番中今十郎左衛門へ右上乗之もの預ケ

ニも申付可置筋^者有之間敷哉と被仰出候付右上乗之もの、義も先爰^ニ而ハ不及貪着筋^ニ奉存候由紙面^ニ而御答申上候

△然ル所蔵合孫左衛門心得之趣乍飯染公儀へ対候事^ニ而不輕義^ニ候得^者今般罷出候者共品^ニ寄入牢等被仰付間敷もの^ニも無之と深考

居候趣書付差出尤右ハ今般之取計之仕向^者無之候得共申出候事故為念三浦へも申通御用番中へ差出候様無程思召無之随分内済取扱^ニいたし候様申来候

△今般大坂今来居候もの右菜積出入鑑察兼来候もの^ニ者無之候哉致鑑察候様御用番中被仰出候由三浦士被申聞候付其旨喜左衛門へ申付候

一新魚町年寄櫻野屋茂一郎^ハ書付を以届出候由^ニ而大年寄申出候^者備前尻見^{（こ）}魚屋文蔵と申もの、魚荷忝荷同所伝吉と申もの持来り昨日夕藤原村宇助と申者方^ニ致一宿候所昨日今道連之ものも有之昨夜同宿仕今暁一緒^ニ致出立候所横山村小桁村之間^ニ而右同道之者伝吉を打倒余程棒疵付致絶気候所右魚荷奪取逃去り候由右伝吉漸々新魚町角屋源左衛門方へ罷越其段申聞余程之疵所^ニ付早速跡見春鴉頼療用仕候段届出候付即刻目明共へ右奪取候者逐吟味候様申付郡代所へも其段及通用置下方へハ角屋源左衛門^ハ備前伝吉親類之者呼寄可成丈内済取扱候様申付置右之段御用番^并大目附へ相届候然ル所後刻目明共今右魚荷勝間田之方へ持行候躰^{（を）}見受候もの三四人も有之由申出候付同心組中山百蔵老人目明孫兵衛老人非人式人召連罷出候様申付候尤用意銀三拾匁為持遣候右之段尚又御両所へ相届候

一 生野布施源二郎殿手代の郡代所へ例年の通御廻米川下ケいたし候
間津山町津出し并蔵元方火盜之防申来候段郡代所の通用有之候ニ
付右蔵元ハ矢張今津屋相勤居候付火盜之手当例歳之通大年寄へ申
達候所桶屋町へ申付候段申出候

一 伯州大工中之町福茂屋武兵衛方ニ久々致逗留居候所右大工林田町
岩佐屋善七脇差盜取候段目明申出候付番又六伝蔵仮目明善治
差向召捕候処右大工と申ハ因州鳥取新本字町大工十左衛門悴庄助
と申ものニ而十八才ニ罷成九月中旬の罷越居因州ニ而ハ唐之丞と
申候由遂吟味候得共一向不及白状候ニ付手錠懸ケ宿福茂屋武兵衛
へ預ケ置候段罷歸り申出候

一 播州広峰魚住藏人来候段京町花屋権兵衛届出候十一月十五日届
十一月廿二日 時雨

一 半凌申付候処無別条段又六伝蔵届出候但喜和右衛門も見習ニ指出
候

一 斎藤孫右衛門悴嘉藏義持病今以不相勝ニ付播州山崎井上弥治兵衛
方へ差遣来戊二月迄逗留為仕度願承り届翌戊三月朔日届

一 西今町湯田屋太郎左衛門義撰州兵庫菜種問屋灘屋吉三郎方へ廿日
計之逗留ニ而明廿二日出立願大年寄指出承り届十二月三日届

一 安岡町大黒屋六兵衛右同断願大年寄承り届指出し右同断

一 新職人町塗師ヤ長右衛門借屋住利兵衛義先月廿五日出奔仕相尋候
得共行衛不相知旨届書指出候付先格之通百日尋申付候翌戊三月廿八日人別
除願相請

一 当国勝北郡下野田村庄吉と申もの西新町大黒屋藤藏縁類之者ニ而
用事有之来候間来戊二月迄逗留為仕度願承り届翌三月十八日届候段届出候

一 中之町玉野屋藤十郎改印いたし候付印鑑指出候

一 他領川岸々々船荷割之義船肝煎共去ル十四日認置候通龍野へ願付
候処生野へ御指出ニ相成生野へ罷出申披候処尤ニ被聞受荷主共へ
其断可申付候間引受候様被仰付若又荷主不承知ニ候ハ、龍野へ可
指出旨被仰渡候由右願書写両通藏合孫左衛門の指出し候ニ付御用
番へ指出候

一 徳守宮社地ニおゐて花相撲興行ニ付栄治幸治差出候所無別条相濟
引取候付其段御用番并大目附へ相届候

一 昨夜召捕候中之町福茂屋武兵衛方ニ逗留候因州大工庄助義銀札盜
取候程之義ハ白状いたし候段又六伝蔵の届出候

一 久世へ差出候時治伝蔵兩人之入用合五拾四匁四分七厘九毛有之候
由証文差出與印書取計之

一 大坂の未居候油見改之者へ当所油方引受之三人即刻參り懸合候処
存之外穩成義ニ而已来無間違大坂油調被具候得者宜旨申趣ニ而其
段ハ油方引受之者受合候段申極大躰相濟候得共是の久世高田の方
見改いたし候間右之通爰元三人之もの引受候得者久世高田之方も
定而皆様方へ頼来可申候間向方へハ老入罷越跡式人之もの者其間
当所ニ逗留可致旨申候由先日喜左衛門の申出其節十郎左衛門の御
用番江被申上候由ニ候

一 油方引受之もの共大坂の呼ニ来候間早々兩人可參所山手屋利兵衛
病氣ニ付得不罷出爰元ニも大坂の見改之者来居候故老入ハ不殘候
而懸合不相成仍之常盤屋丈右衛門殘し置湯田屋大郎左衛門と惣
油屋之内の老入安岡町大黒屋六兵衛と申もの可差出ニ相決右兩人

前書之通大坂行願書承り届明朝出立いたし候筈也其段三浦氏へ申
達同人々明日御用番中へ沙駄被致候筈也尤大目附へハ廿三日紙面
ニ 而 相届候

十一月廿三日 晴

一御用日登城之処自分義未相勝候ニ付当病御断_并御用向三浦士へ頼
遣ス

一備前尻見村伝吉魚荷奪取候もの召捕ニ差出候処昨夜湯郷村ニ而召
捕候由今昼前時召連罷帰り候処右追剥いたし候ものハ去十一月山
田孫四郎長屋者之銀札盗取当三月五十敲追払ニ相成候美濃職人町
幸右衛門と申者ニ而当時無宿ニ而湯郷辺ニ致流浪居候由ニ而召捕
連帰り候ニ付番幸治見習喜和右衛門指添入牢申付其段御用番_并
大目附へ相届候

一備前和氣郡西片上村和泉屋勘兵衛娘津那義東新町玉屋伊左衛門養
女ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置候段三浦士
今申来御聞届申達候_{同廿八日住宅証文差出}

一雲州松江末次本町新屋甚蔵夫婦二人鍛冶町塩屋庄助役介ニ引受度
人別人願右同断取計濟_{十一月二日住宅証文差出}

一元魚町吉屋清蔵下人盜賊藤吉御裁許伺差出候所吉屋清蔵札口書添
差出候様被仰出右書類御差戻ニ付吉屋清蔵口書取指出候様大年寄
へ申付候

一桶屋町虎屋熊右衛門義当秋菜種上乘いたし大坂へ積廻り候ニ付今
般之出入差起候間組合預ケニいたし可然様先日被仰出候所未役筋
ニ而表立承り合候義ニも無之何れ下方懸合中之義ニ候得_者此節預

ケ取計候筋のもの_ニ者無之旨申上置御承知ニ而相済居候所猶又今

日御用番中々万一取逆候_而ハ不宜候間組合預ケ申付候様三浦十郎
左衛門へ御伝達有之上思召とハ大キニ意味違候義ニ而上乘候者ハ

何之不調法も無之夫々ハ油屋共之不埒ニ候得共引込中之義彼是申

上候迎も一旦右之通ニ被仰出候義ニ候得_者不及是非其通申付候尤
右菜種之出入未大目附月番へハ改_而届不致候ニ付今日右大意相認
_并熊右衛門預ケニ取計候義大目附へも相届候勿論熊右衛門預ケニ

取計濟大年寄分申出候上分_而御用番中へ紙面ニ而相届候

尋之節有之ニ付

桶屋町

組合預ケ申付候_{○翌戊三月十八日差免}

虎屋熊右衛門

一新魚町野田屋六郎太夫悴宗蔵義札座手代見習申付候由清水覚右衛
門分案内有之札元妹尾平兵衛も召連来候

一中之町福茂屋磯吉方ニ致逗留居候因州大工庄助義昼廻り栄治幸治

差向下吟味申付候所岩佐屋善七銀札三度ニ四拾老勿盜取候計ニ而
外ニ盜相働候義無之善七脇差紛失いたし候処裏之溝ニ有之候由是

決_而不盜取不存趣明白ニ相聞候旨口書取指出候所未因州鳥取人別
之ものニ候得_者是式之義を懸合ニ仕候も如何ニも候ニ付右口書紙

面ニ而御用番中へ指出右躰之義ニ御座候間下方目明場合ニ而追払
取計右宿福茂屋磯吉御定法相背不埒ニ付三日追込可申付可然旨相
伺候所無程御紙面ニ而伺之通宜取計候様被仰出候ニ付其段大目附
へ相届候

一蔵合孫左衛門分紙面ニ而申越候_者繰綿締方取計行届至極宜仍之他
領分も当所へ差越候様ニ相成り直段も他領綿分宜諸方氣受格別宜

相成候処伏見町平佐屋兵藏と申もの不直ものニ而 毎度悪綿仕立改役之もの共も取扱兼候趣ニ 相聞候間免置候 而 ハ外々之為ニも不宜候間急度相改品ニ 寄御答ニ 而も可奉伺旨申出候付宜取計候様及指図候

一 伊勢山田村田三太夫名代高田十藏と申御師上下二人例年之通來候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出 翌戊二月朔日應掃候段届出

一 当国真島郡勝山町神代屋小兵衛悻好五良と申もの京町田原屋伊兵衛親類之ものニ 付呼寄來ル戊五月迄店方手伝為仕度逗留願伊兵衛ノ指出承り届 翌戊五月晦日追願

一 穢多囚人御用ニ 付通行止宿之取計姫路明石承り合候様申付置候処姫路返書來姫路ニ 而 ハ穢多人足穢多番等ニ 者 不申付籠屋町之底ニ 差置平人取扱ニ いたし候由申越候明石返書來候上可申達事

一 他領川岸ノ 船荷割之義長岡船持共申立通ニ 相濟候旨為知越候書類去ル廿二日御用番へ指出置候所御下ケ被成候付大目附へ指出候

十一月廿四日 快晴 夜雨

同廿六日候ル

一 播州網干新在家馬屋彦右衛門と申もの小間物売ニ 十二ヶ年已前迄中之町津田屋伝助方へ來候処及老年得參不申候付為名代同人縁類之もの大坂農人橋東詰網屋清次郎と申もの金通し張かへ（ツツ）焼灯張かへ目鏡入替仕候もの指越度申越候段願出承り届

一 桶屋町佐七義去ル六日二階町喜助妻を理不尽打擲いたし手錠組合預ケ申付置候処二階町喜助ノ内濟仕候付願下ケ願書指出候付御用番中へ相伺候処御聞濟ニ 付大目附へ相届置願下ケ之趣承り届候段相達し夜廻りノ手錠指免候

一 今九時ノ新左衛門文藏出番榮治喜和右衛門立合昨日入牢申付候幸右衛門新左衛門ノ為取計候

吟味詰口書爪印

牢舎人

幸右衛門

取之

一 明廿五日盜賊利右衛門御裁許可取計ニ 付御徒目附立合被指出候様大目附へ申達候

一 中之町福茂屋磯吉方ニ 致逗留居候因州大工庄助義も明朝目明ノ追扱為取計候ニ 付明六半時牢屋前へ召連出候様ニ 大年寄へ申達候

一 林田町岩佐屋善七義右因州大工庄助（ツツ）銀札三度ニ 四拾壹匁被盜取候付直（屋裏取）談ニ 右銀札取戻候様ニ 申達候所細工料等渡殘有之指引いたし候処七匁式分不足ニ 付右代ニ かな二枚曲尺一相對ニ 而 受取候様申出候

一 盜賊利右衛門妻子明六半時牢屋前へ召連出候様大年寄へ申達候

十一月廿五日 晴

一 六半時捕於牢屋前御徒目附下村市兵衛下目附安井友治小頭代江原文藏部屋目附中山百藏出番毛受時治萩野喜和右衛門立合文藏ノ左之通申渡之

当九月一ノ宮村勘右衛門方ニ 而 西新町岸田伊三郎借屋住脇差忝腰木綿一反盜取候付 盜人 利右衛門五十敲御領分追払申付候

盜賊筋携ハ無之候得共夫右之始末ニ 付 同人妻子 但六才ニテ入御領分立去り申付候

当九月ノ中之町福茂屋磯吉方へ 因州鳥取新本地町罷越居林田町岩佐屋善七所持之 十右衛門悻虎之丞事

銀札三度都合四拾壹匁盜取不埒至極
之義申付方も有之候得共格別之隣愼を以
目明場合^ニ御領分追弘申付候
大工 庄助

右因州大工庄助義無願数日留置 中之町福茂屋磯吉

御定法相背不埒至極^ニ候依之追込申付候^{但日數三日}

右取計濟御用番^并大目附へ相届候

盜賊利右衛門^ハ盜脇差老腰 下紺屋町 松五郎

質^ニ取候付其品取上ケ代物損失申付候

盜賊利右衛門^ハ木綿一反質^ニ取 東新町久木屋茂兵衛

右^ハ盜物^ニ付其品取上ケ代物損失申付候

右脇差ハ湯郷村之者候^ニ付先達^而目明場合^ニ為引渡相濟候

木綿ハ郡代所へ可差戻候

一備前^ハ魚荷持來被奪取疵負候義角屋源左衛門^ハ伝吉親類之者來候

様即刻申遣候処道法拾八里有之由^ニ漸昨夜右魚荷主文藏^并伝吉

従弟紋平と申もの兩人來候処伝吉義も疵所快方^ニ付即刻召連罷帰

度旨申出候段昨夜申出候付今朝御用番中へ相伺尤途中^ニ無宿盜

賊之仕業之義^ニ有之候得^者以後申分ハ無之筋之義^ニ候得共以後

申分無之一札取候^而右幸右衛門致所持候魚荷^并魚壳候代銀引渡可

差返旨紙面^ニ相伺^并右盜賊幸右衛門義も昨日口書爪印取置候間

御引合^ニも可相成^ニ付直^ニ御裁許奉伺候旨右吟味書指添御用番中

へ指出候所伝吉義一札取置指返候義ハ思召無之段被仰出然ル所右

盜賊幸右衛門義重キ御仕置^ニも可相成程之義^ニ候得^者内濟之姿耳

^ニも如何成ルもの^ニ付新魚町年寄^ハ向方村役へ添状遣し右始末

委敷申遣候様被仰出其段大年寄へ申達候処右一札^并添状下案指出

候^ニ付少々致深削御用番中へ指出候所思召無之段被仰出候付其段

大年寄へ申達^并幸右衛門奪取致所持居候さるかこ老荷さる棒一本

壳殘魚たこ大十七小三十三にし七ツ壳取候代銀式朱判老ッ銀札七

匁錢式百文大年寄へ相渡伝吉へ引取候様申付候

一大坂御代官神田仙九郎殿当国預り所御米樋川岸^ハ被積出津山^ニ而

中揚有之段郡代所へ申來通用有之候^ニ付例年之通番人申付候様大

年寄へ申達候

十一月廿六日 晴風

一備前尻見村伝吉義一札取置新魚町年寄^ハ向方村役へ添状いたし^并

幸右衛門持居魚籠魚代相渡受取書取置今朝荷主文吉伝吉従弟紋

平召連帰候段届出候付其段御両所へ相届候

一他領川岸^ハ船荷割定候^ニ付樋村川岸荷主共^ハ願出候^ニ付右之段

龍野表へ生野^ハ懸合候書面写取櫻野屋茂一郎指出候^ニ付最早事濟

候書面^ニ候得共御用番へ指出候^{同廿八日戻ル}

一牢舍人千^ハ藏未相勝候^ニ付中村宗元へ療治申付候段双方^ハ届出候

十一月廿七日 雪

一大坂^ハ來居候油見改之者其他領油屋共も爰元^ニ不致候^{此札}故年中油

買受壳捌之調書いたし呉候様又々申聞先頃之懸合振とハ少々変化

いたし候段喜左衛門申出候^ニ付直^ニ喜左衛門を十郎左衛門方へ差

遣其段明朝被及御沙駄候様^ニ申遣候

一備前尻見村伝吉義今日孫左衛門申聞候^者角屋源左衛門^ハ備前へ伝

吉一件為知遣候処右書面郷役人へ指出候所下役と申もの被申付候

^者右書面源左衛門文鉢とも不被存定^而役懸り之人指図^ニも可有

之被入念候義候得者親類ハ勿論荷主も不參候而ハ不相濟候間罷越
 候様被申付来候段荷主文蔵相咄候由然ル所文蔵着候翌日組合二人
 挨拶ニ来其翌日村惣代として三人挨拶ニ来段々被入御念御取計之
 由申聞殊ニ盜賊も早速被召捕所持之品迄御渡被下候段厚ク難有か
 り罷帰候由下方も右之趣つゞ不申出今日申出候付申聞候段
 孫左衛門申候ニ付其旨大意三浦へ申遣明日御沙駄被下候様頼遣候
 一当秋積登候菜種多く備前ニ而買調津山積として相廻候由承り候ニ
 付其段御用番中へ申上候而も可然哉と喜左衛門を以十郎左衛門へ
 頼遣候所粗ハ申上置候事故先申達候ニも及間敷旨返答申来候
 一戸川町中横町西側ニ而播磨屋清七所持之家屋敷表口貳間裏行拾壹
 間但式歩役也南隣ハ打穴屋長七北隣ハ同居人居宅也右家屋敷代銀札
 貳百七拾匁ニ相極町内打穴屋長七へ売渡願承り届十二月三日宛券作差出
 一戸川町中横町西側ニ而播磨屋清七家屋敷表口四間裏行拾壹間但四
 歩役也南隣ハ打穴屋長七北隣ハ播磨屋七左衛門也右家屋敷之内ニ
 而裏西詰ニ而東西老間南北四間之地面ニ御役五厘相添代銀札八拾
 匁ニ相極町内打穴屋長七へ売渡願承り届右同断
 一林田町平井屋源助忰忠蔵義大坂御堂前河内屋源兵衛方へ当西之年
 々来ル亥ノ年迄三ヶ年之間奉公ニ指度願承り届
 一林田町北側ニ而平井屋源助家屋敷表口三間裏行拾六間半但半役也
 東隣ハ梅屋宇助西隣ハ河田屋忠助也右家屋敷代銀五百匁ニ相極勝
 間田町柳屋宇兵衛へ売渡願承り届
 一関貫番賃銀拾六匁大年寄指出候

十一月廿八日 快晴

一御用日登城之処拙者義未相勝候ニ付当病断并御用向三浦士へ頼遣
 候
 一中之町福茂屋磯吉追込昨日迄ニ而三日ニ相成候付今朝指免其段御
 候
 一安岡町鍛冶長兵衛後家孫しげ義未十一月出奔申三月除帳相成候処
 此節備前岡山辺致流浪先非を悔罷帰度旨頼越候ニ付歎書指出御用
 一船頭町左五郎と申もの無人別ニ付当三月六日組合預ケニ申付置候
 一馬持共例歳之通一人ニ大豆貳俵半宛拝借仕度願書勘定奉行引合之
 上右同断取計済
 一当暮御褒美調両通三浦士を以指出置
 一盜賊藤吉御裁許伺先日御察度候通吉屋清蔵玉島屋音右衛門相札口
 書指添右同断指出候右不調ニ付差扣相伺候段三浦士へ頼遣候所御
 裁許済候節伺候様申来候
 一盜賊専蔵御裁許伺右同断差出
 一盜賊関助御裁許伺右同断差出
 一南新座町千本準之助前臭橘垣路次作道下方之願ニ付当六月切
 取計置候所坪井福渡町上紺屋町宮脇町作人共之甚不并理ニ而難
 義仕候間元之通路次明呉候様願書指出候ニ付其段三浦士を以大目
 附へ及噂聞済ニ付承り届候段申達先前之通引受証文指出候様大年
 寄へ申達候

一 牢舎扶持拾貳儀之内貸証文指出奥印書取計之右ニ 而 正月へ三斗貳升式合五勺持越候積也

一 菓種御屈石数違候義大坂ニ 而 も長沢清左衛門及間湯田屋太郎左衛門ニ 早々登坂候様ニ 申通候様井口恵左衛門へ申越候書面蔵合へ為見候由ニ 而 写取指出候付三浦心得ニ も可相成哉と存相廻候所御用所へも指出候由申来候

一 来月三日御用日四日ニ 相成候段三浦ノ通用有之候

一 郡代所ノ押入村与次兵衛本郷北村千蔵本郷西村勘三郎右三人不埒之筋有之ニ 付牢番預ケ申来出番藤四郎差向取計之

一 安岡町北側ニ 而 久米屋岩吉家屋敷表口五間裏行拾七間但七步三厘九毛役也東隣ハ久米屋友七西隣ハ久米屋鶴藏也右家屋敷代銀五百目ニ 相極町内福島屋伊助へ売渡度願承り届十二月五日発寄共出

一 安岡町南側ニ 而 福島屋伊助家屋敷表口三間裏行拾七間但五步役也東隣ハ大坂屋卯八西隣ハ岡崎屋伊兵衛也右家屋敷代銀七百目ニ 相極町内岡崎屋伊兵衛へ売渡度願承り届右同断

一 西今町直屋孫兵衛義焼物すやきは迄同人裏ニ 而 仕候処手狭ニ 付同町親類直屋孫四郎裏ニ 而 仕度願承り届

一 当国大庭郡赤野村権兵衛妹七き義用事有之当四月西今町直屋孫四郎方へ来候所未用事不相濟候付来戌二月迄逗留為仕度日延願承り届翌戌三月二日通願承り届

一 牢舎人共へ例年之通御仕着拾五相調相渡候

代百六拾九匁五分

一 東新町盗人利右衛門一ノ宮村勘右衛門方ニ 而 盗取候木綿一反郡代

所相廻受取書取置

十一月廿九日 曇

一 御奏者番中ノ左之通廻状到来(殿付)

当月十三日上使神尾市左衛門殿を以

御鷹野雁御拝領被成候仍之右恐悦申上来月朔日御徒格以上

御目見へ相濟候部屋住迄四時登城可有之候

右写取組中へ相触大年寄へも廻勤申達候

一 関貴番賃銀例月之通相渡候

一 播州綱干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物鯉節卸売来候段林田

町福吉屋安右衛門宿切手指出翌年戌二月廿五日届

一 丹波水上郡文室村紙屋定八手代長十郎清八文右衛門上下四人すか

糸紬并切々売ニ 来右ハ九月三日承り届此度初而 来候段堺町西川屋

善助宿切手指出

十二月

月番

御家老

御年寄 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十二月朔 癸卯旦 雨

一 御鷹野雁御拝領被成候為恐悅御徒格以上御目見濟部屋住迄四時惣

登城之所自分義頭瘡_ニ 而 未相勝仍之当病御断三浦士へ頼遣候所右

恐悅申上名代相勤被呉候由申来候

一 山田主膳殿於江戸表先月十五日御家老当職被仰付且又今日海老原

極人殿御年寄当役被仰付_并 黒田忠三郎大目附被仰付赤見類助義来

二 月中出府被仰付候由大目附_ハ 達有之候由_ニ 而 三浦士_ハ 通用有之

一 久世御代官重田又兵衛殿手代曾根源次郎_ハ 先日牛馬皮川下之義去

申年以前_ニ も有之候事哉と尋来郡代所_ニ 而 吟味有之候処牛馬之皮

川下ケ之義御留もの_ニ も無之運上もの_ニ も無之無手形_ニ 而 前々_ハ

通り来候事故其段及返書候旨郡代所_ハ 通用有之候尤向方_ハ 申来候

名面之もの_并 右同断穢多名前_ニ 而 通り来候義ハ無之旨_ニ 候由申参

候

一 山田主膳殿海老原極人殿御当役被仰付候義先格之通町方へ相触候

一 右牛馬皮川下之義為念藏合孫左衛門へ聞合候処川下ケ切手指出候

義一向無御座左候得_者 入不申義哉又ハ当川岸_ハ 出不申哉切手申出

候義無御座旨申出候

一 黒田忠三郎跡役御使番役古谷嘉左衛門へ被仰付候

十二月二日 快晴

一 雲州日御崎_ハ 八九ヶ年已前勸化申来其段御達有之市郷共上_ハ 御取

替_ニ 相成り跡_ニ 而 取立候哉又ハ流_ニ 相成候哉取調申達候様大目附

小須賀貢被申聞候由三浦_ハ 申来取調候処寛政五丑年三月右勸化申

来候御達有之右懸り藏合孫左衛門へ申来惣町中_ハ 白銀五枚差遣候

其節大年寄共取替置追_而 惣町中_ハ 割合_ニ 而 取立候_而 上_ハ 御取替ハ

不被下候_ニ 付其段三浦へ申達候

十二月三日 曇

一 昨夜及深更川端又六毛受時治福渡町を通り懸り候所岡屋万五郎方

二 階_ニ 大勢相見へ彼方ハ兼_而 博奕沙駄有之_ニ 付流込遂吟味候処不

残迹去り漸々他領もの三人亭主万五郎召捕遂吟味候処決_而 博奕会

合ハ不仕今日徳守宮_ニ 而 振鬮有之煮売いたし大勢相集致飲食大勢

之錢払之義_ニ 付錢箱二階へ持出錢受取居候_ニ 相違無之旨申候_ニ 付

他領もの三人ハ其場_ニ 而 追払宿万五郎ハ預ケ_ニ 申付置候段昨夜届

出博奕会合之様子不見受候段申候_ニ 付昼廻り又六伝藏_ハ 万五郎預

ケ差免候様申付候

一 院庄村組頭彦右衛門仲右衛門兩人不埒有之_ニ 付郡代所_ハ 牢番預ケ

申来当番幸治差向取計之

一二階町并筒屋弥三郎所持之他国受酒株去未十月元魚町龜屋弥兵衛借受居候所猶又当西十一月來ル亥ノ十一月迄丸二ヶ年之間借受度追願承り届表十二月二日追願

一当国大庭郡西原村幸右衛門并娘孫右三人当四月八日西今町紙屋八郎兵衛方へ來致逗留居候所來戊二月迄逗留仕度追願承り届

一下紺屋町稲田屋藤十郎借屋住俵屋善六義去月十日之夕罷出不罷帰候ニ付出奔届指出例之通百日尋申付ル尤残置候道具も有之書付添差出候翌戊三月廿八日別除帳願相済候

一教信講尺入用廿三匁老分七厘有之候所喜左衛門書付指出自分証文相認候而勘定奉行へ指遣

十二月四日 曇

一御用日并寒中御機嫌伺ニ付御徒格以下惣登城之処自分義未相勝ニ付当病御断并御用向三浦士へ頼違候

一林田町門屋又七役介幸治義八月十八日致出奔百日尋申付候所弥行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置候段三浦中來御聞届申違候

一久世御代官重田又兵衛殿手代稲川久藏分飛札差越御廻米御用ニ付今津屋孫十郎方へ罷越候間火盜之防申付候様例歳之通申來及相答大年寄へ申違候

一宮田喜左衛門申出候者兵庫へ罷越候湯田屋太郎左衛門大黒屋六兵衛昨夜罷歸り申出候者兵庫へ罷越灘屋吉三郎へ致対談兼而御頼ニ付散種買集相廻候事ゆへ御届數ハ元來多答之義ハ御頼ニ而御承知之筋ニ候右申披ヲ私共ニいたし候様ニ被申聞候ハ甚無理成義ニ

而其段ハ其元ニ而宜被申上候様ニ理談いたし候処其段御尤候得共何分御届數と符号不致候而ハ相濟不申候間散種共之數御届ニ相成候様取計呉候様申趣ニ付最早御届も相濟候義ニ候得者被成方も有之間數旨申候所当国内ニ而も未御届無之候方も有之候得者何分近日罷越夫々御領主様へ直ニ可相願此節太郎左衛門致出坂候而も却而不宜旨ニ付罷歸候様ニ申候間罷歸候由申出候付其段十郎左衛門へ申達候様及差図置右之段喜左衛門被聞取御沙駄被下候様三浦へ頼違候何とか不束之事共ニ相聞候

一町講尺入用廿三匁老分七厘栗田相廻り喜左衛門へ相渡

一盜賊関助義剛ニ相伺候処大目附中附紙ニ而死刑相当之ものと御用所ニも思召候間再考いたし候様ニと申義ニ而三浦相戻候

一勢州朝熊岳明王院使僧休可坊悦忠坊宝藏坊義忠坊上下八人例歳之通來候段新魚町与八宿切手指出

一撰州有馬辻堂茂兵衛一人例年之通紙白粉卸売來候段中之町甲屋幸助宿切手指出候同廿八日届

一長州豊浦郡八道村百性幸助義西国ニ罷出布施孫三郎殿支配所作州吉野郡牛飼宮原村分送り出し候段郡代所分通用有之継送り申付候

十二月五日 雪風

一久世御廻米川下今日相始候段郡代所分通用有之大年寄へ申違候

一阿州名西郡桑島村平次兵衛手代庄助一人例年之通藍玉売來候段京町今出屋半兵衛宿切手指出翌戊七月九日届

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛一人例年之通藍玉売來候段右同人宿切手差出候右同断

一阿州名西郡桑島村夫右衛門手代次右衛門右同断来候段右同人宿切
手指出候右同断

十二月六日 快晴

一大坂へ来居候油見改之もの当所油屋共懸合内々相濟今朝罷帰候段
大年寄届出候付其段御両所へ相届三浦士へも及通用候

一伊勢山田御炊太夫名代西佐助上下式人来候段新職人町松野屋十右
衛門宿切手指出候 翌年正月十九日届

十二月七日 快晴

一御藏米 六拾六匁五分 町米 六拾式匁五分

一備中小坂郡水野弥之助殿役人中島幸右衛門近藤武左衛門分例年之
通米相場書相廻し為挨拶釜敷紙式束指越及相答候

一盗人幸右衛門召捕ニ差遣候人用左之通証文百藏分指出し奥印書取
計之 都合 百三拾五匁六分三厘

一牢舎人二階町引受幾助義永々之義ニ而 宿賄難洪之趣相聞彼義八角
治同様之ものニ而 急ニ難相濟勿論宿と申も兼而 引受之ものニも無
之ニ付明八日分牢賄申付候段双方へ申達候

一大年寄伺出候者 豆腐屋頭之義ハ外々頭役と替取もの一向無之義ニ
付豆腐屋仲ヶ間分一ケ年ニ老奴つゝ、為取候様仕度伺出候付宜取計
候様ニ及差図候

一上紺屋町对馬屋三右衛門義出奔届出候付百日尋申付置候所猶又百
日之日延願差出相尋候得共相知不申又候百日之日延願差出承り届 八月廿四日

一茅町北側ニ而 浅田屋市郎兵衛居宅表口老間老尺三寸五歩裏行式拾 戊四月廿七日又百日延願

三間但老歩役也右家屋敷東隣ハ大坂屋鉄五郎西隣ハ坪屋与八郎也

右家屋敷質物ニ書入今酉ノ十一月分来成ノ十月切式割ノ利足ニ而
同町栗屋治兵衛分銀札百匁借り受度願承り届 同十五日日本証文差出

十二月八日 快晴

一御用日登城之処自分義未相勝候ニ付当病御断并御用向三浦へ頼遣
豆腐直段是迄拾八文売之処以後拾六文売届書御用番御聞濟ニ付大
目附へ差出候由三浦分申来御聞届之趣大年寄へ申達候 但早前代三分厘

一盗賊関助義思召披仰出候付強而之存寄無之候得共盗物も一ヶ所ニ
而ハ拾両之数ニ足り候品無之ニ付剽相伺候段弁書添指出候

一藏合孫左衛門伺出候者 玉置六郎左衛門義殊之外困窮仕罷在候ニ付
御預ヶ之三步銀利足返し一割之処以前之通月七朱之利ニ被成被下

候敷又ハ御廻米番實余り当時工面ものニ相成居候所以前之通大年
寄共へ被下置候様ニ被成被下候ハ、六郎左衛門へ指遣し取続七度

旨内々新左衛門を以歎出候付左候ハ、廻米番實銀余り以前之通大
年寄共三人江可指遣候間如何様共勝手次第取計候様及指図候

一南新座臭橋垣路次受負一札坪井町上紺屋町戸川町宮脇町福渡町分
指出受取置

一御廻米今日切ニ而 積切候段御藏元熊の屋文五郎届出候

一大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代定兵衛一人例年之通焼灯張替
来候段中之町甲屋幸助宿切手指出 同廿八日届

十二月九日 快晴

十二月十日 快晴

十二月十一日 雨

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人例年之通藍玉売来候段船頭町今岡

屋熊吉宿切手指出 翌年五月廿三日

一阿州名西郡高原村直兵衛手代平左衛門一人右同断来候段右同人宿切手指出右同断

一阿州板野郡高房村新兵衛一人右同断来候段右同人宿切手指出候右同断

一藏合孫左衛門先日申出候者 繰綿締方甚宜他国氣請一同宜御座候而作州出之綿ハ当所改印無之綿甚他国商人不取用勿論直段等も下直

ニ取扱候由ニ 而 東川筋ハ積下候くり綿も近来当所へ送り越壳捌候類多相成当年も作方あしき綿無数と見込候所遠方ハ実綿も入込旁

以六千位ハくり綿も出来立可申哉ニ 申候由申出候○然ル所伏見町平 屋兵藏と申もの甚不実ものニ 而 悪綿いたし捨置候得者 外々之

尔ニ 不相成候間所持之綿封印付置相糺候上御答可伺旨申出候付承り置候処甚恐入以来決 而 不実成義仕間敷旨申候由ニ 而 受合人も有之ニ 付先此度ハ差免度旨申出候ニ 付宜取計候様及指図候

十二月十二日 曇

一三町目太刀屋久治義十月廿日因州へ罷越候処当月廿四五日頃迄逗留仕度日延追願願書指出し承り届 同十五日

一西今町北側ニ 而 かとや吉兵衛家屋敷表口式間半裏行拾五間但四歩壹厘役也西隣ハ浅島屋茂兵衛東者 橋詰也右家屋敷質物ニ 書入銀札

百匁当酉十二月今来戊五月切一ヶ月式歩之利足ニ 而 坪井町井口屋利兵衛取次ニ 而 借用仕度願承り届 翌日証文差出候

一小性町伊勢屋十藏家屋敷北側ニ 而 表口式間半裏行拾間但半役也東隣ハ豊屋太助西隣ハ境町境也右家屋敷代銀札式百匁ニ 相極組合音

屋与市へ売渡願承り届 同廿三日宛券状差出

一茅町和奇屋六郎右衛門家屋敷南側ニ 而 表口四間小間半裏行十五間并 土藏壹ヶ所式間ニ 三間也但五歩五厘役也東隣ハ吉屋平兵衛西隣

ハ坂本屋卯右衛門也右家屋敷質物ニ 書入当酉十二月今来戊七月切ニ 而 一ヶ月壹歩半之利足ニ 而 銀札三百匁同町打穴屋幸吉ハ借受度願承り届 同廿二日願下ヶ承り届

一牢舎人千与藏療治二廻り相済候処未相勝候付代り医申付候段双方ハ申出候 同廿六日休業

一押入下村七郎右衛門同村甚助兩人 中之町平福屋勘兵衛ハ銀札壹貫目三割六年賦ニ いたし田畑山村書入貸渡猶又銀札壹貫目一ヶ年

式割之利足ニ 而 田畑山林質入ニ いたし貸渡候所不相済候ニ 付致出訴右証文写とも郡代所へ相廻候

一暮大割帳面差出候所左之通 式貫五百三拾三匁五分 世影ノ文ニ付九拾六匁五分世無四毛三ノケル 去申暮ハ五百式拾九匁三分

十二月十三日 雨

一公保田村喜七と吹屋町吉之丞船頭町平藏八十八於茅町十一月十日致喧嘩候処榎野屋茂一郎内済扱済候由尤諸入用四ツニ 割町方へ三ツ分引受済候由申出候郡代所ハ申来候次第可指免候

一御用日之処自分義未相勝候ニ 付当病御断并 御用向三浦土へ頼遣一茅町麩屋元治娘弁義兼 而 不所存ものニ 付異見不相用候処先月三日

出奔仕行衛相知不申右等之不埒ものニ 付以後如何様之義仕出候程 及 難計ニ 付親類組合打寄義絶勘当願御用番御開濟ニ 付大目附中へ

指出置候段三浦ハ申来候ニ 付御聞届申達候 同廿九日勘当証文差出候

一 大久保安芸守殿領分当国久米北条郡宮部上村庄兵衛藤吉義二階

町田原屋武兵衛後家養子ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿三日宅宅証文差出

一 吉備津宮神領備中賀陽郡宮内村菊屋庄兵衛娘かつ義桶屋町谷屋左

七妻ニ引受度人別人願右同断取計濟十一月廿日宅宅証文差出

一 下紺屋町中土橋損届書ニ浦を以大目附へ指出

一 郡代所今本郷村千蔵出牢申来栄治差向取計之

十二月十四日 晴 夜風

一 久世御上米式艘生野御上米式艘積下ヶ候処昨夜之雨ニ而横山分視

川瀬損し通船難成候ニ付差懸り候義ニ付船頭町人夫少々指出候

得共中々急ニ通船難成今廿人計も人夫出候ハ、今日中通船可相成

ニ付横山人夫被指出候様郡代所へ通用致呉候様蔵元共申出候段

大年寄申出候ニ付右浚ハ何方より取計候筋哉と相尋候所御廻米出

候節者少々之義ハ船頭町取計候得共最早御廻米積切ニ相成并右

等御城米通船之節者其村所人夫被指出候例ニ候旨申聞候付其段

郡代所江申通候処承知候旨ニ有之候処猶又郡代所申越候者彼是

いたし候内及遅刻其上申出候者今日相直候而も又明朝ハ元之通損

候由ニ候故上荷はね通船候様ニ致度候間右船可申付并今夕船懸ヶ

居候付市郷立合番ニ申付度候間其段申付呉候様申来候ニ付其段大

年寄へ申達候右大鉢市郷立合番いたし候例有之哉と相尋候処ヶ様

ニ近辺ニ船懸り候義一向無之事ニ而例ハ不相覚候得共近辺之義ニ

も候得者船頭町今番相勤候而も可然旨大年寄申聞候

一 公保田村喜七と吹屋町吉之丞船頭町八十八平蔵と十一月十日茅町

ニおみて喧嘩一件内済相整候段郡代所へ相届候由右ニ付聞届候段

可相届候旨郡代所申来候付右内済承り届右三人之もの手錠預ヶ

可差免段御用番中へ紙面ニ而相伺候処承知候旨申来候付昼廻栄治

幸治差向手錠預ヶ差免其段大目附佐々木主馬へ相届候買月番之処

主馬へ相頼候由ニ付如此

一 三浦十郎左衛門来り被申聞候者伯州大山領袋原村利兵衛俸市兵衛

致箱訴候由ニ而大目附被渡候処右市兵衛義数年爰元在方へ来致

奉公居候内市郷之ものへ金貸置候処不指戻相滞候段箱訴ニ候尤近

日取ニ可来旨ニ付下方へ内々申付取ニ来候ハ、早々筋立候様ニ相

移可申旨当役ニ而も同様取計可然旨被申聞候ニ付其段大年寄へ申

達置候尤右箱訴之義不相移候様ニ申付置候右町方ニ而金借り候も

のハ左之もの共也

(相頼候傳屋勘治ハ相済候由申出候)

五拾匁 西新町 樽屋勘治

七拾匁 同町 今屋庄兵衛

三拾匁 船頭町 市兵衛

一 綿口銭左之通可割渡旨大年寄伺出承り届

一 綿九百三拾匁本口銭九百三拾匁宛 並屋忠兵衛

一同式千八百三拾九本同式ノ八百三拾九匁 能勢屋源助

一同千四百式拾三本同式ノ四百式拾三匁 高瀬屋勘右衛門

一同五百拾九本同五百拾九匁 豊屋喜兵衛

一同五百五拾五本同五百五拾五匁 大坂屋鉄五郎

ノ六ノ式百六拾七匁

問屋渡割六歩

五百五拾八匁六分

並屋忠兵衛

壹貫七百三匁四分 能勢屋源助

八百五拾三匁八分 高瀬屋勘右衛門

三百拾壹匁四分 豊屋喜兵衛

三百^{貳拾三匁}拾三匁 大坂屋鉄五郎

三貫七百六拾匁貳分

貳歩六厘割

壹貫六百貳拾九匁 改人四人^江

四厘割

貳百五拾匁六分八厘 両中買酒代

右渡合 五^メ六百四拾匁三分

引残^而 六百貳拾六匁七分 改人諸人用別紙之通

右指引^メ全残

四百九拾四匁壹分八厘

十二月十五日 少雪 昼後晴

一大破家致世話候左之兩人^江 左之通御酒代指遣候段大年寄届出候

百五拾匁^ツ、 櫻野屋茂一郎

野々口屋七郎右衛門

一昨夜文藏百藏藤四郎喜和右衛門更廻りいたし候所無別条旨届出候

一兵庫灘目水車持惣代油屋兵右衛門^并 菜種問屋灘屋吉三郎代源藏右

兩人来候段湯田屋太郎左衛門届出候由宮田喜左衛門届出候付翌十

六日御用番^并 大目附へ相届三浦^江も及通用候^{同廿五上場}

一久世手代^ハ書状指越開封候処御廻米横山分^ニ指滞候付急^ニ通船候

様頼越候^ニ付郡代引受之義^ニ付相送り候

十二月十六日

一昨夜為治栄治時治幸治更廻りいたし候所別条無之段届出候

一他領川岸^ノ船荷割之義長岡船肝煎共申談定法相極爰元船肝煎へ

申越候所西川領押洲村船肝煎武助老人不承知^ニ而 舳を肯定法相破

候^ニ付当所船荷割渡差留呉候様長岡船肝煎共^ハ当所船肝煎へ頼越

武助初所々船肝煎共不残当所船肝煎方へ呼寄段々理解いたし候得

とも武助義承引不仕此上ハいたし方無之^ニ付当所船積^并船荷取引

差留呉候様御藏元^并船肝煎^并船方目附共^ハ願書指出無余義趣^ニ付

其段西川役人へ可懸合と右下案相認差添御用番中へ差出相伺置候

七月十七日 曇

一川端権太夫長屋住林藏夫婦娘右三人元雲州もの^ニ而 一昨年放切手

取候由指添差出候右三人上紺屋町作人善七引受度人別人願承り届

一撰州灘水車両組惣代油屋兵右衛門同兵庫菜種問屋灘屋吉三郎代源

藏右三人来候付坪井町河原屋治助方^ニ逗留願承り届

一古市主殿組相勤候鳥辺長平義此度致番代候^ニ付右夫婦娘三人悴松

治右家内六人新魚町平田屋幸助引受度人別人願承り届

一西今町直屋孫四郎所持之他国受酒株去ル辰六月^ハ西新町久米屋清

助へ貸置候所今度取戻し新職人町松の屋十右衛門へ相讓度願承り

届

一在方^ニ而 豆腐商売仕候付先達^而御願申上候得共未御許容無御座^ニ

付何卒御指留被下候様歎書指出候^ニ付郡代所へ相廻候

一伯州大山領袋原村市兵衛^ハ金借り候三人之者相札候所樽屋勘治ハ

十一月七日相濟候由残式人へ申合候段大年寄申出候

一西新町立帰り帳外大黒屋藤七義入牢今日ニ而百日ニ相成候付明十八日於牢屋兼而伺濟之通敲払可取計ニ付御徒目附被指出候様大目附へ相違夫々手配申渡候

一勝間田町年寄豊野屋七左衛門西新町年寄高松屋忠右衛門病身ニ付退役願出候得共指留可申旨大年寄伺出承り届

一新魚町姫路屋甚右衛門義兼而御手当ニ被下候他国受酒株同人親類安岡町大坂屋増藏家を借り受手代指置同人方ニ而商売仕度願出候得共右姫路屋株ハ本株ニ而無之御手当ニ被差免候株ニ而同人方ニ而商売ハ格別貸し借り不相成株ニ付他家へ持行商売ハ不相成筋ニ付其段申達右願書差戻候

一牢屋扨七月以後之分六拾式匁八分二厘有之候段証文差出

一牢舎人服薬四百八拾五貼有之膏薬百貳拾枚有之合

代百五拾七匁五分

一例歳之通暮之町触差出候

一札元見習玉置忠四郎義和泉屋三郎助妻相果從弟之統ニ付忌服引込候段大年寄合届出承り届

一本郷村勘三郎出牢郡代所合申来出番 指向取計之

一他領川岸へ船荷割之義ニ付西川へ懸合之下案昨日差出候所三浦十郎左衛門へ御用番中思召被仰出候ニ付猶又存寄之趣十郎左衛門へ申達置候所今日罷越被相違候所御同役中御相談可有之旨被仰聞候段同人合申来候

一牢舎扶持拾壹俵内貸証文差出奥印取計之右ニ而正月中賄二月へ八升式合五勺持越候積也

一当春之牢屋入用合而百貳拾四匁六分六厘有之内役所扨五拾匁引残り#服薬料合惣都合貳百三拾式匁壹分六厘有之証文差出候

一関貫普請#奥櫓摘込入用合貳百七匁八分八厘六毛証文差出奥印書取計之

一目明飯役酒代非人旅行酒代#無宿者非人小屋へ預り中賄代合拾六匁之証文差出奥書取計之

一非人頭給米#廻之字付羽織代例年之通証文差出候

一野生御廻米瓜生原屋惣兵衛船四拾俵積下ケ二ノ宮原ナタガ瀬辺ニ而致破船中揚番所安岡町裏ニ而番いたし居候段大年寄届出承り置尤上ハ水少ニ付中揚番所迄ハ半艘分積下ケ候事ニ而四拾俵積之由也

十二月十八日

一御用日之処自分義未相勝候ニ付当病御断三浦へ頼遣候尤今日ハ申上候御用向無之

一盗人関助御裁許御評義ニ付仙右衛門宇助口書#伺書三浦へ相渡置候

一掛合問屋冥加銀百八拾式匁分指出し錢奥書例年之通勘定奉行栗田辰右衛門へ紙面ニ而指出候

一今朝於牢屋御徒目附山本弥七郎下目附小林園右衛門小頭代文蔵部屋目附百蔵立合出番栄治幸治ニ而文蔵合申渡之

先年博奕吟味之節致

出奔其後伯父藤蔵方へ立帰り

数年忍居又候東新町紺屋万治方ニ而博奕致参会重々不埒ニ付百敵之上御領分追払

西新町立帰り帳外大黒屋藤七

右^ニ付御領分立去り

同人妻

右^者先達^而右一件之もの共取計相濟候処藤七義ハ先年博奕御咎百
日入牢之上右之通可取計伺濟候もの、処昨日迄^ニ而百日之日数相
濟候^ニ付今日右之通取計相濟候上御所へ相届候

一 牢番共例暮之受取もの書付指出三浦相頼大目附上印取之相渡候

一 大目附所^下役大脇新左衛門へ申達候御用向有之由^ニ而直手紙来

同人義大目附所へ罷出候所船方之義西川へ懸合候伺有之所伺之趣

^ニ而ハ役人同士之取合^ニ相成不宜候間船持共西川へ出訴いたし当

役^ハ添簡指遣候様^ニ先日も十郎左衛門を以申達候様可取計旨御

用番中被申聞候由此段右門へ可申聞旨被申聞候由新左衛門申聞御

用番中被仰出候趣用間敷と申候義^ニハ無之候得共今般願之趣武助

義御札候上一同仕候様^ニ被仰付被下候様^ニと申義^ニ候得^者西川へ

下方^ハ可致出訴義^ニ候得共今般之義左様^ニ而ハ無之武助へ荷積御

差留被下候様^ニと申願^ニ候得^者西川へ可願筋^ニ者無之主意違之訳

又々新左衛門を以大目附佐々木主馬へ申達候所一応ハ承知^ニ而吞

込宜其段御用番中へ可相伺旨返答^ニ有之候処又々新左衛門呼^ニ来

以之外憤之趣^ニ而何れ^ニも伺通^ニ者不相成筋此上存寄も有之候ハ

不快中なから右門罷出直^ニ御用番中へ被申上候様^ニ返答有之最

早此上ハいたし方も無之義故其段合孫左衛門へ申達可也思召通

^ニ可相成義^ニ候ハ、願書認かへ差出候様新左衛門へ委細申候

一 昨夜新魚町三ツ巴初五郎方^ニ而博奕参会候由栄治聞出候由^ニ而文

蔵百藏栄治又六時治伺出候付差遣候所無別条直^ニ引取候

一 関貫番賃銀百四拾七匁五分伝左衛門^ハ差越受取候

一 播州赤穂新浜村大島屋要助妹いと申もの西今町坪屋藤十郎方へ
来候間来正月中逗留為仕度願承り届

十二月十九日 快晴

一 公儀御廻米今十二三艘も有之候処川瀬差支通船不致依之右人用横

山^ハ差出候様^ニ申義^ニ候得共元来横山分^ハ可弁筋之もの^ニも無之

^ニ付追^而惣辻致勘定上^ニ御扱^ニ取計候間無差支船差出候様郡代所

ハ頼来其段大年寄へ申達御蔵元文五郎へ申付候

十二月廿日 快晴

一 他領川岸船荷割押測村武助不埒^ニ付西川役人^江懸合之義相伺候処

以之外御用番御存慮^ニ不叶船持共西川へ出訴いたし候様被迎付筋

合違之義^ニ者有之候得共不及是非其旨孫左衛門へ申達置候所右之

段下方へ申達候所船持共困窮もの^ニ付他領へ出訴得不致候間御許

容無之候ハ、此俣^ニ而捨置可申候間右願御下^ケ被下候様船持共弁

書^并孫左衛門添弁書いたし指出候付猶又自分義も弁書相認此分^ニ

ノ捨置候^而ハ永々当所之難渋^ニも相成候故難捨置奉存候間左候ハ

、右願下方へ押下^ケ大年寄共^ハ向方大庄屋へ為懸合可然旨相認右

三通共新左衛門へ為持佐々木主馬へ差出候所主馬返答^ニ船持共唯

難罷出と申所も此弁書計^ニ而者難吞込何れ此間申達候義ハ役筋^ニ

^{而者}夫切^ニ而相濟候義^ニ付強^而存寄も有之義^ニ候ハ、類役を以申

上候共又ハ此間達候通右門義押^而罷出可申達筋と存候間得取次不

致由返答^ニ而被差戻候^ニ付其段十郎左衛門へ新左衛門を以申遣差

出被呉候様頼遣候処同人義も急度不同意と申^ニも無之候得共左程

六ヶ敷相成御不承知之義^ニ候得^者何卒西川へ出訴いたし候様^ニ取

計方ハ有之之間敷迎も右弁書之通^ニハ相濟間敷存候得共強^ニ御頼
之義^ニ候ハ、可差出旨返答申越右両士之返答振を相察候所拙者義
役筋^ニ而下方之我俣を申候を得不指押不甲斐性ものと御用番被思

召候義と相察迎も筋不筋無差別上之御存寄通^ニ不致候^ニ而ハ御濟し
不被成例之意地候故不筋之義とハ乍存孫左衛門呼出し下方^ニ而彼
是可申筋無之上被仰付候間船方之者不得罷出候ハ、別人を船持

^ニ拵無例義^ニ者候得共右入用ハ惣町へ割懸ケ候様申付候処被仰出
候趣奉畏候処他所へ懸り候義船方之義ハ他国迄も相聞候事故一存
^ニ而も御請難仕御座候間得と相考候上^ニ而御受可申上旨申引取候

十二月廿一日 雨

一西川役人平沢助八大谷代藏の例年之通寒中為見廻經節三十酒式升
指越及相答

十二月廿二日 快晴

一大坂谷町三丁目御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太上野戸作の当
酉ノ正月の十二月迄之錢相場書例年之通申来認可置候間早春取^ニ
被差越候様及返書候

一新職人町松の屋十右衛門所持之他国受酒株当酉十二月の来ル戌ノ
二月迄三ヶ月之間安岡町河本屋嘉兵衛借受商売いたし度願承り届
一京都四条上ル堺町菊岡松甫と申言人式人^并下人式人用事有之来候
付来正月中逗留為仕度願元魚町原屋佐市願差出承り届^{正月廿九日通願承り届}

一茅町池上流滴西新町伊佐木十右衛門田地公事内濟仕候段流滴の届
書差出し^并扱入大坂屋彦市二文字屋嘉左衛門の右田地四百目^ニ買
取候姿^ニ又流滴へ為買戻右代として式百匁之別借証文十右衛門

へ為相戻濟候由弁書添差出組頭野条金平へ引合之上大目附へ指出
候

一久世御代官手代稻川久藏の御廻米積切候間今津屋方引取候右御廻
米之間^者段々預御世話候為挨拶書状差越最早昨日引取候由^ニ申出
候得共右返書今津屋へ相渡幸便^ニ相届候様申付候

一公儀御廻米今日切^ニ而相濟候段今津屋の届出候

十二月廿三日 快晴

一御用日之処自分義未相勝候^ニ付当病断^并御用向三浦へ頼遣

一他領川岸へ船荷割之義御用所御差図之通樫野屋茂一郎西川へ出
訴可仕願書指出候付添簡相認三浦士を以御用番中へ指出候所御受
取置候由申来候尤大目附へハ右之段拙者の手紙^ニ而申遣置候

一及月廻候付例暮之通惣町壱町切^ニ金棒挽夜廻り非人加廻り二組可
申付段三浦士を以申達相濟候段申来候付其段申付候

一桶屋町谷屋佐七借屋住浜風岸右衛門当月上旬罷出不罷帰相尋候^而
も相知不申段届出候付百日尋申付候

一桶屋町嵯峨屋宇之助借屋住作人熊治義去ル十日罷出行方不知知候
段届出百日尋申付候^{翌年戊辰四月八日除帳}

一越中富山向河原町松井屋佐兵衛一人例年之通反魂丹売^ニ来段段林
田町福吉屋安右衛門宿切手指出^{翌年正月十八日届}

一播州網干唐納屋佐七一人例年之通小間物^并反物売来候段右同人宿
切手指出候右同断

一播州網干天満屋儀兵衛一人例年之通反物卸売来候段右同人宿切手
指出候右同断

十二月廿四日 晴

一 公儀御勘定所へ左之趣御達御座候由^ニ 而 昨日大目附中へ三浦十郎左衛門へ伝達有之候

久世御代官重田又兵衛殿当分預り所河内村清次郎へ津山町伊

兵衛と申もの銀札百匁相渡候右ハ布施孫三郎殿当分預り所土

生村利作と申ものへ貸渡候銀札^ニ 候処清次郎へ頼遣候由右出

入^ニ 付申来次第右伊兵衛を久世へ差出候様御達書也

右^ニ 付町方遂吟味候処安岡町初屋伊兵衛と申もの、由口書取差出候付左之通申付置

久世へ引合有之御呼出^ニ 付

安岡町

他参留申付候

初屋伊兵衛

右口書大目附へ差出他参留申付候義御両所へ相届候且又右之通従公儀御達有之候義久世へ申遣候^ニ 者 不及義と先達^而 郷宿へ申越候付申遣^ニ 及間敷旨大目附へ申達候

一 大目附佐々木主馬へ宮田喜左衛門御目見^并 苗字御免之義^并 御目見無之苗字御免も有之哉^并 御用達之訳合取調差出候様申来大意左之趣申遣候

一 諸吟味^ニ 相成候得^者 御目見被仰付候処^及 其後七ヶ年目^ニ

苗字被指免候

一 御用達と申ハ何も御金御用相勤追々札元^ニ も可相成もの被

仰付候事^ニ 而 御座候得共直^ニ 者 苗字御免無之其外御用達と

申もの当時ハ無之候

一 木屋太兵衛畑勘平中川五左衛門旅帯刀苗字御免之もの^ニ 候

得とも御目見無之御用達とハ不相唱候然ル所当時太兵衛義

ハ先年御用達並と被仰付御目見被仰付候

一 御用相勤候ものハ有之候^而 も札元実生之外ハ御用達と唱候

義無之候

一 大目附廻状到来

公儀へ博奕御厳禁之御触書出候

右写取町方組中へ相触候

一 郡代所へ西田部村要蔵各牢舎指紙相廻認かへ出番藤四郎差向取計之

十二月廿五日 曇

一 関貫番賃銀取^ニ 来例歳之通相渡候

一 兵庫油屋兵右衛門灘屋代人源蔵去ル十五日来り他領之懸合相濟候

上^ニ 而 当所油方へも懸合候手段^ニ 相聞候処未他領懸合も半々^ニ 者

候得共及月廻候^ニ 付今朝罷帰候段喜左衛門へ届出御両所へ相届候

○右之通当所へハ未懸合候得共他領御届未無之方へ過分^ニ 御届被

下候様^ニ 相頼当所之御届石数違を埋合可相濟手段候由大方可相濟

趣^ニ 候由喜左衛門申聞候

十二月廿六日 晴

一 坪井役人瀧口与次右衛門へ例年之通歳末之為祝義饗節廿差越及相

答候

一 牢浚申付候処別条無御座段百蔵喜和右衛門届出候

一 牢舎人千与蔵休葉申付候

十二月廿七日 快晴

一元魚町笹屋友治所持之旅籠屋株当酉年の來ル午年迄拾ヶ年之間同

町松江屋■左衛門へ預ヶ度願承り届

一安岡町北側ニ而 村永屋吉右衛門家屋敷表口四間半裏行拾七間但本

役也東隣ハ横町西隣ハ形田屋宇吉也右家屋敷地裏行之内北之方ニ

而 東西四間半南北六間半御役式歩五厘添代銀札百八拾匁ニ相極組

合形田屋宇吉へ売渡度願承り届 同廿九日見券狀番出

一桶屋町茂兵衛と申もの、母九十才ニ相成候処甚困窮ものニ而 今以

単物ニ而 居候位之義ニ付為手当工面もの、内式拾匁指遣度大年寄

伺出承り届

十二月廿八日 快晴

一御用日并歳末御祝義申上ニ付麻上下着用登城之処自分義未相勝候

ニ付当病御断并御用向三浦へ頼遣候然ル所今日ハ御祝申上不及名

代流ニ相成候由申來候

一久世御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡檉村貞治倅仙藏義新職

人町跡見春鷗養子ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ而 大目附へ差

出置候段三浦の申來御聞届申達候 翌廿九日在宅証文差出

一橋本町吉見屋義助借屋住作人清吉義借屋明ヶ候様申付候而も明ヶ

不渡家主難洪ニ付其段申渡候処当二月中旬借屋明ヶ渡其節送り可

差出旨申候得共何方へも人別人不仕其後行方不相知候ニ付除帳願

御用所へ差出候所尋ニ而 可申付筋ニも可有之哉之旨ニ而 願書御

戻し被成候由三浦の申來候付例之通百日尋申付候 翌戊辰四月十三日離職

一町方夜廻り大晦日切ニ而 相止候段三浦を以御所へ相届濟

一大晦日例歳之通町方関貫開立番付置候段三浦士を以御所へ相届

候

一当酉歳分役所欠所銀左之通勘定所へ相納受取書取置候

八百四拾匁五分■厘■毛

一暮之御褒美左之通申渡候様御達有之候段三浦士の通達有之左之通

申渡之

格別出精相勤候ニ付八木五俵被下之候

手島流講尺相勤候ニ付

銀拾五匁被下之候

手島流講尺諸事引受致世話

候ニ付銀拾五匁被下之候

右三人例格之通切紙指遣於座敷直ニ申渡之

手島流講尺

致世話候付

銀七匁五分ツ、

被下之候

玉屋伊左衛門

二月屋弁右衛門

菊屋清左衛門

野田屋佐右衛門

糀屋伊助

福永屋林右衛門

生野屋治右衛門

檉野屋茂一郎

藏合孫左衛門

北山修伯

宮田喜左衛門

町大工棟梁

伊兵衛

弥五郎

右御褒美申渡取計相濟候段御所へ紙面ニ而 相届候

一他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助を相手取西川へ出訴為致候様

右者 大年寄於宅大年寄申渡之

右御褒美申渡取計相濟候段御所へ紙面ニ而 相届候

一他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助を相手取西川へ出訴為致候様

右者 大年寄於宅大年寄申渡之

右御褒美申渡取計相濟候段御所へ紙面ニ而 相届候

一他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助を相手取西川へ出訴為致候様

右者 大年寄於宅大年寄申渡之

右御褒美申渡取計相濟候段御所へ紙面ニ而 相届候

一他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助を相手取西川へ出訴為致候様

右者 大年寄於宅大年寄申渡之

右御褒美申渡取計相濟候段御所へ紙面ニ而 相届候

一他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助を相手取西川へ出訴為致候様

右者 大年寄於宅大年寄申渡之

右御褒美申渡取計相濟候段御所へ紙面ニ而 相届候

一他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助を相手取西川へ出訴為致候様

被仰出候付右之通^ニ取計此間伺置候処今日御用番中何とやら他邦之喧嘩を此方へ引受候様^ニ而如何^ニも候間猶再考いたし相伺候様^ニと被仰出右願書御指戻被成候段三浦^ノ伝達有之候

一三丁目沼田屋善右衛門所持之古道具屋株去ル辰十月^ノ元魚町千歳屋儀右衛門へ貸置候処此度取戻候届書指出候

一東新町五明屋文吉悻^三之丞義御領分東南条郡林田上之町文六後家養子^ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一押入村与次兵衛出牢郡代所^ノ申来栄治差向取計之

十二月廿九日 快晴

一院庄村仲右衛門彦右衛門^并西田部村要藏義郡代所^ノ出牢申来出番藤四郎差向取計之

一他領川岸船荷割之義昨日長岡船肝煎弥兵衛と申もの来如何御取計被成候哉右^ニ付四人之支配之船を櫛河面両川岸船積差扣居候処武助義ハ矢張於当所船積仕支配之ものへも申訳も無之趣催促仕候由勿論早春ハ暮^ルハ却^テ船荷多有之候得^者急^ニ御指図被下候様右御取計及遅々候ハ、他領川岸締ハ相止メ可申趣之由蔵合孫左衛門^ノ弁書指出候^ニ付当拙者^も添弁書仕下方^ニ而大年寄^ノ大庄屋へ懸ケ合度旨相認十郎左衛門を相頼遣候所不快^ニ付紙面^ニ而御用番中へ差出候

一茅町池上流滴西新町井崎屋十右衛門田地公事内濟濟書御用番中御下ケ被成候由^ニ而十郎左衛門^ノ戻ル

十二月三十日 嵐

一西今町綿屋金兵衛所持之自国清酒株林田町櫛原屋喜助へ貸置候処

此度取戻し西新町^{久米屋清助}へ当酉十二月^ノ来戌十二月迄貸渡度願承り届^{翌戌二月廿七日取戻し候段斷書出又}

一林田町門屋亦七借屋住小松屋源藏宅へ一昨廿八日夕盜賊這入衣類脇差銀札等七品代百四拾四匁位被盜取候届書指出御用番中へ紙面^ニ而差出市郷触流相伺大目附へも相届候

一八子出火昨夜九時頃^ノ燃出候処自分義未相勝難致出馬候^ニ付三浦へ頼遣^并指懸り候義^ニ付不及出馬候段大目附月番へ直手紙^ニ而相届候但大目附出役太田舍人尤見ほし纏焼灯^志張組不殘差出候蔵合孫左衛門不快不參尤八子庄屋一軒焼^ニ候

一永見造酒助殿病氣^ニ付去ル廿日御帰着

一安藤丹後殿去ル廿一日東武^ノ御帰着

一他領川岸船荷割出入之義昨日御用番中へ伺置候処大目附^ノ左之通申来候

船積一件^ニ付別紙御伺有之候処猶又御用所^ノ御趣意書出候間此趣を以宜取計可有之候以上

十二月廿日 佐々木主馬

増兎右門殿

御用所御趣意書左之通

津山河岸船積先規之通順番積之義長岡発端^ニ而爰元船持共へ申談候処尤^ニ付其段同意先達^而願出聞届有之故猶又他領河岸之分も同様致度は又長岡^{立野}へ願立生野へ通用有之相濟候由然ル所西川領塚角村武助老人相巧候事有之不承知之由長岡之もの共爰元へ罷越右武助打混申談候得共兎角不承知之由^ニ

者承り候得共此表へ武助差留之義願と申ハ今度之書面ニ有之
候得共其段ハ是迄未承候右之所ハ何れへ相成候共全躰從長岡
立野へ願立候一件候得者中途ハ此方へ引受可申筋無之候ニ付
追々訳合申達候処今度之書面ニハ右申達候趣意も不通之事
と相見へ候大年寄ハ差出候書面等ハ猶以筋違之様ニ相見候解
兼候而考付兼候得共猶此度之窺之趣も定而無余義訳有之以後
此表之不筋故障ニ不相成義と被察候弥御考手拔ニ不相成様ニ
致度候尤御任之役筋候間一盃ニ可被取計候右一件相済候迄ハ
時々窺ニ不及落着之上可承候事

十二月晦日

右御書付相渡り候処甚致齟齬候事共ニ而一向不解事ニ候得共末之
御文段御任セ之義故一盃ニ取計候様有之ニ付不及異義其旨計取り
用ひ蔵合孫左衛門呼出し右之趣西川大庄屋へ宜懸合候様ニ申付候

津山郷土博物館紀要第二十五号

津山松平藩町奉行日記十九

平成二十三年三月三十一日発行

編集
発行 津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地
印刷 津山朝日新聞社印刷部

岡山県津山市田町一三番地

